

Holy Bible

Aionian **Edition**®

新改訳新約聖書

Japanese New Testament 1965

Holy Bible Aionian Edition ®

新改訳新約聖書

Japanese New Testament 1965

CC Attribution NoDerivatives 4.0, 2018-2024

Source text: eBible.org

Source version: 7/13/2024

Source copyright: Public Domain

Shinkaiyaku Seisho Kankokai, 1963, 1965

Formatted by Speedata Publisher 4.19.18 (Pro) on 7/19/2024

100% Free to Copy and Print

TOR Anonymously

<https://AionianBible.org>

Published by Nainoia Inc

<https://Nainoia-Inc.signedon.net>

We pray for a modern public domain translation in every language

Report content and format concerns to Nainoia Inc

Volunteer help is welcome and appreciated!

Celebrate Jesus Christ's victory of grace!

序文

日本語 at AionianBible.org/Preface

The *Holy Bible Aionian Edition* ® is the world's first Bible *un-translation*! What is an *un-translation*? Bibles are translated into each of our languages from the original Hebrew, Aramaic, and Koine Greek. Occasionally, the best word translation cannot be found and these words are transliterated letter by letter. Four well known transliterations are *Christ*, *baptism*, *angel*, and *apostle*. The meaning is then preserved more accurately through context and a dictionary. The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven additional Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies.

The first three words are *aiōn*, *aiōnios*, and *aiōdios*, typically translated as *eternal* and also *world* or *eon*. The Aionian Bible is named after an alternative spelling of *aiōnios*. Consider that researchers question if *aiōn* and *aiōnios* actually mean *eternal*. Translating *aiōn* as *eternal* in Matthew 28:20 makes no sense, as all agree. The Greek word for *eternal* is *aiōdios*, used in Romans 1:20 about God and in Jude 6 about demon imprisonment. Yet what about *aiōnios* in John 3:16? Certainly we do not question whether salvation is eternal! However, *aiōnios* means something much more wonderful than infinite time! Ancient Greeks used *aiōn* to mean *eon* or *age*. They also used the adjective *aiōnios* to mean *entirety*, such as *complete* or even *consummate*, but never infinite time. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs. So *aiōnios* is the perfect description of God's Word which has *everything* we need for life and godliness! And the *aiōnios* life promised in John 3:16 is not simply a ticket to eternal life in the future, but the invitation through faith to the *consummate* life beginning now!

The next seven words are *Sheol*, *Hadēs*, *Geenna*, *Tartaroō*, *Abyssos*, and *Limnē Pyr*. These words are often translated as *Hell*, the place of eternal punishment. However, *Hell* is ill-defined when compared with the Hebrew and Greek. For example, *Sheol* is the abode of deceased believers and unbelievers and should never be translated as *Hell*. *Hadēs* is a temporary place of punishment, Revelation 20:13-14. *Geenna* is the Valley of Hinnom, Jerusalem's refuse dump, a temporal judgment for sin. *Tartaroō* is a prison for demons, mentioned once in 2 Peter 2:4. *Abyssos* is a temporary prison for the Beast and Satan. Translators are also inconsistent because *Hell* is used by the King James Version 54 times, the New International Version 14 times, and the World English Bible zero times. Finally, *Limnē Pyr* is the Lake of Fire, yet Matthew 25:41 explains that these fires are prepared for the Devil and his angels. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The eleventh word, *eleēsē*, reveals the grand conclusion of grace in Romans 11:32. Take the time to understand these eleven words. The original translation is unaltered and a note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. To help parallel study and Strong's Concordance use, apocryphal text is removed and most variant verse numbering is mapped to the English standard. We thank our sources at eBible.org, Crosswire.org, unbound.Biola.edu, Bible4u.net, and NHEB.net. The Aionian Bible is copyrighted with creativecommons.org/licenses/by-nd/4.0, allowing 100% freedom to copy and print, if respecting source copyrights. Check the Reader's Guide and read online at AionianBible.org, with Android, and TOR network. Why purple? King Jesus' Word is royal... and purple is the color of royalty!

History

日本語 at AionianBible.org/History

- 04/15/85 - Aionian Bible conceived as B. and J. pray.
- 12/18/13 - Aionian Bible announced as J. and J. pray.
- 06/21/15 - Aionian Bible birthed as G. and J. pray.
- 01/11/16 - AionianBible.org domain registered.
- 06/21/16 - 30 translations available in 12 languages.
- 12/07/16 - Nainoia Inc established as non-profit corporation.
- 01/01/17 - Creative Commons Attribution No Derivatives 4.0 license added.
- 01/16/17 - Aionian Bible Google Play Store App published.
- 07/01/17 - 'The Purple Bible' nickname begins.
- 07/30/17 - 42 translations now available in 22 languages.
- 02/01/18 - Holy Bible Aionian Edition® trademark registered.
- 03/06/18 - Aionian Bibles available in print at Amazon.com.
- 10/20/18 - 70 translations now available in 33 languages.
- 11/17/18 - 104 translations now available in 57 languages.
- 03/24/19 - 135 translations now available in 67 languages.
- 10/28/19 - Aionian Bible nursed as J. and J. pray.
- 10/31/19 - 174 translations now available in 74 languages.
- 02/22/20 - Aionian Bibles available in print at Lulu.com.
- 05/25/20 - Illustrations by Gustave Doré, La Grande Bible de Tours, Felix Just.
- 08/29/20 - Aionian Bibles now available in ePub format.
- 12/01/20 - Right to left and Hindic languages now available in PDF format.
- 03/31/21 - 214 translations now available in 99 languages.
- 11/17/21 - Aionian Bible Branded Leather Bible Covers now available.
- 12/20/21 - Social media presence on Facebook, Twitter, LinkedIn, YouTube, etc.
- 01/01/22 - 216 translations now available in 99 languages.
- 01/09/22 - StudyPack resources for Bible translation study.
- 02/14/22 - Strong's Concordance from Open Scriptures and STEP Bible.
- 02/14/23 - Aionian Bible published on the TOR Network.
- 12/04/23 - Eleēsē added to the Aionian Glossary.
- 02/04/24 - 352 translations now available in 135 languages.
- 05/01/24 - 371 translations now available in 151 languages.

目次

新約聖書

マタイの福音書	1
マルコの福音書	48
ルカの福音書	78
ヨハネの福音書	128
使徒の働き	170
ローマ人への手紙	217
コリント人への手紙第一	238
コリント人への手紙第二	259
ガラテヤ人への手紙	273
エペソ人への手紙	281
ピリピ人への手紙	288
コロサイ人への手紙	293
テサロニケ人への手紙第一 ...	298
テサロニケ人への手紙第二 ...	303
テモテへの手紙第一	306
テモテへの手紙第二	311
テトスへの手紙	315
ピレモンへの手紙	318
ヘブル人への手紙	320
ヤコブの手紙	335
ペテロの手紙第一	341
ペテロの手紙第二	347
ヨハネの手紙第一	351
ヨハネの手紙第二	357
ヨハネの手紙第三	358
ユダの手紙	359
ヨハネの黙示録	361

付録

読者ガイド

用語集

地図

運命

イラスト, Doré

新約聖書



そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。
彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」
彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。
ルカの福音書 23:34

マタイの福音書

1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。 **2** アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、 **3** ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、 **4** アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、 **5** サルモンに、ラハブによってポアズが生まれ、ポアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、 **6** エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、 **7** ソロモンにレハベアムが生まれ、レハベアムにアビヤが生まれ、アビヤにアサが生まれ、 **8** アサにヨサパテが生まれ、ヨサパテにヨラムが生まれ、ヨラムにウジヤが生まれ、 **9** ウジヤにヨタムが生まれ、ヨタムにアハズが生まれ、アハズにヒゼキヤが生まれ、 **10** ヒゼキヤにマナセが生まれ、マナセにアモンが生まれ、アモンにヨシヤが生まれ、 **11** ヨシヤに、バビロン移住のころエコニヤとその兄弟たちが生まれた。 **12** バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにゾロバベルが生まれ、 **13** ゾロバベルにアビウデが生まれ、アビウデにエリヤキムが生まれ、エリヤキムにアヅルが生まれ、 **14** アヅルにサドクが生まれ、サドクにアキムが生まれ、アキムにエリウデが生まれ、 **15** エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、 **16** ヤコブにマリヤの夫

ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。 **17** それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。 **18** イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。 **19** 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。 **20** 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。 **21** マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」 **22** このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。 **23** 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。） **24** ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、 **25** そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

2 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。 **2** 「

ユダヤ人の王としてお生まれになったさい。そして、私が知らせるまで、そ
方はどこにおいでになりますか。私たここにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜
ちは、東のほうでその方の星を見たのし出して殺そうとしています。」 14
で、拝みにまいりました。」 3 それをそこで、ヨセフは立って、夜のうちに
聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エル幼子とその母を連れてエジプトに立ち
サレム中の人も王と同様であった。4 のき、 15 ヘロデが死ぬまでそこにい
そこで、王は、民の祭司長たち、学者た。これは、主が預言者を通して、「
たちをみな集めて、キリストはどこでわたしはエジプトから、わたしの子を
生まれるのかと問いただした。 5 彼ら呼び出した。」と言われた事が成就す
は王に言った。「ユダヤのベツレヘムるためであった。 16 その後、ヘロデ
です。預言者によってこう書かれていは、博士たちにだまされたことがわか
るからです。 6 『ユダの地、ベツレヘると、非常におこって、人をやっ
ム。あなたはユダを治める者たちの中ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男
で、決して一番小さくはない。わたの子をひとり残らず殺させた。その年
しの民イスラエルを治める支配者が、令は博士たちから突き止めておいた時
あなたから出るのだから。』」 7 そこ間から割り出したのである。 17 その
で、ヘロデはひそかに博士たちを呼んとき、預言者エレミヤを通して言われ
で、彼らから星の出現の時間を突き止た事が成就した。 18 「ラマで声がす
めた。 8 そして、こう言って彼らをベル。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケ
ツレヘムに送った。「行って幼子のコルがその子らのために泣いている。ラ
とを詳しく調べ、わかったら知らせてケルは慰められることを拒んだ。子ら
もらいたい。私も行って拝むから。」がもういないからだ。」 19 ヘロデが
9 彼らは王の言ったことを聞いて出か死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジ
けた。すると、見よ、東方で見た星がプトにいるヨセフに現われて、言った
彼らを先導し、ついに幼子のおられる。 20 「立って、幼子とその母を連れ
所まで進んで行き、その上にとどまて、イスラエルの地に行きなさい。幼
た。 10 その星を見て、彼らはこの上子のいのちをつけねらっていた人たち
もなく喜んだ。 11 そしてその家にはは死にました。」 21 そこで、彼は立
いて、母マリヤとともにおられる幼って、幼子とその母を連れて、イスラ
子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、エルの地にはいった。 22 しかし、ア
宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬をケラオが父ヘロデに代わってユダヤを
贈り物としてささげた。 12 それから治めていると聞いたので、そこに行っ
てとどまることを恐れた。そして、夢
戒めを受けたので、別の道から自分の戒めを受けたので、ガリラヤ地方に
国へ帰って行った。 13 彼らが帰って立ちのいた。 23 そして、ナザレとい
行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨう町に行つて住んだ。これは預言者た
セフに現われて言った。「立って、幼ちを通して「この方はナザレ人と呼ば
子とその母を連れ、エジプトへ逃げな

れる。」と言われた事が成就するためであった。

3 そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。**2** 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」 **3** この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声にする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われたその人である。**4** このヨハネは、らくだの毛の着物を着、腰には皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。**5** さて、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川沿いの全地域の人々がヨハネのところへ出て行き、**6** 自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた。**7** しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。**8** それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。**9** 『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような考えではいけません。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことがおできになるのです。**10** 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。**11** 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテ

スマをお授けになります。**12** 手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」 **13** さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。**14** しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」 **15** ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。**16** こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。**17** また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

4 さて、イエスは、悪魔の試みを受け、御霊に導かれて荒野の上で行かれた。**2** そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。**3** すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」 **4** イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」 **5** すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、**6** 言った。「あなたが

神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」 7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」 8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、 9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」 10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」 11 すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。 12 ヨハネが捕えられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。 13 そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ガリラヤとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。 14 これは、預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。すなわち、 15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。 16 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」 17 この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」 18 イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。 19

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」 20 彼らはすぐに網を捨てて従った。 21 そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。 22 彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。 23 イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気を、あらゆるわずらいを直された。 24 イエスのうわさはシリヤ全体に広まった。それで、人々は、さまざまの病気と痛み、苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかん持ちや、中風の者などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをお直しになった。 25 こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。

5 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。 2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。 3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。 4 悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。 5 柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。 6 義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。 7 あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けられるからです。 8 心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。 9 平和をつくる者は幸いです。その人は神

の子どもと呼ばれるからです。10 義は、天の御国で、偉大な者と呼ばれまのためには迫害されている者は幸いです。20 まことに、あなたがたに告げます。天の御国はその人のものだからです。もしあなたがたの義が、律法学。11 わたしのために、ののしられた者やパリサイ人の義にまさるものでなり、迫害されたり、また、ありもしないなら、あなたがたは決して天の御国いことで悪口雑言を言われたりするとに、はいれません。21 昔の人々に、き、あなたがたは幸いです。12 喜び『人を殺してはならない。人を殺す者なさい。喜びおどきなさい。天においはさばきを受けなければならぬ。』とあなたがたの報いは大きいのであると言われたのを、あなたがたは聞いています。22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。(Geenna g1067) 23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることになります。26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の「コドラント」を支払うまでは、そこから出ては来られません。27 『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を

犯したのです。 **29** もし、右の目が、あなたをつまづかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。 **(Geenna g1067)** **30** もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。 **(Geenna g1067)** **31** また『だれでも、妻を離別する者は、妻に離婚状を与えよ。』とされています。 **32** しかし、わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と結婚すれば、姦淫を犯すのです。 **33** さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ。』とされています。 **34** しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。 **35** 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。 **36** あなたの頭をさして誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。 **37** だから、あなたがたは、『はい。』は『はい。』、『いいえ。』は『いいえ。』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。 **38** 『目には目で、歯には歯で。』とされたのを、あなたがたは聞いています。 **39** しかし

、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。 **40** あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。 **41** あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。 **42** 求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。 **43** 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』とされたのを、あなたがたは聞いています。 **44** しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。 **45** それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。 **46** 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。 **47** また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。 **48** だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。 **6** 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。 **2** だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなた

がたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 3 あなたは、施しをするとき、右の手をして左の手に知られないようにしなさい。 4 あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。 5 また、祈るときには、偽善者たちのようであってはいけません。彼らは、人に見られたいからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。 7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、たとえ数が多ければ聞かれると思ってい

と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。] 14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。 15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。 16 断食するときには、偽善者たちのようにやつれた顔つきをしきには、偽善者たちのようであってはいけません。彼らは、断食していることが人に見えるようにと、その顔をやつすのです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 17 しかし、あなたが断食するときには、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。 18 それは、断食していることが、人には見られないで、隠れた所におられるあなたの父に見られるためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。 19 自分

の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。 20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。 21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。 22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、 23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。 24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするから

です。あなたがたは、神にも仕え、ま

た富にも仕えるということはできません。25だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。26空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。27あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。28なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。29しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。30きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。31そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。32こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。33だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そ

うすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。34だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

7 さばいてはいけません。さばかれな
いためです。2あなたがたがさばく
とおりに、あなたがたもさばかれ、あ
あなたがたが量るとおりに、あなたがた
も量られるからです。3また、なぜあ
なたは、兄弟の目の中のちりに目を
つけるが、自分の目の中の梁には気が
つかないのですか。4兄弟に向かって、
『あなたの目のちりを取らせてくだ
さい。』などどうして言うのですか。
見なさい、自分の目には梁があるで
はありませんか。5偽善者たち。まず自
分の目から梁を取りのけなさい。そう
すれば、はっきり見えて、兄弟の目か
らちりを取り除くことができます。
6聖なるものを犬に与えてはいけ
ません。また豚の前に、真珠を投げ
てはなりません。それを足で踏みにじ
り、向き直ってあなたがたを引き裂く
でしょうから。7求めなさい。そうす
れば与えられます。捜しなさい。そう
すれば見つかります。たたきなさい。
そうすれば開かれます。8だれであ
れ、求める者は受け、捜す者は見
つけ出し、たたく者には開かれます。
9あなたがたも、自分の子がパンを
下さいと言うときに、だれが石を
与えるでしょう。10また、子が魚
を下さいと言うのに、だれが蛇を
与えるでしょう。11してみると、
あなたがたは、悪い者ではあ
っても、自分の子どもには良い物
を与えることを知っているのです。
とすれば、なおのこと、天にお
られるあなた

がたの父が、どうして、求める者たちはあなたがたを全然知らない。不法をに良いものを下さらないことがあります。わたしから離れて行け。しょう。12それで、何事でも、自分』 24だから、わたしのこれらのことにしてもらいたいことは、ほかの人にばを聞いてそれを行なう者はみな、岩もそのようにしなさい。これが律法での上)に自分の家を建てた賢い人に比べあり預言者です。13狭い門からは入ることができません。25雨が降って洪りなさい。滅びに至る門は大きく、そ水が押し寄せ、風が吹いてその家に打の道は広いからです。そして、そこかちつけたが、それでも倒れませんです。14た。岩の上に建てられていたからです。いのちに至る門は小さく、その道は狭。26また、わたしのこれらのことばく、それを見いだす者はまれです。15を聞いてそれを行なわない者はみな、にせ預言者たちに気をつけなさい。彼砂の上に自分の家を建てた愚かな人からは羊のなりをしてやって来るが、う比べることができます。27雨が降つちは貪欲な狼です。16あなたがたはて洪水が押し寄せ、風が吹いてその家、実によって彼らを見分けることができに打ちつけると、倒れてしまいましたきます。おどろは、いばらからは取れ。しかもそれはひどい倒れ方でした。ないし、いちじくは、あざみから取れ」 28イエスがこれらのことばを語りるわけがないでしょう。17同様に、終えられると、群衆はその教えに驚い良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木た。29というのは、イエスが、律法は悪い実を結びます。18良い木が悪学者たちのようにではなく、権威あるい実をならせることはできないし、ま者のように教えられたからである。

8 イエスが山から降りて来られると、多くの群衆がイエスに従った。2すると、ひとりのらい病人がみもとに来て、ひれ伏して言った。「主よ。お心一つで、私をきよめることがおできになります。」 3 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに彼のらい病はきよめられた。4 イエスは彼に言われた。「気をつけて、だれにも話さないようにしなさい。ただ、人々へのあかしのために、行って、自分を祭司に見せなさい。そして、モーセの命じた供え物をささげなさい。」 5 イエスがカペナウムにはいられると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、6 言った。「主よ。私の

しもべが中風やみで、家に寝ていて、イエスはみことばをもって霊どもを追
ひどく苦しんでおります。」 7 イエスは出し、また病気の人々をみなお直し
は彼に言われた。「行って、直してあげよう。」 8 しかし、百人隊長は答
えを通して言われた事が成就するため
で言った。「主よ。あなたを私の屋根
の下にお入れする資格は、私にはあり
ません。ただ、おことばをいただかせ
て。」 18 さて、イエスは群衆が自分の回
てくさい。そうすれば、私のしもべ
りにいるのをご覧になると、向こう岸
は直りますから。 9 と申しますのは、
に行くための用意をお命じになった。
私も権威の下にある者ですが、私自身
19 そこに、ひとりの律法学者が来てこ
の下の兵士たちがいまして、そのひ
う言った。「先生。私はあなたのおい
とりに『行け。』と言えは行きますし
でになる所なら、どこにでもついてま
いります。」 20 すると、イエスは彼
。また、しもべに『これをせよ。』と
に言われた。「狐には穴があり、空の
言えば、そのとおりにいたします。」
鳥には巣があるが、人の子には枕する
10 イエスは、これを聞いて驚かれ、つ
所もありません。」 21 また、別のひ
いて来た人たちにこう言われた。「ま
とりの弟子がイエスにこう言った。「
ことに、あなたがたに告げます。わた
主よ。まず行って、私の父を葬ること
しはイスラエルのうちのだれにも、こ
を許してください。」 22 ところが、
のような信仰を見たことがありません
イエスは彼に言われた。「わたしにつ
いて来なさい。死人たちに彼らの中
のさんの人が東からも西からも来て、天
死人たちを葬らせなさい。」 23 イエ
スの御国で、アブラハム、イサク、ヤコ
スが舟にお乗りになると、弟子たちも
ブといっしょに食卓に着きます。 12
従った。 24 すると、見よ、湖に大暴
風が起こって、舟は大波をかぶった。
しかし、御国の子らは外の暗やみに放
風が起こって、舟は大波をかぶった。
り出され、そこで泣いて歯ぎしりする
ところが、イエスは眠っておられた。
のです。」 13 それから、イエスは百
25 弟子たちはイエスのみもとに来て、
百人隊長に言われた。「さあ行きなさい
イエスを起こして言った。「主よ。助
。あなたの信じたとおりになるように
けてください。私たちはおぼれそうで
。」すると、ちょうどその時、そのし
す。」 26 イエスは言われた。「なぜ
もべはいやされた。 14 それから、イ
こわがるのか、信仰の薄い者たちだ。
イエスは、ペテロの家に来られて、ペテ
」それから、起き上がって、風と湖を
口のしゅうとめが熱病で床に着いてい
しかりつけられると、大なぎになった
るのをご覧になった。 15 イエスが手
。 27 人々は驚いてこう言った。「風
にさわられると、熱がひき、彼女は起
や湖までが言うことをきくとは、いつ
きてイエスをもてなした。 16 夕方に
たいこの方はどういう方なのだろう。
なると、人々は悪霊につかれた者を大
」 28 それから、向こう岸のガダラ人
ぜい、みもとに連れて来た。そこで、
の地にお着きになると、悪霊につかれ

た人がふたり墓から出て来て、イエスと、どちらがやさしいか。6人の子がに出会った。彼らはひどく狂暴で、地上で罪を赦す権威を持っていることでもその道を通れないほどであった。を、あなたがたに知らせるために。」
29すると、見よ、彼らはわめいて言っこう言っ、それから中風の人に、「た。「神の子よ。いったい私たちに何起きなさい。寝床をたたんで、家に帰をしようというのです。まだその時でりなさい。」と言われた。7すると、はないのに、もう私たちが苦しめに来彼は起きて家に帰った。8群衆はそれられたのですか。」30ところで、そを見て恐ろしくなり、こんな権威を人こからずっと離れた所に、たくさんのお与えになった神をあがめた。9イ豚の群れが飼ってあった。31それで、悪霊どもはイエスに願ってこう言っ、収税所にすわっているマタイというた。「もし私たちが追い出そうとされ人をご覧になって、「わたしについてるのでしたら、どうか豚の群れの中に来なさい。」と言われた。すると彼はやってください。」32イエスは彼ら立ち上がって、イエスに従った。10に「行け。」と言われた。すると、彼イエスが家で食事の席に着いておられらは出て行って豚にはいった。するととき、見よ、取税人や罪人が大ぜい、見よ、その群れ全体がどつとがけか来て、イエスやその弟子たちといっし湖へ駆け降りて行って、水におぼれよに食卓に着いていた。11すると、て死んだ。33飼っていた者たちは逃これを見たパリサイ人たちが、イエスげ出して町に行き、悪霊につかれた人の弟子たちに言った。「なぜ、あなたたちのことなどを残らず知らせた。34がたの先生は、取税人や罪人といっしすると、見よ、町中の者がイエスに会よに食事をするのですか。」12イエいに出て来た。そして、イエスに会うスはこれを聞いて言われた。「医者をと、どうかこの地方を立ち去ってくだ必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。13『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

9 イエスは舟に乗って湖を渡り、自分の町に帰られた。2すると、人々が中風の人を床に寝かせたまま、みもとに運んで来た。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。」と言われた。3すると、律法学者たちは、心の中で、「この人は神をけがしている。」と言った。4イエスは彼らの心の思いを知って言われた。「なぜ、心の中で悪いことを考えているのか。5『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うの

14するとまた、ヨハネの弟子たちが、イエスのところに来てこう言った。「私たちとパリサイ人は断食するのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」15イエスは彼らに言われた。「花婿につき添う友だちは、花婿がいっしょにいる間は、どうして悲しんだりできません。しかし、花婿が取り去られる時が来ます。そのとき

には断食します。16 だれも、真新しい布切れで古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんな継ぎ切れは着物を引き破って、破れがもっとひどくなるからです。17 また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶどう酒が流れ出てしまい、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒を新しい皮袋に入れば、両方とも保ちます。」18 イエスがこれらのことを話しておられると、見よ、ひとりの会堂管理者が来て、ひれ伏して言った。「私の娘がいま死にました。でも、おいでくださって、娘の上に御手を置いてやってください。そうすれば娘は生き返ります。」19 イエスが立って彼について行かれると、弟子たちもついて行った。20 すると、見よ。十二年の間長血をわずらい続けている女が、イエスのうしろに来て、その着物のふさにさわった。21 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と心のうちで考えていたからである。22 イエスは、振り向いて彼女を見て言われた。「娘よ。しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを直したのです。」すると、女はその時から全く直った。23 イエスはその管理者の家に来られて、笛吹く者たちや騒いでいる群衆を見て、24 言われた。「あちらに行きなさい。その子は死んだのではない。眠っているのです。」すると、彼らはイエスをあざ笑った。25 イエスは群衆を外に出してから、うちにおはいりになり、少女の手を取られた。すると少女は起き上がった。26 このうわさはその地方全体に

広まった。27 イエスがそこを出て、道を通って行かれると、ふたりの盲人が大声で、「ダビデの子よ。私たちがあわれんでください。」と叫びながらついて来た。28 家にはいられると、その盲人たちはみもとにやって来た。イエスが「わたしにそんなことができるかと信じるのか。」と言われると、彼らは「そうです。主よ。」と言った。29 そこで、イエスは彼らの目にさわって、「あなたがたの信仰のとおりになれ。」と言われた。30 すると、彼らの目があいた。イエスは彼らをきびしく戒めて、「決してだれにも知られないように気をつけなさい。」と言われた。31 ところが、彼らは出て行って、イエスのことをその地方全体に言いふらした。32 この人たちが出て行くと、見よ、悪霊につかれたおしが、みもとに連れて来られた。33 悪霊が追い出されると、そのおしはものを言った。群衆は驚いて、「こんなことは、イスラエルでいまだかつて見たことがない。」と言った。34 しかし、パリサイ人たちは、「彼は悪霊どものかしらを使って、悪霊どもを追い出しているのだ。」と言った。35 それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。36 また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた。37 そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。38 ですから、うちにおはいりになり、少女の手から、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」

10 イエスは十二弟子を呼び寄せて、とばに耳を傾けないなら、その家また汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直すためであった。さて、十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼピリポとバルトロマイ、トマスと税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、熱心党员シモンとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。5 イエスは、この十二人を遣わし、そのとき彼らにこう命じられた。「異邦人の町には行ってはいけません。サムリヤ人の町には行ってはいけません。6 イスラエルの家の滅びた羊のところに行きなさい。7 行って、『天の御国が近づいた。』と宣べ伝えなさい。8 病人を直し、死人を生き返らせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出さなさい。あなたがたは、ただで受けたのだから、ただで与えなさい。9 胴巻に金貨や銀貨や銅貨を入れてはいけません。10 兄弟旅行用の袋も、二枚目の下着も、くつも、杖も持たずに行きなさい。働く者が食べ物を与えられるのは当然だからです。11 どんな町や村にはいっても、そこでだれが適当な人かを調べて、そこを立ち去るまで、その人のところにとどまりなさい。12 その家にはいるときには、平安を祈るあいさつをしなさい。13 その家がそれにふさわしい家なら、その平安はきっとその家に来るとし、もし、ふさわしい家でないなら、その平安はあなたがたのところに戻って来ます。14 もしだれも、あなたがたを受け入れず、あなたがたのこ

はその町を出て行くときに、あなたがたの足のちりを払い落としなさい。15 さて、あなたがたに告げます。さばきの日には、ソドムとゴモラの地でも、その町よりはまた罰が軽いのです。16 いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。17 人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを議会に引き渡し、会堂でむち打ちますから。18 また、あなたがたは、わたしのゆえに、総督たちや王たちの前に連れて行かれます。それは、彼らと異邦人たちにあかしをするためです。19 人々があなたがたを引き渡したとき、どのように話そうか、何を話そうかと心配するには及びません。話すべきことは、そのとき示されるからです。20 というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちであって話されるあなたがたの父の御霊だからです。21 兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に立ち逆らって、彼らを死なせます。22 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人々に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。23 彼らがこの町であなたがたを迫害するのなら、次の町にのがれなさい。というわけは、確かなことをあなたがたに告げるのですが、人の子が来るときまでに、あなたがたは決してイスラエルの町々を巡り尽くせないからです。24 弟子はその師にまさらず、しもべはその主人にまさりません。25 弟子がその師の

よくなれたら十分だし、しもべがその主人のようになれたら十分です。彼らは家長をベルゼブルと呼ぶぐらいです。ましてその家族の者のことは、何と呼ぶでしょう。26 だから、彼らを恐れてはいけません。おおわてているもので、現わされないものはなく、隠されているもので知られず済むものはありません。27 わたしが暗やみでああなたがたに話すことを明みで言いなさい。また、あなたがたが耳もとで聞くことを屋上で言い広めなさい。28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。(Geenna g1067)

29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしに地に落ちることはありません。30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。32 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っではなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。35 なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせ

るために来たからです。36 さらに、家族の者がその人の敵となります。37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。39 自分いのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとしてします。40 あなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのです。41 預言者を預言者だということで受け入れる者は、預言者の受ける報いを受けません。また、義人を義人だということを受け入れる者は、義人の受ける報いを受けません。42 わたしの弟子だということで、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません。」

11 イエスはこのように十二弟子に注意を与え、それを終えられると、彼らの町々で教えたり宣べ伝えたりするため、そこを立ち去られた。2 さて、獄中でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、その弟子たちに託して、3 イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか。」4 イエスは答えて、彼らに言われた。「あなたがたは行って、自分たちの聞いたり見たりしていることをヨハネに報告しなさい。5 盲人

が見、足なえが歩き、らい病人がきよ
められ、つんぼの人が聞こえ、死人が
生き返り、貧しい者には福音が宣べ伝
えられているのです。6 だれでも、わ
たしにつまずかない者は幸いです。」
7 この人たちが行ってしまうと、イエ
スは、ヨハネについて群衆に話しださ
れた。「あなたがたは、何を見に荒野
に出て行ったのですか。風に揺れる葦
ですか。8 でなかったら、何を見に行
ったのですか。柔らかい着物を着た人
ですか。柔らかい着物を着た人なら王
の宮殿にいます。9 でなかったら、な
らぬでございましょう。預言者を見るため
ですか。そのとおり。だが、わたしが
預言者よりもすぐれた
者をです。10 この人こそ、『見よ、
わたしは使いをあなたの前に遣わし、
あなたの道を、あなたの前に備えさせ
よう。』と書かれているその人です。
11 まことに、あなたがたに告げます。
このヨハネよりすぐれた人は出ませんで
した。しかも、天の御国の一番小さい
者でも、彼より偉大です。12 パプテ
スマのヨハネの日以来今日まで、天の
御国は激しく攻められています。そし
て、激しく攻める者たちがそれを奪い
取っています。13 ヨハネに至るまで
、すべての預言者たちと律法とが預言
をしたのです。14 あなたがたが進ん
で受け入れるなら、実はこの人こそ、
きたるべきエリヤなのです。15 耳の
ある者は聞きなさい。16 この時代は
何にたとえたらよいでしょう。市場に
すわっている子どもたちのようです。
彼らは、ほかの子どもたちに呼びかけ
て、17 こう言うのです。『笛を吹い

てやっても、君たちは踊らなかった。
甲斐の歌を歌ってやっても、悲しみな
かった。』18 ヨハネが来て、食べも
飲みもしないと、人々は『あれは悪霊
につかわれているのだ。』と言い、19
人の子が来て食べたり飲んだりしてい
ると、『あれ見よ。食いしんぼうの大
酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と
言います。でも、知恵の正しいことは
、その行ないが証明します。』20 そ
れから、イエスは、数々の力あるわざ
の行なわれた町々が悔い改めなかつた
ので、責め始められた。21 「ああコ
ラジン。ああベツサイダ。おまえたち
のうちで行なわれた力あるわざが、も
しもツロとシドンで行なわれたのだつ
たら、彼らはどうの昔に荒布をまとい
、灰をかぶって悔い改めていたことだ
ろう。22 しかし、そのツロとシドン
のほうが、おまえたちに言うが、さば
きの日には、まだおまえたちよりは罰
が軽いのだ。23 カペナウム。どうし
ておまえが天に上げられることがあり
えよう。ハデスに落とされるのだ。お
まえの中でなされた力あるわざが、も
しもソドムでなされたのだつたら、ソ
ドムはきょうまで残っていたことだろ
う。(Hadēs g86) 24 しかし、そのソドム
の地のほうが、おまえたちに言うが、
さばきの日には、まだおまえよりは罰
が軽いのだ。』25 そのとき、イエス
はこう言われた。「天地の主であられ
る父よ。あなたをほめたたえます。こ
れらのことを、賢い者や知恵のある者
には隠して、幼子たちに現わしてくだ
さいました。26 そうです、父よ。こ
れがみこころにかなったことでした。
27 すべてのものが、わたしの父から、

わたしに渡されています。それで、父のほかに、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません。 **28** すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。 **29** わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。 **30** わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

12 そのころ、イエスは、安息日に麦畑を通られた。弟子たちはひもじくなったので、穂を摘んで食べ始めた。 **2** すると、パリサイ人たちがそれを見つけて、イエスに言った。「ご覧なさい。あなたの弟子たちが、安息日にしてはならないことをしています。」 **3** しかし、イエスは言われた。「ダビデとその連れもの者たちが、ひもじかったときに、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。 **4** 神の家にはいつて、祭司のほかは自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べました。 **5** また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日の神聖を冒しても罪にならないということを、律法で読んだことではないのですか。 **6** あなたがたに言いますが、ここに宮より大きな者がいるのです。 **7** 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』ということがどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、罪のない者たちを罪に定めはしなかったでしょう。 **8** 人の子は安息日の主です。」 **9** イエスはそ

こを去って、会堂にはいられた。 **10** そこに片手のなえた人がいた。そこで、彼らはイエスに質問して、「安息日にいやすことは正しいことでしょうか。」と言った。これはイエスを訴えるためであった。 **11** イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうち、だれかが一匹の羊を持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それを引き上げてやらないでしょうか。 **12** 人間は羊より、はるかに値うちのあるものでしょう。それなら、安息日に良いことをすることは、正しいのです。」 **13** それから、イエスはその人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は直って、もう一方の手と同じようになった。 **14** パリサイ人は出て行って、どのようにしてイエスを滅ぼそうかと相談した。 **15** イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると多くの人がついて来たので、彼らをみないやし、 **16** そして、ご自分のことを人々に知らせないようにと、彼らを戒められた。 **17** これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。 **18** 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を置き、彼は異邦人にさばきを宣べる。 **19** 争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。 **20** 彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、正義を勝利に導くまでは。 **21** 異邦人は彼の名に望みをかける。」 **22** そのとき、悪霊につかれた、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやさ

れたので、そのおしはものを言い、目
も見えるようになった。23 群衆はみ
な驚いて言った。「この人は、ダビデ
の子なのだろうか。」24 これを聞い
たパリサイ人は言った。「この人は、
ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力
で、悪霊どもを追い出しているだけだ
。」25 イエスは彼らの思いを知って
こう言われた。「どんな国でも、内輪
もめして争えば荒れすたれ、どんな町
でも家でも、内輪もめして争えば立ち
行きません。26 もし、サタンがサタ
ンを追い出していて仲間割れしたのだ
ったら、どうしてその国は立ち行くで
しょう。27 また、もしわたしがベル
ゼブルによって悪霊どもを追い出して
いるのなら、あなたがたの子らはだれ
によって追い出すのですか。だから、
あなたがたの子らが、あなたがたをさ
ばく人となるのです。28 しかし、わ
たしが神の御霊によって悪霊どもを追
い出しているのなら、もう神の国はあ
なたがたのところに来ているのです。」
29 強い人の家にはいって家財を奪い取
ろうとするなら、まずその人を縛って
しまわないで、どうしてそのようなこ
とができましょうか。そのようにして
初めて、その家を略奪することもでき
るのです。30 わたしの味方でない者
はわたしに逆らう者であり、わたしと
ともに集めない者は散らす者です。31
だから、わたしはあなたがたに言いま
す。人はどんな罪も冒洗も赦していた
だけです。しかし、聖霊に逆らう冒洗
は赦されません。32 また、人の子に
逆らうことばを口にする者でも、赦さ
れます。しかし、聖霊に逆らうことを
言う者は、だれであっても、この世で
あろうと次に来る世であらうと、赦さ
れません。(aiōn g165) 33 木が良ければ、
その実も良いとし、木が悪ければその
実も悪いとしなさい。木のよしあしは
その実によって知られるからです。34
まむしのすえたち。おまえたち悪い者
に、どうして良いことが言えましょ
う。心に満ちていることを口が話すので
す。35 良い人は、良い倉から良い物
を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪
い物を取り出すものです。36 わたし
はあなたがたに、こう言いましょう。
人はその口にするあらゆるむだなこと
ばについて、さばきの日には言い開き
をしなければなりません。37 あなた
が正しいとされるのは、あなたのこと
ばによるのであり、罪に定められるの
も、あなたのことばによるのです。」
38 そのとき、律法学者、パリサイ人た
ちのうちのある者がイエスに答えて言
った。「先生。私たちは、あなたから
しるしを見せていただきたいのです。
」39 しかし、イエスは答えて言われ
た。「悪い、姦淫の時代はしるしを求
めています。だが預言者ヨナのしるし
のほかには、しるしは与えられません
。40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中に
いましたが、同様に、人の子も三日三
晩、地の中にいるからです。41 ニネ
ベの人々が、さばきのときに、今の時
代の人々とともに立って、この人々を
罪に定めます。なぜなら、ニネベの人
々はヨナの説教で悔い改めたからで
す。しかし、見なさい。ここにヨナより
もまさった者がいるのです。42 南の
女王が、さばきのときに、今の時代の
人々とともに立って、この人々を罪に
定めます。なぜなら、彼女はソロモン

の知恵を聞くために地の果てから来たにたとえて話して聞かされた。「種からです。しかし、見なさい。ここに蒔く人が種蒔きに出かけた。4蒔いてソロモンよりもまさった者がいるのでいるとき、道ばたに落ちた種があった。53汚れた霊が人から出て行って。すると鳥が来て食べてしまった。5、水の無い地をさまよいながら休み場また、別の種が土の薄い岩地に落ちた場所を捜しますが、見つかりません。44。土が深くなかったので、すぐに芽をそこで、『出て来た自分の家に帰ろう出した。6しかし、日が上ると、焼け。』と言って、帰って見ると、家はあて、根がないために枯れてしまった。いていて、掃除してきちんとかたづけ7また、別の種はいばらの中に落ちたていました。45そこで、出かけて行が、いばらが伸びて、ふさいでしまつて、自分よりも悪いほかの霊を七つた。8別の種は良い地に落ちて、ある連れて来て、みなはいり込んでそこにもものは百倍、あるものは六十倍、ある住みつくのです。そうなると、その人ものは三十倍の実を結んだ。9耳のあ後の状態は、初めよりもさらに悪くなる者は聞きなさい。」10すると、弟なります。邪悪なこの時代もまた、そ子たちが近寄って来て、イエスに言ういうことになるのです。」46イエスはまだ群衆に話しておられるときになつたのですか。」11イエスは答え、イエスの母と兄弟たちが、イエスに御国の奥義を知ることが許されている何か話そうとして、外に立っていた。47すると、だれかが言った。「ご覧なが、彼らには許されていません。12さい。あなたのおかあさんと兄弟たちというのは、持っている者はさらに与が、あなたに話そうとして外に立っえられて豊かになり、持たない者は持っています。」48しかし、イエスはそう持っているものまでも取り上げられてし言っている人に答えて言われた。「わまうからです。13わたしが彼らにたの母とはだれですか。また、わたとえて話すのは、彼らは見てはいるがの兄弟たちとはだれですか。」49見ず、聞いてはいるが聞かず、また、それから、イエスは手を弟子たちのほ悟ることもしないからです。14こううに差し伸べて言われた。「見なさいしてイザヤの告げた預言が彼らの上に。わたしの母、わたしの兄弟たちです実現したのです。『あなたがたは確かに50天におられるわたしの父のみこに聞きはするが、決して悟らない。ころを行なう者はだれでも、わたしの確かに見てはいるが、決してわからない。兄弟、姉妹、また母なのです。』15この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らとその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』16しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あな

たがたの耳は聞いているから幸いです。17 まことに、あなたがたに告げます。多くの預言者や義人たちが、あなたがたの見ているものを見たいと、切に願ったのに見られず、あなたがたの願ったのに聞けなかったのです。18 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。20 また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。(aiōn g165) 23 ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こういう人にたえることができません。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。25 ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て、畑の中に毒麦を蒔いて行った。26 麦が芽ばえ、やがて実ったとき、毒麦も現われた。27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではあり

ませんか。どうして毒麦が出たのです。』28 主人は言った。『敵のやうです。』すると、しもべたちが言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』29 だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』」31 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、32 小さな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」33 イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パン種のようなものです。女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れて、全体がふくらんで来ます。」34 イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話され、たとえを使わずには何もお話しにならなかった。35 それは、預言者を通して言われた事が成就するためであった。「わたしはたとえ話をもって口を開き、世の初めから隠されていることどもを物語る。」36 それから、イエスは群衆と別れて家にはいられた。すると、弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください。」と言った。37 イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。38 畑はこ

の世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。 **39** 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。 **(aiōn g165)** **40** ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。 **(aiōn g165)** **41** 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、 **42** 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。 **43** そのとき、正しい者たちは、天の父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。 **44** 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。 **45** また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。 **46** すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。 **47** また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなものです。 **48** 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いものは器に入れ、悪いものは捨てるのです。 **49** この世の終わりにもそのようになります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、 **(aiōn g165)** **50** 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。 **51** あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか。」彼らは「はい。」と

イエスに言った。 **52** そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主人のようなものです。」 **53** これらのたとえを話し終えると、イエスはそこを去られた。 **54** それから、ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と不思議な力をどこで得たのでしょうか。 **55** この人は大工の息子ではありませんか。彼の母親はマリヤで、彼の兄弟は、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではありませんか。 **56** 妹たちもみな私たちといっしょにいるではありませんか。とすると、いったいこの人は、これらのものをどこから得たのでしょうか。」 **57** こうして、彼らはイエスにつまずいた。しかし、イエスは彼らに言われた。「預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、家族の間だけです。」 **58** そして、イエスは、彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの奇蹟をなさらなかった。

14 そのころ、国主ヘロデは、イエスのうわさを聞いて、 **2** 侍従たちに言った。「あれはバプテスマのヨハネだ。ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、あんな力が彼のうちに働いているのだ。」 **3** 実は、このヘロデは、自分の兄弟ペリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、牢に入れたのであった。 **4** それは、ヨハネが彼に、「あなたが彼女をめとるのは不法です。」と言い張ったからである。 **5** ヘロデはヨハネを殺したかったが、群衆を恐れた。というのは、彼ら

はヨハネを預言者と認めていたからで 魚が二匹よりほかありません。」 18
ある。 6 たまたまヘロデの誕生祝いが すると、イエスは言われた。「それを
あって、ヘロデヤの娘がみなの前で踊 、ここに持って来なさい。」 19 そし
りを踊ってヘロデを喜ばせた。 7 それ てイエスは、群衆に命じて草の上にす
で、彼は、その娘に、願う物は何でも わらせ、五つのパンと二匹の魚を取り
必ず上げると、誓って堅い約束をした 、天を見上げて、それらを祝福し、パ
ン。 8 ところが、娘は母親にそそのかさ ンを裂いてそれを弟子たちに与えられ
れて、こう言った。「今ここに、パプ たので、弟子たちは群衆に配った。 20
テスマのヨハネの首を盆に載せて私に 人々はみな、食べて満腹した。そして
下さい。」 9 王は心を痛めたが、自分 、パン切れの余りを取り集めると、十
の誓いもあり、また列席の人々の手前 二のかごにいっぱいあった。 21 食べ
もあって、与えるように命令した。 10 た者は、女と子どもを除いて、男五千
彼は人をやって、牢の中でヨハネの首 人ほどであった。 22 それからすぐ、
をはねさせた。 11 そして、その首は イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込
盆に載せて運ばれ、少女に与えられた ませて、自分より先に向こう岸へ行か
ので、少女はそれを母親のところに持 せ、その間に群衆を帰してしまわれた
って行った。 12 それから、ヨハネの 。 23 群衆を帰したあとで、祈るため
弟子たちがやって来て、死体を引き取 に、ひとりで山に登られた。夕方にな
って葬った。そして、イエスのところ ったが、まだそこに、ひとりでおられ
に行って報告した。 13 イエスはこの た。 24 しかし、舟は、陸からもう何
ことを聞かれると、舟でそこを去り、 キロメートルも離れていたが、風が向
自分だけで寂しい所に行かれた。する かい風なので、波に悩まされていた。
と、群衆がそれと聞いて、町々から、 25 すると、夜中の三時ごろ、イエスは
歩いてイエスのあとを追った。 14 イ 湖の上を歩いて、彼らのところに行か
エスは舟から上がられると、多くの群 れた。 26 弟子たちは、イエスが湖の
衆を見られ、彼らを深くあわれんで、 上を歩いておられるのを見て、「あれ
彼らの病気を直された。 15 夕方にな は幽霊だ。」と言って、おびえてしま
ったので、弟子たちはイエスのところ い、恐ろしさのあまり、叫び声を上げ
に来て言った。「ここは寂しい所です た。 27 しかし、イエスはすぐに彼ら
し、時刻ももう回っています。ですか に話しかけ、「しっかりしなさい。わ
ら群衆を解散させてください。そして たしだ。恐れることはない。」と言わ
村に行つてめいめいで食物を買うよう れた。 28 すると、ペテロが答えて言
にさせてください。」 16 しかし、イ った。「主よ。もし、あなたでしたら
エスは言われた。「彼らが出かけて行 、私に、水の上を歩いてここまで来い
く必要はありません。あなたがたで 、とお命じになってください。」 29
あの人たちに何か食べる物を上げなさ イエスは「来なさい。」と言われた。
い。」 17 しかし、弟子たちはイエス そこで、ペテロは舟から出て、水の上
に言った。「ここには、パンが五つと を歩いてイエスのほうに行った。 30

ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言った。31そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」32そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。33そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です。」と言った。34彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着いた。35すると、その地の人々は、イエスと気がついて、付近の地域にくまなく知らせ、病人という病人をみな、みもとに連れて来た。36そして、せめて彼らに、着物のふさにでもさわらせてやってくださいと、イエスにお願いした。そして、さわった人々はみな、いやされた。

15 そのころ、パリサイ人や律法学者たちが、エルサレムからイエスのところに来て、言った。2「あなたの弟子たちは、なぜ昔の先祖たちの言い伝えを犯すのですか。パンを食べるときに手を洗っていないではありませんか。」3そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い伝えのために神の戒めを犯すのですか。4神は『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をのしる者は、死刑に処せられる。』と言われたのです。5それなのに、あなたがたは、『だれでも、父や母に向かって、私からあなたのために差し上げられる物は、供え物になりましたと言う者は、6その物をもって父や母を尊んではならない。』と言っています。こうしてあなたがたは、自分たちの言い伝

えのために、神のことばを無にしてみました。7偽善者たち。イザヤはあなたがたについて預言しているが、まさにそのとおりです。8『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。9彼らがある。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』」10イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。11口にはいる物は人を汚しません。しかし、口から出るもの、これが人を汚します。」12そのとき、弟子たちが、近寄って来て、イエスに言った。「パリサイ人が、みことばを聞いて、腹を立てたのをご存じですか。」13しかし、イエスは答えて言われた。「わたしの天の父がお植えにならなかった木は、みな根こそぎにされます。14彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を手引きする盲人です。もし、盲人が盲人を手引きするならば、ふたりとも穴に落ち込むのです。」15そこで、ペテロは、イエスに答えて言った。「私たちに、そのたとえを説明してください。」16イエスは言われた。「あなたがたも、まだわからないのですか。17口にはいる物はみな、腹にはいり、かわやに捨てられることを知らないのですか。18しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。19悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。20これらは、人を汚すものです。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」21それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に

立ちのかれた。22すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」23しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです。」と言ってイエスは願った。24しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません。」と言われた。25しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください。」と言った。26すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」と言われた。27しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」28そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。29それから、イエスはそこを去って、ガリラヤ湖の岸を歩き、山に登って、そこにすわっておられた。30すると、大ぜいの人の群れが、足なえ、不具者、盲人、おしの人、そのほかたくさんの人をみもとに連れて来た。そして、彼らをイエスの足もとに置いたので、イエスは彼らをおいやしになった。31それで、群衆は、おしがものを言い、不具者が直り、足なえが歩き、盲人が見えるようになったのを見て、驚い

た。そして、彼らはイスラエルの神をさがめた。32イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。「かわいそうに、この群衆はもう三日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのです。彼らを空腹のままに帰らせたくありません。途中で動けなくなるといけないから。」33そこで弟子たちは言った。「このへんびな所で、こんなに大ぜいの人に、十分食べさせるほどたくさんパンが、どこから手にはいるでしょう。」34すると、イエスは彼らに言われた。「どれぐらいパンがありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」35すると、イエスは群衆に、地面にすわるように命じられた。36それから、七つのパンと魚とを取り、感謝をささげてからそれを裂き、弟子たちに与えられた。そして、弟子たちは群衆に配った。37人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、七つのかごにいっぱいあった。38食べた者は、女と子どもを除いて、男四千人であった。39それから、イエスは群衆を解散させて舟に乗り、マガダン地方に行かれた。

16 パリサイ人やサドカイ人たちがみそばに寄って来て、イエスをためそうとして、天からのしるしを見せてくださいと頼んだ。2しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、夕方には、『夕焼けだから晴れる。』と言うし、3朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ。』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができ

ないのですか。4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」そう言って、イエスは彼らを残して去って行かれた。5 弟子たちは向こう岸に行ったが、パンを持って来るのを忘れた。6 イエスは彼らに言われた。「パリサイ人やサドカイ人たちのパン種には注意して気をつけなさい。」7 すると、彼らは、「これは私たちがパンを持って来なかったからだ。」と言って、議論を始めた。8 イエスはそれに気づいて言われた。「あなたがた、信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。9 まだわからないのですか、覚えていないのですか。五つのパンを五千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。10 また、七つのパンを四千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。11 わたしの言ったのは、パンのことなどではないことが、どうしてあなたがたには、わからないのですか。ただ、パリサイ人やサドカイ人たちのパン種に気をつけることです。」12 彼らはようやく、イエスが気をつけよと言われたのは、パン種のことではなくて、パリサイ人やサドカイ人たちの教えのことであることを悟った。13 さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々はあなたをだれだと言っていますか。」14 彼らは言った。「パプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレンミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」16 シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは生ける神の御子キリストです。」17 するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。18 ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。(Hadēs g86) 19 わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなぐられており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」20 そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行つて、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。22 するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」23 しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについても言っています。」15 イエスは彼ら

の十字架を負い、そしてわたしについで来なさい。25いのちを救おうと思ふ者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。26人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありましょう。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。27人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのおのその行ないに応じて報いをします。28まことに、あなたがたに告げます。ここに立つている人々の中には、人の子が御国とともに来るのを見るまでは、決して死を味わわらない人々がいます。」

17 それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に導いて行かれた。2そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。3しかも、モーセとエリヤが現われてイエスと話し合っているではないか。4すると、ペテロが口出ししてイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは、すばらしいことです。もし、およろしければ、私が、ここに三つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」5彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。」という声が出た。6弟子たちは、この声を聞くと、ひれ伏して非常にこわがった。7す

ると、イエスが来られて、彼らに手を触れ、「起きなさい。こわがることはない。」と言われた。8それで、彼らが目を見て見ると、だれもいなくて、ただイエスおひとりだけであった。9彼らが山を降りるとき、イエスは彼らに、「人の子が死人の中からよみがえるときまでは、いま見た幻をだれにも話してはならない。」と命じられた。10そこで、弟子たちは、イエスに尋ねて言った。「すると、律法学者たちが、まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。」11イエスは答えて言われた。「エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。12しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。人の子もまた、彼らから同じように苦しめられようとしています。」13そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた。14彼らが群衆のところに来たとき、ひとりの人がイエスのそば近くに来て、御前にひざまずいて言った。15「主よ。私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでおります。何度も何度も火の中に落ちたり、水の中に落ちたりいたします。16そこで、その子をお弟子たちのところに連れて来たのですが、直すことができませんでした。」17イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまであなたがたといっしょにいななければならないのでしょうか。いつまであなたがたにがまんしていなければならないの

でしょう。その子をわたしのところに連れて来なさい。」 18そして、イエスがその子をおしかりになると、悪霊は彼から出て行き、その子はその時から直った。 19そのとき、弟子たちはそっとイエスのもとに来て、言った。「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」 20イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えは移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。 21〔ただし、この種のもの、祈りと断食によらなければ出て行きません。〕」 22彼らがガララヤに集まっていたとき、イエスは彼らに言われた。「人の子は、いまに人々の手に渡されます。 23そして彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」すると、彼らは非常に悲しんだ。 24また、彼らがカペナウムに来たとき、宮の納入金を集める人たちが、ペテロのところに来て言った。「あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないのですか。」 25彼は「納めます。」と言って、家にはいると、先にイエスのほうからこう言い出された。「シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たちからですか。」 26ペテロが「ほかの人たちからです。」と言うと、イエスは言われた。「では、子どもたちにはその義務がないのです。 27しかし、彼らにつまづきを与えないために、湖に行って釣りをし、最初

に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい。」

18そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」 2そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真中に立たせて、 3言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。 4だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。 5また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。 6しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにもつまづきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。 7つまづきを与えるこの世は忌まわしいものです。つまづきが起ころことは避けられないが、つまづきをもたらす者は忌まわしいものです。 8もし、あなたの手か足の一つがあなたをつまづかせるなら、それを切って捨てなさい。片手片足でいのちにはいるほうが、両手両足そろっていて永遠の火に投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。(aiōnios g166) 9また、もし、あなたの方の目が、あなたをつまづかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいのちにはいるほうが、両目そろっていて燃えるゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよい

ことです。(Geenna g1067) 10 あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ています。 20 ふたりでも三人でも、わたしの父の御顔をいつも見ていたしもその中にいるからです。」 21 いる者を救うために来たのです。」 12 そのとき、ペテロがみもとに来て言っ「あなたはどう思いますか。もし、あなたがたはどうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。」 27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやな。言うことを聞き入れようとしな。 28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。 29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待って。そうしたら返すから。』と言った。 30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。 31 彼の仲間たちは事

の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。32そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。33私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』34こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。35あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」

19 イエスはこの話を終えると、ガリラヤを去って、ヨルダンの向こうにあるユダヤ地方に行かれた。2すると、大ぜいの群衆がついて来たので、そこで彼らをおいやしになった。3パリサイ人たちがみもとにやって来て、イエスを試みて、こう言った。「何か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか。」4イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、5『それゆえ、人はその父と母を離れて、その妻と結ばれ、ふたりの者が一心同体になるのだ。』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。6それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」7彼らはイエスに言った。「では、モーセはなぜ、離婚状を渡して妻を離別せよ、と命じたのですか。」8イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心がかたくななので、その妻を離別す

ることをあなたがたに許したのです。しかし、初めからそうだったのではありません。9まことに、あなたがたに告げます。だれでも、不貞のためでなく、その妻を離別し、別の女を妻にする者は姦淫を犯すのです。」10弟子たちはイエスに言った。「もし妻に対する夫の立場がそんなものなら、結婚しないほうがましです。」11しかし、イエスは言われた。「そのことばは、だれでも受け入れることができるわけではありません。ただ、それが許されている者だけができます。12というのは、母の胎内から、そのように生まれついた独身者がいます。また、人から独身者にさせられた者もいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった者もいるからです。それができる者はそれを受け入れなさい。」13そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れて来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかった。14しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」15そして、手を彼らの上に置いてから、そこを去って行かれた。16すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」(aiōnios g166) 17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい。」18彼は「どの戒めです

か。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」21 イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」22 ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。23 それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国にはいるのはむずかしいことです。24 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。」26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」27 そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるのでしょうか。」28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人

の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。(aiōnios g166) 30 ただ、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。

20 天の御国は、自分のぶどう園で働く労務者を雇いに朝早く出かけた主人のようなものです。2 彼は、労務者たちと一日一デナリの約束ができると、彼らをおどろ園にやっした。3 それから、九時ごろに出かけてみると、別の人たちが市場に立っており、何もしていないでいた。4 そこで、彼はその人たちに言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当のものを上げるから。』5 彼らは出て行った。それからまた、十二時ごろと三時ごろに出かけて行って、同じようにした。6 また、五時ごろ出かけてみると、別の人たちが立っていたので、彼らに言った。『なぜ、一日中仕事もしないでここにいるのですか。』7 彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』彼は言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。』8 こうして、夕方になったので、ぶどう園の主人は、監督に言った。『労務者たちを呼んで、最後に来た者たちから順に、最初に来た者たちにまで、賃金を払ってやりなさい。』9 そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつもらった。10 最初の者たちがもらいに来て、もっと多くもらえるだろうと

思ったが、彼らもやはりひとり一デナ
なたの右に、ひとりは左にすわれるよ
りずつであった。 11そこで、彼らは
うにおことばを下さい。」 22けれど
それを受け取ると、主人に文句をつけ
も、イエスは答えて言われた。「あな
て、 12言った。『この最後の連中は
たがたは自分が何を求めているのか、
一時間しか働かなかったのに、あなた
わかっていないのです。わたしが飲も
は私たちと同じにしました。私たちは
うとしている杯を飲むことができます
一日中、労苦と焼けるような暑さを辛
か。」 彼らは「できます。」と言った
抱したのです。』 13しかし、彼はそ
。 23イエスは言われた。「あなたが
のひとりに答えて言った。『私はあな
たはわたしの杯を飲みはします。しか
たに何も不当なことはしていない。あ
し、わたしの右と左にすわることは、
あなたは私と一デナリの約束をしたで
このわたしの許すことではなく、わた
ありませんか。 14自分の分を取って
しの父によってそれに備えられた人々
帰りなさい。ただ私としては、この最
があるのです。』 24このことを聞い
後の人にも、あなたと同じだけ上げた
たほかの十人は、このふたりの兄弟の
いのです。 15自分のものを自分の思
ことで腹を立てた。 25そこで、イエ
うようにしてはいけないという法があ
りますか。それとも、私が気前がいい
あなたも知っているとおおり、異邦
ので、あなたの目にはねたましく思わ
人の支配者たちは彼らを支配し、偉い
れるのですか。』 16このように、あ
人たちは彼らの上に権力をふるいま
すとの者が先になり、先の者があとにな
。 26あなたがたの間では、そうでは
ありません。あなたがたの間で偉くな
りたいと思う者は、みなに仕える者に
なりなさい。 27あなたがたの間で人
話された。 18「さあ、これから、わ
の先に立ちたいと思う者は、あなたが
たしたちはエルサレムに向かって行き
たのしもべになりなさい。 28人の子
が来たのが、仕えられるためではなく
ちに引き渡されるのです。彼らは人の
、かえって仕えるためであり、また、
子を死刑に定めます。 19そして、あ
多くの人のための、贖いの代価として
ざけり、むち打ち、十字架につけるた
、自分のいのちを与えるためであるの
め、異邦人に引き渡します。しかし、
と同じです。」 29彼らがエリコを出
人の子は三日目によみがえります。」
て行くと、大ぜいの群衆がイエスにつ
いて行った。 30すると、道ばたにす
わっていたふたりの盲人が、イエスが
20そのとき、ゼベダイの子たちの母が
通られると聞いて、叫んで言った。「
、子どもたちといっしょにイエスのも
主よ。私たちがあわれんでください。
とに来て、ひれ伏して、お願いがあり
ダビデの子よ。」 31そこで、群衆は
「どんな願いですか。」と言われると
彼らを黙らせようとして、たしなめた
息子が、あなたの御国で、ひとりはあ
が、彼らはますます、「主よ。私たち

をあわれんでください。ダビデの子よ
。」と叫び立てた。32すると、イエ
スは立ち止まって、彼ら呼んで言わ
れた。「わたしに何をしてほしいのか
。」33彼らはイエスに言った。「主
よ。この目をあけていただきたいので
す。」34イエスはかわいそうに思っ
て、彼らの目にさわられた。すると、
すぐさま彼らは見えるようになり、イ
エスについて行った。

21それから、彼らはエルサレムに近
づき、オリーブ山のふもとのベテ
パゲまで来た。そのとき、イエスは、
弟子をふたり使いに出して、2言われ
た。「向こうの村へ行きなさい。そう
するとすぐに、ろばがつながれてい
て、いっしょにろばの子がいるのに気が
つくでしょう。それをほどこいて、わた
しのところに連れて来なさい。3もし
だれかが何か言ったら、『主がお入用
なのです。』と言いなさい。そうすれ
ば、すぐに渡してくれます。」4これ
は、預言者を通して言われた事が成就
するために起こったのである。5「シ
オンの娘に伝えなさい。『見よ。あな
たの王が、あなたのところにお見えに
なる。柔和で、ろばの背に乗って、
それも、荷物を運ぶろばの子に乗っ
て。』」6そこで、弟子たちは行って、
イエスが命じられたとおりにした。7
そして、ろばと、ろばの子とを連れて
来て、自分たちの上着をその上に掛け
た。イエスはそれに乗られた。8する
と、群衆のうち大ぜいの者が、自分た
ちの上着を道に敷き、また、ほかの人
々は、木の枝を切って来て、道に敷い
た。9そして、群衆は、イエスの前を
行く者も、あとに従う者も、こう言っ

て叫んでいた。「ダビデの子にホサナ
。祝福あれ。主の御名によって来られ
る方に。ホサナ。いと高き所に。」
10こうして、イエスがエルサレムには
いられると、都中がこぞって騒ぎ立ち
、「この方は、どういう方なのか。」
と言った。11群衆は、「この方は、
ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ
。」と言った。12それから、イエス
は宮にはいって、宮の中で売り買いす
る者たちをみな追い出し、両替人の台
や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒され
た。13そして彼らに言われた。「『
わたしの家は祈りの家と呼ばれる。』
と書いてある。それなのに、あなたが
たはそれを強盗の巣にしている。」14
また、宮の中で、盲人や足なえがみも
とに来たので、イエスは彼らをいやさ
れた。15ところが、祭司長、律法学
者たちは、イエスのなさった驚くべき
いろいろの事を見、また宮の中で子
どもたちが「ダビデの子にホサナ。」
と言って叫んでいるのを見て腹を立て
た。16そしてイエスに言った。「あ
なたは、子どもたちが何と言っている
か、お聞きですか。」イエスは言われ
た。「聞いています。『あなたは幼子
と乳飲み子たちの口に賛美を用意され
た。』とあるのを、あなたがたは読ま
なかつたのですか。」17イエスは彼
らをあとに残し、都を出てベタニヤに
行き、そこに泊まれた。18翌朝、
イエスは都に帰る途中、空腹を覚えら
れた。19道ばたにいちじくの木が見
えたので、近づいて行かれたが、葉の
ほかは何もないのに気づかれた。それ
で、イエスはその木に「おまえの実
は、もういつまでも、ならないように。

]と言われた。すると、たちまちいち、あなたがたに話すまい。 28 ところ
 じくの木は枯れた。(aiōn g165) 20 弟子た
 ちは、これを見て、驚いて言った。「ある人にふたりの息子がいた。その人
 どうして、こうすぐにいちじくの木がは兄のところに来て、『きょう、ぶど
 枯れたのでしょうか。』 21 イエスはう園に行つて働いてくれ。』と言つた
 答えて言われた。「まことに、あなた。 29 兄は答えて『行きます。おとう
 がたに告げます。もし、あなたがたがさん。』と言つたが、行かなかつた。
 、信仰を持ち、疑うことがなければ、 30 それから、弟のところに来て、同じ
 いちじくの木になされたようなことがように言つた。ところが、弟は答えて
 できるだけでなく、たとい、この山に『行きたくありません。』と言つたが
 向かつて、『動いて、海にはいれ。』、あとから悪かつたと思つて出かけて
 と言つても、そのとおりになります。行つた。 31 ふたりのうちどちらが、
 22 あなたがたが信じて祈り求めるもの父の願つたとおりにしたのでしょう。
 なら、何でも与えられます。」 23 そ」彼らは言つた。「あとの者です。」
 れから、イエスが宮にはいって、教えイエスは彼らに言われた。「まことに
 ておられると、祭司長、民の長老たち、あなたがたに告げます。取税人や遊
 が、みもとに来て言つた。「何の権威女たちのほうが、あなたがたより先に
 によって、これらのことをしておられ神の国にはいつているのです。 32 と
 るのですか。だれが、あなたにその権いうのは、あなたがたは、ヨハネが義
 威を授けたのですか。」 24 イエスはの道を持つて来たのに、彼を信じなか
 答えて、こう言われた。「わたしも一つた。しかし、取税人や遊女たちは彼
 あなたがたが尋ねましょう。もし、を信じたからです。しかもあなたがた
 あなたがたが答えるなら、わたしも何は、それを見ながら、あとになって悔
 の権威によって、これらのことをしていることもせず、彼を信じなかつたの
 いるかを話しましょう。 25 ヨハネのです。 33 もう一つのたとえを聞きな
 パプテスマは、どこから来たものでさい。ひとりの、家の主人がいた。彼
 か。天からですか。それとも人からではぶどう園を造つて、垣を巡らし、そ
 すか。」すると、彼らはこう言いながの中に酒ぶねを掘り、やぐらを建て、
 ら、互いに論じ合つた。「もし、天かそれを農夫たちに貸して、旅に出かけ
 ら、たとえば、それならなぜ、彼を信た。 34 さて、収穫の時が近づいたの
 じなかつたか、と言うだろう。 26 しで、主人は自分の分を受け取ろうとし
 かし、もし、人から、たとえば、群衆て、農夫たちのところへしもべたちを
 がこわい。彼らはみな、ヨハネを預言遣わした。 35 すると、農夫たちは、
 者と認めているのだから。」 27 そそのしもべたちをつかまえて、ひとり
 で、彼らはイエスに答えて、「わかりは袋だたきにし、もうひとりは殺し、
 ません。」と言つた。イエスもまた彼もうひとりは石で打つた。 36 そこで
 らにこう言われた。「わたしも、何のもう一度、前よりももっと多くの別の
 権威によってこれらのことをするのかしもべたちを遣わしたが、やはり同じ

ような扱いをした。37しかし、その、王子のために結婚の披露宴を設けたあと、その主人は、『私の息子なら、王にたとえることができます。3王は敬ってくれるだろう。』と言って、息、招待しておいたお客を呼びに、しも子を遣わした。38すると、農夫たちべたちを遣わしたが、彼らは来たがらは、その子を見て、こう話し合った。なかった。4それで、もう一度、次の『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺ように言いつけて、別のしもべたちをして、あれのものになるはずの財産を遣わした。『お客に招いておいた人た手に入れようではないか。』39そしちにこう言いなさい。「さあ、食事ので、彼をつかまえて、ぶどう園の外に用意ができました。雄牛も太った家畜追い出して殺してしまった。40このもほふって、何もかも整いました。どばあい、ぶどう園の主人が帰って来たうぞ宴会にお出かけください。』5ら、その農夫たちをどうするでしょうところが、彼らは気にもかけず、ある。」41彼らはイエスに言った。「そ者は畑に、別の者は商売に出て行き、の悪党どもを情け容赦なく殺して、そ6そのほかの者たちは、王のしもべたのぶどう園を、季節にはきちんと収穫ちをつかまえて恥をかかせ、そして殺を納める別の農夫たちに貸すに違いあしてしまった。7王は怒って、兵隊をりません。」42イエスは彼らに言わ出して、その人殺しどもを滅ぼし、彼れた。「あなたがたは、次の聖書のこの町を焼き払った。8そのとき、王とばを読んだことがないのですか。『はしもべたちに言った。『宴会の用意家を建てる者たちの見捨てた石。それはできているが、招待しておいた人たが礎の石になった。これは主のなさっちは、それにふさわしくなかった。9たことだ。私たちの目には、不思議だから、大通りに行って、出会った者なことである。』43だから、わたしをみな宴会に招きなさい。』10それはあなたがたに言います。神の国はあで、しもべたちは、通りに出て行ってあなたがたから取り去られ、神の国の実、良い人でも悪い人でも出会った者をを結ぶ国民に与えられます。44またみな集めたので、宴会場は客でいっば、この石の上に落ちる者は、粉々に砕いになった。11ところで、王が客をかれ、この石が人の上に落ちれば、そ見ようとしてはいつて来ると、そこに人を粉みじんに飛ばしてしまいます婚礼の礼服を着ていない者がひとりい。」45祭司長たちとパリサイ人たちた。12そこで、王は言った。『あなたは、イエスのこれらのたとえを聞いたたは、どうして礼服を着ないで、こことき、自分たちをさして話しておられにはいつて来たのですか。』しかし、ることに気づいた。46それでイエス彼は黙っていた。13そこで、王はしを捕えようとしたが、群衆を恐れた。もべたちに、『あれの手足を縛って、群衆はイエスを預言者と認めていたから外の暗やみに放り出せ。そこで泣いて歯ざしりするのだ。』と言った。14

22 イエスはもう一度たとえをもって招待される者は多いが、選ばれる者は彼らに話された。2「天の御国は少ないのです。」15そのころ、パリ

サイ人たちは出て来て、どのようにイ うになりました。 27 そして、最後に
エスをことばのわなにかけようかと相 、その女も死にました。 28 すると復
談した。 16 彼らはその弟子たちを、 活の際には、その女は七人のうちだれ
ヘロデ党の者たちといっしょにイエス の妻なのでしょうか。彼らはみな、そ
のもとにやって、こう言させた。「先 の女を妻にしたのです。」 29 しかし
生。私たちは、あなたが真実な方で、 、イエスは彼らに答えて言われた。「
真理に基づいて神の道を教え、だれを そんな思い違いをしているのは、聖書
もはばからない方だと存じています。 も神の力も知らないからです。 30 復
あなたは、人の顔色を見られないから 活の時には、人はめとることも、とつ
です。 17 それで、どう思われるのか ぐこともなく、天の御使いたちのよう
言ってください。税金をカイザルに納 ます。 31 それに、死人の復活につい
めることは、律法にかなっていること ては、神があなたがたに語られた事を
でしょうか。かなっていないことでし 、あなたがたは読んだことがないので
でしょうか。」 18 イエスは彼らの悪意を すか。 32 『わたしは、アブラハムの
知って言われた。「偽善者たち。なぜ 神、イサクの神、ヤコブの神である。
、わたしをためすのか。 19 納め金に 』とあります。神は死んだ者の神では
するお金をわたしに見せなさい。」そ ありません。生きている者の神です。
こで彼らは、デナリを一枚イエスのも 」 33 群衆はこれを聞いて、イエスの
とに持って来た。 20 そこで彼らに言 教えに驚いた。 34 しかし、パリサイ
われた。「これは、だれの肖像ですか 人たちは、イエスがサドカイ人たちを
。だれの銘ですか。」 21 彼らは、「 黙らせたと聞いて、いっしょに集まっ
カイザルのです。」と言った。そこで た。 35 そして、彼らのうちのひとり
、イエスは言われた。「それなら、カ の律法の専門家が、イエスをためそう
イザルのものはカイザルに返しなさい として、尋ねた。 36 「先生。律法の
。そして神のものは神に返しなさい。 中で、たいせつな戒めはどれですか。
」 22 彼らは、これを聞いて驚嘆し、 」 37 そこで、イエスは彼に言われた
イエスを残して立ち去った。 23 その 。「『心を尽くし、思いを尽くし、知
日、復活はないと言っているサドカイ 力を尽くして、あなたの神である主を
人たちが、イエスのところに来て、質 愛せよ。』 38 これがたいせつな第一
問して、 24 言った。「先生。モーセ の戒めです。 39 『あなたの隣人をあ
は『もし、ある人が子のないままで死 なた自身のように愛せよ。』という第
んだなら、その弟は兄の妻をめとって 二の戒めも、それと同じようにたいせ
、兄のための子をもうけねばならない つです。 40 律法全体と預言者とが、
。』と言いました。 25 ところで、私 この二つの戒めにかかっているのです
たちの間に七人兄弟がありました。長 。」 41 パリサイ人たちが集まってい
男は結婚しましたが、死んで、子がな るときに、イエスは彼らに尋ねて言わ
かったので、その妻を弟に残しました れた。 42 「あなたがたは、キリスト
。 26 次男も三男も、七人とも同じよ について、どう思いますか。彼はだれ

の子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」**43** イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは、御霊によって、彼を主と呼び、**44** 『主は私の主に言われた。わたしがあなたの敵をあなたの足の下に従わせるまでは、わたしの右の座に着いていなさい。』』と云っているのですか。**45** ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうして彼はダビデの子なのでしょう。」**46** それで、だれもイエスに一言も答えることができなかった。また、その日以来、もはやだれも、イエスにあえて質問をする者はなかった。

23 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、**2** こう言われた。「律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。**3** ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行ないをまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。**4** また、彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。**5** 彼らのしていることはみな、人に見せるためです。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。**6** また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、**7** 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりすることが好きです。**8** しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟だからです。**9** あなたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの父はた

だひとり、すなわち天にいます父だけだからです。**10** また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。**11** あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。**12** だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。**13** しかし、わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天の御国をさえぎっているのです。自分もはいらず、はいろうとしている人々もはいらせないのです。**14** [わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、やもめたちの家を食いつぶしていながら、見えのために長い祈りをするからです。ですから、あなたがたは、人一倍ひどい罰を受けます。]**15** わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。(Geenna g1067) **16** わざわいが来ますぞ。目の見えぬ手引きども。あなたがたはこう言う。『だれでも、神殿をさして誓ったのなら、何でもなし。しかし、神殿の黄金をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならぬ。』**17** 愚かで、目の見えぬ人たち。黄金と、黄金を神聖なものにする神殿と、どちらがたいせつなのか。**18** また、こう言う。『だれでも、祭壇をさして誓ったのなら、何でもなし。しかし、祭壇の上の供え物をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならぬ。』**19** 目の見えぬ人たち

。供え物と、その供え物を神聖なものにする祭壇と、どちらがたいせつなのか。20 ですから、祭壇をさして誓う者は、祭壇をも、その上のすべての物をもさして誓っているのです。21 また、神殿をさして誓う者は、神殿をも、その中に住まわれる方をもさして誓っているのです。22 天をさして誓う者は、神の御座とそこに座しておられる方をさして誓うのです。23 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、すなわち正義もあわれみも誠実もおろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、他のほうもおろそかにしてはいけません。24 目の見えぬ手引きども。あなたがたは、およは、こして除くが、らくだのみこんでいます。25 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。26 目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。27 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいのように、28 あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。29 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、30 『私たちが、先祖の時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかっただろう。』と言います。31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。32 あなたがたも先祖の罪の目盛りの不足分を満たさなさい。33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれることができる。 (Geenna g1067) 34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わすと、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。35 それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたパラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためです。36 まことに、あなたがたに告げます。これらの報いはみな、この時代の上に来ます。37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

24 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエス

に宮の建物をさし示した。2そこで、**2** すべて国民にあかしされ、イエスは彼らに答えて言われた。「これから、終わりの日が来ます。15そのすべての物に目をみはっているの**15** れゆえ、預言者ダニエルによって語らしょう。まことに、あなたがたに告げられたあの『荒らす憎むべき者』が、聖**16** なる所に立つのを見たならば、(読者積まれたまま残ることは決してありません。)**16** そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。17屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。18畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。19だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。20ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。21そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。22もし、その日数が少なくされなかつたら、ひとりとして救われる者はないに、その日数は少なくされます。23そのとき、『そら、キリストがここにいます。』とか、『そこにいる。』とか言う者があっても、信じてはいけません。24にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。25さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。26だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる。』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そらこって、多くの人々を惑わします。22も、へやにいらっしゃる。』と聞いても、信じてはいけません。27人の子の愛は冷たくなります。23しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。24にひらめくように、ちょうどそのように来るのは、いなづまが東から出て、西に来るのです。28死体のある所には

、はげたかが集まります。29だが、されま。41ふたりの女が臼をひい
これらの日の苦難に続いてすぐに、太ていと、ひとりを取られ、ひとり
陽は暗くなり、月は光を放たず、星は残されます。42だから、目をさまし
天から落ち、天の万象は揺り動かされていなさい。あなたがたは、自分の主
ます。30そのとき、人の子のしるし
がいつ来られるか、知らないからです
が天に現われます。すると、地上のあ
。43しかし、このことは知っておき
なさい。家の主人は、どろぼうが夜の
が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲
何時に来ると知っていたら、目を見張
に乗って来るのを見るのです。31人
っていたでしょうし、また、おめおめ
の子は大きなラッパの響きとともに、
と自分の家に押し入れられはしなかつた
御使いたちを遣わします。すると御使
でしょう。44だから、あなたがたも
いたちは、天の果てから果てまで、四
用心していなさい。なぜなら、人の子
方からその選びの民を集めます。32
は、思いがけない時に来るのですから
いちじくの木から、たとえを学びなさ
。45主人から、その家のしもべたち
い。枝が柔らかくなって、葉が出て来
を任されて、食事時には彼らに食事を
ると、夏の近いことがわかります。33
きちんと与えるような忠実な思慮深い
そのように、これらのことのすべてを
しもべとは、いったいだれでしょう
か見たら、あなたがたは、人の子が戸口
。46主人が帰って来たときに、その
まで近づいていると知りなさい。34
ようにしているのを見られるしもべは
まことに、あなたがたに告げます。こ
幸いです。47まことに、あなたがた
れらのことが全部起こってしまうまで
に告げます。その主人は彼に自分の全
は、この時代は過ぎ去りません。35
財産を任せようになります。48と
この天地は滅び去ります。しかし、わ
ころが、それが悪いしもべで、『主人
たしのことばは決して滅びることがあ
はまだまだ帰るまい。』と心の中で思
りません。36ただし、その日、その
い、49その仲間を打ちたたき、酒飲
みたちと飲んだり食べたりし始めてい
ると、50そのしもべの主人は、思い
。ただ父だけが知っておられます。37
がけない日の思わぬ時間に帰って来ま
人の子が来るのは、ちょうど、ノアの
す。51そして、彼をきびしく罰して
日のようなからです。38洪水前の日
、その報いを偽善者たちと同じにする
々は、ノアが箱舟にはいるその日まで
に違いありません。しもべはそこで泣
いて歯ざしりするのです。

25そこで、天の御国は、たとえて言
えば、それぞれがともしびを持つ
て、花婿を出迎える十人の娘のよう
です。2そのうち五人は愚かで、五人は
賢かった。3愚かな娘たちは、ともし
びは持っていたが、油を用意しておか

なかった。4賢い娘たちは、自分のとくと、地を掘って、その主人の金を隠
もしびといっしょに、入れ物に油を入した。19さて、よほどたってから、
れて持っていた。5花婿が来るのが遅しもべたちの主人が帰って来て、彼ら
れたので、みな、うとうとして眠り始と清算をした。20すると、五タラン
めた。6ところが、夜中になって、『ト預かった者が来て、もう五タラント
そら、花婿だ。迎えに出よ。』と叫ぶ差し出して言った。『ご主人さま。私
声がした。7娘たちは、みな起きて、に五タラント預けてくださいましたが
自分のともしびを整えた。8ところが、ご覧ください。私はさらに五タラン
愚かな娘たちは、賢い娘たちに言ったトもうけました。』21その主人は彼
。『油を少し私たちに分けてくださいに言った。『よくやった。良い忠実な
。私たちのともしびは消えそうです。しもべだ。あなたは、わずかな物に忠
』9しかし、賢い娘たちは答えて言っ実だったから、私はあなたにたくさん
た。『いいえ、あなたがたに分けてあの物を任せよう。主人の喜びをともに
げるにはとうてい足りません。それよ喜んでくれ。』22二タラントの者も
りも店に行って、自分のをお買いなさい来て言った。『ご主人さま。私は二タ
い。』10そこで、買いに行くとき、そラント預かりましたが、ご覧くださ
の間に花婿が来た。用意のできていた。さらに二タラントもうけました。』
娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴23その主人は彼に言った。『よくやっ
に行き、戸がしめられた。11そのあた。良い忠実なしもべだ。あなたは、
とで、ほかの娘たちも来て、『ご主人わずかな物に忠実だったから、私はあ
さま、ご主人さま。あけてください。なたにたくさんの物を任せよう。主人
』と言った。12しかし、彼は答えての喜びをともに喜んでくれ。』24と
、『確かなところ、私はあなたがたをころが、一タラント預かっていた者も
知りません。』と言った。13だから来て、言った。『ご主人さま。あなた
、目をさましていなさい。あなたがたは、蒔かない所から刈り取り、散らさ
は、その日、その時を知らないからでない所から集めるひどい方だとわかっ
す。14天の御国は、しもべたちを呼ていました。25私はこわくなり、出
んで、自分の財産を預け、旅に出て行て行って、あなたの一タラントを地の
く人のようです。15彼は、おのおの中にも隠しておきました。さあどうぞ、
その能力に応じて、ひとりには五タラこれがあなたの物です。』26と
ント、ひとりには二タラント、もうひが、主人は彼に答えて言った。『悪い
ひとりには一タラントを渡し、それからなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所
旅に出かけた。16五タラント預かから刈り取り、散らさない所から集め
た者は、すぐに行って、それで商売をることを知っていたというのか。27
して、さらに五タラントもうけた。17だったら、おまえはその私の金を、銀
同様に、二タラント預かった者も、さ行に預けておくべきだった。そうすれ
らに二タラントもうけた。18とこほ私は帰って来たときに、利息がつい
が、一タラント預かった者は、出て行て返してもらえたのだ。28だから、

そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』 29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。 30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出さなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。 31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。 32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、 33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。 34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。 35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、 36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』 37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。 38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。 39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』 40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』 41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火には入れ。』 (aiōnios g166) 42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、 43 渴いていたときにも飲ませず、 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』 44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』 45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』 46 こうして、この人たちは永遠の刑罰には入り、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。』 (aiōnios g166)

26 イエスは、これらの話をすべて終えると、弟子たちに言われた。 2 「あなたがたの知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」 3 そのころ、祭司長、民の長老たちは、カヤパという大祭司の家の庭に集まり、 4 イエスをだまして

捕え、殺そうと相談した。5しかし、ちはどこで用意をしましょうか。」18
彼らは、「祭りの間はいけない。民衆イエスは言われた。「都には行って、
の騒ぎが起こるといけないから。」これこれの人のところに行って、『先
話していた。6さて、イエスがベタニ生が「わたしの時が近づいた。わたし
ヤで、らい病人シモンのおられるの弟子たちといっしょに、あなたのと
と、7ひとりの女がたいへん高価な香ころで過越を守ろう。」と言っておら
油のはいった石膏のつぼを持ってみもれる。』と言いなさい。」19そこ
とに来て、食卓に着いておられたイエ、弟子たちはイエスに言いつけられた
スの頭に香油を注いだ。8弟子たちはとおりにして、過越の食事の用意をし
これを見て、憤慨して言った。「何のた。20さて、夕方になって、イエス
ために、こんなむだなことをするのかは十二弟子といっしょに食卓に着かれ
。9この香油なら、高く売れて、貧乏た。21みなが食事をしているとき、
な人たちに施しができたのに。」10イエスは言われた。「まことに、あな
するとイエスはこれを知って、彼らにたがたに告げます。あなたがたのうち
言われた。「なぜ、この女を困らせるひとり、わたしを裏切ります。」22
のです。わたしに対してりっぱなことすると、弟子たちは非常に悲しんで、
をしてくれたのです。11貧しい人た「主よ。まさか私のことではないでし
ちは、いつもあなたがたといっしょによう。」とかわるがわるイエスに言っ
います。しかし、わたしは、いつもあた。23イエスは答えて言われた。「
あなたがたといっしょにいるわけではあわたしといっしょに鉢に手を浸した者
りません。12この女が、この香油をが、わたしを裏切るのです。24確か
わたしのからだに注いだのは、わたしに、人の子は、自分について書いてあ
の埋葬の用意をしてくれたのです。13るとおりに、去って行きます。しかし
まことに、あなたがたに告げます。世、人の子を裏切るような人間はのろわ
界中のどこでも、この福音が宣べ伝れます。そういう人は生まれなかった
えられる所なら、この人のした事も語ほうがよかったのです。」25すると
られて、この人の記念となるでしょう、イエスを裏切ろうとしていたユダが
。」14そのとき、十二弟子のひとり答えて言った。「先生。まさか私のこ
で、イスカリオテ・ユダという者が、とではないでしょう。」イエスは彼に
祭司長たちのところへ行って、15こ、「いや、そうだ。」と言われた。26
う言った。「彼をあなたがたに売るとまた、彼らが食事をしているとき、イ
したら、いったいいくらくれますか。エスはパンを取り、祝福して後、これ
」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支を裂き、弟子たちに与えて言われた。
払った。16そのときから、彼はイエ「取って食べなさい。これはわたしの
スを引き渡す機会をねらっていた。17からだです。」27また杯を取り、感
さて、種なしパンの祝いの第一日に、謝をささげて後、こう言って彼らにお
弟子たちがイエスのところに来て言っ与えになった。「みな、この杯から飲
た。「過越の食事をなさるのに、私たみなさい。28これは、わたしの契約

の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。 29ただ、ひれ伏して祈って言われた。「わが言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」 30そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリブ山へ出かけて行った。 31そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる。』と書いてあるからです。 32しかしわたしは、よみがえって、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」 33すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」 34イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」 35ペテロは言った。「たといいい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどは決して申しません。」 弟子たちはみなそう言った。 36それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」 37それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。 38そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」 39それから、イエスは少し進んで行って父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」 40それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時の間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。 41誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」 42イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのおりをなさってください。」 43イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけていることができなかつたのである。 44イエスは、またも彼らを置いて行かれたとい、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。 45それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですから、見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。 46立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」 47イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆もいっしょであった。 48群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。 48イエスを裏切る者は、彼らと合図を決

めて、「私が口づけをするのが、そのにすわった。 59 さて、祭司長たちと人だ。その人をつかまえるのだ。」と全議会は、イエスを死刑にするために言っておいた。 49 それで、彼はすぐ、イエスを訴える偽証を求めていた。にイエスに近づき、「先生。お元気で 60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠。」と言って、口づけした。 50 イエはつかめなかった。しかし、最後にふスは彼に、「友よ。何のために来たのたりの者が進み出て、 61 言った。「ですか。」と言われた。そのとき、群この人は、『わたしは神の神殿をこわ衆が来て、イエスに手をかけて捕えたして、それを三日のうちに建て直せる。 51 すると、イエスといっしょにい。』と言いました。」 62 そこで、大た者のひとりが、手を伸ばして剣を抜祭司は立ち上がってイエスに言った。き、大祭司のしもべに撃ってかかり、「何も答えないのですか。この人たちその耳を切り落とした。 52 そのときが、あなたに不利な証言をしています、イエスは彼に言われた。「剣をもとが、これはどうなのですか。」 63 しに納めなさい。剣を取る者はみな剣でかし、イエスは黙っておられた。それ滅びます。 53 それとも、わたしが父で、大祭司はイエスに言った。「私にはお願いして、十二軍団よりも多くの、生ける神によって、あなたに命じま御使いを、今わたしの配下に置いていす。あなたは神の子キリストなのか、ただくことができなるとでも思うのでどうか。その答えを言いなさい。」 64 すか。 54 だが、そのようなことをすイエスは彼に言われた。「あなたの言れば、こうならなければならないと書うとおりにです。なお、あなたがたに言いてある聖書が、どうして実現されまうとおきますが、今からのち、人の子しょう。」 55 そのとき、イエスは群が、力ある方の右の座に着き、天の雲衆に言われた。「まるで強盗にでも向に乗って来るのを、あなたがたは見るかうように、剣や棒を持ってわたしをことになります。」 65 すると、大祭つかまえに来たのですか。わたしは毎司は、自分の衣を引き裂いて言った。日、宮ですわって教えていたのに、あ「神への冒瀆だ。これでもまだ、証人あなたがたは、わたしを捕えなかったのが必要でしょうか。あなたがたは、今です。 56 しかし、すべてこうなった、神をけがすことばを聞いたのです。のは、預言者たちの書が実現するため 66 どう考えますか。」彼らは答えて、です。」そのとき、弟子たちはみな、「彼は死刑に当たる。」と言った。 67 イエスを見捨てて、逃げてしまった。そうして、彼らはイエスの顔につばき 57 イエスをつかまえた人たちは、イエをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、スを大祭司カヤパのところへ連れて行他の者たちは、イエスを平手で打ってった。そこには、律法学者、長老たち、 68 こう言った。「当ててみる。キが集まっていた。 58 しかし、ペテロリスト。あなたを打ったのはだれか。も遠くからイエスのあとをつけながら」 69 ペテロが外の中庭にすわってい、大祭司の中庭まではいって行き、成ると、女中のひとりが来て言った。「り行きを見ようと役人たちといっしょ あなたも、ガリラヤ人イエスといっし

よにいましたね。」 70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。 71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしよでした。」 72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」と言った。 73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではつきりわかる。」と言った。 74 すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。 75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

27 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。 2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。 3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、 4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして。」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ。」と言った。 5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。 6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよ

くない。血の代価だから。」と言った。 7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。 8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。 9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。 10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」 11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりです。」と言われた。 12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。 13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」 14 それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。 15 とところで総督は、その祭りには、群衆のために、いつも望みの囚人をひとりだけ赦免してやっていた。 16 そのころ、バラバという名の知れた囚人が捕えられていた。 17 それで、彼らが集まったとき、ピラトが言った。「あなたがたは、だれを釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」 18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことに気づいていたのである。 19 また、ピラトが裁判の席に着いていたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかかわり合わないでく

ださい。ゆうべ、私は夢で、あの人のかけ、葦を取り上げてイエスの頭をた
ことで苦しいめに会いましたから。」
20 しかし、祭司長、長老たちは、バラ
からのあけく、その着物を脱がせ
パのほうを願うよう、そして、イエ
て、もとの着物を着せ、十字架につけ
を死刑にするよう、群衆を説きつけた
るために連れ出した。 32 そして、彼
。 21 しかし、総督は彼らに答えて言
らが出て行くと、シモンというクレネ
った。「あなたがたは、ふたりのうち
人を見つけたので、彼らは、この人に
どちらを釈放してほしいのか。」彼ら
イエスの十字架を、むりやりに背負わ
は言った。「バラバだ。」 22 ピラト
せた。 33 ゴルゴタという所（「どく
は彼らに言った。「では、キリストと
ろ」と言われている場所）に来てから
言われているイエスを私はどのように
、 34 彼らはイエスに、苦みを混ぜた
しようか。」彼らはいっせいに言った
ぶどう酒を飲ませようとした。イエス
。「十字架につけろ。」 23 だが、ピ
はそれをなめただけで、飲もうとはさ
ラトは言った。「あの人がどんな悪い
れなかった。 35 こうして、イエスを
事をしたというのか。」しかし、彼ら
十字架につけてから、彼らはくじを引
はますます激しく「十字架につけろ。
いて、イエスの着物を分け、 36 そこ
」と叫び続けた。 24 そこでピラトは
にすわって、イエスの見張りをした。
、自分では手の下しようがなく、かえ
37 また、イエスの頭の上には、「これ
って暴動になりそうなを見て、群衆
はユダヤ人の王イエスである。」と書
の目の前で水を取り寄せ、手を洗っ
いた罪状書きを掲げた。 38 そのとき
、言った。「この人の血について、私
、イエスといっしょに、ふたりの強盗
には責任がない。自分たちで始末する
が、ひとり右に、ひとり左に、十
がよい。」 25 すると、民衆はみな答
字架につけられた。 39 道を行く人々
えて言った。「その人の血は、私たち
は、頭を振りながらイエスをののしっ
や子どもたちの上にかかってもいい。
て、 40 言った。「神殿を打ちこわし
」 26 そこで、ピラトは彼らのために
て三日で建てる人よ。もし、神の子な
バラバを釈放し、イエスをむち打っ
ら、自分を救ってみろ。十字架から降
りて来い。」 41 同じように、祭司長
たちも律法学者、長老たちといっしょ
た。 27 それから、総督の兵士たちは
、イエスを官邸の中に連れて行って、
になって、イエスをあざけって言った
イエスの回りに全部隊を集めた。 28
。 42 「彼は他人を救ったが、自分は
そして、イエスの着物を脱がせて、緋
救えない。イスラエルの王さまなら、
色の上着を着せた。 29 それから、い
今、十字架から降りてもらおうか。そ
ばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手
うしたら、われわれは信じるから。 43
に葦を持たせた。そして、彼らはイエ
彼は神により頼んでいる。もし神のお
スの前にひざまずいて、からかって言
気に入らぬなら、いま救っていただくが
った。「ユダヤ人の王さま。ぼんごい
いい。『わたしは神の子だ。』と言っ
。」 30 また彼らはイエスにつばきを
ているのだから。」 44 イエスといっ

しよに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」というお見捨てになったのですか。47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうか見ることとしよう。」と言った。50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。53 そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。57 夕方になって、アリマタヤの金持ちで

ヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。59 ヨセフは、それを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。61 ここにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに来て、63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになります。」65 ピラトは「番兵を出してやるから、行ってできるだけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

28 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。4 番兵たちは、御使いを見

て恐ろしさのあまり震え上がり、死人 彼らは金をもらって、指図されたとお
のようになった。 5すると、御使いは りにした。それで、この話が広くユダ
女たちに言った。「恐れてはいけませ ヤ人の間に広まって今日に及んでいる
ん。あなたがたが十字架につけられた 。 16しかし、十一人の弟子たちは、
イエスを捜しているのを、私は知って ガリラヤに行つて、イエスの指示され
います。 6ここにはおられません。前 た山に登った。 17そして、イエスに
から言つておられたように、よみがえ お会いしたとき、彼らは礼拝した。し
られたからです。来て、納めてあつた かし、ある者は疑つた。 18 イエスは
場所を見てごらんさない。 7ですから 近づいて来て、彼らにこう言われた。
急いで行つて、お弟子たちにこのこと 「わたしには天においても、地におい
を知らせなさい。イエスが死人の中か ても、いっさいの権威が与えられてい
らよみがえられたこと、そして、あな ます。 19 それゆえ、あなたがたは行
あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あ ち、あらゆる国の人々を弟子としな
あなたがたは、そこで、お会いできると さい。そして、父、子、聖霊の御名に
いうことです。では、これだけはお伝 によってバプテスマを受け、 20 また、
えしました。」 8そこで、彼女たちは わたしがあなたがたに命じておいたす
、恐ろしくはあつたが大喜びで、急い べてのことを守るように、彼らを教え
で墓を離れ、弟子たちに知らせに走っ なさい。見よ。わたしは、世の終わり
て行つた。 9すると、イエスが彼女た まで、いつも、あなたがたとともにい
ちに出会つて、「おはよう。」と言わ ます。」 (aiōn g165)
れた。彼女たちは近寄つて御足を抱い
てイエスを拝んだ。 10すると、イエ
スは言われた。「恐れてはいけません
。行つて、わたしの兄弟たちに、ガリ
ラヤに行くように言いなさい。そこで
わたしに会えるのです。」 11女たち
が行き着かないうちに、もう、数人の
番兵が都に来て、起こつた事を全部、
祭司長たちに報告した。 12そこで、
祭司長たちは民の長老たちとともに集
まつて協議し、兵士たちに多額の金を
与えて、 13 こう言つた。「『夜、私
たちが眠っている間に、弟子たちがや
つて来て、イエスを盗んで行つた。』
と言うのだ。 14もし、このことが総
督の耳にはいつても、私たちがうまく
説得して、あなたがたには心配をかけ
ないようにするから。」 15そこで、

マルコの福音書

1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。**2** 預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を整えさせよう。**3** 荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」 そのとおりに、**4** バプテスマのヨハネが荒野に現われて、罪が赦されるための悔い改めのバプテスマを説いた。**5** そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。**6** ヨハネは、らくだの毛で織った物を着て、腰に皮の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。**7** 彼は宣べ伝えて言った。「私よりもさらに力のある方が、あとからおいでになります。私には、かがんでその方のくつひもを解く値うちもありません。**8** 私はあなたがたに水でバプテスマを授けましたが、その方は、あなたがたに聖霊のバプテスマをお授けになります。」**9** そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。**10** そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。**11** そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」**12** そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。**13** イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。**14** ヨハネが捕え

られて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。**15** 「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」**16** ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。**17** イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」**18** すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。**19** また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。**20** すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。**21** それから、一行はカペナウムにはいった。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂にはいって教えられた。**22** 人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。**23** すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、大声でわめいて言った。**24** 「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」**25** イエスは彼をしかって、「黙れ。この人から出て行け。」と言われた。**26** すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。**27** 人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではな

いか。汚れた霊をさえ戒められる。すわれみ、手を伸ばして、彼にさわつると従うのだ。」 28 こうして、イエ言われた。「わたしの心だ。きよくなスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地のれ。」 42 すると、すぐに、そのらい至る所に広まった。 29 イエスは会堂病が消えて、その人はきよくなった。を出るとすぐに、ヤコブとヨハネを連 43 そこでイエスは、彼をきびしく戒められて、シモンとアンデレの家にはいらて、すぐに彼を立ち去らせた。 44 それた。 30 ところが、シモンのしゅうのとき彼にこう言われた。「気をつけとめが熱病で床に着いていたので、人て、だれにも何も言わないようにしな々はさっそく彼女のことをイエスに知さい。ただ行って、自分を祭司に見せらせた。 31 イエスは、彼女に近寄りなさい。そして、人々へのあかしのた、その手を取って起こされた。するとめに、モーセが命じた物をもって、あ熱がひき、彼女は彼らをもてなした。なたのきよめの供え物をしなさい。」 32 夕方になった。日が沈むと、人々は 45 ところが、彼は出て行って、この出病人や悪霊につかれた者をみな、イエ来事をふれ回り、言い広め始めた。そスのもとに連れて来た。 33 こうしてのためイエスは表立って町の中にはい町中の者が戸口に集まって来た。 34 ることができず、町はずれの寂しい所イエスは、さまざまな病気にかかっにいられた。しかし、人々は、あらゆる多くの人をお直しになり、また多る所からイエスのもとにやって来た。 2 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。 4 群衆のためにイエスに近づくとができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。 5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。 6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。 7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれ

が罪を赦すことができよう。」 8 彼らはこれを聞いて、彼らにこう言われたが心の中でこのように理屈を言っている。「医者を必要とするのは丈夫な者であるのを、イエスはすぐにご自分の霊ではなく、病人です。わたしは正しい人見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたを招くためではなく、罪人を招くためあなたがたは心の中でそんな理屈を言ってきたのです。」 18 ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは断食をしていたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け。』と言う。そして、イエスのもとに来て言った。「ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食するのに、あなたの弟子たちはなぜ断食しないのですか。」 19 イエスは彼らに言われた。「花婿が自分たちといつしよにいる間、花婿につき添う友だちが断食できるでしょうか。花婿といつしよにいる時は、断食できないのです。 20 しかし、花婿が彼らから取り去られる時が来ます。その日には断食します。 21 だれも、新しい布切れで古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんなことをすれば、新しい継ぎ切れは古い着物を引き裂き、破れはもっとひどくなります。 22 また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒も皮袋もしについて来なさい。」と言われた。だめになってしまいます。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるのです。」 23 ある安息日のこと、イエスは麦畑の中を歩いて行かれた。すると、弟子たちが道々穂を摘み始めた。 24 すると、パリサイ人たちがイエスに言った。「ご覧なさい。なぜ彼らは、安息日ののに、してはならないことをするのですか。」 25 イエスは彼らに言われた。「ダビデとその連れの人たちが、食物がなくてひもじかったとき、ダビデは何をしたか、読まなかったのですか。」 17 イエス。 26 アビヤタルが大祭司のころ、ダ

ビデは神の家にはいって、祭司以外の者が食べてはならない供えのパンを、自分も食べ、またともにいた者たちにも与えたではありませんか。」 27 また言われた。「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたのではありません。 28 人の子は安息日にも主です。」

3 イエスはまた会堂にはいられた。そこに片手のなえた人がいた。 2 彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。 3 イエスは手のなえたその人に、「立って、真中に出なさい。」と言われた。 4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行なうことなのか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか。」と言われた。彼らは黙っていた。 5 イエスは怒って彼らを見回し、その心のかたくななのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。 6 そこでパリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちといっしょになって、イエスをどうして葬り去ろうかと相談を始めた。 7 それから、イエスは弟子たちとともに湖のほうに退かれた。すると、ガリラヤから出て来た大ぜいの人々が行った。またユダヤから、 8 エルサレムから、イドマヤから、ヨルダンの川向こうやツロ、シドンあたりから、大ぜいの人々が、イエスの行なっておられることを聞いて、みもとにやって来た。 9 イエスは、大ぜいの人なので、押し寄せて来ないよう、ご自分のため

に小舟を用意しておくように弟子たちに言いつけられた。 10 それは、多くの人をいやされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押しかけて来たからである。 11 また、汚れた霊どもが、イエスを見ると、みもとにひれ伏し、「あなたこそ神の子です。」と叫ぶのであった。 12 イエスは、ご自身のことを知らせないようにと、きびしく彼らを戒められた。 13 さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに来た。 14 そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、 15 悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。 16 こうして、イエスは十二弟子を任命された。そして、シモンにはペテロという名をつけ、 17 ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。 18 次に、アンデレ、ピリポ、パルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党员シモン、 19 イスカリオテ・ユダ。このユダが、イエスを裏切ったのである。 20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。 21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。「気が狂ったのだ。」と言う人たちがいたからである。 22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれている。」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出

しているのだ。」とも言った。23 そこでイエスは彼らをそばに呼んで、たとえによって話された。「サタンがどうしてサタンを追い出せましょう。24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。26 サタンも、もし内輪の争いが起こって分裂していれば、立ち行くことができないで滅びます。27 確かに、強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとでその家を略奪できるのです。28 まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。29 しかし、聖

霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」 (aiōn g165, aiōnios g166) 30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは、汚れた霊につかれています。」と言っていたからである。31 さて、イエスの母と兄弟たちが来て、外に立っていて、人をやり、イエスを呼ばせた。32 大ぜいの人がイエスを囲んですわっていたが、「ご覧なさい。あなたのおかあさんと兄弟たちが、外であなたをたずねています。」と言った。33 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」 34 そして、自分の回りにすわっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。35 神のみこころを行なう

人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

4 イエスはまた湖のほとりで教え始められた。おびただしい数の群衆がみもとに集まった。それでイエスは湖の上の舟に乗り、そこに腰をおろされ、群衆はみな岸への陸地にいた。2 イエスはたとえによって多くのことを教えられた。その教えの中でこう言われた。3 「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。4 蒔いているとき、種が道ばたに落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。5 また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。6 しかし日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。7 また、別の種がいばらの中に落ちた。ところが、いばらが伸びて、それをふさいでしまったので、実を結ばなかった。8 また、別の種が良い地に落ちた。すると芽ばえ、育って、実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」 9 そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」 10 さて、イエスだけになったとき、いつもつき従っている人たちが、十二弟子とともに、これらのたとえのことを尋ねた。11 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには、神の国の奥義が知らされているが、ほかの人たちには、すべてがたとえで言われるのです。12 それは、『彼らは確かに見るには見るがわからず、聞くには聞くが悟らず、悔い改めて赦されることのないため。』です。」 13 そして彼らにこう言われた。「このたとえがわからないのですか。そんなことで、いったいどうしてたとえの理解が

できましょう。14種蒔く人は、みこは寝て、朝は起き、そうこうしている
とばを蒔くのです。15みことばが道うちに、種は芽を出して育ちます。ど
ばたに蒔かれるとは、こういう人たちのようにしてか、人は知りません。28
のことです—みことばを聞くと、す地は人手によらず実をならせるもので
ぐサタンが来て、彼らに蒔かれたみこ、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実
とばを持ち去ってしまうのです。16がはいります。29実が熟すると、人
同じように、岩地に蒔かれるとは、こはすぐにかまを入れます。収穫の時が
ういう人たちのことです—みことば来たからです。」30また言われた。
を聞くと、すぐに喜んで受けるが、17「神の国は、どのようなものと言え
根を張らないで、ただしばらく続くだよいでしょう。何にたとえたらよいで
けです。それで、みことばのために困しょう。31それはからし種のような
難や迫害が起こると、すぐにつまずいものです。地に蒔かれるときには、地
てしまいます。18もう一つの、いばに蒔かれる種の中で、一番小さいので
らの中に種を蒔かれるとは、こういうすが、32それが蒔かれると、生長し
人たちのことです—みことばを聞いてどんな野菜よりも大きくなり、大き
てはいるが、19世の心づかいや、富な枝を張り、その陰に空の鳥が巣を作
の惑わし、その他いろいろな欲望がはれるほどになります。」33イエスは
いり込んで、みことばをふさぐので、このように多くのたとえで、彼らの
実を結びません。(aiōn g165) 20良い地に聞く力に应じて、みことばを話された
蒔かれるとは、みことばを聞いて受け。34たとえによらないで話されるこ
入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結とはなかった。ただ、ご自分の弟子た
ぶ人たちです。」21また言われた。ちにだけは、すべてのことを解き明か
「あかりを持って来るのは柀の下や寝された。35さて、その日のこと、夕
台の下に置くためでしょうか。燭台の方になって、イエスは弟子たちに、「
上に置くためではありませんか。22さあ、向こう岸へ渡ろう。」と言われ
隠れているのは、必ず現われるためた。36そこで弟子たちは、群衆をあ
あり、おおい隠されているのは、明らとに残し、舟に乗っておられるままで
かにされるためです。23聞く耳のあ、イエスをお連れした。他の舟もイエ
る者は聞きなさい。」24また彼らにスについて行った。37すると、激し
言われた。「聞いていることによく注い突風が起こり、舟は波をかぶって水
意しなさい。あなたがたは、人に量っでいっぱいになった。38ところがイ
てあげるその量りで、自分にも量り与エスだけは、とものほうで、枕をして
えられ、さらにその上に増し加えられ眠っておられた。弟子たちはイエスを
ます。25持っている人は、さらに与起こして言った。「先生。私たちがお
えられ、持たない人は、持っているもぼれて死にそうでも、何とも思われな
のまでも取り上げられてしまいます。いのですか。」39イエスは起き上が
」26また言われた。「神の国は、人って、風をしかりつけ、湖に「黙れ、
が地に種を蒔くようなもので、27夜静まれ。」と言われた。すると風はや

み、大なぎになった。40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」41 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

5 こうして彼らは湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。2 イエスが舟から上がられると、すぐに、汚れた霊につかれた人が墓場から出て来て、イエスを迎えた。3 この人は墓場に住みついており、もはやだれも、鎖をもってしても、彼をつないでおくことができなかった。4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまったからで、だれにも彼を押えるだけの力がなかったのである。5 それで彼は、夜昼となく、墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていた。6 彼はイエスを遠くから見つけ、駆け寄って来てイエスを拝し、7 大声で叫んで言った。「いと高き神の子、イエスキュー。いったい私に何をしようというのですか。神の御名によってお願いします。どうか私を苦しめないでください。」8 それは、イエスが、「汚れた霊よ。この人から出て行け。」と言われたからである。9 それで、「おまえの名は何か。」とお尋ねになると、「私の名はレギオンです。私たちは大ぜいですから。」と言った。10 そして、自分たちをこの地方から追い出さないでくださいと懇願した。11 ところで、その山腹に、豚の大群が飼ってあった。12 彼らはイエスに願って言った。「私たちが豚の中に送って、彼らに乗り移らせて

ください。」13 イエスがそれを許されたので、汚れた霊どもは出て行って、豚に乗り移った。すると、二千匹ほどの豚の群れが、険しいがけを駆け降り、湖へなだれ落ちて、湖におぼれてしまった。14 豚を飼っていた者たちは逃げ出して、町や村々でこの事を告げ知らせた。人々は何事が起こったのかと見にやって来た。15 そして、イエスのところに来て、悪霊につかれていた人、すなわちレギオンを宿していた人が、着物を着て、正気に返ってすわっているのを見て、恐ろしくなった。16 見ていた人たちが、悪霊につかれていた人に起こったことや、豚のことを、つぶさに彼らに話して聞かせた。17 すると、彼らはイエスに、この地方から離れてくださるようお願いした。18 それでイエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願った。19 しかし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」20 そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。21 イエスが舟でまた向こう岸へ渡られると、大ぜいの人の群れがみもとに集まった。イエスは岸べにとどまっておられた。22 すると、会堂管理者のひとりでヤイロという者が来て、イエスを見て、その足もとにひれ伏し、23 いっしょうけんめい願ってこう言った。「私の小さい娘が死に

かけています。どうか、おいでくださられるときに、会堂管理者の家から人
って、娘の上に御手を置いてやってくがやって来て言った。「あなたのお嬢
ださい。娘が直って、助かるようにしさんはなくなりました。なぜ、このう
てください。」 24 ところで、イエスは え先生を煩わすことがありましよう。
彼といっしょに出かけられたが、多く」 36 イエスは、その話のことばをそ
の群衆がイエスについて来て、イエス ばで聞いて、会堂管理者に言われた。
に押し迫った。 25 ところで、十二年 「恐れなくて、ただ信じていなさい。
の間長血をわずらっている女がいた。」 37 そして、ペテロとヤコブとヤコ
26 この女は多くの医者からひどいめに ブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分
会わされて、自分の持ち物をみな使い といっしょに行くのをお許しにならな
果たしてしまっただが、何のかいもなく かった。 38 彼らはその会堂管理者の
、かえって悪くなる一方であった。 27 家に着いた。イエスは、人々が、取り
彼女は、イエスのことを耳にして、群 乱し、大声で泣いたり、わめいたりし
衆の中に紛れ込み、うしろから、イエ ているのをご覧になり、 39 中にはい
スの着物にさわった。 28 「お着物に って、彼らにこう言われた。「なぜ取
さわることでもできれば、きっと直る り乱して、泣くのですか。子どもは死
。」と考えていたからである。 29 す んだのではない。眠っているのです。
ると、すぐに、血の源がかれて、ひど 」 40 人々はイエスをあざ笑った。し
い痛みが直ったことを、からだに感じ かし、イエスはみんなを外に出し、た
た。 30 イエスも、すぐに、自分のう だその子どもの父と母、それに自分
ちから力が外に出て行ったことに気づ の供の者たちだけを伴って、子ども
いて、群衆の中を振り向いて、「だれ いる所へは行って行かれた。 41 そし
がわたしの着物にさわったのですか。 て、その子どもの手を取って、「タリ
」と言われた。 31 ところで弟子たちは タ、クミ。」と言われた。(訳して言
イエスに言った。「群衆があなたに押 えば、「少女よ。あなたに言う。起き
し迫っているのをご覧になっていて、 なさい。」という意味である。) 42
それでも『だれがわたしにさわったの すると、少女はすぐさま起き上がり、
か。』とおっしゃるのですか。」 32 歩き始めた。十二歳にもなっていたか
イエスは、それをした人を知ろうとし らである。彼らはたちまち非常な驚き
て、見回しておられた。 33 女は恐れ に包まれた。 43 イエスは、このこと
おののき、自分の身に起こった事を知 をだれにも知らせないようにと、きび
り、イエスの前に出てひれ伏し、イエ しくお命じになり、さらに、少女に食
スに真実を余すところなく打ち明けた 事をさせるように言われた。
。 34 ところで、イエスは彼女にこう言 6 イエスはそこを去って、郷里に行か
われた。「娘よ。あなたの信仰があな れた。弟子たちもついて行った。 2
たを直したのです。安心して帰りなさい。安息日になったとき、会堂で教え始め
い。病気にかからず、すこやかでいな られた。それを聞いた多くの人々は驚
さい。」 35 イエスが、まだ話してお いて言った。「この人は、こういうこ

とをどこから得たのでしょうか。この人れ渡ったので、ヘロデ王の耳にもはいに与えられた知恵や、この人の手で行った。人々は、「パプテスマのヨハネなわれるこのような力あるわざは、いが死人の中からよみがえったのだ。だったい何でしょう。3この人は大工でから、あんな力が、彼のうちに働いてはありますか。マリヤの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではあ人々は、「彼はエリヤだ。」と言ひ、りませんか。その妹たちも、私たちとさらに別の人々は、「昔の預言者の中ここに住んでいるではありませんか。のひとりのような預言者だ。」と言っ」こうして彼らはイエスにつまずいたていた。16しかし、ヘロデはうわさを聞いて、「私が首をはねたあのヨハネが尊敬されないのは、自分の郷里、ネが生き返ったのだ。」と言っていた。17実は、このヘロデが、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、—ヘロデはこの女を妻としていた。—人をやってヨハネを捕え、牢につないだのであった。18これは、ヨハネがヘロデに、「あなたが兄弟の妻を自分のものとしていることは不法です。」と言ひ張ったからである。19ところが、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺したいと思ひながら、果たせないでいた。20それはヘロデが、ヨハネを正しい聖なる人と知って、彼を恐れ保護を加えていたからである。また、ヘロデはヨハネの教えを聞くとき、非常に当惑しながらも、喜んで耳を傾けていた。21ところが、良い機会が訪れた。ヘロデがその誕生日に、重臣や、千人隊長や、ガリラヤのおもだった人などを招いて、祝宴を設けたとき、22ヘロデヤの娘がはいって来て、踊りを踊ったので、ヘロデも列席の人々も喜んだ。そこで王は、この少女に言として、足の裏のちりを払い落とし、「何でもほしい物を言いなさい。与えよう。」と言った。23また、「お行き、悔い改めを説き広め、13悪霊を多く追い出し、大ぜいの病人に油を、与えよう。」と言って、誓った。24そこで少女は出て行って、「何を願ひ

ましようか。」とその母親に言った。スのところに来て言った。「ここはへすると母親は、「パプテスマのヨハネんぴな所で、もう時刻もおそくなりまの首。」と言った。25そこで少女はした。36みんなを解散させてくださいすぐに、大急ぎで王の前に行き、こうい。そして、近くの部落や村に行行って頼んだ。「今すぐに、パプテスマのヨハネの首を盆に載せていただきさせてください。」37すると、彼らとうございます。」26王は非常に心に答えて言われた。「あなたがたで、を痛めたが、自分の誓いもあり、列席あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」そこで弟子たちは言った。「私退けることを好まなかった。27そこたちが出かけて行って、二百デナリもで王は、すぐに護衛兵をやって、ヨハネのパンを買ってあの人たちに食べさせネの首を持って来るように命令した。るように、ということでしょうか。」護衛兵は行って、牢の中でヨハネの首38するとイエスは彼らに言われた。「をはね、28その首を盆に載せて持つパンはどれぐらいありますか。行って来て、少女に渡した。少女は、それ見て来なさい。」彼らは確かめて言っを母親に渡した。29ヨハネの弟子た。「五つです。それと魚が二匹ですちは、このことを聞いたので、やって。」39イエスは、みなを、それぞれ来て、遺体を引き取り、墓に納めたの組にして青草の上にするように、弟子たちにお命じになった。40そこエスのもとに集まって来て、自分たちで人々は、百人、五十人と固まって席のしたこと、教えたことを残らずイエに着いた。41するとイエスは、五つスに報告した。31そこでイエスは彼のパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また。」と言われた。人々の出入りが多く、二匹の魚もみなに分けられた。42て、ゆっくり食事する時間さえなかつたからである。43そ人々はみな、食べて満腹した。43そそこで彼らは、舟して、パン切れを十二のかごにいっぱに乗って、自分たちだけで寂しい所へ取り集め、魚の残りも取り集めた。行った。33ところが、多くの人々が44パンを食べたのは、男が五千人である、彼らの出て行くのを見、それと気づった。45それからすぐに、イエスはいて、方々の町々からそこへ徒歩で駆弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、先つけ、彼らよりも先に着いてしまっに向こう岸のベツサイダに行かせ、ごた。34イエスは、舟から上がられる自分は、その間に群衆を解散させておと、多くの群衆をご覧になった。そしられた。46それから、群衆に別れ、て彼らが羊飼いのいない羊のようであ祈るために、そこを去って山のほうにるのを深くあわれみ、いろいろと教え向かわれた。47夕方になったころ、始められた。35そのうち、もう時刻舟は湖の真中に出ており、イエスだけが陸地におられた。48イエスは、弟

子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり、夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれたが、そのままそばを通り過ぎようとおつもりであった。49しかし、弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思いい、叫び声をあげた。50というのは、みなイエスを見ておびえてしまったからである。しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい」51そして舟に乗り込まれると、風がやんだ。彼らの心中の驚きは非常なものであった。52というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。53彼らは湖を渡って、ゲネサレの地に着き、舟をつないだ。54そして、彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついて、55そのあたりをくまなく走り回り、イエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運んで来た。56イエスは行って行かれると、村でも町でも部落でも、人々は病人たちを広場に寝かせ、そして、せめて、イエスの着物の端にでもさわらせてくださるようにと願った。そして、さわった人々はみな、いやされた。

7 さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。2 イエスの弟子のうちに、汚れた手で、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見て、3 ——パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わない

では食事をせず、4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るように伝えられた、しきたりがたくさんある。— 5

パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねたい。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従って歩まないのですか。汚れた手でパンを食べるのですか。」6 イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言を言っているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。10 モーセは、『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言っています。11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン（すなわち、ささげ物）になりました、たとえば、12 その人には、父や母のために、もはや何もさせないようになっています。13 こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」14 イエスは再び群衆を呼び寄せて

言われた。「みな、わたしの言うこと上げて、小犬に投げてやるのはよくなを聞いて、悟るようになりなさい。15 いことです。」28 しかし、女は答え外側から人にはいって、人を汚すことのできる物は何もありません。人からでも、食卓の下の小犬でも、子どもた出て来るものが、人を汚すものなのでちのパンくずをいただきます。」29 す。16 イエスが群衆を離れて、家にはいられると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。18 イエスは言われた。「あなたがたまで、そんなにわきました。」30 女が家に帰ってみるとからないのでか。外側から人には、その子は床の上に伏せており、悪って来る物は人を汚すことができない霊はもう出ていた。31 それから、イ、ということがわからないのですか。イエスはツロの地方を去り、シドンを通19 そのような物は、人の心には、はいて、もう一度、デカポリス地方のあらないで、腹にはいり、そして、かわたりのガリラヤ湖に来られた。32 人やに出されてしまうのです。」イエス々は、耳が聞こえず、口のきけない人は、このように、すべての食物をきよを連れて来て、彼の上に手を置いてくいとされた。20 また言われた。「人ださるよう願った。33 そこで、イから出るもの、これが、人を汚すのでイエスは、その人だけを群衆の中から連す。21 内側から、すなわち、人の心れ出し、その両耳に指を差し入れ、そこから出て来るものは、悪い考え、不品れからつばきをして、その人の舌にさ行、盗み、殺人、22 姦淫、貪欲、よわられた。34 そして、天を見上げ、こしま、欺き、好色、ねたみ、そしり深く嘆息して、その人に「エパタ。」、高ぶり、愚かさであり、23 これらすなわち、「開け。」と言われた。35 の悪はみな、内側から出て、人を汚すすると彼の耳が開き、舌のもつれもすのです。」24 イエスは、そこを出てぐに解け、はっきりと話せるようになツロの地方へ行かれた。家にはいられたとき、だれにも知られたくないと思にも言ってはならない、と命じられたわられたが、隠れていることはできなが、彼らは口止めされればされるほどが、かえって言いふらした。37 人々は娘のいる女が、イエスのことを聞きつ非常に驚いて言った。「この方のなさけてすぐにやって来て、その足もとにったことは、みなすばらしい。つんぼひれ伏した。26 この女はギリシヤ人を聞こえるようにし、おしを話せるよで、スロ・フェニキヤの生まれであうにしてくださった。」

8 そのころ、また大ぜいの人の群れが集まっていたが、食べる物がなかった。2 「かわいそうに、この群衆はもう三日間もわたしといっしょにい

て、食べる物を持っていないのです。のパン種とヘロデのパン種とに十分気
3 空腹のまま家に帰させたら、途中でをつけなさい。」 16 そこで弟子たち
動けなくなるでしょう。それに遠くかは、パンを持っていないということ
ら来ている人もいます。」 4 弟子たち、互いに議論し始めた。 17 それに気
は答えた。「こんなへんぴな所で、どづいてイエスは言われた。「なぜ、パ
こからパンを手に入れて、この人たちがいないとって議論しているのです
に十分食べさせることができますようか。まだわからないのですか、悟らな
。」 5 すると、イエスは尋ねられた。いのですか。心が堅く閉じているので
「パンはどれぐらいありますか。」弟すか。 18 目がありながら見えないの
子たちは、「七つです。」と答えた。ですか。耳がありながら聞こえないの
6 すると、イエスは群衆に、地面にすですか。あなたがたは、覚えていない
わるようにおっしゃった。それから、のですか。 19 わたしが五千人に五つ
七つのパンを取り、感謝をささげてかパンを裂いて上げたとき、パン切れ
らそれを裂き、人々に配るように弟子を取り集めて、幾つのかごがいっぱい
たちに与えられたので、弟子たちは群になりましたか。」彼らは答えた。「
衆に配った。 7 また、魚が少しばかり十二です。」 20 「四千人に七つのパ
あったので、そのために感謝をささげパンを裂いて上げたときは、パン切れを
てから、これも配るように言われた。取り集めて幾つのかごがいっぱいにな
8 人々は食べて満腹した。そして余りりましたか。」彼らは答えた。「七つ
のパン切れを七つのかごに取り集めたです。」 21 イエスは言われた。「ま
。 9 人々はおよそ四千人であった。そだ悟らないのですか。」 22 彼らはベ
れからイエスは、彼らを解散させられツサイダに着いた。すると人々が、盲
た。 10 そしてすぐに弟子たちとともに人を連れて来て、さわってやってくだ
に舟に乗り、ダルマヌタ地方へ行かれさるようにイエスに願った。 23 イエ
た。 11 パリサイ人たちがやって来てスは盲人の手を取って村の外に連れて
、イエスに議論をしかけ、天からのし行かれた。そしてその両眼につばきを
るしを求めた。イエスをためそうとしつけ、両手を彼に当ててやって、「何
たのである。 12 イエスは、心の中でか見えるか。」と聞かれた。 24 する
深く嘆息して、こう言われた。「なぜと彼は、見えるようになって、「人が
、今の時代はしるしを求めるのか。ま見えます。木のようにですが、歩いてい
ことに、あなたがたに告げます。今のるのが見えます。」と言った。 25 そ
時代には、しるしは絶対に与えられまれから、イエスはもう一度彼の両眼に
せん。」 13 イエスは彼らを離れて、両手を当てられた。そして、彼が見つ
また舟に乗って向こう岸へ行かれた。めていると、すっかり直り、すべての
14 弟子たちは、パンを持って来るのをものがはっきり見えるようになった。
忘れ、舟の中には、パンがただ一つし 26 そこでイエスは、彼を家に帰し、「
かなかった。 15 そのとき、イエスは村には行って行かないように。」と言
彼らに命じて言われた。「パリサイ人われた。 27 それから、イエスは弟子

たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出
かけられた。その途中、イエスは弟子
たちに尋ねて言われた。「人々はわた
しをだれだと言っていますか。」 28
彼らは答えて言った。「バプテスマの
ヨハネだと言っています。エリヤだと
言う人も、また預言者のひとりだと
言う人もいます。」 29 するとイエスは
、彼らに尋ねられた。「では、あなた
がたは、わたしをだれだと言いますか
。」ペテロが答えてイエスに言った。
「あなたは、キリストです。」 30
するとイエスは、自分のことをだれにも
言わないようにと、彼らを戒められた
。 31 それから、人の子は必ず多くの
苦しみを受け、長老、祭司長、律法学
者たちに捨てられ、殺され、三日の後
によみがえらなければならないと、弟
子たちに教え始められた。 32 しかも
、はっきりとこの事がらを話された。
するとペテロは、イエスをわきにお連
れして、いさめ始めた。 33 しかし、
イエスは振り向いて、弟子たちを見な
がら、ペテロをしかって言われた。「
下がれ。サタン。あなたは神のことを
思わないで、人のことを思っている。
」 34 それから、イエスは群衆を弟子
たちと一っしょに呼び寄せて、彼らに
言われた。「だれでもわたしについて
来たいと思うなら、自分を捨て、自分
の十字架を負い、そしてわたしについ
て来なさい。 35 いのちを救おうと思
う者はそれを失い、わたしと福音との
ためにいのちを失う者はそれを救うの
です。 36 人は、たとえ全世界を得て
も、いのちを損じたら、何の得があり
ましょう。 37 自分のいのちを買い戻
すために、人はいったい何を差し出す

ことができるでしょう。 38 このよう
な姦淫と罪の時代にあつて、わたしと
わたしのことばを恥じるような者なら
、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる
御使いたちとともに来るときには、そ
のような人のことを恥じます。」

9 イエスは彼らに言われた。「まこと
に、あなたがたに告げます。ここに
立っている人々の中には、神の国が力
をもって到来しているのを見るまでは
、決して死を味わわない者がいます。
」 2 それから六日たって、イエスは、
ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて
、高い山に導いて行かれた。そして彼
らの目の前で御姿が変わった。 3 その
御衣は、非常に白く光り、世のさらし
屋では、とてもできないほどの白さで
あつた。 4 また、エリヤが、モーセと
ともに現われ、彼らはイエスと語り合
っていた。 5 すると、ペテロが口出し
してイエスに言った。「先生。私たち
がここにいることは、すばらしいこと
です。私たちが、幕屋を三つ造ります
。あなたのために一つ、モーセのため
に一つ、エリヤのために一つ。」 6 実
のところ、ペテロは言うべきことがわ
からなかつたのである。彼らは恐怖に
打たれたのであつた。 7 そのとき雲が
わき起こつてその人々をおおい、雲の
中から、「これは、わたしの愛する子
である。彼の言うことを聞きなさい。
」という声がした。 8 彼らが急いであ
たりを見回すと、自分たちと一っしょ
に居るのはイエスだけで、そこにはも
はやだれも見えなかつた。 9 さて、山
を降りながら、イエスは彼らに、人
の子が死人の中からよみがえるときまで
は、いま見たことをだれにも話しては

ならない、と特に命じられた。10 そ ばならないのでしょうか。いつまであな
こで彼らは、そのおことばを心に堅く たがたにがまんしていなければならな
留め、死人の中からよみがえると言わ いのでしょうか。その子をわたしのとこ
れたことはどういう意味かを論じ合っ ろに連れて来なさい。」 20 そこで、
た。 11 彼らはイエスに尋ねて言った 人々はイエスのところにその子を連れ
。「律法学者たちは、まずエリヤが来 て来た。その子がイエスを見ると、霊
るはずだと言っていますが、それはな はすぐに彼をひきつけさせたので、彼
ぜでしょうか。」 12 イエスは言われ は地面に倒れ、あわを吹きながら、こ
た。「エリヤがまず来て、すべてのこ ろげ回った。 21 イエスはその子の父
とを立て直します。では、人の子につ 親に尋ねられた。「この子がこんな
いて、多くの苦しみを受け、さげすま くなってから、どのくらいになりますか
れると書いてあるのは、どうしてなの 。」父親は言った。「幼い時からです
ですか。 13 しかし、あなたがたに告 。 22 この霊は、彼を滅ぼそうとして
げます。エリヤはもう来たのです。そ 、何度も火の中や水の中に投げ込みま
して人々は、彼について書いてあると した。ただ、もし、おできになるもの
おりに、好き勝手なことを彼にしたの なら、私たちをあわれんで、お助けく
です。」 14 さて、彼らが、弟子たち ださい。」 23 するとイエスは言われ
のところに戻って来て、見ると、その た。「できるものなら、と言うのか。
回りに大ぜいの人の群れがおり、また 信じる者には、どんなことでもできる
、律法学者たちが弟子たちと論じ合っ のです。」 24 するとすぐに、その子
ていた。 15 そしてすぐ、群衆はみな の父は叫んで言った。「信じます。不
、イエスを見ると驚き、走り寄って来 信仰な私をお助けください。」 25 イ
て、あいさつをした。 16 イエスは彼 エスは、群衆が駆けつけるのをご覧に
らに、「あなたがたは弟子たちと何を になると、汚れた霊をしかって言われた
議論しているのですか。」と聞かれた 。「おしとつんぼの霊。わたしが、お
まえに命じる。この子から出て行きな
さい。二度と、はいつてはいけない。
」 26 するとその霊は、叫び声をあげ
、その子を激しくひきつけさせて、出
て行った。するとその子が死人のよう
になったので、多くの人々は、「この
子は死んでしまった。」と言った。 27
しかし、イエスは、彼の手を取って起
こされた。するとその子は立ち上がっ
た。 28 イエスが家にはいられると、
弟子たちがそっとイエスに尋ねた。「
どうしてでしょう。私たちには追い出
せなかったのですが。」 29 すると、

イエスは言われた。「この種のもは、祈りによらなければ、何によっても追い出せるものではありません。」 30 わたさて、一行はそこを去って、ガリラヤを通して行った。イエスは、人に知られたくないと思われた。 31 それは、イエスは弟子たちを教えて、「人の子は人々の手に引き渡され、彼らはこれを殺す。しかし、殺されて、三日の後に、人の子はよみがえる。」と話しておられたからである。 32 しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れていた。 33 カペナウムに着いた。イエスは、家にはいった後、弟子たちに質問された。「道で何を論じ合っていたのですか。」 34 彼らは黙っていた。道々、だれが一番偉いかと論じ合っていたからである。 35 イエスはおすわりになり、十二弟子を呼んで、言われた。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなものしんがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」 36 それから、イエスは、ひとりの子どもを連れて来て、彼らの真中に立たせ、腕に抱き寄せて、彼らに言われた。 37 「だれでも、このような幼子たちのひとり、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」 38 ヨハネがイエスに言った。「先生。先生の名を唱えて悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちの仲間ではないので、やめさせました。」 39 しかし、イエスは言われた。「やめさせることはありません。わたしの名を唱えて、力あるわざを行ないながら、すぐあとで、わたしを悪く言える者はないのです。 40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方です。 41 あなたがたがキリストに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。 42 また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。 43 もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。不具の身でいのちにはいるほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。(Geenna g1067) 45 もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちにはいるほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。(Geenna g1067) 47 もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出しなさい。片目で神の国にはいるほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。(Geenna g1067) 48 そこでは、彼らを食ううじは、尽きることがなく、火は消えることはありません。 49 すべては、火によって、塩けをつけられるのです。 50 塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によつて塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保

ちなさい。そして、互いに和合して暮らしなさい。」

10 イエスは、そこを立って、ユダヤ地方とヨルダンの向こうに行かれた。すると、群衆がまたもみもとに集まって来たので、またいつものように彼らを教えられた。**2**すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。**3**イエスは答えて言われた。「モーセはあなたがたに、何と命じていますか。」**4**彼らは言った。「モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。」**5**イエスは言われた。「モーセは、あなたがたの心がかたくななので、この命令をあなたがたに書いたのです。**6**しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。**7**それゆえ、人はその父と母を離れて、**8**ふたりの者が一心同体になるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。**9**こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」**10**家に戻った弟子たちが、この問題についてイエスに尋ねた。**11**そこで、イエスは彼らに言われた。「だれでも、妻を離別して別の女を妻にするなら、前の妻に対して姦淫を犯すのです。**12**妻も、夫を離別して別の男にとつぐなら、姦淫を犯しているのです。」**13**さて、イエスにさわっていただくこうとして、人々が子どもたちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちは彼らをしかった。**14**イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来

させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。**15**まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はい入ることはできません。」**16**そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。**17**イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいのでしょうか。」 (aiōnios g166) **18** イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。**19** 戒めはあなたもよく知っているはずですが、『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』」**20**すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」**21** イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むこととなります。そのうえで、わたしについて来なさい。」**22**すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。**23** イエスは、見回して、弟子たちに言われた。「裕福な者が神の国にはいることは、何とむずかしいことでしょう。」

24 弟子たちは、イエスのことばに驚い、そして、異邦人に引き渡します。た。しかし、イエスは重ねて、彼らに 34 すると彼らはあざけり、つばきをか答えて言われた。「子たちよ。神の国 け、むち打ち、ついに殺します。しかにはいることは、何とむずかしいことし、人の子は三日の後に、よみがえりでしょう。 25 金持ちが神の国にはいます。」 35 さて、ゼベダイのふたりは、らくだが針の穴を通るほうの子、ヤコブとヨハネが、イエスのとがもっとやさしい。」 26 弟子たちはころに来て言った。「先生。私たちの、ますます驚いて互いに言った。「そ頼み事をかなえていただきたいと思われでは、だれが救われることができるます。」 36 イエスは彼らに言われたのだろうか。」 27 イエスは、彼らを。「何をしてほしいのですか。」 37 じっと見て言われた。「それは人には彼らは言った。「あなたの栄光の座でできないことですが、神は、そうでは、ひとりを先生の右に、ひとりを左にありません。どんなことでも、神にはすわらせてください。」 38 しかし、できるのです。」 28 ペテロがイエス イエスは彼らに言われた。「あなたがにこう言い始めた。「ご覧ください。 たは自分が何を求めているのか、わか私たちは、何もかも捨てて、あなたに っていないのです。あなたがたは、わ従ってまいりました。」 29 イエスは たしの飲もうとする杯を飲み、わたし言われた。「まことに、あなたがたに の受けようとするパプテスマを受ける 告げます。わたしのために、また福音 ことができますか。」 39 彼らは「で のために、家、兄弟、姉妹、母、父、 きます。」と言った。イエスは言われ 子、畑を捨てた者で、 30 その百倍を た。「なるほどあなたがたは、わたし 受けない者はありません。今のこの時 の飲む杯を飲み、わたしの受けるべき 代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑 ンパプテスマを受けはします。 40 しか を迫害の中で受け、後の世では永遠の し、わたしの右と左にすわることは、 いのちを受けます。(aiōn g165, aiōnios g166) わたしが許すことではありません。そ 31 しかし、先の者があとになり、あと れに備えられた人々があるのです。」 の者が先になることが多いのです。」 41 十人の者がこのことを聞くと、ヤコ 32 さて、一行は、エルサレムに上る途 プとヨハネのことで腹を立てた。 42 中であつた。イエスは先頭に立って歩 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、 いて行かれた。弟子たちは驚き、また 言われた。「あなたがたも知っている 、あとについて行く者たちは恐れを覚 とおり、異邦人の支配者と認められた えた。すると、イエスは再び十二弟子 者たちは彼らを支配し、また、偉い人 をそばに呼んで、ご自分に起ころうと たちは彼らの上に権力をふるいます。 していることを、話し始められた。 33 43 しかし、あなたがたの間では、そう 「さあ、これから、わたしたちはエル ではありません。あなたがたの間で偉く 34 サレムに向かって行きます。人の子は なりたいと思う者は、みなに仕える者 、祭司長、律法学者たちに引き渡され になりなさい。 44 あなたがたの間で 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

しもべになりなさい。45 人の子が来。村にはいるとすぐ、まだだれも乗ったのも、仕えられるためではなく、かたことのない、ろばの子が、つないでえって仕えるためであり、また、多くあるのに気がつくでしょう。それをほの人のための、贖いの代価として、自どいて、引いて来なさい。3 もし、『分のいのちを与えるためなのです。』なぜそんなことをするのか。』と言う46 彼らはエリコに来た。イエスが、弟人があつたら、『主がお入用なのです子たちや多くの群衆といっしょにエリ。すぐに、またここに送り返されますコを出られると、テマイの子のバルテ。』と言いなさい。」4 そこで、出かマイという盲人のこじきが、道ばたにけて見ると、表通りにある家の戸口にすわっていた。47 ところが、ナザレ、ろばの子が一匹つないであつたのでのイエスだと聞くと、「ダビデの子の、それをほどいた。5 すると、そこにイエスさま。私をあわれんでください立っていた何人かが言った。「ろばの。」と叫び始めた。48 そこで、彼を子をほどいたりして、どうするのです黙らせようと、大ぜいでたしなめたがか。」6 弟子たちが、イエスの言われ、彼はますます、「ダビデの子よ。私たとおりを話すと、彼らは許してくれをあわれんでください。」と叫び立てた。7 そこで、ろばの子をイエスのとた。49 すると、イエスは立ち止まっころへ引いて行って、自分たちの上着て、「あの人を呼んで来なさい。」とをその上に掛けた。イエスはそれに乗言われた。そこで、彼らはその盲人をられた。8 すると、多くの人が、自分呼び、「心配しないでよい。さあ、立たちの上着を道に敷き、またほかの人ちなさい。あなたをお呼びになっている々は、木の葉を枝ごと野原から切ってくる。」と言った。50 すると、盲人は来て、道に敷いた。9 そして、前を行上着を脱ぎ捨て、すぐ立ち上がって、く者も、あとに従う者も、叫んでいたイエスのところに来た。51 そこでイ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名にエスは、さらにこう言われた。「わたよって来られる方に。10 祝福あれ。しに何をしてほしいのか。」すると、いま来た、われらの父ダビデの国に。盲人は言った。「先生。目が見えるよホサナ。いと高き所に。」11 こうしうになることです。」52 するとイエて、イエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてを見て回った後、時間ももうおそかったので、十二弟子といっしょにベタニヤに出て行かれた。12 翌日、彼らがベタニヤを出たとき、イエスは空腹を覚えられた。13 葉の茂ったいちじくの木が遠くに見えたので、それに何かありはしないかと思に行かれたが、そこに来ると、葉のほかは何もないのに気づかれた。いちじくのなる季節ではなかった

11 さて、彼らがエルサレムの近くに
来て、オリーブ山のふもとのベテ
パゲとベタニヤに近づいたとき、イエ
スはふたりの弟子を使いに出して、2
言われた。「向こうの村へ行きなさい

からである。14 イエスは、その木に祈っているとき、だれかに対して恨み向かって言われた。「今後、いつまでも、だれもおまえの実を食べることのないように。」弟子たちはこれを聞いていた。(aiōn g165) 15 それから、彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮には入り、宮の中で売り買いしている人々を追いつき始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒し、16 また宮を通り抜けて器具を運ぶことをだれにもお許しにならなかった。17 そして、彼らに教えて言われた。「『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。」18 祭司長、律法学者たちは聞いて、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスを恐れたからであった。なぜなら、群衆がみなイエスの教えに驚嘆していたからである。19 夕方になると、イエスとその弟子たちは、いつも都から外に出た。20 朝早く、通りがかりに見ると、いちじくの木が根まで枯れていた。21 ペテロは思い出して、イエスに言った。「先生。ご覧なさい。あなたののろわれたいちじくの木が枯れました。」22 イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。23 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになること信じるなら、そのとおりになります。24 だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。25 また立つて

祈っているとき、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください。26 彼らはまたエルサレムに

来た。イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちが、イエスのところにやって来た。28

そして、イエスに言った。「何の權威によって、これらのことをしておられるのですか。だれが、あなたにこれらのことをする權威を授けたのですか。」29

そこでイエスは彼らに言われた。「一言尋ねますから、それに答えなさい。そうすれば、わたしも、何の權威によってこれらのことをしているかを、話しましょう。30

ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。答えなさい。」31

すると、彼らは、こう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天から、と

言えば、それならなぜ、彼を信じなかつたかと言うだろう。32

だからといって、人から、と言ってよいだろうか。」——彼らは群衆を恐れていたのである。というのは、人々がみな、ヨハネは確かに預言者だと思っていたからである。33

そこで彼らは、イエスに答えて、「わかりません。」と言った。そこでイエスは彼らに、「わたしも、何の權威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。」と言われた。

12

それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。2

季節になると、ぶどう園の収穫の分け
まえを受け取りに、しもべを農夫たち
のところへ遣わした。3ところが、彼
らは、そのしもべをつかまえて袋だ
きにし、何も持たせないで送り帰し
た。4そこで、もう一度別のしもべを遣
わしたが、彼らは、頭をなぐり、はず
かしめた。5また別のしもべを遣わし
たところが、彼らは、これも殺してし
まった。続いて、多くのしもべをやっ
たけれども、彼らは袋だたきにしたり
、殺したりした。6その人には、なお
もうひとりの者がいた。それは愛する
息子であった。彼は、『私の息子なら
、敬ってくれるだろう。』と言って、
最後にその息子を遣わした。7すると
、その農夫たちはこう話し合った。『
かあ、あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そ
うではないか。そうすれば、財産はこ
ちらのものだ。』8そして、彼をつか
まえて殺してしまい、ぶどう園の外に
投げ捨てた。9ところで、ぶどう園の
主人は、どうするでしょう。彼は戻っ
て来て、農夫どもを打ち滅ぼし、ぶど
う園をほかの人たちに与えてしまいま
す。10あなたがたは、次の聖書のこ
とばを読んだことがないのですか。『
家を建てる者たちの見捨てた石、それ
が礎の石になった。11これは主のな
さったことだ。私たちの目には、不
思議なことである。』12彼らは、
このたとえ話が、自分たちをさして語
られたことに気づいたので、イエスを
捕えようとしたが、やはり群衆を恐れ
た。それで、イエスを残して、立ち去
った。13さて、彼らは、イエスに何
か言わせて、わなに陥れようとして、

スのところへ送った。14彼らはイエ
スのところに来て、言った。「先生。
私たちは、あなたが真実な方で、だれ
をもはばからない方だと存じていま
す。あなたは人の顔色を見ず、真理に基
づいて神の道を教えておられるからで
す。ところで、カイザルに税金を納め
ることは律法にかなっていることでし
ょうか、かなっていないことではな
いでしょうか。納めるべきでし
ょうか、納めるべきでないの
でしょうか。」15イエス
は彼らの擬装を見抜いて言われた。「
なぜ、わたしをためすのか。デナリ銀
貨を持って来て見せなさい。」16彼
らは持って来た。そこでイエスは彼ら
に言われた。「これはだれの肖像です
か。だれの銘ですか。」彼らは、「カ
イザルのです。」17する
とイエスは言われた。「カイザルのも
のはカイザルに返しなさい。そして神
のものは神に返しなさい。」彼らはイ
エスに驚嘆した。18また、復活はな
いと主張していたサドカイ人たちが、
イエスのところに来て、質問した。19
「先生。モーセは私たちのためにこう
書いています。『もし、兄が死んで妻
をあとに残し、しかも子がないばあい
には、その弟はその女を妻にして、兄
のための子をもうけなければならない
。』20さて、七人の兄弟がいました
。長男が妻をめとりましたが、子を
残さずに死にました。21そこで次男
がその女を妻にしたところ、やはり子
を残さずに死にました。三男も同様
でした。22こうして、七人とも子を
残さずに死にました。最後に、女も死
にました。23復活の際、彼らがよみが
えるとき、その女はだれの妻なのでし

うか。七人ともその女を妻にしたのでにえや供え物よりも、ずっとすぐれて
すが。」 24 イエスは彼らに言われた います。」 34 イエスは、彼が賢い返
。「そんな思い違いをしているのは、 事をしたのを見て、言われた。「あな
聖書も神の力も知らないからではあり 事は神の国から遠くない。」それから
ませんか。 25 人が死人の中からよみ 後は、だれもイエスにあえて尋ねる者
がえるときには、めとることも、とつ がなかった。 35 イエスが宮で教えて
ぐこともなく、天の御使いたちのよう おられたとき、こう言われた。「律法
です。 26 それに、死人がよみがえる 学者たちは、どうしてキリストをダビ
ことについては、モーセの書にある柴 デの子と言うのですか。 36 ダビデ自
の個所で、神がモーセにどう語られた 身、聖霊によって、こう言っています
か、あなたがたは読んだことがないの 。『主は私の主に言われた。「わた
ですか。『わたしは、アブラハムの神 しがあなたの敵を あなたの足の下に従
、イサクの神、ヤコブの神である。』 わせるまでは、わたしの右の座に着い
とあります。 27 神は死んだ者の神で ていなさい。』 37 ダビデ自身がキ
はありません。生きている者の神です リストを主と呼んでいるのに、どうい
。あなたがたはたいへんな思い違いを うわけでキリストがダビデの子なので
しています。」 28 律法学者がひとり しょう。」大ぜいの群衆は、イエスの
来て、その議論を聞いていたが、イエ 言われることを喜んで聞いていた。 38
スがみごとに答えられたのを知って、 イエスはその教えの中でこう言われた
イエスに尋ねた。「すべての命令の中 。「律法学者たちには気をつけなさい
で、どれが一番たいせつですか。」 29 。彼らは、長い衣をまとって歩き回っ
イエスは答えられた。「一番たいせつ たり、広場であいさつされたりするこ
なのはこれです。『イスラエルよ。聞 とが大好きで、 39 また会堂の上席や
け。われらの神である主は、唯一の主 、宴会の上座が大好きです。 40 また
である。 30 心を尽くし、思いを尽く 、やもめの家を食いつぶし、見えを飾
し、知性を尽くし、力を尽くして、あ るために長い祈りをします。こういう
なたの神である主を愛せよ。』 31 次 人たちは人一倍きびしい罰を受けるの
にはこれです。『あなたの隣人をあな です。」 41 それから、イエスは献金
た自身のように愛せよ。』この二つよ 箱に向かってすわり、人々が献金箱へ
り大事な命令は、ほかにありません。 金を投げ入れる様子を見ておられた。
」 32 そこで、この律法学者は、イエ 多くの金持ちが大金を投げ入れていた
スに言った。「先生。そのとおりです 。 42 そこへひとりの貧しいやもめが
。『主は唯一であって、そのほかに、 来て、レプタ銅貨を二つ投げ入れた。
主はない。』と言われたのは、まさに それは一コドラントに当たる。 43 す
そのとおりです。 33 また『心を尽く ると、イエスは弟子たちを呼び寄せて
し、知恵を尽くし、力を尽くして主を 、こう言われた。「まことに、あなた
愛し、また隣人をあなた自身のように がたに告げます。この貧しいやもめは
愛する。』ことは、どんな全焼のいけ 、献金箱に投げ入れていたどの人より

もたくさん投げ入れました。44 みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の全部を投げ入れたからです。」

13 イエスが、宮から出て行かれるとき、弟子のひとりがイエスに言った。「先生。これはまあ、何とみごとな石でしょう。何とすばらしい建物でしょう。」2すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。石がくずされずに、積み残されたまま残ることは決してありません。」3 イエスがオリーブ山で宮に向かってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに質問した。4 「お話しください。いつ、そういうことが起こるのでしょうか。また、それがみな実現するようなどときには、どんな前兆があるのでしょうか。」5 そこで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。6 わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそそれだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。7 また、戦争のことや戦争のうわさを聞いても、あわててはいけません。それは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。8 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、ききんも起こるはずだからです。これらのことは、産みの苦しみの初めです。9 だが、あなたがたは、気をつけていなさい。人々は、あなたがたを議会に引き渡し、また、あなたがたは会堂で打ち打たれ、また、わたしのゆえに、総督や王たちの前に立たされます。そ

れは彼らに対してあかしをするためです。10 こうして、福音がまずあらゆる民族に宣べ伝えられなければなりません。11 彼らに捕えられ、引き渡されたとき、何と言おうかなどと案じるには及びません。ただ、そのとき自分に示されることを、話しなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。12 また兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを死に至らせます。13 また、わたしの名のために、あなたがたはみなの人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。14 『荒らす憎むべきもの』が、自分の立ってはいらない所に立っているのを見たならば（読者はよく読み取るように。）ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。15 屋上にいる者は降りてはいけません。家から何かを取り出そうとして中にはいつてはいけません。16 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。17 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。18 ただ、このことが冬に起こらないように祈りなさい。19 その日は、神が天地を創造された初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような苦難の日だからです。20 そして、もし主がその日数を少なくしてくださらないなら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、主は、ご自分で選んだ選びの民のために、その日数を少なくしてくださったのです。21 そのとき、あなたがたに、『そら、キリストがここにいる。』とか、『ほら、あそこにいる。』とか言う者があっても、信じては

いけません。22にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民を惑わそうとして、しるしや不思議なことをして見せます。23だから、気をつけていなさい。わたしは、何もかも前もって話しました。24だが、その日には、その苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たず、25星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。26そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。27そのとき、人の子は、御使いたちを送り、地の果てから天の果てまで、四方からその選びの民を集めます。28いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。29そのように、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。30まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。31この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。32ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。33気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。34それはちょうど、旅に立つ人が、出がけに、しもべたちにはそれぞれ仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目をさましているように言いつけるようなものです。35だから、目をさましていなさい。家の主人が

いつ帰って来るか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、わからなからです。36主人が不意に帰って来たとき眠っているのを見られないようにしなさい。37わたしがあなたがたに話していることは、すべての人に言っているのです。目をさましていなさい。」

14 さて、過越の祭りとなしパンの祝いが二日後に迫っていたので、祭司長、律法学者たちは、どうしたらイエスをだまして捕え、殺すことができるだろうか、とけんめいであった。2 彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こるといけないから。」と話していた。3 イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におられたとき、食卓に着いておられると、ひとりの女が、純粋で、非常に高価なナルド油のはいった石膏のつぼを持って来て、そのつぼを割り、イエスの頭に注いだ。4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなにむだにしたのか。5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧乏な人たちに施しができたのに。」そうして、その女をきびしく責めた。6 すると、イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。なぜこの人を困らせるのですか。わたしのために、りっぱなことをしてくれたのです。7 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。それで、あなたがたがしたいときは、いつでも彼らに良いことをしてやれます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。8 この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用

意にと、わたしのからだに、前もってあなたがたに告げます。あなたがたの油を塗ってくれたのです。9 まことにあなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」10 ところで、イスカリオテ・ユダは、十二弟子のひとりであるが、イエスを売ろうとして祭司長たちのところへ出向いて行った。11 彼らはこれを聞いて喜んで、金をやろうと約束した。そこでユダは、どうしたら、うまいぐあいにイエスを引き渡せるかと、ねらっていた。12 種なしパンの祝いの第一日、すなわち、過越の小羊をほふる日に、弟子たちはイエスに言った。「過越の食事をなさるのに、私たちは、どこへ行つて用意をしましょうか。」13 そこで、イエスは、弟子のうちふたりを送つて、こう言われた。「都にはいりなさい。そうすれば、水がめを運んでいる男に会うから、その人について行きなさい。14 そして、その人がはいつて行く家の主人に、『弟子たちといつて過越の食事をする、わたしの客間はどこか、と先生が言っておられる。』と言いなさい。15 するとその主人が自分で、席が整つて用意のできた二階の広間を見せてくれます。そこから、みなでオリーブ山へ出かけて行つた。16 弟子たちが出かけて行って、都にはいると、まさしくイエスの言われたとおりであった。それで、彼らはそこで過越の食事の用意をした。17 夕方になって、イエスは十二弟子といつしよにそこに來られた。18 そして、みなが席に着いて、食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりで、わたしといつしよに、わたしの裏切り者がある。19 弟子たちは悲しくなつて、「まさか私ではないでしょう。」と、かわるがわるイエスに言ひだした。20 イエスは言われた。「この十二人のうちのひとりで、わたしといつしよに、同じ鉢にパンを浸している者です。21 確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間は、ろわれます。そういう人は生まれなかつたほうがよかつたのです。」22 それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、彼らに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」23 また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはいみなその杯から飲んだ。24 イエスは彼らに言われた。「これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです。25 まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、おどろくので造つた物を飲むことはありません。」26 そして、賛美の歌を歌つてから、みなでオリーブ山へ出かけて行つた。27 イエスは、弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまり今にはいると、まさしくイエスの言われたとおりである。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる。』と書いてありますから。28 しかしわたしは、よみがえつてから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつまりいても、私はつま

ずきません。」 30 イエスは彼に言わく眠けがさしていたのである。彼らは
れた。「まことに、あなたに告げます、イエスにどう言ってよいか、わから
。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度なかつた。 41 イエスは三度目に来て
鳴く前に、わたしを知らないとして三度言、彼らに言われた。「まだ眠って休ん
います。」 31 ペテロは力を込めて言
でいるのですか。もう十分です。時が
い張った。「たとい、ごいっしょに死
来ました。見なさい。人の子は罪人た
ななければならぬとしても、私は、
ちの手に渡されます。 42 立ちなさい
あなたを知らないなどと決して申し
。さあ、行くのです。見なさい。わた
ません。」 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51
みなのももそう言った。 32 しを裏切る者が近づきました。」 43
ゲツセマネという所に来て、イエスは
そしてすぐ、イエスがまだ話しておら
弟子たちに言われた。「わたしが祈
れるうちに、十二弟子のひとりのユダ
間、ここにすわっていなさい。」 33
そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをい
いっしょであった。群衆はみな、祭司
っしょに連れて行かれた。イエスは深
長、律法学者、長老たちから差し向け
く恐れもだえ始められた。 34
そして、彼らと前もって次のような
合図を決めておいた。「私が口づけを
切る者は、彼らと前もって次のよう
するものが、その人だ。その人をつか
まれば、イエスは少し進んで行って、
えて、しっかりと引いて行くのだ。」
地面にひれ伏し、もしできることなら
45
それで、彼はやって来るとすぐに、
、この時が自分から過ぎ去るようと
イエスに近寄って、「先生。」と言っ
祈り、 36
またこう言われた。「アバ
て、口づけした。 46
すると人々は、
、父よ。あなたにおできにならないこ
イエスに手をかけて捕えた。 47
その
ときはありません。どうぞ、この杯をわ
とき、イエスのそばに立っていたひと
たしから取りのけてください。しかし
りが、剣を抜いて大祭司のしもべに撃
ちかかり、その耳を切り落とされた。 48
のみこころのままを、なさってください
イエスは彼らに向かって言われた。「
い。」 37
それから、イエスは戻って
まるで強盗にでも向かうように、剣や
来て、彼らの眠っているのを見つけ、
棒を持ってわたしを捕えに来たので
ペテロに言われた。「シモン。眠って
か。 49
わたしは毎日、宮であな
が
いるのか。一時間でも目をさまして
たといっしょにいて、教えていたの
にすることができなかったのか。 38
誘惑
、あなたがたは、わたしを捕えな
かつたのです。しかし、こうなったの
は聖
り続けなさい。心は燃えていても、肉
書のことばが実現するためです。」 50
体は弱いのです。」 39
イエスは再び
すると、みながイエスを見捨てて、逃
離れて行き、前と同じことばで祈られ
けてしまった。 51
ある青年が、素
は
た。 40
そして、また戻って来て、ご
だに亜麻布を一枚まとったままで、
イ
エスについて行ったところ、人々は彼

を捕えようとした。52すると、彼はがたは、神をけがすこのことばを聞いて、
垂麻布を脱ぎ捨てて、はだかで逃げたたのです。どう考えますか。」すると
。53彼らがイエスを大祭司のところ、彼らは全員で、イエスには死刑に当
に連れて行くと、祭司長、長老、律法たる罪があると決めた。65そうして
学者たちがみな、集まって来た。54、ある人々は、イエスにつばきをかけ
ペテロは、遠くからイエスのあとをつ、御顔をおおい、こぶしでなぐりつけ
けながら、大祭司の庭の中まではいっ、「言い当ててみる。」などと言った
て行った。そして、役人たちといっりし始めた。また、役人たちは、イエ
よにすわって、火にあたっていた。55スを受け取って、平手で打った。66
さて、祭司長たちと全議会は、イエスペテロが下の庭にいと、大祭司の女
を死刑にするために、イエスを訴える中のひとりが来て、67ペテロが火に
証拠をつかもうと努めたが、何も見つあたっているのを見かけ、彼をじっと
からなかった。56イエスに対する偽見つめて、言った。「あなたも、あの
証をした者は多かったが、一致しなナザレ人、あのイエスといっしょにい
ったのである。57すると、数人が立ましたね。」68しかし、ペテロはそ
ち上がって、イエスに対する偽証をしれを打ち消して、「何を言っているの
で、次のように言った。58「私たちが、わからない。見当もつかない。」
は、この人が『わたしは手で造られたとて、出口のほうへと出て行った
この神殿をこわして、三日のうちに、。69すると女中は、ペテロを見て、
手で造られない別の神殿を造ってみせそばに立っていた人たちに、また、「
る。』』と言うのを聞きました。」59この人はあの仲間です。」と言いだし
しかし、この点でも証言は一致しなた。70しかし、ペテロは再び打ち消
した。70そこで大祭司が立ち上がりした。しばらくすると、そばに立っ
て、真中に進み出てイエスに尋ねて言っいたその人たちが、またペテロに言っ
た。「何も答えないのですか。この人た。「確かに、あなたはあの仲間だ。
たちが、あなたに不利な証言をしていガリラヤ人なのだから。」71しかし
ますが、これはどうなのですか。」61、彼はのろいをかけて誓い始め、「私
しかし、イエスは黙ったままで、何もは、あなたがたの話しているその人を
お答えにならなかった。大祭司は、さ知りません。」と言った。72すると
らにイエスに尋ねて言った。「あなたすぐに、鶏が、二度目に鳴いた。そこ
は、ほむべき方の子、キリストですか。でペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あ
。」62そこでイエスは言われた。「なたは、わたしを知らないと三度言い
わたしは、それです。人の子が、力あます。」というイエスのおことばを思
る方の右の座に着き、天の雲に乗っい出した。それに思い当たったとき、
来るのを、あなたがたは見るはずす彼は泣き出した。
。」63すると、大祭司は、自分の衣15夜が明けるとすぐに、祭司長たち
を引き裂いて言った。「これでもまだをはじめ、長老、律法学者たちと
、証人が必要でしょうか。64あなた、全議会とは協議をこらしたすえ、イ

イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。2ピラトはイエスに尋ねた。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」兵士たちはイエスを、邸宅、すなわちイエスは答えて言われた。「そのとお総督官邸の中に連れて行き、全部隊をりです。」3そこで、祭司長たちはイエスを呼び集めた。17そしてイエスに紫のイエスをきびしく訴えた。4ピラトはも衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらう一度イエスに尋ねて言った。「何もせ、18それから、「ユダヤ人の王さ答えないので。見なさい。彼らはま。ばんざい。」と叫んであいさつをあんなにまであなたを訴えているのでし始めた。19また、葦の棒でイエスす。」5それでも、イエスは何もお答の頭をたたいたり、つばきをかけたりえにならなかった。それにはピラトも、ひざまずいて拝んだりしていた。20驚いた。6ところでピラトは、その祭彼らはイエスを嘲弄したあげく、そのりには、人々の願う囚人をひとりだけ紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエ赦免するのを例としていた。7たまたスに着せた。それから、イエスを十字ま、バラバという者がいて、暴動のと架につけるために連れ出した。21そき人殺しをした暴徒たちといっしょにこへ、アレキサンデルとルポスとの父牢にはいついていた。8それで、群衆はで、シモンというクレネ人が、いなか進んで行って、いつものようにしてもから出て来て通りかかったので、彼ららうことを、ピラトに要求し始めた。はイエスの十字架を、むりやりに彼に9そこでピラトは、彼らに答えて、「背負わせた。22そして、彼らはイエこのユダヤ人の王を釈放してくれといスをゴルゴタの場所(訳すと、「どくうのか。）」と言った。10ピラトは、ろ」の場所)へ連れて行った。23そ祭司長たちが、ねたみからイエスを引して彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をき渡したことに、気づいていたからでイエスに与えようとしたが、イエスはある。11しかし、祭司長たちは群衆をお飲みにならなかった。24それからを扇動して、むしろバラバを釈放して、彼らは、イエスを十字架につけた。もらいたいと言わせた。12そこで、そして、だれが何を取るかをくじ引きピラトはもう一度答えて、「ではいつで決めたうえで、イエスの着物を分けた。25彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。26イエうのか。）」と言った。13すると彼らの罪状書きには、「ユダヤ人の王。」と書いてあった。27また彼らは、はまたも「十字架につける。」と叫んだ。14だが、ピラトは彼らに、「ありイエスとともにふたりの強盗を、ひとり人がどんな悪い事をしたというのかは右に、ひとりは左に、十字架につ。）」と言った。しかし、彼らはますますけた。28道を行く人々は、頭を振りす激しく「十字架につける。」と叫ながらイエスをののしって言った。「だ。15それで、ピラトは群衆のきげおお、神殿を打ちこわして三日で建てんをとろうと思い、バラバを釈放したる人よ。30十字架から降りて来て、

自分を救ってみろ。」 31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっしょになって、イエスをあざけって言った。「他人は救ったが、自分は救えない。 32 キリスト、イスラエルの王さま。たった今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから。」 また、イエスといっしょに十字架につけられた者たちもイエスをののしった。 33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。 34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ。」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。 35 そばに立っていた幾人かが、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる。」と言った。 36 すると、ひとりが走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエスに飲ませようとしながら言った。「エリヤがやって来て、彼を降ろすかどうか、私たちは見ることにしよう。」 37 それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。 38 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。 39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「この方はまことに神の子であった。」と言った。 40 また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。 41 イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕えていた女たちである。このほかにも、イエスといっし

よにエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。 42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であったので、 43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国を待ち望んでいた人であった。 44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いて、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを聞いた。 45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフに与えた。 46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけておいた。 47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよく見ていた。

16 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。 2 そして、週の初めの日の早朝、日が上ったとき、墓に着いた。 3 彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか。」とみなで話し合っていた。 4 ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにころがしてあった。 5 それで、墓の中にはいったところ、真白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。 6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエス

を捜しているのでしょうか。あの方はよ 「全世界に出て行き、すべての造られ
みがえられました。ここにはおられま た者に、福音を宣べ伝えなさい。 16
せん。ご覧なさい。ここがあの方の納 信じてバプテスマを受ける者は、救わ
められた所です。 7ですから行って、 れます。しかし、信じない者は罪に定
お弟子たちとペテロに、『イエスは、 められます。 17信じる人々には次の
あなたがたより先にガリラヤへ行かれ ようなしるしが伴います。すなわち、
ます。前に言われたとおり、そこでお わたしの名によって悪霊を追い出し、
会えます。』とそう言いなさい。新しいことばを語り、 18蛇をもつか
」 8 女たちは、墓を出て、そこから逃 み、たとい毒を飲んででも決して害を受
げ去った。すっかり震え上がって、気 けず、また、病人に手を置けば病人は
も転倒していたからである。そしてだ いやされます。』 19 主イエスは、彼
れにも何も言わなかった。恐ろしかっ らにこう話されて後、天に上げられて
たからである。 9 (note: The most reliable and 神の右の座に着かれた。 20 そこで、
earliest manuscripts do not include Mark 16:9-20.) [彼らは出て行って、至る所で福音を宣
きで、週の初めの日の朝早くによみが べ伝えた。主は彼らとともに働き、み
えったイエスは、まずマグダラのマリ ことばに伴うしるしをもって、みこと
ヤにご自分を現わされた。イエスは、 ばを確かなものとされた。] 別の追加
以前に、この女から七つの悪霊を追い 文 [さて、女たちは、命じられたすべ
出されたのであった。 10 マリヤはイ でのことを、ペテロとその仲間の人々
エスといっしょにいた人たちが嘆き悲 にさっそく知らせた。その後、イエス
しんで泣いているところに行き、その ご自身、彼らによって、きよく、朽ち
ことを知らせた。 11 ところが、彼ら ることのない、永遠の救いのおとずれ
は、イエスが生きておられ、お姿をよ を、東の果てから、西の果てまで送り
く見た、と聞いても、それを信じよう 届けられた。]
とはしなかった。 12 その後、彼らの
うちのふたりがいなかのほうへ歩いて
いたおりに、イエスは別の姿でご自分
を現わされた。 13 そこでこのふたり
も、残りの人たちのところへ行ってこ
れを知らせたが、彼らはふたりの話も
信じなかった。 14 しかしそれから後
になって、イエスは、その十一人が食
卓に着いているところに現われて、彼
らの不信仰とかたくなな心をお責め
になった。それは、彼らが、よみがえら
れたイエスを見た人たちの言うところ
を信じなかったからである。 15 それ
から、イエスは彼らにこう言われた。

ルカの福音書

1 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、**3** 私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。**4** それによって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわかっていただきたいと存じます。**5** ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。**6** ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行なっていた。**7** エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。**8** さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていたが、**9** 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿にはいつて香をたくことになった。**10** 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。**11** ところが、主の使いが彼に現われて、香壇の右に立った。**12** これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、**13** 御使いは彼に言った。「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。**14** その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もそ

の誕生を喜びます。**15** 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、**16** そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせませす。**17** 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」**18** そこで、ザカリヤは御使いに言った。「私は何によってそれを知ることができましようか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」**19** 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。**20** ですから、見なさい。これらのことが起こる日までには、あなたは、おしになって、ものが言えなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」**21** 人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。**22** やがて彼は出て来たが、人々に話をすることができなかつた。それで、彼は神殿で幻を見たのだとわかつた。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、おしのままであつた。**23** やがて、務めの期間が終わつたので、彼は自分の家に帰つた。**24** その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもつて、こう言った。**25** 「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけられ、今、私をこのようにしてくださいました。」**26** ところで、その六か月目に

、御使いガブリエルが、神から遣わさ 彼女から去って行った。 39 そのころ
れてガリラヤのナザレという町のひと、マリヤは立って、山地にあるユダの
りの処女のところに来た。 27 この処 町に急いだ。 40 そしてザカリヤの家
女は、ダビデの家系のヨセフという人 に行って、エリサベツにあいさつした
のいいなずけで、名をマリヤといった。 41 エリサベツがマリヤのあいさつ
。 28 御使いは、はいつて来ると、マ を聞いたとき、子が胎内でおどり、エ
リヤに言った。「おめでとう、恵まれ リサベツは聖霊に満たされた。 42 そ
た方。主があなたとともにおられます して大声をあげて言った。「あなたは
。」 29 しかし、マリヤはこのことば 女の中の祝福された方。あなたの胎の
に、ひどくとまどって、これはいった 実も祝福されています。 43 私の主の
い何のあいさつかと考え込んだ。 30 母が私のところに來られるとは、何と
すると御使いが言った。「こわがるこ いうことでしょうか。 44 ほんとうに、
とはない。マリヤ。あなたは神から恵 あなたのあいさつの声が私の耳にはい
みを受けたのです。 31 ご覧なさい。 ったとき、私の胎内で子どもが喜んで
あなたはみごもって、男の子を産みま おどりました。 45 主によって語られ
す。名をイエスとつけなさい。 32 そ たことは必ず実現すると信じきった人
の子はすぐれた者となり、いと高き方 は、何と幸いなことでしょうか。」 46
の子と呼ばれます。また、神である主 マリヤは言った。「わがたましいは主
は彼にその父ダビデの王位をお与えに をあがめ、 47 わが霊は、わが救い主
なります。 33 彼はとこしえにヤコブ なる神を喜びたえます。 48 主はこ
の家を治め、その国は終わることがあ の卑しいはしのために目を留めてくださ
りません。」 (aiōn g165) 34 そこで、マリ ったからです。ほんとうに、これから
ヤは御使いに言った。「どうしてその 後、どの時代の人々も、私をしあわせ
ようなことになりえましょう。私はま 者と思うでしょう。 49 力ある方が、
だ男の人を知りませんのに。」 35 御 私に大きなことをしてくださいました
使いは答えて言った。「聖霊があなた 。その御名はきよく、 50 そのあわれ
の上に臨み、いと高き方の力があなた みは、主を恐れかしこむ者に、代々に
をおおいます。それゆえ、生まれる者 わたって及びます。 51 主は、御腕を
は、聖なる者、神の子と呼ばれます。 もって力強いわざをなし、心の思いの
36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサ 高ぶっている者を追い散らし、 52 権
ベツも、あの年になって男の子を宿し 力ある者を王位から引き降ろされます
ています。不妊の女といわれていた人 。低い者を高く引き上げ、 53 飢えた
なのに、今はもう六か月です。 37 神 者を良いもので満ち足らせ、富む者を
にとって不可能なことは一つもありま 何も持たせないで追い返されました。
せん。」 38 マリヤは言った。「ほん 54 主はそのあわれみをいつまでも忘れ
とうに、私は主のはしためです。どう ないで、そのしもベイスラエルをお助
ぞ、あなたのおことばどおりこの身に けになりました。 55 私たちの先祖た
なりますように。」 こうして御使いは ち、アブラハムとその子孫に 語られた

とおりで。」 (aiōn g165) 56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。 57 さて月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。 58 近所の人々や親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをおかけになったと聞いて、彼女とともに喜んだ。 59 さて八日目に、人々は幼子に割礼するためにやって来て、幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、 60 母は答えて、「いいえ、そうではなくて、ヨハネという名にしなければなりません。」と言った。 61 彼らは彼女に、「あなたの親族にはそのような名の人はいません。」と言った。 62 そして、身振りや父親に合図して、幼子に何という名をつけるつもりかと尋ねた。 63 すると、彼は書き板を持って来て、「彼の名はヨハネ。」と書いた。 64 すると、人々はみな驚いた。 65 すると、たちどころに、彼の口が開け、舌は解け、ものが言えるようになって神をほめた。 65 そして、近所の人々はみな恐れた。さらにこれらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体にも語り伝えられて行った。 66 聞いた人々はみな、それを心にとどめて、「いったいこの子は何になるのでしょうか。」と言った。主の御手が彼ともにあったからである。 67 さて父ザカリヤは、聖霊に満たされて、預言して言った。 68 「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。主はその民を顧みて、贖いをなし、 69 救いの角を、われらのために、しもベダビデの家に立てられた。 70 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、主が話してくださったとおりに。」 (aiōn g165) 71

この救いはわれらの敵からの、すべてわれらを憎む者の手からの救いである。 72 主はわれらの父祖たちにあわれみを施し、その聖なる契約を、われらの父アブラハムに誓われた誓いを覚えて、 74 われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。 76 幼子よ。あなたもまた、いと高き方の預言者と呼ばれよう。主の御前に先立って行き、その道を備え、 77 神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。 78 これはわれらの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、日の出がいと高き所からわれらを訪れ、 79 暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」 80 さて、幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に出現する日まで荒野にいた。

2 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。 2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。 3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。 4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、 5 身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。 6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、 7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らがいる場所がなかったからである。 8

さて、この土地に、羊飼いたちが、野エスという名で呼ばれることになった宿で夜番をしながら羊の群れを見守つ。胎内に宿る前に御使いがつけた名で
ていた。 9すると、主の使いが彼らのある。 22さて、モーセの律法による
ところに来て、主の栄光が回りを照ら彼らのきよめの期間が満ちたとき、両
したので、彼らはひどく恐れた。 10親は幼子を主にささげるために、エル
御使いは彼らに言った。「恐れることサレムへ連れて行った。 23――それ
はありません。今、私はこの民全体のは、主の律法に「母の胎を開く男子の
ためのすばらしい喜びを知らせに来た初子は、すべて、主に聖別された者、
のです。 11きょうダビデの町で、あと呼ばれなければならない。」と書い
なたがたのために、救い主がお生まれてあるとおりであった。―― 24また
になりました。この方こそ主キリスト、主の律法に「山ばと一つがい、また
です。 12あなたがたは、布にくるまは、家ばとのひな二羽。」と定められ
って飼葉おけに寝ておられるみどりごたところに従って犠牲をささげるため
を見つけます。これが、あなたがたのであった。 25そのとき、エルサレム
ためのしるしです。」 13すると、たにシメオンという人がいた。この人は
ちまち、その御使いといっしょに、多正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰
くの天の軍勢が現われて、神を賛美しめられることを待ち望んでいた。聖霊
て言った。 14「いと高き所に、栄光が彼の上にとどまっておられた。 26
が、神にあるように。地の上に、平和また、主のキリストを見るまでは、決
が、御心にかなう人々にあるように。して死なないと、聖霊のお告げを受け
」 15御使いたちが彼らを離れて天にいていた。 27彼が御霊に感じて宮には
帰ったとき、羊飼いたちは互いに話しいると、幼子イエスを連れた両親が、
合った。「さあ、ベツレヘムに行つてその子のために律法の慣習を守るため
、主が私たちに知らせてくださったこに、はいつて来た。 28すると、シメ
の出来事を見て来よう。」 16そしてオンは幼子を腕に抱き、神をほめたた
急いで行って、マリヤとヨセフと、飼えて言った。 29「主よ。今こそあな
葉おけに寝ておられるみどりごとを捜たは、あなたのしもべを、みことばど
し当てた。 17それを見たとき、羊飼おり、安らかに去らせてくださいます
いたちは、この幼子について告げられ。 30私の目があなたの御救いを見た
たことを知らせた。 18それを聞いたからです。 31御救いはあなたが万民
人たちはみな、羊飼いの話したことにの前に備えられたもので、 32異邦人
驚いた。 19しかしマリヤは、これらを照らす啓示の光、御民イスラエルの
のことをすべて心に納めて、思いを巡光栄です。」 33父と母は、幼子につ
らしていた。 20羊飼いたちは、見聞いていろいろ語られる事に驚いた。 34
きしたことが、全部御使いの話のとおりまた、シメオンは両親を祝福し、母マ
りだったので、神をあがめ、賛美しなリヤに言った。「ご覧なさい。この子
がら帰って行った。 21八日が満ちては、イスラエルの多くの人が倒れ、ま
幼子に割礼を施す日となり、幼子はイ た、立ち上がるために定められ、また

、反対を受けるしるしとして定められて
います。 35 剣があなたの心さえも
刺し貫くでしょう。それは多くの人の
心の思いが現われるためです。」 36
また、アセル族のパヌエルの娘で女預
言者のアンナという人がいた。この人
は非常に年をとっていた。処女の時代
のあと七年間、夫とともに住み、 37
その後やもめになり、八十四歳になっ
ていた。そして宮を離れず、夜も昼も
、断食と祈りをもって神に仕えていた
。 38 ちょうどこのとき、彼女もそこ
にいて、神に感謝をささげ、そして、
エルサレムの贖いを待ち望んでいるす
べての人々に、この幼子のことを語っ
た。 39 さて、彼らは主の律法による
定めをすべて果たしたので、ガリラヤ
の自分たちの町ナザレに帰った。 40
幼子は成長し、強くなり、知恵に満ち
て行った。神の恵みがその上にあった
。 41 さて、イエスの両親は、過越の
祭りには毎年エルサレムに行った。 42
イエスが十二歳になられたときも、両親
は祭りの慣習に従って都へ上り、 43
祭りの期間を過ぎてから、帰路につ
いたが、少年イエスはエルサレムにと
どまっておられた。両親はそれに気づ
かなかった。 44 イエスが一行の中
にいるものと思って、一日の道のりを行
った。それから、親族や知人の中を捜
し回ったが、 45 見つからなかったの
で、イエスを捜しながら、エルサレム
まで引き返した。 46 そしてようやく
三日の後に、イエスが宮で教師たちの
真中にすわって、話を聞いたり質問し
たりしておられるのを見つけた。 47
聞いていた人々はみな、イエスの知恵
と答えに驚いていた。 48 両親は彼を

見て驚き、母は言った。「まあ、あな
たはなぜ私たちにこんなことをしたの
です。見なさい。父上も私も、心配し
てあなたを捜し回っていたのです。」
49 するとイエスは両親に言われた。「
どうしてわたしをお捜しになったので
すか。わたしが必ず自分の父の家にい
ることを、ご存じなかったのですか。
」 50 しかし両親には、イエスの話さ
れたことばの意味がわからなかった。
51 それからイエスは、いっしょに下っ
て行かれ、ナザレに帰って、両親に仕
えられた。母はこれらのことをみな、
心に留めておいた。 52 イエスはます
ます知恵が進み、背たけも大きくなり
、神と人とに愛された。

3 皇帝テベリオの治世の第十五年、ポ
ンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘ
ロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリ
ポがイツリヤとテラコニテ地方の国主
、ルサニヤがアビレネの国主であり、
2 アンナスとカヤパが大祭司であつた
ころ、神のことばが、荒野でザカリヤ
の子ヨハネに下った。 3 そこでヨハネ
は、ヨルダン川のほとりのすべての地
方に行って、罪が赦されるための悔い
改めに基づくバプテスマを説いた。 4
そのことは預言者イザヤのことばの書
に書いてあるとおりである。「荒野で
叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し
、主の通られる道をまっすぐにせよ。
5 すべての谷はうずめられ、すべての
山と丘とは低くされ、曲がった所はま
っすぐになり、でこぼこ道は平らにな
る。 6 こうして、あらゆる人が、神の
救いを見るようになる。』」 7 それで
、ヨハネは、彼からバプテスマを受け
ようとして出て来た群衆に言った。「

まむしのすえたち。だれが必ず来る御に聖霊と火とのバプテスマをお授けに怒りをのがれるように教えたのか。8 なります。17 また手に箕を持って脱それならそれで、悔い改めにふさわし穀場をことごとくきよめ、麦を倉に納い実を結びなさい。『われわれの先祖め、穀を消えない火で焼き尽くされまはアブラハムだ。』などと心の中で言す。』18 ヨハネは、そのほかにも多い始めてはいけません。よく言うておくのことを教えて、民衆に福音を知らくが、神は、こんな石ころからでも、せた。19 さて国主ヘロデは、その兄アブラハムの子孫を起こすことがおで弟の妻ヘロデヤのことについて、またきになるのです。9 斧もすでに木の根、自分の行なった悪事のすべてを、ヨ元に置かれています。だから、良い実ハネに責められたので、20 ヨハネをを結ばない木は、みな切り倒されて、牢に閉じ込め、すべての悪事にもう一火に投げ込まれます。』10 群衆はヨつこの悪事を加えた。21 さて、民衆ハネに尋ねた。「それでは、私たちはがみなバプテスマを受けていたころ、どうすればよいのでしょうか。』11 彼はイエスもバプテスマをお受けになり、は答えて言った。「下着を二枚持ってそして祈っておられると、天が開け、いる者は、一つも持たない者に分けな22 聖霊が、鳩のような形をして、自分さい。食べ物を持っている者も、そうの上の下られるのをご覧になった。ましなさい。』12 取税人たちも、バプた、天から声がした。「あなたは、わテスマを受けに出て来て、言った。「たしの愛する子、わたしはあなたを喜先生。私たちはどうすればよいのでしよぶ。』23 教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子と思われていた。このヨセフは立ててはいけません。』14 兵士たち、ヘリの子、順次さかのぼって、24 も、彼に尋ねて言った。「私たちはどマタテの子、レビの子、メルキの子、うすればよいのでしょうか。』ヨハネヤンナイの子、ヨセフの子、25 マタは言った。「だれからも、力づくで金テヤの子、アモスの子、ナホムの子、をゆすったり、無実の者を責めたりしエスリの子、ナンガイの子、26 マハてはいけません。自分の給料で満足シテの子、マタテヤの子、シメイの子、なさい。』15 民衆は救い主を待ち望ヨセクの子、ヨダの子、27 ヨハナンんでおり、みな心の中で、ヨハネにつの子、レサの子、ゾロバベルの子、サいて、もしかするとこの方がキリストラテルの子、ネリの子、28 メルキのではあるまいか、と考えていたので、子、アデイの子、コサムの子、エルマ16 ヨハネはみなに答えて言った。「私ダムの子、エルの子、29 ヨシユアのは水であなたがたにバプテスマを授け子、エリエゼルの子、ヨリムの子、マています。しかし、私よりもさらに力タテの子、レビの子、30 シメオンののある方がおいでになります。私など子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナムのは、その方のくつのひもを解く値うち子、エリヤキムの子、31 メレヤの子もありません。その方は、あなたがた、メナの子、マタタの子、ナタンの子

、ダビデの子、**32** エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソンの子、**33** アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレスの子、ユダの子、**34** ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、ナホルの子、**35** セルゲの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、**36** カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、**37** メトセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、**38** エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

4 さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれて荒野におり、**2** 四十日間、悪魔の試みに会われた。その間何も食わず、その時が終わると、空腹を覚えられた。**3** そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになれと言いつけなさい。」**4** イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではない。』と書いてある。」**5** また、悪魔はイエスを連れて行き、またたくまに世界の国々を全部見せて、**6** こう言った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。**7** ですから、もしあなたが私を拜むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」**8** イエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を拜み、主にだけ仕えなさい。』と書いてある。」**9** また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立

たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから飛び降りなさい。**10** 『神は、御使いたちに命じてあなたを守らせる。』とも、**11** 『あなたの足が石に打ち当たることのないように、彼らの手で、あなたをささえさせる。』とも書いてあるからです。」**12** するとイエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とされている。」**13** 誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。**14** イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。**15** イエスは、彼らの会堂で教え、みなの人にあがめられた。**16** それから、イエスのご自分の育ったナザレに行き、いつものとおり安息日に会堂にはいり、朗読しようとして立たれた。**17** すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた。**18** 「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、**19** 主の恵みの年を告げ知らせるために。」**20** イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみな目がイエスに注がれた。**21** イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました。」**22** みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。そしてまた

、「この人は、ヨセフの子ではないか
。」と彼らは言った。 23 イエスは言
われた。「きっとあなたがたは、『医
者よ。自分を直せ。』というたとえを
引いて、カペナウムで行なわれたと聞
いていることを、あなたの郷里のここ
でもしてくれ、と言うでしょう。」 24
また、こう言われた。「まことに、あ
なたがたに告げます。預言者はだれで
も、自分の郷里では歓迎されません。
わたしが言うのは真実のことです。 25
エリヤの時代に、三年六か月の間天が
閉じて、全国に大ききんが起ったと
き、イスラエルにもやもめは多くいた
が、 26 エリヤはだれのところにも遣
わされず、シドンのサレプタにいた
にもめ女にだけ遣わされたのです。 27
また、預言者エリシャのときに、イス
ラエルには、らい病人がたくさんいた
が、そのうちのだれもきよめられな
い。 28 これらのことを聞く
と、会堂にいた人たちはみな、ひどく
怒り、 29 立ち上がってイエスを町の
外に追い出し、町が立っていた丘の
けのふちまで連れて行き、そこから投
げ落とそうとした。 30 しかしイエ
スは、彼らの真中を通り抜けて、行っ
てしまわれた。 31 それからイエスは、
ガリラヤの町カペナウムに下られた。
そして、安息日ごとに、人々を教えら
れた。 32 人々は、その教えに驚いた
。そのことばに権威があったからであ
る。 33 また、会堂に、汚れた悪霊に
つかれた人がいて、大声でわめいた。
34 「ああ、ナザレ人のイエス。いった
い私たちに何をしようというのです。
あなたは私たちを滅ぼしに来たのでし
よう。私はあなたがどなたか知ってい
ます。神の聖者です。」 35 イエスは
彼をしかって、「黙れ。その人から出
て行け。」と言われた。するとその悪
霊は人々の真中で、その人を投げ倒し
て出て行ったが、その人は別に何の害
も受けなかった。 36 人々はみな驚い
て、互いに話し合った。「今のおこと
なはどうだ。権威と力とでお命じにな
ったので、汚れた霊でも出て行ったの
だ。」 37 こうしてイエスのうわさは
、回りの地方の至る所に広まった。 38
イエスは立ち上がって会堂を出て、シ
モンの家にはいられた。すると、シモ
ンのしゅうとめが、ひどい熱で苦しん
でいた。人々は彼女のためにイエスに
もめ女にだけ遣わされたのです。 27
お願いした。 39 イエスがその枕もと
に来て、熱をしっかりとつけられると、熱
がひき、彼女はすぐに立ち上がって彼
らをもてなし始めた。 40 日が暮れる
と、いろいろな病気で弱っている者を
かかえた人たちがみな、その病人をみ
もとに連れて来た。イエスは、ひとり
ひとりに手を置いて、いやされた。 41
また、悪霊どもも、「あなたこそ神の
子です。」と大声で叫びながら、多く
の人から出て行った。イエスは、悪霊
どもをしかって、ものを言うのをお許
しにならなかった。彼らはイエスがキ
リストであることを知っていたからで
ある。 42 朝になって、イエスは寂し
い所に出て行かれた。群衆は、イエス
を捜し回って、みもとに来ると、イエ
スが自分たちから離れて行かないよう
引き止めておこうとした。 43 しかし
イエスは、彼らにこう言われた。「ほ
かの町々にも、どうしても神の国の福
音を宣べ伝えなければなりません。わ

たしは、そのために遣わされたのですから。」 44 そしてユダヤの諸会堂で、福音を告げ知らせておられた。

5 群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき、イエスはゲネサレ湖の岸べに立っておられたが、**2** 岸べに小舟が二そうあるのをご覧になった。漁師たちは、その舟から降りて網を洗っていた。**3** イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。**4** 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。**5** するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」**6** そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。**7** そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱいに出したところ、二そうとも沈みそうになった。**8** これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。**9** それは、大漁のため、彼もいっしょにいたみなのも、ひどく驚いたからである。**10** シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンにこう言われた。「こわがらなくてもよい。これから後、あなたは人間をとるようになるのです。」**11** 彼らは、舟を陸に

着けると、何もかも捨てて、イエスに従った。**12** さて、イエスがある町におられたとき、全身らい病の人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私はきよくしていただけます。」**13** イエスは手を伸ばして、彼にさわって、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに、そのらい病が消えた。**14** イエスは、彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ祭司のところに行って、自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あなたのきよめの供え物をしなさい。」**15** しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まって来た。**16** しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。**17** ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤとのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられた。**18** するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んで来た。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。**19** しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちようど人々の真中のイエスの前に、つり降ろした。**20** 彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。**21** ところが

、律法学者、パリサイ人たちは、理屈招くためではなく、罪人を招いて、悔
を言い始めた。「神をけがすことを言
い改めさせるために来たのです。」 33
うこの人は、いったい何者だ。神のほ
彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟
かに、だれが罪を赦すことができよう
子たちは、よく断食をしており、祈り
。」 22 その理屈を見抜いておられた
もしています。また、パリサイ人の弟
イエスは、彼らに言われた。「なぜ、
子たちも同じなのに、あなたの弟子た
心の中でそんな理屈を言っているのか
ちは食べたり飲んだりしています。」
。 23 『あなたの罪は赦された。』と 34 イエスは彼らに言われた。「花婿が
言うのと、『起きて歩け。』と言うの
いっしょにいるのに、花婿につき添う
と、どちらがやさしいか。 24 人の子
友だちに断食させることが、あなたが
が地上で罪を赦す権威を持っているこ
たにできますか。 35 しかし、やがて
とを、あなたがたに悟らせるために。
その時が来て、花婿が取り去られたら
』と言って、中風の人に、「あなたに
、その日には彼らは断食します。」 36
命じる。起きなさい。寝床をたたんで
イエスはまた一つのたとえを彼らに話
、家に帰りなさい。」と言われた。 25
された。「だれも、新しい着物から布
すると彼は、たちどころに人々の前で
切れを引き裂いて、古い着物に継ぎを
立ち上がり、寝ていた床をたたんで、
するようなことはしません。そんなこ
神をあがめながら自分の家に帰った。
とをすれば、その新しい着物を裂くこ
26 人々はみな、ひどく驚き、神をあが
とになるし、また新しいのを引き裂い
め、恐れに満たされて、「私たちは、
た継ぎ切れも、古い物には合わないの
きょう、驚くべきことを見た。」と言
です。 37 また、だれも新しいぶどう
った。 27 この後、イエスは出て行き
酒を古い皮袋に入れるようなことはし
、収税所にすわっているレビという取
ません。そんなことをすれば、新しい
税人に目を留めて、「わたしについて
ぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒
来なさい。」と言われた。 28 すると
は流れ出て、皮袋もだめになってしま
レビは、何もかも捨て、立ち上がって
います。 38 新しいぶどう酒は新しい
イエスに従った。 29 そこでレビは、
皮袋に入れなければなりません。 39
自分の家でイエスのために大おるまい
また、だれでも古いぶどう酒を飲んで
をしたが、取税人たちや、ほかに大ぜ
から、新しい物を望みはしません。『
いの人たちが食卓に着いていた。 30
古い物は良い。』と言うのです。』
すると、パリサイ人やその派の律法学
6 ある安息日に、イエスが麦畑を通っ
者たちが、イエスの弟子たちに向かっ
ておられたとき、弟子たちは麦の穂
て、つぶやいて言った。「なぜ、あな
を摘んで、手でもみ出しては食べてい
たがたは、取税人や罪人どもといっし
た。 2 すると、あるパリサイ人たちが
よに飲み食いするのですか。」 31 そ
言った。「なぜ、あなたがたは、安息
こで、イエスは答えて言われた。「医
日にしてはならないことをするのです
者を必要とするのは丈夫な者ではなく
か。」 3 イエスは彼らに答えて言われ
、病人です。 32 わたしは正しい人を
た。「あなたがたは、ダビデが連れの

者といっしょにいて、ひもじかったとトマス、アルパヨの子ヤコブと熱心
きにしたことを読まなかったのですか 党員と呼ばれるシモン、16 ヤコブの
。4 ダビデは神の家にはいって、祭司 子ユダとイエスを裏切ったイスカリオ
以外の者はだれも食べてはならない供 テ・ユダである。17 それから、イエ
えのパンを取って、自分も食べたし、 スは、彼らとともに山を下り、平らな
供の者にも与えたではありませんか。 所にお立ちになったが、多くの弟子た
」5そして、彼らに言われた。「人の ちの群れや、ユダヤ全土、エルサレム
子は、安息日の主です。」6別の安息 、さてはツロヤシドンの海べから来た
日に、イエスは会堂にはいって教えて 大ぜいの民衆がそこにいた。18 イエ
おられた。そこに右手のなえた人がい スの教えを聞き、また病気を直してい
た。7そこで律法学者、パリサイ人た だけのために来た人々である。また、
ちは、イエスが安息日に人を直すかど 汚れた霊に悩まされていた人々もい
うか、じっと見ていた。彼を訴える口 やされた。19 群衆のだれもが何とか
実を見つけるためであった。8 イエス してイエスにさわろうとしていた。大
は彼らの考えをよく知っておられた。 きな力がイエスから出て、すべての人
それで、手のなえた人に、「立って、 をいやしたからである。20 イエスは
真中に出なさい。」と言われた。その 目を上げて弟子たちを見つめながら、
人は、起き上がって、そこに立った。 話しだされた。「貧しい者は幸いです
9 イエスは人々に言われた。「あなた 。神の国はあなたがたのものですから
がたに聞きますが、安息日にしてよい 。21 いま飢えている者は幸いです。
のは、善を行なうことなのか、それと あなたがたは、やがて飽くことができ
も悪を行なうことなのか。いのちを救 ますから。いま泣いている者は幸いです
うことなのか、それとも失うことなの す。あなたがたは、いまに笑うよう
か、どうですか。」10そして、みな になりますから。22 人の子のために、
の者を見回してから、その人に、「手 人々があなたがたを憎むとき、また、
を伸ばしなさい。」と言われた。その あなたがたを除名し、はずかしめ、あ
とおりにすると、彼の手は元どおりに なたがたの名をあしざまにけなすとき
なった。11すると彼らはすっかり分 、あなたがたは幸いです。23 その日
別を失ってしまって、イエスをどうし には、喜びなさい。おどりがって喜
てやろうかと話し合った。12このこ びなさい。天ではあなたがたの報いは
ろ、イエスは祈るために山に行き、神 大きいからです。彼らの先祖も、預言
に祈りながら夜を明かされた。13夜 者たちをそのように扱ったのです。24
明けになって、弟子たちを呼び寄せ、 しかし、富んでいるあなたがたは、哀
その中から十二人を選び、彼らに使徒 れな者です。慰めを、すでに受けてい
という名をつけられた。14すなわち るからです。25 いま食べ飽きている
、ペテロという名をいただいたシモン あなたがたは、哀れな者です。やがて
とその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ 、飢えるようになるからです。いま笑
、ピリポとバルトロマイ、15 マタイ っているあなたがたは、哀れな者です

。やがて悲しみ泣くようになるからで父があわれみ深いように、あなたがた
す。 26 みなの人にほめられるときはも、あわれみ深くしなさい。 37 さば
、あなたがたは哀れな者です。彼らのいてはいけません。そうすれば、自分
先祖は、にせ預言者たちをそのようにもさばかれません。人を罪に定めては
扱ったからです。 27 しかし、いま聞いけません。そうすれば、自分も罪に
いているあなたがたに、わたしはこう定められません。赦しなさい。そうす
言います。あなたの敵を愛しなさい。れば、自分も赦されます。 38 与えな
あなたを憎む者に善を行ないなさい。さい。そうすれば、自分も与えられま
28 あなたをのろう者を祝福しなさい。す。人々は量りをよくして、押しつけ
あなたを侮辱する者のために祈りなさい、揺すり入れ、あふれるまでにして、
い。 29 あなたの片方の頬を打つ者にふところに入れてくれるでしょう。あ
は、ほかの頬をも向けなさい。上着をなたがたは、人を量る量りで、自分も
奪い取る者には、下着も拒んではいけ量り返してもらおうからです。」 39 イ
ません。 30 すべて求める者には与えエスはまた一つのたとえを話された。
なさい。奪い取る者からは取り戻して「いったい、盲人に盲人の手引きがで
はいけません。 31 自分にしてもらいきるでしょうか。ふたりとも穴に落ち
たいと望むとおり、人にもそのように込まないでしょうか。 40 弟子は師以
しなさい。 32 自分を愛する者を愛し上には出られません。しかし十分訓練
たからといって、あなたがたに何の良を受けた者はみな、自分の師ぐらいに
いところがあるでしょう。罪人たちではなるのです。 41 あなたは、兄弟の
さえ、自分を愛する者を愛しています目にあるちりが見えながら、どうして
。 33 自分に良いことをしてくれる者自分の目にある梁には気がつかないの
に良いことをしたからといって、あなですか。 42 自分の目にある梁が見え
あなたがたに何の良いところがあるでしょずに、どうして兄弟に、『兄弟。あな
う。罪人たちでさえ、同じことをしてたの目のちりを取らせてください。』
います。 34 返してもらおうつもりで人と言えますか。偽善者たち。まず自分
に貸してやったからといって、あなた目から梁を取りのけなさい。そうし
がたに何の良いところがあるでしょうてこそ、兄弟の目のちりがはっきり見
。貸した分を取り返すつもりなら、罪えて、取りのけることができるのです
人たちでさえ、罪人たちに貸していま。 43 悪い実を結ぶ良い木はないし、
す。 35 ただ、自分の敵を愛しなさい良い実を結ぶ悪い木もありません。 44
。彼らによくしてやり、返してもらう木はどれでも、その実によってわかる
ことを考えずに貸しなさい。そうすれものです。いばらからいちじくは取れ
ば、あなたがたの受ける報いはすばら、野ばらからぶどうを集めることは
しく、あなたがたは、いと高き方の子できません。 45 良い人は、その心の
どもになれます。なぜなら、いと高き良い倉から良い物を出し、悪い人は、
方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ悪い倉から悪い物を出します。なぜな
深いからです。 36 あなたがたの天のら人の口は、心に満ちているものを話

すからです。46 なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行なわないのですか。47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行なう人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。49 聞いても実行しない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一ぺんに倒れてしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」

7 イエスは、耳を傾けている民衆にこれらのことばをみな話し終えられると、カペナウムにはいられた。2 ところが、ある百人隊長に重んじられているひとりのしもべが、病気で死にかけていた。3 百人隊長は、イエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、しもべを助けに来てくださるようお願いした。4 イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。5 この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために会堂を建ててくれた人です。」6 イエスは、彼らと一っしょに行かれた。そして、百人隊長の家からあまり遠くない所に来られたとき、百人隊長は友人たちを使いに出して、イエスに伝えた。「主よ。わざわざおいでくださいませんかように。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはあり

ません。7 ですから、私のほうから伺うことさえ失礼と存じました。ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。8 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとりにいたします。」9 これを聞いて、イエスは驚かれ、ついて来ていた群衆のほうに向いて言われた。「あなたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことがありません。」10 使いに来た人たちが家に帰ってみると、しもべはよくなっていた。11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜいの人の群れが一っしょに行った。12 イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかつぎ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。13 主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい。」と言われた。14 そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい。」と言われた。15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。16 人々は恐れを抱き、「大預言者が私たちのうちに現われた。」とか、「神がその民を顧みてくださった。」などと言って、神をあがめた。17 イエスについてこの話がユダヤ全土と

回りの地方一帯に広まった。18 さて、『見よ、わたしは使いをあなたの前、ヨハネの弟子たちは、これらのことに遣わし、あなたの道を、あなたの前をすべてヨハネに報告した。19 するに備えさせよう。』と書かれていると、ヨハネは、弟子の中からふたりを の人です。28 あなたがたに言います呼び寄せて、主のもとに送り、「おい が、女から生まれた者の中で、ヨハネでになるはずの方は、あなたですか。 よりもすぐれた人は、ひとりもいませそれとも、私たちはほかの方を待つべ ん。しかし、神の国で一番小さい者で べきでしょうか。」と言わせた。20 ふ も、彼よりすぐれています。29 ヨハ たりはみもとに来て言った。「バプテ ネの教えを聞いたすべての民は、取税 スマのヨハネから遣わされてまいりま 人たちさえ、ヨハネのバプテスマを受 した。『おいでになるはずの方は、あ けて、神の正しいことを認めたのです なたですか。それとも私たちはなおほ 。30 これに反して、パリサイ人、律 かの方を守つべきでしょうか。』とヨ 法の専門家たちは、彼からバプテスマ ハネが申しております。」21 ちょう を受けしないで、神の自分たちに対する どそのころ、イエスは、多くの人々を みこころを拒みました。31 では、こ 病氣と苦しみと悪霊からいやし、また の時代の人々は、何にたとえたらよい 多くの盲人が見えるようにされた。22 でしょう。何に似ているでしょう。32 そして、答えてこう言われた。「あな 市場にすわって、互いに呼びかけなが たがたは行って、自分たちの見たり聞 ら、こう言っている子どもたちに似て いたりしたことをヨハネに報告しなさ います。『笛を吹いてやっても、君た い。盲人が見えるようになり、足なえ ちは踊らなかつた。弔いの歌を歌って やっても、泣かなかつた。』33 とい ぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧 うわけは、バプテスマのヨハネが来て しい者に福音が宣べ伝えられています 、パンも食べず、おどろ酒も飲まずに いると、『あれは悪霊につかれています 。』とあなたがたは言うし、34 人の が帰ってから、イエスは群衆に、ヨハ 子が来て、食べもし、飲みもすると、 ネについて話しだされた。「あなたが 『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み たは、何を見に荒野に出て行ったので 、取税人や罪人の仲間だ。』と言うの ですか。風に揺れる葦ですか。25 でな ですか。35 だが、知恵の正しいことは かつたら、何を見に行ったのですか。 、そのすべての子どもたちが証明しま 柔らかい着物を着た人ですか。きらび す。」36 さて、あるパリサイ人が、 いっしょに食事をしたい、とイエスを ている人たちなら宮殿にいます。26 招いたので、そのパリサイ人の家には でなかつたら、何を見に行ったのです かって食卓に着かれた。37 すると、 か。預言者ですか。そのとおり。だが その町にひとりの罪深い女がいて、イ 、わたしが言いましう。預言者より エスがパリサイ人の家で食卓に着いて もすぐれた者をです。27 その人こそ おられることを知り、香油のはいった

石膏のつばを持って来て、**38** 泣きながら、イエスのうしろで御足のそばに立ち、涙で御足をぬらし始め、髪の毛でぬぐい、御足に口づけして、香油を塗った。**39** イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、「この方がもし預言者なら、自分にさわっている女がどれで、どんな女であるか知っておられるはずだ。この女は罪深い者なのだから。」と心ひそかに思っていた。**40** するとイエスは、彼に向かって、「シモン。あなたに言いたいことがあります。」と言われた。シモンは、「先生。お話しください。」と言った。**41** 「ある金貸しから、ふたりの者が金を借りていた。ひとりは五百デナリ、ほかのひとりは五十デナリ借りていた。**42** 彼らは返すことができなかつたので、金貸しはふたりとも赦してやった。では、ふたりのうちどちらがよけいに金貸しを愛するようになるでしょうか。」**43** シモンが、「よけいに赦してもらったほうだと思います。」と答えると、イエスは、「あなたの判断は当たっています。」と言われた。**44** そしてその女のほうを向いて、シモンに言われた。「この女を見ましたか。わたしがこの家にはいつて来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかつたが、この女は、涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれました。**45** あなたは、口づけしてくれなかつたが、この女は、わたしがはいって来たときから足に口づけしてやめませんでした。**46** あなたは、わたしの頭に油を塗ってくれなかつたが、この女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。**47** だから、わたしは言うのです。『この

女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』」**48** そして女に、「あなたの罪は赦されています。」と言われた。**49** すると、いっしょに食卓にいた人たちは、心の中でこう言い始めた。「罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。」**50** しかし、イエスは女に言われた。「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

8 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。**2** また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリヤ、**3** ヘロデの執事ケーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか自分の財産をもって彼らに仕えている大ぜいの女たちもいっしょであった。**4** さて、大ぜいの人々の群れが集まり、また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。**5** 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いているとき、道ばたに落ちた種があつた。すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。**6** また、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかつたので、枯れてしまった。**7** また、別の種はいばらの真中に落ちた。ところが、いばらもいっしょに生え出た、それを押しふさいでしまった。**8** また、別の種は良い地に落ち、生え出た、百倍の実を結んだ。」 イエスは、これらのことを話しながら「聞く

耳のある者は聞きなさい。」と叫ばれ
た。 9 さて、弟子たちは、このたとえ
がどんな意味かをイエスに尋ねた。 10
そこでイエスは言われた。「あなたが
たに、神の国の奥義を知ることが許さ
れているが、ほかの者には、たとえ
話します。彼らが見ていても見えず、
聞いていても悟らないためです。 11
と兄弟たちが、あなたに会おうとして
このたとえの意味はこうです。種は神
のこぼれです。 12 道ばたに落ちると
は、こういう人たちのことです。みこ
とばを聞いたが、あとから悪魔が来て
、彼らが信じて救われることのないよ
うに、その人たちの心から、みことば
を持ち去ってしまうのです。 13 岩の
上に落ちるとは、こういう人たちのこ
とです。聞いたときには喜んでみこと
ばを受け入れるが、根がないので、し
ばらくは信じていても、試練のときに
なると、身を引いてしまうのです。 14
吹きおろして来たので、弟子たちは水
いぼらの中に落ちるとは、こういう人
をかぶって危険になった。 24 そこで
たちのことです。みことばを聞きはし
、彼らは近寄って行ってイエスを起こ
したが、とかくしているうちに、この世
し、「先生、先生。私たちはおぼれて
の心づかいや、富や、快樂によってふ
死にそうです。」と言った。イエスは
さがれて、実が熟するまでにならない
、起き上がって、風と荒波とをしかり
のです。 15 しかし、良い地に落ちる
つけられた。すると風も波も治まり、
とは、こういう人たちのことです。正
なぎになった。 25 イエスは彼らに、
しい、良い心でみことばを聞くと、そ
「あなたがたの信仰はどこにあるので
れをしっかりと守り、よく耐えて、実
す。」と言われた。弟子たちは驚き恐
を結ばせるのです。 16 あかりをつけ
れて互いに言った。「風も水も、お命
てから、それを器で隠したり、寝台の
じになれば従うとは、いったいこの方
下に置いたりする者はありません。燭
はどういう方なのだろう。」 26 こう
台の上に置きます。はいつて来る人々
して彼らは、ガリラヤの向こう側のゲ
に、その光が見えるためです。 17 隠
ラサ人の地方に着いた。 27 イエスが
れているもので、あらわにならぬもの
陸に上がられると、この町の者で悪霊
はなく、秘密にされているもので、知
につかれています。男がイエスに出会っ
たられず、また現われないものはありま
。彼は、長い間着物も着けず、家には
せん。 18 だから、聞き方に注意しな
住まないで、墓場に住んでいた。 28

彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、きたいと願った。そこで、イエスは舟御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いです。どうか私を苦しめないでください。」 29 それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕えたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。 30 イエスが、「何という名か。」とお尋ねになると、「レギオンです。」と答えた。悪霊が大ぜい彼にはいていたからである。 31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。

(Abyssos g12) 32 ちょうど、山のそのあたりに、おびただし豚の群れが飼っていたので、悪霊どもは、その豚にはいることを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。 33 悪霊どもは、その人から出て、豚にはいった。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖にはいり、おぼれ死んだ。 34 飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や村々でこの事を告げ知らせた。 35 人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。 36 目撃者たちは、悪霊につかれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。 37 グラサ地方の民衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れていただき

きたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。 38 そのとき、悪霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言って彼を帰された。 39 「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。 40 さて、イエスが帰られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたからである。 41 するとそこに、ヤイロという人が来た。この人は会堂管理者であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して自分の家に来ていただききたいと願った。 42 彼には十二歳ぐらいのひとり娘がいて、死にかけていたのである。イエスがお出かけになると、群衆がみもとに押し迫って来た。 43 ときに、十二年の間長血をわずらった女がいた。だれにも直してもらえなかったこの女は、 44 イエスのうしろに近寄って、イエスの着物のふさにさわった。すると、たちどころに出血が止まった。 45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか。」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。この大ぜいの人が、ひしめき合って押ししているのです。」と言った。 46 しかし、イエスは、「だれかが、わたしにさわったのです。わたしから力が出て行くのを感じたのだから。」と言われた。 47 女は進み出て、御前にひれ伏し、すべての民の前で、イエスにさわったわけと、たちどころにいやされた次第とを話し

た。48そこで、イエスは彼女に言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行きなさい。」49イエスがまだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人が来て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」50これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は直ります。」51イエスは家にはいられたが、ペテロとヨハネとヤコブ、それにしよにはいることをお許しにならなかった。52人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてもよい。死んだのではない。眠っているのです。」53人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑っていた。54しかしイエスは、娘の手を取って、叫んで言われた。「子どもよ。起きなさい。」55すると、娘の霊が戻って、娘はただちに起き上がった。それでイエスは、娘に食事をさせるように言いつけられた。56両親がひどく驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

9 イエスは、十二人を呼び集めて、彼らに、すべての悪霊を追い出し、病気を直すための、力と権威とをお授けになった。2それから、神の国を宣べ伝え、病気を直すために、彼らを遣わされた。3イエスは、こう言われた。「旅のために何も持って行かないようにしなさい。杖も、袋も、パンも、金も。また下着も、二枚は、いりません。4どんな家にはいっても、そこにと

どまり、そこから次の旅に出かけなさい。5人々があなたがたを受け入れないばあいは、その町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落としなさい。」6十二人は出かけて行って、村から村へと回りながら、至る所で福音を宣べ伝え、病気を直した。7さて、国主ヘロデは、このすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。それは、ある人々が、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と言い、8ほかの人々は、「エリヤが現われたのだ。」と言い、さらに別の人々は、「昔の預言者のひとりかよみがえったのだ。」と語っていたからである。9ヘロデは言った。「ヨハネなら、私が首をはねたのだ。そうしたことがうわさされているこの人は、いったいだれなのだろう。」ヘロデは、使徒たちは帰って来て、自分たちのして来たことを報告した。それからイエスは彼らを連れてベツサイダという町へひそかに退かれた。11ところが、多くの群衆がこれを知って、ついて来た。それで、イエスは喜んで彼らを迎え、神の国のことを話し、また、いやしの必要な人たちをおいやしになった。12そのうち、日も暮れ始めたので、十二人はみもとに来て、「この群衆を解散させてください。そして回りの村や部落にやって、宿をとらせ、何か食べることができるようにならせてください。私たちは、こんな人里離れた所にいるのですから。」と語った。13しかしイエスは、彼らに言われた。「あなたがたで、何か食べる物を上げなさい。」彼らは言った。「私たちに

は五つのパンと二匹の魚のほか何もあ ついて来なさい。 24 自分のいのちを
りません。私たちが出かけに行って、 救おうと思う者は、それを失い、わた
この民全体のために食物を買うのでし のために自分のいのちを失う者は、
ようか。」 14 それは、男だけでおよ それを救うのです。 25 人は、たと
そ五千人もいたからである。しかしイ 全世界を手に入れても、自分自身を失
エスは、弟子たちに言われた。「人々 い、損じたら、何の得がありましょ
を、五十人ぐらいずつ組にしてすわら 。 26 もしだれでも、わたしとわたし
せなさい。」 15 弟子たちは、そのよ のことばとを恥と思うなら、人の子も
うにして、全部をすわらせた。 16 す、自分と父と聖なる御使いと
るとイエスは、五つのパンと二匹の魚 帯びて来るときには、そのような人の
を取り、天を見上げて、それらを祝福 ことを恥とします。 27 しかし、わた
して裂き、群衆に配るように弟子たち しは真実をあなたがたに告げます。こ
に与えられた。 17 人々はみな、食べ くに立っている人々の中には、神の国
て満腹した。そして、余ったパン切れ を見るまでは、決して死を味わわない
を取り集めると、十二かごあった。 18 者たちがいます。」 28 これらの教え
さて、イエスがひとりで祈っておられ があってから八日ほどして、イエスは
たとき、弟子たちがいっしょにいた。 、ペテロとヨハネとヤコブとを連れて
イエスは彼らに尋ねて言われた。「群 、祈るために、山に登られた。 29 祈
衆はわたしのことをだれだと言ってい っておられると、御顔の様子が変わ
ますか。」 19 彼らは、答えて言った 、御衣は白く光り輝いた。 30 しかも
。「バプテスマのヨハネだと言ってい 、ふたりの人がイエスと話し合ってい
ます。ある者はエリヤだと言い、また るではないか。それはモーセとエリヤ
ほかの人々は、昔の預言者のひとりが であって、 31 栄光のうちに現われて
生き返ったのだとも言っています。」 、イエスがエルサレムで遂げようとし
20 イエスは、彼らに言われた。「では ておられるご最期についていっしょに
、あなたがたは、わたしをだれだと言 話していたのである。 32 ペテロと仲
いますか。」 ペテロが答えて言った。 間たちは、眠くてたまらなかつたが、
「神のキリストです。」 21 するとイ はっきり目がさめると、イエスの栄光
エスは、このことをだれにも話さない と、イエスといっしょに立っているふ
ようにと、彼らを戒めて命じられた。 たりの人を見た。 33 それから、ふた
22 そして言われた。「人の子は、必ず りがイエスと別れようとしたとき、ペ
多くの苦しみを受け、長老、祭司長、 テロがイエスに言った。「先生。ここ
律法学者たちに捨てられ、殺され、そ にいることは、すばらしいことです。
して三日目によみがえらねばならない 私たちが三つの幕屋を造ります。あな
のです。」 23 イエスは、みなの方に たのために一つ、モーセのために一つ
言われた。「だれでもわたしについて 、エリヤのために一つ。」 ペテロは何
来たいと思うなら、自分を捨て、日々 を言うべきかを知らなかつたのである
自分の十字架を負い、そしてわたしに 。 34 彼がこう言っているうちに、雲

がわき起こってその人々をおおった。人の子は、いまに人々の手に渡されま
彼らが雲に包まれると、弟子たちは恐す。」 45 しかし、弟子たちは、この
ろしくなった。 35 すると雲の中から みことばが理解できなかつた。このみ
、「これは、わたしの愛する子、わた ことばの意味は、わからないように、
しの選んだ者である。彼の言うことを 彼らから隠されていたのである。また
聞きなさい。」と言う声がした。 36 彼らは、このみことばについてイエス
この声がしたとき、そこに見えたのは に尋ねるのを恐れた。 46 さて、弟子
イエスだけであつた。彼らは沈黙を守 たちの間に、自分たちの中で、だれが
り、その当時は、自分たちの見たこの 一番偉いかという議論が持ち上がった
ことをいっさい、だれにも話さなかつ 。 47 しかしイエスは、彼らの心の中
た。 37 次の日、一行が山から降りて の考えを知っておられて、ひとりの子
来ると、大ぜいの人の群れがイエスを どもの手を取り、自分のそばに立たせ
迎えた。 38 すると、群衆の中から、 、 48 彼らに言われた。「だれでも、
ひとりの人が叫んで言った。「先生。 このような子どもを、わたしの名のゆ
お願いします。息子を見てやってくださ えに受け入れる者は、わたしを受け入
い。ひとり息子です。 39 ご覧ください れる者です。また、わたしを受け入れ
い。霊がこの子に取りつきますと、突 る者は、わたしを遣わされた方を受け
然叫び出すのです。そしてひきつけさ 入れる者です。あなたがたすべての中
せてあわを吹かせ、かき裂いて、なか で一番小さい者が一番偉いのです。」
なか離れようとしません。 40 お弟子 49 ヨハネが答えて言った。「先生。私
たちに、この霊を追い出してください らは、先生の名を唱えて悪霊を追い
ようお願いしたのですが、お弟子たち 出している者を見ましたが、やめさせ
にはできませんでした。」 41 イエス ました。私たちの仲間ではないので、
は答えて言われた。「ああ、不信仰な やめさせたのです。」 50 しかしイエ
、曲がった今の世だ。いつまで、あな スは、彼に言われた。「やめさせるこ
たがたといっしょにいて、あなたがた とはありません。あなたがたに反対し
にがまんしていなければならないので ない者は、あなたがたの味方です。」
しょう。あなたの子をここに連れて来 51 さて、天に上げられる日が近づいて
なさい。」 42 その子が近づいて来る 来たころ、イエスは、エルサレムに行
間にも、悪霊は彼を打ち倒して、激し こうとして御顔をまっすぐ向けられ、
くひきつけさせてしまった。それで、 52 ご自分の前に使いを出された。彼ら
イエスは汚れた霊をしかって、その子 は行って、サマリア人の町にはいり、
をいやし、父親に渡された。 43 人々 イエスのために準備した。 53 しかし
はみな、神のご威光に驚嘆した。イエ 、イエスは御顔をエルサレムに向けて
スのなさったすべてのことに、人々が 進んでおられたので、サマリア人はイ
みな驚いていると、イエスは弟子たち エスを受け入れなかつた。 54 弟子の
にこう言われた。 44 「このことばを ヤコブとヨハネが、これを見て言った
、しっかりと耳に入れておきなさい。 。 「主よ。私たちが天から火を呼び下

して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。』と
言いなさい。6も
55しかし、イエスは振り向いて、
彼らを戒められた。56そして一行は
別の村に行った。57さて、彼らが道
を進んで行くと、ある人がイエスに言
った。「私はあなたのおいでになる所
なら、どこにでもついて行きます。」
58すると、イエスは彼に言われた。「
狐には穴があり、空の鳥には巢がある
が、人の子には枕する所ありません
。」59イエスは別の人に、こう言わ
れた。「わたしについて来なさい。」
しかしその人は言った。「まず行って
、私の父を葬ることを許してください
。」60すると彼に言われた。「死人
たちに彼らの中の死人たちを葬らせな
さい。あなたは出て行って、神の国を
言い広めなさい。」61別の人はこう
言った。「主よ。あなたに従います。
ただその前に、家の者にいとまごいに
帰らせてください。」62するとイエ
スは彼に言われた。「だれでも、手を
鋤につけてから、うしろを見る者は、
神の国にふさわしくありません。」
10その後、主は、別に七十人を定め
、ご自分が行くつもりすべての
町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしに
なった。2そして、彼らに言われた。
「実りは多いが、働き手が少ない。だ
から、収穫の主に、収穫のために働き
手を送ってくださるよう祈りなさい。
3さあ、行きなさい。いいですか。
わたしがあなたがたを遣わすのは、狼
の中に小羊を送り出すようなもので
す。4財布も旅行袋も持たず、くつもは
かずに行きなさい。だれにも、道であ
いさつしてはいけません。5どんな家
にはいっても、まず、『この家に平安
があるように。』と
言いなさい。6も
しそこに平安の子がいたら、あなたが
たの祈った平安は、その人の上にとど
まります。だが、もしいないなら、そ
の平安はあなたがたに返って来ます。
7その家に泊まっていて、出してくれ
る物を飲み食いしなさい。働く者が報
酬を受けるのは、当然だからです。家
から家へと渡り歩いてはいけません。
8どの町にはいっても、あなたがたを
受け入れてくれたら、出される物を食
べなさい。9そして、その町の病人を
直し、彼らに、『神の国が、あなたが
たに近づいた。』と
言いなさい。10
しかし、町にはいっても、人々があな
たがたを受け入れないならば、大通り
に出て、こう言いなさい。11『私た
ちは足についたこの町のちりも、あな
たがたにぬぐい捨てて行きます。しか
たし、神の国が近づいたことは承知して
いなさい。』12あなたがたに言うが
、その日には、その町よりもソドムの
ほうがまだ罰が軽いのです。13ああ
コラジン。ああベツサイダ。おまえた
ちの間に起こった力あるわざが、もし
もツロとシドンでなされたのだったら
、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰
の中にすわって、悔い改めていただろ
う。14しかし、さばきの日には、そ
のツロとシドンのほうが、まだおまえ
たちより罰が軽いのだ。15カペナウ
ム。どうしておまえが天に上げられる
ことがありえよう。ハデスにまで落と
されるのだ。(Hadēs 986) 16あなたがた
に耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け
る者であり、あなたがたを拒む者は、
わたしを拒む者です。わたしを拒む者
は、わたしを遣わされた方を拒む者で

す。」 17 さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」 18 イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。 19 確かに、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けたのです。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。 20 だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」 21 ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。 22 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、子がだれであるかは、父のほかには知る者がありません。また父がだれであるかは、子と、子が父を知らせようと心に定めた人たちのほかは、だれも知る者がありません。」 23 それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたの目を見ていることは幸いです。 24 あなたがたに言いますが、多くの預言者や王たちがあなたがたの目を見たいと願ったのに、見られなかったのです。また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかったのです。」 25

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」 (aiōnios g166) 26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか。」 27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」 28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」 29 しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。」 30 イエスは答えて言われた。「ある人がエルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。 31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。 32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。 33 ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、 34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。 35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』 36 この三人の中でだれが、強

盗に襲われた者の隣人になったと思われた。「あなたがたのうち、だれかに
ますか。」 37 彼は言った。「その人友だちがいるとして、真夜中にその人
にあわれみをかけてやった人です。」 のところに行き、『君。パンを三つ貸
するとイエスは言われた。「あなたも してくれ。 6 友人が旅の途中、私のう
行って同じようにしなさい。」 38 さ ちへ来たのだが、出してやるものがな
て、彼らが旅を続けているうち、イエ いのだ。』と言ったとします。 7 する
スがある村にはいられると、マルタと と、彼は家の中からこう答えます。『
いう女が喜んで家にお迎えした。 39 めんどうをかけないでくれ。もう戸締
彼女にマリヤという妹がいたが、主の まりもしてしまっし、子どもたちも
足もとにすわって、みことばに聞き入 私も寝ている。起きて、何かをやるこ
っていた。 40 ところが、マルタは、 とはできない。』 8 あなたがたに言い
いろいろもてなしのために気が落ち ますが、彼は友だちだからということ
着かず、みもとに来て言った。「主よ で起きて何かを与えることはしないに
。妹が私だけにおもてなしをさせてい しても、あくまで頼み続けるなら、そ
るのを、何ともお思いにならないので のためには起き上がって、必要な物を
しょうか。私の手伝いをするように、 与えるでしょう。 9 わたしは、あなた
妹におっしゃってください。」 41 主 がたに言います。求めなさい。そうす
は答えて言われた。「マルタ、マルタ れば与えられます。捜しなさい。そう
。あなたは、いろいろなことを心配し すれば見つかります。たたきなさい。
て、気を使っています。 42 しかし、 そうすれば開かれます。 10 だれであ
どうしても必要なことはわずかです。 っても、求める者は受け、捜す者は見
いや、一つだけです。マリヤはその良 つけ出し、たたく者には開かれます。
いほうを選んだのです。彼女からそれ 11 あなたがたの中で、子どもが魚を下
を取り上げてはいけません。」 さいと言うときに、魚の代わりに蛇を
与えるような父親が、いったいいるで
しょうか。 12 卵を下さいと言うのに
、だれが、さそりを与えるでしょう。
13 してみると、あなたがたも、悪い者
ではあっても、自分の子どもには良い
物を与えることを知っているのです。
とすれば、なおのこと、天の父が、求
める人たちに、どうして聖霊を下さら
ないことがあります。」 14 イエ
スは悪霊、それもおしの悪霊を追い出
しておられた。悪霊が出て行くと、お
しがものを言い始めたので、群衆は驚
いた。 15 しかし、彼らのうちには、
「悪霊どものかしらペルゼブルによつ

て、悪霊どもを追い出しているのだ。そうすると、その人の後の状態は、初
]と
言う者もいた。16 また、イエスめよりもさらに悪くなります。」27
をためそうとして、彼に天からのしるしを求める者もいた。17
しかし、イエスは、彼らの心を見抜いて言われた。「あ
。「どんな国でも、内輪もめしたら荒れたを産んだ腹、あなたが吸った乳房
れすたれ、家にしても、内輪で争えばは幸いです。」28
しかし、イエスはつおれます。18
サタンも、もし仲間言われた。「いや、幸いなのは、神の
割れしたのだったら、どうしてサタンことばを聞いてそれを守る人たちです
の国が立ち行くことができましよう。」29
さて、群衆の数がふえて来るそれなのにあなたがたは、わたしがベ
ルゼブルによって悪霊どもを追い出し時代は悪い時代です。しるしを求めて
ていると言います。19
もしもわたしがいるが、ヨナのしるしのほかには、し
が、ベルゼブルによって悪霊どもを追
るしは与えられません。30
というのい出しているのなら、あなたがたの仲
間は、だれによって追い出すのですか
るしとなったように、人の子がこの時
。だから、あなたがたの仲間が、あな
代のために、しるしとなるからです。
あなたがたをさばく人となるのです。20
31
南の女王が、さばきのときに、この
しかし、わたしが、神の指によって悪
時代の人々とともに立って、彼らを罪
霊どもを追い出しているのなら、神の
に定めます。なぜなら、彼女はソロモ
国はあなたがたに来ているのです。21
ンの知恵を聞くために地の果てから来
強い人が十分に武装して自分の家を守
たからです。しかし、見なさい。ここ
っているときには、その持ち物は安全
にソロモンよりもまきった者がいるの
です。22
しかし、もっと強い者が襲
です。32
ニネベの人々が、さばきの
って来て彼に打ち勝つと、彼の頼みに
ときに、この時代の人々とともに立っ
していた武器を奪い、分捕り品を分け
て、この人々を罪に定めます。なぜな
ます。23
わたしの味方でない者はわ
ら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い
たしに逆らう者であり、わたしととも
改めたからです。しかし、見なさい。
に集めない者は散らす者です。24
汚
ここにヨナよりもまきった者がいるの
れた霊が人から出て行って、水のない
です。33
だれも、あかりをつけてか
所をさまよいながら、休み場を捜しま
ら、それを穴倉や、柀の下に置く者は
す。一つも見つからないので、『出て
いません。燭台の上に置きます。はい
来た自分の家に帰ろう。』と言いま
す。25
帰って見ると、家は、掃除をし
です。34
からだのあかりは、あなた
てきちんとかたづいていました。26
の目です。目が健全なら、あなたの全
そこで、出かけて行って、自分よりも
身も明るい
が、しかし、目が悪いと、
悪いほかの霊を七つ連れて来て、みな
からだも暗くなります。35
だから、
はいり込んでそこに住みつくのです。あなたのうちの光が、暗やみにならな

いように、気をつけなさい。 36 もし法の専門家たちも忌まわしいものだ。あなたがたは、人々には負いきれない分もないなら、その全身はちょうど荷物を負わせるが、自分は、その荷物かりが輝いて、あなたを照らすときの指一本もさわろうとはしない。 47 ように明るく輝きます。」 37 イエス忌まわしいことだ。あなたがたは、預言者が話し終えられると、ひとりのパリサイ人たちがの墓を建てている。しかし、イ人が、食事をいっしょにしてください、とお願いした。そこでイエスはあなたがたの先祖は預言者たちを殺したのです。 48 そのようにして、あなたには行って、食卓に着かれた。 38 そあなたがたは、自分の先祖のしたことの証のパリサイ人は、イエスが食事の前に人となり、それを認めています。なぜ、まずきよめの洗いをなさないのを見たら、あなたがたの先祖が預言者たちを見て、驚いた。 39 すると、主は言われを殺し、あなたがたがその墓を建ててきた。「なるほど、あなたがたパリサイ人からです。 49 だから、神の知恵イ人は、杯や大皿の外側はきよめるがもこう言いました。『わたしは預言者、その内側は、強奪と邪悪とでいっぱいたちや使徒たちを彼らに遣わすが、彼いのです。 40 愚かな人たち。外側を造ららは、そのうちのある者を殺し、ある者を迫害する。 50 それは、アベルの者ら方を、内側も造られたのではあ血から、祭壇と神の家との間で殺されりませんか。 41 とにかく、うちのもたザカリヤの血に至るまでの、世の初いのを施しに用いなさい。そうすれば、めから流されたすべての預言者の血のいものとなります。 42 だが、忌まわ責任を、この時代が問われるためであしいものだ。パリサイ人。あなたがたる。そうだ。わたしは言う。この時代は、はっか、うん香、あらゆる野菜などはその責任を問われる。』 51 忌まわしいものだ。律法の専門家たち。あなたがたは、知識のかぎを持ち去り、自分もはいらず、はいろうとする人々をがらです。ただし他のほうも、なおごも妨げたのです。」 53 イエスがそこりにしてはいけません。 43 忌まわしを出て行かれると、律法学者、パリサイ人たちのイエスに対する激しい敵対いものだ。パリサイ人。あなたがたはと、いろいろのことについてのしつこと、いろいろのことについてのしつこることが好きです。 44 忌まわしいこい質問攻めとが始まった。 54 彼らとはとだ。あなたがたは、人目につかぬ墓、イエスの口から出ることに、言いがのようで、その上を歩く人々も気がつかかりをつけようと、ひそかに計った。かかない。」 45 すると、ある律法の専門家が、答えて言った。「先生。その 12 そうこうしている間に、おびただしい数の群衆が集まって来て、互のようなことを言われることは、私たちに足を踏み合うほどになった。イエスをも侮辱することです。」 46 しかし、イエスは言われた。「あなたがた律法された。「パリサイ人のパン種に気をつ

けなさい。それは彼らの偽善のことで、あなたがたに教えるように私の兄弟に話してくださいるもので、知られずに済むものはあり。」と言った。13すると彼に言われません。14ですから、あなたがたが暗か、わたしをあなたやみで言ったことが、明るみで聞かれたがたの裁判官や調停者に任命したの、家の中でささやいたことが、屋上でですか。」15そして人々に言われた言い広められます。16そこで、わたし。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かならだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。」17それから、5恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持つておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。(Geenna g1067) 6五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいけません。7それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よ、食べて、飲んで、楽しめ。」18『20りもすぐれた者です。8そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。9しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。10たとえ、人の子をそしることを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。11また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったときはやめなさい。23いのちは食べ物よき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。12鳥のことを言うべきことは、そのときに聖霊が教

れもせず、納屋も倉もありません。けれども、神が彼らを養ってくださいます。あなたがたは、鳥よりも、はるかにすぐれたものです。25 あなたがたのうちのだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。26 こんな小さなことさえできないで、なぜほかのこい。37 帰って来た主人に、目をさまとまで心配するのですか。27 ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして育つのか。紡ぎもせず、織りもしないのです。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。28 しかし、きょうは野にあって、あすは炉に投げ込まれる草をさえ、神はこのように装ってくださるのです。ましてあなたがたには、どんなによくしてくださることでしょう。ああ、信仰の薄い人たち。29 何を食べたらよいか、何を飲む。30 あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのですから。」41 そこで、ペテロがこれらはみな、この世の異邦人たちが切に求めているものです。しかし、あなたがたの父は、それがあなたがたにも必要であることを知っておられます。31 何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、これらの物は、それに加えて与えられます。32 小さな群れよ。恐れることはありません。あなたがたの父である神は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。33 持ち物を売って、施しをなさい。自分のために、古くならない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこに、盗人も近寄らず、しみもいためることがありません。34 あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあ

ることがあります。34 あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあ

あるからです。35 腰に帯を締め、あ

かりをともしない。36 主人が

婚礼から帰って来て戸をたたいたら、

すぐに戸をあけようと、その帰りを待

ち受けている人たちのようでありなき

い。37 帰って来た主人に、目をさま

しているところを見られるしもべたち

は幸いです。まことに、あなたがたに

告げます。主人のほうで帯を締め、そ

のしもべたちを食卓に着かせ、そばに

いて給仕をしてくれます。38 主人が

真夜中に帰っても、夜明けに帰っても

、いつでもそのようであることを見ら

れるなら、そのしもべたちは幸いです

。39 このことを知っておきなさい。

もしも家の主人が、どろぼうの来る時

間を知っていたなら、おめおめと自分

の家に押し入れはしなかったでしょ

う。40 あなたがたも用心していな

さい。人の子は、思いがけない時に来る

のですから。」41 そこで、ペテロが

言った。「主よ。このたとえば私たち

のために話してくださるのですか。そ

れともみなのためなのですか。」42

主は言われた。「では、主人から、そ

の家

の家のしもべたちを任されて、食事時

には彼らに食べ物を与える忠実な思慮

深い管理人とは、いったいだれでしょ

う。43 主人が帰って来たときに、そ

のようにしているのを見られるしもべ

は幸いです。44 わたしは真実をあな

たがたに告げます。主人は彼に自分の

全財産を任せるようになります。45

ところが、もし、そのしもべが、『主

人の帰りはまだだ。』と心の中で思

い、下男や下女を打ちたたき、食べたり

飲んだり、酒に酔ったりし始めると、
46 しもべの主人は、思いがけない日の
思わぬ時間に帰って来ます。そして、
彼をきびしく罰して、不忠実な者ども
と同じめに会わせるに違いありません
。 47 主人の心を知りながら、その思
いどおりに用意もせず、働きもしなか
ったしもべは、ひどくむち打たれます
。 48 しかし、知らずにいたために、
むち打たれるようなことをしたしもべ
は、打たれても、少しで済みます。す
べて、多く与えられた者は多く求めら
れ、多く任された者は多く要求されま
す。 49 わたしが来たのは、地に火を
投げ込むためです。だから、その火が
燃えていたらと、どんなに願っている
ことでしょう。 50 しかし、わたしに
は受けるパテスマがあります。それが
成し遂げられるまでは、どんなに苦
しむことでしょう。 51 あなたがたは
、地に平和を与えるためにわたしが来
たと思っているのですか。そうではあ
りません。あなたがたに言いますが、
むしろ、分裂です。 52 今から、一家
五人は、三人がふたりに、ふたりが三
人に対抗して分かれるようになります
。 53 父は息子に、息子は父に対抗し
、母は娘に、娘は母に対抗し、しゅう
とめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗し
て分かれるようになります。」 54 群
衆にもこう言われた。「あなたがたは
、西に雲が起るのを見るとすぐに、
『にわか雨が来るぞ。』と言い、事実
そのとおりになります。 55 また南風
が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』
と言い、事実そのとおりになります。
56 偽善者たち。あなたがたは地や空の
現象を見分けることを知りながら、ど

うして今のこの時代を見分けることが
できないのですか。 57 また、なぜ自
分から進んで、何が正しいかを判断し
ないのですか。 58 あなたを告訴する
者といっしょに役人の前に行くときは
、途中でも、熱心に彼と和解するよう
努めなさい。そうでないと、その人は
あなたを裁判官のもとにひっぱって行
きます。裁判官は執行人に引き渡し、
執行人は牢に投げ込んでしまいます。
59 あなたに言います。最後のレプタ
を支払うまでは、そこから決して出ら
れないのです。」

13 ちょうどそのとき、ある人たちが
やって来て、イエスに報告した。
ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラ
ヤ人たちのささげるいけにえに混ぜた
というのである。 2 イエスは彼らに答
えて言われた。「そのガリラヤ人たち
がそのような災難を受けたから、ほか
のどのガリラヤ人よりも罪深い人たち
だったとでも思うのですか。 3 そうで
はない。わたしはあなたがたに言いま
す。あなたがたも悔い改めないなら、
みな同じように滅びます。 4 また、シ
ロアムの塔が倒れ落ちて死んだあの十
八人は、エルサレムに住んでいるだれ
よりも罪深い人たちだったとでも思う
のですか。 5 そうではない。わたしは
あなたがたに言います。あなたがたも
悔い改めないなら、みな同じように滅
びます。」 6 イエスはこのようなたと
えを話された。「ある人が、ぶどう園
にいちじくの木を植えておいた。実を
取りに来たが、何も見つからなかった
。 7 そこで、ぶどう園の番人に言った
。『見なさい。三年もの間、やって来
ては、このいちじくの実のなるのを待

っているのに、なっていたためしがなです。それを取って庭に蒔いたところ
い。これを切り倒してしまいなさい。、生長して木になり、空の鳥が枝に巢
何のために土地をふさいでいるのですを作りました。」 20 またこう言われ
か。』 8 番人は答えて言った。『ご主人。神の国を何に比べましょう。 21
人。どうか、ことし一年そのままにしパン種のようなものです。女がパン種
てやってください。木の回りを掘ってを取って、三サトンの粉に混ぜたとこ
、肥やしをやってみますから。 9 もしろ、全体がふくれました。』 22 イエ
それで来年、実を結べばよし、それでスは、町々村々を次々に教えながら通
もだめなら、切り倒してください。』り、エルサレムへの旅を続けられた。
』 10 イエスは安息日に、ある会堂で 23 すると、「主よ。救われる者は少な
教えておられた。 11 すると、そこにいのですか。」と言う人があった。イ
十八年も病の霊につかれ、腰が曲がっエスは、人々に言われた。 24 「努力
て、全然伸ばすことのできない女がいて狭い門からはいりなさい。なぜな
た。 12 イエスは、その女を見て、呼ら、あなたがたに言いますが、はいろ
び寄せ、「あなたの病気はいやされました。」と言って、 13 手を置かれるうとしても、はいれなくなる人が多い
のですから。 25 家の主人が、立ち上
と、女はたちどころに腰が伸びて、神がって、戸をしめてしまってからでは
をあがめた。 14 すると、それを見た、外に立って、『ご主人さま。あけて
会堂管理者は、イエスが安息日にいやください。』と言って、戸をいくらた
されたのを憤って、群衆に言った。「たいても、もう主人は、『あなたがた
働いてよい日は六日です。その間に来がどこの者か、私は知らない。』と答
て直してもらおうがよい。安息日には、えるでしょう。 26 すると、あなたが
いけないのです。」 15 しかし、主はたは、こう言い始めるでしょう。『私
彼に答えて言われた。「偽善者たち。たちは、ごいっしょに、食べたり飲ん
あなたがたは、安息日に、牛やろばをだりいたしましたし、私たちの大通り
小屋からほどき、水を飲ませに連れてで教えていただきました。』 27 だが
行くではありませんか。 16 この女は、主人はこう言うでしょう。『私はあ
アブラハムの娘なのです。それを十八なたがたがどこの者だか知りません。
年もの間サタンが縛っていたのです。不正を行なう者たち。みな出て行きな
安息日だからといってこの束縛を解いさい。』 28 神の国にアブラハムやイ
てやってはいけないのですか。』 17 サクやヤコブや、すべての預言者たち
こう話されると、反対していた者たちがはいつているのに、あなたがたは外
はみな、恥じ入り、群衆はみな、イエに投げ出されることになったとき、そ
スのなきすべての輝かしいみわざここで泣き叫んだり、歯ぎしりしたりす
を喜んだ。 18 そこで、イエスはこうるのです。 29 人々は、東からも西か
言われた。「神の国は、何に似ているらも、また南からも北からも来て、神
でしょう。何に比べたらよいでしょうの国で食卓に着きます。 30 いいです
。 19 それは、からし種のようなものか、今しんがりの者があとで先頭にな

り、いま先頭の者がしんがりになるの
です。」 31 ちょうどそのとき、何人
かのパリサイ人が近寄って来て、イエ
スに言った。「ここから出てほかの所
へ行きなさい。ヘロデがあなたを殺そ
うと思っています。」 32 イエスは言
われた。「行って、あの狐にこう言
なさい。『よく見なさい。わたしは、
選きようと、あすとは、悪霊どもを追い
出し、病人を直し、三日目に全うされ
ます。 33 だが、わたしは、きょうも
あすも次の日も進んで行かなければな
りません。なぜなら、預言者がエルサ
レム以外の所で死ぬことはありえない
からです。』 34 ああ、エルサレム、
エルサレム。預言者たちを殺し、自分
に遣わされた人たちを石で打つ者、わ
たしは、めんどりがひなを翼の下にか
ばうように、あなたの子らを幾たび集
めようとしたことか。それなのに、あ
なたがたはそれを好まなかった。 35
見なさい。あなたがたの家は荒れ果て
たままに残される。わたしはあなたが
たに言います。『祝福あれ。主の御名
によって来られる方に。』とあなたが
たの言うときが来るまでは、あなたが
たは決してわたしを見ることができま
せん。」

14 ある安息日に、食事をしようとし
て、パリサイ派のある指導者の家
にはいられたとき、みんながじっとイ
エスを見つめていた。 2 そこには、イ
エスの真正面に、水腫をわずらってい
る人がいた。 3 イエスは、律法の専門
家、パリサイ人たちに、「安息日に病
気を直すことは正しいことですか、そ
れともよくないことですか。」と言わ
れた。 4 しかし、彼らは黙っていた。

それで、イエスはその人を抱いて直し
てやり、そしてお帰しになった。 5 そ
れから、彼らに言われた。「自分の息
子や牛が井戸に落ちたのに、安息日だ
からといって、すぐに引き上げてやら
ない者があなたがたのうちにいるでし
ょうか。」 6 彼らは答えることができ
なかった。 7 招かれた人々が上座を選
んでいる様子に気づいておられたイエ
スは、彼らにたとえを話された。 8 「
婚礼の披露宴に招かれたときには、上
座にすわってはいけません。あなたよ
り身分の高い人が、招かれているかも
しれないし、 9 あなたやその人を招い
た人が来て、『この人に席を譲って
ください。』とあなたに言うなら、その
ときあなたは恥をかいて、末席に着か
なければならぬでしょう。 10 招か
れるようなことがあって、行ったなら
末席に着きなさい。そうしたら、あ
なたを招いた人が来て、『どうぞもっ
と上席にお進みください。』と言うで
しょう。そのときは、満座の中で面目
を施すことになります。 11 なぜなら
、だれでも自分を高くする者は低くさ
れ、自分を低くする者は高くされるか
らです。」 12 また、イエスは、自分
を招いてくれた人にも、こう話された
。「昼食や夕食のふるまいをするなら
、友人、兄弟、親族、近所の金持ちな
どを呼んではいけません。でない
と、今度は彼らがあなたを招いて、お返し
することになるからです。 13 祝宴を
催すばあいには、むしろ、貧しい人、
不具の人、足なえ、盲人たちを招きな
さい。 14 その人たちはお返しができ
ないので、あなたは幸いです。義人の
復活のときお返しを受けるからです。

」 15 イエスといっしょに食卓に着いた。 26 「わたしのもとに来て、
 ていた客のひとりはこのを聞いて、イ 自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、
 エスに、「神の国で食事する人は、何 そのうえ自分のいのちまでも憎まない
 と幸いなことでしょう。」と言った。 者は、わたしの弟子になることができ
 16 するとイエスはこう言われた。「あ ません。 27 自分の十字架を負ってわ
 ける人が盛大な宴会を催し、大ぜいの人 たしについて来ない者は、わたしの弟
 を招いた。 17 宴会の時刻になったの 子になることはできません。 28 塔を
 でしもべをやり、招いておいた人々に 築こうとするとき、まずすわって、完
 、『さあ、おいでください。もうすつ 成に十分な金があるかどうか、その費
 かり、用意ができましたから。』と言 用を計算しない者が、あなたがたのう
 わせた。 18 ところが、みな同じよう ちにひとりでもあるでしょうか。 29
 に断わり始めた。最初の人はいこう言っ 基礎を築いただけで完成できなかつた
 た。『畑を買ったので、どうしても見 ら、見ていた人はみな彼をあざ笑って
 に出かけなければなりません。すみま 、 30 『この人は、建て始めはしたも
 せんが、お断わりさせていただきます のの、完成できなかつた。』と言うで
 。』 19 もうひとりはいこう言った。『 しょう。 31 また、どんな王でも、ほ
 五くびきの牛を買ったので、それをた か王と戦いを交えようとするときは
 めしに行くところです。すみませんが 、二万人を引き連れて向かって来る敵
 、お断わりさせていただきます。』 20 を、一万人で迎え撃つことができるか
 また、別の人はこう言った。『結婚し どうかを、まずすわって、考えずにい
 たので、行くことができません。』 21 られましょうか。 32 もし見込みがな
 しもべは帰って、このことを主人に報 ければ、敵はまだ遠くに離れている間
 告した。すると、おこった主人は、そ に、使者を送って講和を求めるとしよ
 のしもべに言った。『急いで町の大通 う。 33 そういうわけで、あなたがた
 りや路地に出て行って、貧しい人や、 はだれでも、自分の財産全部を捨てな
 不具の人や、盲人や、足なえをここに いでは、わたしの弟子になることはで
 連れて来なさい。』 22 しもべは言っ きません。 34 ですから、塩は良いも
 た。『ご主人さま。仰せのとおりにい のですが、もしその塩が塩けをなくし
 たしました。でも、まだ席があります たら、何によってそれに味をつけるの
 。』 23 主人は言った。『街道や垣根 でしょうか。 35 土地にも肥やしにも
 のところに出かけて行って、この家が 役立たず、外に投げ捨てられてしま
 いっぱいになるように、無理にでも人 ます。聞く耳のある人は聞きなさい。
 々を連れて来なさい。 24 言うておく 」
 が、あの招待されていた人たちの中で 15 さて、取税人、罪人たちがみな、
 、私の食事を味わう者は、ひとりもい イエスの話を聞こうとして、みも
 ないのです。』」 25 さて、大ぜいの とに近寄って来た。 2 すると、パリサ
 群衆が、イエスといっしょに歩いてい イ人、律法学者たちは、つぶやいてこ
 たが、イエスは彼らのほうに向いて言 う言った。「この人は、罪人たちを受

け入れて、食事までいっしょにする。困り始めた。15それで、その国のあ
」3そこでイエスは、彼らにこのようる人のもとに身を寄せたところ、その
なたとえを話された。4「あなたがた人は彼を畑にやって、豚の世話をさせ
のうちに羊を百匹持っている人がいてた。16彼は豚の食べるいなご豆で腹
、そのうちの一匹をなくしたら、そのを満たしたいほどであったが、だれひ
人は九十九匹を野原に残して、いなくとり彼に与えようとはしなかった。17
なった一匹を見つけるまで捜し歩かなしかし、我に返ったとき彼は、こう言
いでしょうか。5見つけたら、大喜びいた。『父のところには、パンのあり
でその羊をかついで、6帰って来て、余っている雇い人が大ぜいいるではな
友だちや近所の人たちを呼び集め、『いか。それなのに、私はここで、飢え
いなくなった羊を見つけましたから、死にしそうだ。18立って、父のとこ
いっしょに喜んでください。』と言うろに行つて、こう言おう。「おとうさ
でしよう。7あなたがたに言いますがん。私は天に対して罪を犯し、またあ
、それと同じように、ひとりの罪人がなたの前に罪を犯しました。19もう
悔い改めるなら、悔い改める必要のなり私は、あなたの子と呼ばれる資格はあ
い九十九人の正しい人にまさる喜びがりません。雇い人のひとりにしてくだ
天にあるのです。8また、女の人が銀さい。』20こうして彼は立ち上が
貨を十枚持っていて、もしその一枚をって、自分の父のもとに行つた。とこ
なくしたら、あかりをつけ、家を掃いろが、まだ家までは遠かつたのに、父
て、見つけるまで念入りに捜さないで親は彼を見つけ、かわいそうに思い、
しょうか。9見つけたら、友だちや近走り寄つて彼を抱き、口づけした。21
所の女たちを呼び集めて、『なくした息子は言った。『おとうさん。私は天
銀貨を見つけましたから、いっしょにに対して罪を犯し、またあなたの前
喜んでください。』と言うでしよう。罪を犯しました。もう私は、あなた
10あなたがたに言いますが、それと同子と呼ばれる資格はありません。』22
じように、ひとりの罪人が悔い改めるところが父親は、しもべたちに言つた
なら、神の御使いたちに喜びがわき起。『急いで一番良い着物を持って来て
こるのです。』11またこう話された、この子に着せなさい。それから、手
。「ある人に息子がふたりあつた。に指輪をはめさせ、足にくつをはかせ
12弟が父に、『おとうさん。私に財産なさい。23そして肥えた子牛を引い
の分け前を下さい。』と言つた。それて来てほふりなさい。食べて祝おうで
で父は、身代をふたりに分けてやったはないか。24この息子は、死んでい
。13それから、幾日もたたぬうちにたのが生き返り、いなくなっていたの
、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅が見つかつたのだから。』そして彼ら
立つた。そして、そこで放蕩して湯水は祝宴を始めた。25ところで、兄息
のように財産を使つてしまった。14子は畑にいたが、帰つて来て家に近づ
何もかも使い果たしたあとで、その国くと、音楽や踊りの音が聞こえて来た
に大ききんが起こり、彼は食べるにも。それで、26しもべのひとりを呼ん

で、これはいったい何事かと尋ねると、**27**しもべは言った。『弟さんがお帰りになったのです。無事な姿をお迎えた子牛をほふらせなされたのです。』**28**すると、兄はおこつて、家にはいろいろともしなかつた。それで、父が出て来て、いろいろなだめてみた。**29**しかし兄は父にこう言った。『ご覧なさい。長年の間、私はおとうさんに仕え、戒めを破ったことは一度もありません。その私には、友だちと楽しめと言つて、子山羊一匹下さつたことがあります。』**30**それなのに、遊女におぼれてあなたの身代を食いつぶして帰つて来たこのあなたの息子のためには、肥えた子牛をほふらせなされたのですか。』**31**父は彼に言った。『おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おまえのものだ。』**32**だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返つて来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』

16 イエスは、弟子たちにも、こういう話をされた。「ある金持ちにひとりの管理人がいた。この管理人が主人の財産を乱費している、という訴えが出された。**2**主人は、彼を呼んで言った。『おまえについてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。』』**3**管理人は心の中で言った。『主人にこの管理の仕事を取り上げられるが、さてどうしよう。土を掘るには力がないし、こじきをするのは恥ずかしい。』**4**ああ、わかつた。こうしよう

。こうしておけば、いつ管理の仕事をやめさせられても、人がその家に私を迎えてくれるだろう。』**5**そこで彼は主人の債務者たちをひとりひとり呼んで、まず最初の者に、『私の主人に』**6**その人は、『油百バテ。』と言つた。すると彼は、『さあ、あなたの証文だ。すぐにすわつて五十と書きなさい。』**7**それから、別の者に、『さて、あなたは、いくら借りがありますか。』**8**この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子らよりも抜けめがないものなので、主人は不正な管理人がこうも抜けめなくやつたのをほめた。(aiōn g165) **9**そこで、わたしはあなたがたに言いますが、不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなつたとき、彼らはあなたがたを、永遠の住まいに迎えるのです。(aiōnios g166) **10**小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。**11**ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかつたら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。**12**また、あなたがたが他人のものに忠実でなかつたら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。**13**しもべは、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、または一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕える

いうことはできません。」 14 さて、よ。思い出してみなさい。おまえは生
 金の好きなパリサイ人たちが、一部始 きている間、良い物を受け、ラザロは
 終を聞いて、イエスをあざ笑っていた 生きている間、悪い物を受けていまし
 。 15 イエスは彼らに言われた。「あ た。しかし、今ここで彼は慰められ、
 なたがたは、人の前で自分を正しいと おまえは苦しみもだえているのです。
 する者です。しかし神は、あなたがた 26 そればかりでなく、私たちとおまえ
 の心をご存じです。人間の間であがめ たちの間には、大きな淵があります。
 られる者は、神の前で憎まれ、きらわ ここからそちらへ渡ろうとしても、渡
 れます。 16 律法と預言者はヨハネま れないし、そこからこちらへ越えて来
 からです。それ以来、神の国の福音は宣 ることもできないのです。』 27 彼は
 べ伝えられ、だれもかれも、無理にで 言った。『父よ。ではお願いです。ラ
 も、これにはいろいろとしています。 17 ザロを私の父の家に送ってください。
 しかし律法の一画が落ちるよりも、天 28 私には兄弟が五人ありますが、彼ら
 地の滅びるほうがやさしいのです。 18 までこんな苦しみの場所に来ることの
 だれでも妻を離別してほかの女と結婚 ないように、よく言い聞かせてくださ
 する者は、姦淫を犯す者であり、また い。』 29 しかしアブラハムは言った
 、夫から離別された女と結婚する者も 。『彼らには、モーセと預言者があり
 、姦淫を犯す者です。 19 ある金持ち ます。その言うことを聞くべきです。
 がいた。いつも紫の衣や細布を着て、』 30 彼は言った。『いいえ、父アブ
 毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。 20 ラハム。もし、だれかが死んだ者の中
 ところが、その門前にラザロという全 から彼らのところに行ってもやったら、
 身おどきの貧乏人が寝ていて、 21 金 彼らは悔い改めるに違いありません。
 持ちの食卓から落ちる物で腹を満たし 』 31 アブラハムは彼に言った。『も
 たいと思っていた。犬もやって来ては しモーセと預言者との教えに耳を傾け
 、彼のおどきをなめていた。 22 さて ないのなら、たといだれかが死人の中
 、この貧乏人は死んで、御使いたちに から生き返っても、彼らは聞き入れは
 よってアブラハムのふとりに連れて しない。』
 行かれた。金持ちも死んで葬られた。 17 イエスは弟子たちにこう言われた
 23 その金持ちは、ハデスで苦しみが 。「つまずきが起こるのは避けら
 ら目を上げると、アブラハムが、はる れない。だが、つまずきを起こさせる
 かかなたに見えた。しかも、そのふと 者は、忌まわしいものです。 2 この小
 ころにラザロが見えた。(Hadēs g86) 24 さい者たちのひとりに、つまずきを与
 彼は叫んで言った。『父アブラハムさ えるようであつたら、そんな者は石臼
 ま。私をあわれんでください。ラザロ を首にゆわえつけられて、海に投げ込
 が指先を水に浸して私の舌を冷やすよ まれたほうがましです。 3 気をつけて
 うに、ラザロをよこしてください。私 いなさい。もし兄弟が罪を犯したなら
 はこの炎の中で、苦しくてたまりませ 、彼を戒めなさい。そして悔い改めれ
 ん。』 25 アブラハムは言った。『子 ば、赦しなさい。 4 かりに、あなたに

対して一日に七度罪を犯しても、『悔ながら引き返して来て、16 イエスの改めます。』と言って七度あなたの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサところに来るなら、赦してやりなさいマリヤ人であった。17 そこでイエス。』5 使徒たちは主に言った。「私たちは言われた。「十人いやされたのではちの信仰を増してください。」6 しかないか。九人はどこにいるのか。18 し主は言われた。「もしあなたがたに神をあがめるために戻って来た者は、からし種ほどの信仰があったなら、この外国人のほかには、だれもいないこの桑の木に、『根こそぎ海の中に植のか。』19 それからその人に言われわれ。』と言え、言いつけどおりにた。「立ち上がって、行きなさい。あなるのです。7 ところで、あなたがたの信仰が、あなたを直したのですのだから、耕作か羊飼いをするしも。』20 さて、神の国はいつ来るのかべがいるとして、そのしもべが野るか、とパリサイ人たちに尋ねられたときら帰って来たとき、『さあ、さあ、こ、イエスは答えて言われた。「神の国こに来て、食事をしなさい。』としもは、人の目で認められるようにして来べに言うでしょうか。8 かえって、『るものではありません。21 『そら、私の食事の用意をし、帯を締めて私のここにある。』とか、『あそこにある食事が済むまで給仕しなさい。あとで。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたいでしょうか。9 しもべが言いつけらたのただ中にあるのです。』22 イれたことをしたからといって、そのしエスは弟子たちに言われた。「人の子もべに感謝するでしょうか。10 あなの日を一日でも見たいと願っても、見たがたもそのとおりです。自分に言われられない時が来ます。23 人々が『こつけられたことをみな、してしまったちらだ。』とか、『あちらだ。』とから、『私たちは役に立たないしもべで言っても行ってはなりません。あとをす。なすべきことをしただけです。』追いかけてはなりません。24 いなずと言いなさい。』11 そのころイエスマが、ひらめいて、天の端から天の端はエルサレムに上られる途中、サマリへと輝くように、人の子は、人の子の日には、ちょうどそのようであるから12 あ村にはいると、十人のらい病人がイです。25 しかし、人の子はまず、多エスに出会った。彼らは遠く離れた所の苦しみを受け、この時代に捨てらに立って、13 声を張り上げて、「イれなければなりません。26 人の子のエスさま、先生。どうぞあわれんでく日に起こることは、ちょうど、ノアのださい。』と言った。14 イエスはこ日に起こったことと同様です。27 ノれを見て、言われた。「行きなさい。アが箱舟にはいるその日まで、人々はそして自分を祭司に見せなさい。』彼、食べたり、飲んだり、めとったり、らは行く途中でいやされた。15 そのとついだりしていたが、洪水が来て、うちのひとりは、自分のいやされたこすべての人を滅ぼしてしまいました。とがわかると、大声で神をほめたたえ28 また、ロトの時代にあったことと同

様です。人々は食べたり、飲んだり、てしかたがない。』と言った。」 6 主売ったり、買ったり、植えたり、建ては言われた。「不正な裁判官の言ったりしてしたが、 29 ロトがソドムから出て行くと、その日に、火と硫黄が、夜昼神を呼び求めている選民のため天から降って、すべての人を滅ぼしてにさばきをつけないで、いつまでもそしました。 30 人の子の現われるの事を放っておかれることがあるので日にも、全くそのとおりです。 31 その日には、屋上にいる者は家に家財があっても、取り出しに降りてはいけません。同じように、畑にいる者も家に帰ってはいけません。 32 ロトの妻を思い出さない。 33 自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。 34 あなたがたに言いますが、その夜、同じ寝台で男がふたり寝ていると、ひとり取りは取られ、他のひとりに残されます。 35 女がふたりいっしょに臼をひいていると、ひとり取りは取られ、他のひとりに残されます。」 36 弟子たちは答えて言った。「主よ。どこですか。」主は言われた。「死体のある所、そこに、はげたかも集まります。」

18 いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。 2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。 3 その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください。』とやってきた。 4 彼は、しばらくは取り合っていないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、 5 どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさく

てしかたがない。』と言った。」 6 主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。 7 まして神は選民のためには、夜昼神を呼び求めているにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるのでしょうか。 8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しさをしてください。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」 9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。 10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとりは取税人であった。 11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。 12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』 13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』 14 あなたがたに言うが、この人のほうが、前の人よりも、義と認められ、家に帰って行きました。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。』 15 イエスにさわっていただくとして、人々がその幼子たちを、みもとに連れて来た。ところが、弟子たちがそれを見てしかたがなかった。 16 しかしイエスは、幼子たちを呼び寄せて、こう言

われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。17 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け、はいることはできません。」18 またある役人が、イエスに質問して言った。「尊い先生。私は何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるのでしょうか。」(aiōnios g166) 19 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかにはだれもありません。20 戒めはあなたもよく知っているはずです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。父と母を敬え。』」21 すると彼は言った。「そのようなことはみな、小さい時から守っております。」22 イエスはこれを聞いて、その人に言われた。「あなたには、まだ一つだけ欠けています。」34 しかし弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。彼らには、このことばは隠されていて、話された事が理解できなかった。35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、道ばたにすわり、物ごいをしていた。36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事ですか、と尋ねた。37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせると、38 彼は大声で、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください。」と言った。39 彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたが、盲人は、「それでは、だれが救われること、ますます「ダビデの子よ。私をあわることができるでしょう。」27 イエスは言

われた。「人にはできないことが、神にはできるのです。」28 すると、ペテロが言った。「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまいりました。」29 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、30 この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。」(aiōn g165, aiōnios g166) 31 さてイエスは、十二弟子をそばに呼んで、彼らに話された。「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子について預言者たちが書いているすべてのことが実現されるのです。32 人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」34 しかし弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。彼らには、このことばは隠されていて、話された事が理解できなかった。35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、道ばたにすわり、物ごいをしていた。36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事ですか、と尋ねた。37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせると、38 彼は大声で、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください。」と言った。39 彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたが、盲人は、「それでは、だれが救われること、ますます「ダビデの子よ。私をあわることができるでしょう。」と叫び立てた。40

イエスは立ち止まって、彼をそばに連れて来るように言いつけられた。41 彼が近寄って来たので、「わたしに何をしてほしいのか。」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです。」と言った。42 イエスが彼に、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したのです。」と言われると、43 彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て民はみな神を賛美した。

19それからイエスは、エリコにはいって、町をお通りになった。2 ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。3 彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見るができなかった。4 それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。5 イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」6 ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。7 これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行って客となられた。」と言ってつぶやいた。8 ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」9 イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に来まし

た。この人もアブラハムの子なのでから。10 人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」11 人々がこれらのことに耳を傾けているとき、イエスは、続けて一つのたとえを話された。それは、イエスがエルサレムに近づいておられ、そのため人々は神の国がすぐにでも現われるように思っていたからである。12 それで、イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が、遠い国に行った。王位を受けて帰るためであった。13 彼は自分の十人のしもべを呼んで、十ミナを与え、彼らに言った。『私が帰るまで、これで商売しなさい。』14 しかし、その国民たちは、彼を憎んでいたので、あとから使いをやり、『この人に、私たちの王にはなってもらいたくありません。』と言った。15 さて、彼が王位を受けて帰って来たとき、金を与えておいたしもべたちがどんな商売をしたかを知ろうと思い、彼らを呼び出すように言いつけた。16 さて、最初の者が現われて言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』17 主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』18 二番目の者が来て言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、五ミナをもうけました。』19 主人はこの者にも言った。『あなたも五つの町を治めなさい。』20 もうひとりが来て言った。『ご主人さま。さあ、ここにあなたの一ミナがございます。私はふろしきに包んでしまっておきました。21 あなたは計算の細かい、きびしい方ですか

ら、恐ろしゅうございました。あなた主がお入用なのです。』」 32 使いにはお預けにならなかったものをも取り出されたふたりが行って見ると、イエスがお話されたとおりであった。33 彼刈り取る方ですから。』 22 主人はそれがろばの子をほどこいていると、そののしもべに言った。『悪いしもべだ。持ち主が、「なぜ、このろばの子をほ私はあなたのことばによって、あなたどくのか。」と彼らに言った。34 弟をさばこう。あなたは、私が預けなかつたものを取り立て、蒔かなかつたものを刈り取るきびしい人間だと知っていた、というのか。23 だったら、なぜ私の金を銀行に預けておかなかつたのか。そうすれば私は帰って来たときに、それを利息といっしょに受け取れたはずだ。』 24 そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナ持っている人にやりなさい。』 25 すると彼らは、『ご主人さま。その人は十ミナも持っています。』と言った。26 彼は言った。『あなたがたに言うが、だれでも持っている者は、さらに与えられ、持たない者からは、持っている物までも取り上げられるのです。27 ただ、私が王になるのを望まなかつたこの敵どもは、みなここに連れて来て、私の目の前で殺してしまえ。』」 28 これらのことを話して後、イエスは、さき石が叫びます。』」 41 エルサレムに近らに進んで、エルサレムへと上って行かされた。29 オリーブという山のふもととのベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、30 言われた。「向こうの村に行きなさい。そこにはいると、まだだれも乗ったことのない、ろばの子がつかないであるのに気がつくでしょう。それをほどこいて連れて来なさい。31 そしておまえとその中の子どもたちをもし、『なぜ、ほどこくのか。』と尋ね地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままで

は残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」**45** 宮にはいられたイエスは、商売人たちを追い出し始め、**46** こう言われた。「『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巢にした。」**47** イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者、民のおもだった者たちは、イエスを殺そうとねらっていたが、**48** どうしてよいかわからなかった。民衆がみな、熱心にイエスの話に耳を傾けていたからである。

20 イエスは宮で民衆を教え、福音を宣べ伝えておられたが、ある日、祭司長、律法学者たちが、長老たちといっしょにイエスに立ち向かって、**2** イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。あなたにその権威を授けたのはだれですか。それを教えてください。」**3** そこで答えて言われた。「わたしも一言尋ねますから、それに答えなさい。**4** ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。」**5** すると彼らは、こう言って、互いに論じ合った。「もし、天から、と言え、それならなぜ、彼を信じなかったか、と言うだろう。**6** しかし、もし、人から、と言え、民衆がみなで私たちを石で打ち殺すだろう。ヨハネを預言者と信じているのだから。」**7** そこで、「どこからか知りません。」と答えた。**8** するとイエスは、「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。」と言われた。**9** また、イエスは、民衆に

このようなたとえを話された。「ある人がぶどう園を造り、それを農夫たちに貸して、長い旅に出た。**10** そして季節になったので、ぶどう園の収穫のところへひとりのしもべを遣わした。ところが、農夫たちは、そのしもべを袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。**11** そこで、別のしもべを遣わしたが、彼らは、そのしもべも袋だたきにし、はずかしめたうえで、何も持たせないで送り帰した。**12** 彼はさらに三人目のしもべをやったが、彼らは、このしもべにも傷を負わせて追い出した。**13** ぶどう園の主人は言った。『どうしたものか。よし、愛する息子を送ろう。彼らも、この子はたぶん敬ってくれるだろう。』**14** ところが、農夫たちはその息子を見て、議論しながら言った。『あれはあと取りだ。あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』**15** そして、彼をぶどう園の外に追い出して、殺してしまった。こうなると、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。**16** 彼は戻って来て、この農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。」これを聞いた民衆は、「そんなことがあってはなりません。」と言った。**17** イエスは、彼らを見つめて言われた。「では、『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎の石となった。』と書いてあるのは、何のことでしょう。**18** この石の上に落ちれば、だれでも粉々に砕け、またこの石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛び散らしてしまうのです。」**19** 律法学者、祭司長たちは、イ

エスが自分たちをさしてこのたとえを、子どもがなくて死にました。30 次話されたと気づいたので、この際イエスに手をかけて捕えようとしたが、や男も、31 三男もその女をめとり、七人とも同じようにして、子どもを残さずには死にました。32 あとで、その女も死にました。33 すると復活の際、その女はだれの妻になるでしょうか。七人ともその女を妻としたのですが。」34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり、とついでりするが、(aiōn g165) 35 次の世にはいるのにふさわしく、死人の中から復活するのにふさわしい、と認められる人たちは、めとることも、とつぐこともありません。(aiōn g165) 36 彼らはもう死ぬことができないからです。彼らは御使いのようであり、また、復活の子として神の子どもだからです。37 それに、死人がよみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神。』と呼んで、このことを示しました。38 神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対しては、みなが生きているからです。」39 律法学者のうちのある者たちが答えて、「先生。りっぱなお答えです。」と言った。40 彼らはもうそれ以上何も質問する勇気がなかった。41 すると、イエスが彼らに言われた。「どうして人々は、キリストをダビデの子と言うのですか。42 ダビデ自身が詩篇の中でこう言っています。『主は私の主に言われた。43 「わたをめとって死に、しかも子がなかったしが、あなたの敵を あなたの足台とする時まで、わたしの右の座に着いていなさい。』』44 こういうわけで、ダビデがキリストを主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダビデの子でし

よう。」 45 また、民衆がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちにはこう言われた。 46 「律法学者たちには気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりすることが好きで、また会堂の上席や宴会の上座が好きです。 47 また、やもめの家を食いつぶし、見え飾るために長い祈りをします。こういふ人たちは人一倍きびしい罰を受けるのです。」

21 さてイエスが、目を上げてご覧になると、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れていた。 2 また、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨二つを投げ入れているのをご覧になった。 3 それでイエスは言われた。「わたしは真実をあなたがたに告げます。この貧しいやもめは、どの人よりもたくさん投げ入れました。 4 みなは、あり余る中から献金を投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、持っていた生活費の全部を投げ入れたからです。」 5 宮がすばらしい石や奉納物で飾っていると話していた人々があつた。するとイエスはこう言われた。 6 「あなたがたのしているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」 7 彼らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」 8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私がそれだ。』とか『時は近づいた。』とか言います。そんな人々のあと

について行ってはなりません。 9 戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」 10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、 11 大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現われます。 12 しかし、これらのすべてのことの前に、人々はあなたがたを捕えて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。 13 それはあなたがたのあかしをする機会となります。 14 それで、どう弁明するかは、あらかじめ考えないことに、心を定めておきなさい。 15 どんな反対者も、反論もできず、反証もできないことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。 16 しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中には殺される者もあり、 17 わたしの名のために、みなの方に憎まれます。 18 しかし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。 19 あなたがたは、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。 20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。 21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいつてはいけません。 22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからで

す。23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。25 そして、日と月と星には、前兆が現われ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、26 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。27 そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。28 これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上になげなさい。贖いが近づいたのです。」29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。30 木の芽が出ると、それを見て夏の近いことがわかります。31 そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。32 まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。33 この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。34 あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。35 その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからです。36 しかし、あなたがたは、

やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。」37 さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリブという山で過ごされた。38 民衆はみな朝早く起きて、教えを聞こうとして、宮におられるイエスのもとに集まって来た。

22 さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。

2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というのは、彼らは民衆を恐れていたからである。3 さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンがはいった。4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。5 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。6 ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」10 イエスは言われた。「町にはいると、水がめを運んでいる男に会うから、その人がはいる家にまでついて行きなさい。11 そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っておられる。』と言いなさい。12 すると主人は、席が整っている二階の

大広間を見せてくれます。そこで準備が一番偉いだろうかという論議も起こをしなさい。」 13 彼らが出かけて見 25 すると、イエスは彼らに言ると、イエスの言われたとおりであった。「異邦人の王たちは人々を支た。それで、彼らは過越の食事の用意配し、また人々の上に権威を持つ者をした。 14 さて時間になって、イエ 守護者と呼ばれています。 26 だが、スは食卓に着かれ、使徒たちもイエス あなたがたは、それではいけません。といっしょに席に着いた。 15 イエス あなたがたの間で一番偉い人は一番年は言われた。「わたしは、苦しみを受 の若い者のようになりなさい。また、ける前に、あなたがたといっしょに、 治める人は仕える人のようでありなさいこの過越の食事をするををどんなに い。 27 食卓に着く人と給仕する者と望んでいたことか。 16 あなたがたに、どちらが偉いでしょう。むろん、食言いますが、過越が神の国において成卓に着く人でしょう。しかしわたしは就するまでは、わたしはもはや二度と、あなたがたのうちにあって給仕する過越の食事をすることはありません。 者のようにしています。 28 けれども」 17 そしてイエスは、杯を取り、感、あなたがたこそ、わたしのさまざま謝をささげて後、言われた。「これを の試練の時にも、わたしについて来て取って、互いに分けて飲みなさい。 18 くれた人たちです。 29 わたしの父があなたがたに言いますが、今から、神 わたしに王権を与えてくださったよう の国が来る時までは、わたしはもはや に、わたしもあなたがたに王権を与え、ぶどうの実で造った物を飲むことは ます。 30 それであなたがたは、わた ありません。」 19 それから、パンを の国でわたしの食卓に着いて食事を取り、感謝をささげてから、裂いて、 し、王座に着いて、イスラエルの十二弟子たちに与えて言われた。「これは の部族をさばくのです。 31 シモン、あなたがたのために与える、わたし シモン。見なさい。サタンが、あなた のからだです。わたしを覚えてこれを がたを麦のようにふるいにかけること行ないなさい。」 20 食事の後、杯も を願って聞き届けられました。 32 し 同じようにして言われた。「この杯は かし、わたしは、あなたの信仰がなく、あなたがたのために流されるわたし ならないように、あなたのために祈りの血による新しい契約です。 21 し きました。だからあなたは、立ち直った し、見なさい。わたしを裏切る者の手 ら、兄弟たちを力づけてやりなさい。 が、わたしとともに食卓にあります。」 33 シモンはイエスに言った。「主 22 人の子は、定められたとおりに去っ よ。ごいっしょになら、牢であろうと て行きます。しかし、人の子を裏切る、 死であろうと、覚悟はできておりま ような人間はのろわれます。」 23 そ す。」 34 しかし、イエスは言われた 24 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

たしがあなたがたを、財布も旅行袋も
くつも持たせず旅に出したとき、何
か足りない物がありましたか。」彼ら
は言った。「いいえ。何もありません
でした。」 36 そこで言われた。「し
かし、今は、財布のある者は財布を持
ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着
物を売って剣を買いなさい。 37 あな
たがたに言いますが、『彼は罪人たち
の中に数えられた。』と書いてあるこ
うか。」とされた。 50 そしてその
ことが、わたしに必ず実現するので
す。わたしにかかわることは実現しま
す。」 38 彼らは言った。「主よ。こ
のとおり、ここに剣が二振りあります
。」イエスは彼らに、「それで十分。
」とされた。 39 それからイエスは
出て、いつものようにオリブ山に行
かれ、弟子たちも従った。 40 いつ
も強盗にでも向かうように、剣や棒
を持ってやって来たのですか。 53
あなたがたは、わたしが毎日宮でいっ
しょに
いる間は、わたしに手出しもしなかつ
た。しかし、今はあなたがたの時です
。暗やみの力です。」 54 彼らはイエ
スを捕え、引いて行って、大祭司の家
に連れて来た。ペテロは、遠く離れて
ついて行った。 55 彼らは中庭の真中
に火をたいて、みなすわり込んだので
、ペテロも中に混じって腰をおろした
。 56 すると、女中が、火あかりの中
にペテロのすわっているのを見つけ、
まじまじと見て言った。「この人も、
イエスといっしょにいました。」 57
ところが、ペテロはそれを打ち消して
、「いいえ、私はあの人を知りません
。」とされた。 58 しばらくして、ほ
かの男が彼を見て、「あなたも、彼ら
の仲間だ。」とされた。しかし、ペテ
ロは、「いや、違います。」とされた

。 59 それから一時間ほどたつと、ま **23** そこで、彼らは全員が立ち上がり
た別の男が、「確かにこの人も彼とい、イエスをピラトのもとに連れて
っしよだった。この人もガリラヤ人 行った。 2 そしてイエスについて訴え
から。」と言ひ張った。 60 しかしペ 始めた。彼らは言った。「この人はわ
テロは、「あなたの言うことは私には が国民を惑わし、カイザルに税金を納
わかりません。」と言った。それとい めることを禁じ、自分は王キリストだ
っしよに、彼がまだ言い終えないうち と言っていることがわかりました。」
に、鶏が鳴いた。 61 主が振り向いて 3 するとピラトはイエスに、「あなた
ペテロを見つめられた。ペテロは、「 は、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた
きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、 。イエスは答えて、「そのとおりです
三度わたしを知らないと言う。」と言 。」と言われた。 4 ピラトは祭司長た
われた主のおことばを思い出した。 62 ちや群衆に、「この人には何の罪も見
彼は、外に出て、激しく泣いた。 63 つからない。」と言った。 5 しかし彼
さて、イエスの監視人どもは、イエス らはあくまで言い張って、「この人は
をからかい、むちでたたいた。 64 そ、ガリラヤからここまで、ユダヤ全土
して目隠しをして、「言い当ててみる で教えながら、この民を扇動している
。今たたいたのはだれか。」と聞いた のです。」と言った。 6 それを聞いた
りした。 65 また、そのほかさまざまま ピラトは、この人はガリラヤ人かと尋
な悪口をイエスに浴びせた。 66 夜が ねて、 7 ヘロデの支配下にあるとわか
明けると、民の長老会、それに祭司長 ると、イエスをヘロデのところにつ
、律法学者たちが、集まった。彼らは た。ヘロデもそのころエルサレムにい
イエスを議会に連れ出し、 67 こう言 たからである。 8 ヘロデはイエスを見
った。「あなたがキリストなら、そう ると非常に喜んだ。ずっと前からイエ
だと言いなさい。」しかしイエスは言 スのことを聞いていたので、イエスに
われた。「わたしが言っても、あなた 会いたいと思っていたし、イエスの行
がたは決して信じないでしょうし、 68 なう何かの奇蹟を見たいと考えていた
わたしが尋ねても、あなたがたは決し からである。 9 それで、いろいろと質
て答えないでしょう。 69 しかし今か 問したが、イエスは彼に何もお答えに
ら後、人の子は、神の大能の右の座に ならなかった。 10 祭司長たちと律法
着きます。」 70 彼らはみなで言った 学者たちは立って、イエスを激しく訴
。「ではあなたは神の子ですか。」す えていた。 11 ヘロデは、自分の兵士た
ると、イエスは彼らに「あなたがたの ちとっしよにイエスを侮辱したり嘲
言うとおりに、わたしはそれです。」と 弄したりしたあげく、はでな衣を着せ
言われた。 71 すると彼らは「これで て、ピラトに送り返した。 12 この日
もまだ証人が必要でしょうか。私たち、ヘロデとピラトは仲よくなった。そ
自身が彼の口から直接それを聞いたの れまでは互いに敵対していたのである
だから。」と言った。 。 13 ピラトは祭司長たちと指導者た
ちと民衆とを呼び集め、 14 こう言っ

た。「あなたがたは、この人を、民衆
を惑わす者として、私のところに連れ
て来たけれども、私あなたがたの前
で取り調べたところ、あなたがたが訴
えているような罪は別に何も見つか
りません。15 ヘロデとても同じです。
彼は私たちにこの人を送り返しまし
た。見なさい。この人は、死罪に当
たることは、何一つしていません。16
だから私は、懲らしめたうえで、釈
放します。」17 しかし彼らは、声
をそろえて叫んだ。「この人を除
け。バラバを釈放しろ。」19 バラ
バとは、都に起こった暴動と人殺
しのかどで、牢にいらしていた者
である。20 ピラトは、イエスを
釈放しようと思って、彼らに「も
う一度呼びかけた。21 しかし、
彼らは叫び続けて、「十字架だ。十
字架につけろ。」と言った。22
しかしピラトは三度目に彼らにこ
う言った。「あの人がどんな悪い
ことをしたというのか。あの人は
、死に当たる罪、何も見つか
りません。だから私は、懲らしめた
うえで、釈放します。」23
ところが、彼らはあくまで主張し
つづけて、十字架につけるよう大
声で要求した。そしてついにその
声の方が勝った。24 ピラトは、
彼らの要求どおりにすることを宣
告した。25 すなわち、暴動と人
殺しのかどで牢にいらしていた男
を、願いどおりに釈放し、イエス
を彼らに引き渡して好きなように
させた。26 彼らは、イエスを引
いて行く途中、いぶどう酒を差し
出し、37 「ユダヤ人の王なら、
自分を救え。」と言った人をつか
まえ、この人に十字架を負わせた。
38 「これはユダヤ人の王。」と書
せてイエスのうしろから運ばせた。
27 いた札もイエスの頭上に掲げ
てあった大ぜいの民衆やイエス
のことを嘆き悲しむ女たちの群れ
が、イエスのあとに

ついて行った。28 しかしイエスは、
女たちのほうに向いて、こう言わ
れた。「エルサレムの娘たち。わ
たしのことで泣いてはいけない。む
しろ自分自身と、自分の子どもた
ちのこのために泣きなさい。29
なぜなら人々が、『不妊の女、子
を産んだことのない胎、飲ませた
ことのない乳房は、幸いだ。』と
言う日が来るのですから。30
そのとき、人々は山に向かって、『
われわれの上に倒れかかってくれ。』
と言ひ、丘に向かって、『われわれ
をおおてくれ。』と言ひ始めます。
31 彼らが生木にこのようなことを
するのなら、枯れ木には、いった
い、何が起ころうでしょう。』32
ほかにもふたりの犯罪人が、イエ
スとともに死刑にされるために、
引かれて行った。33 「どくろ」と
呼ばれている所に来ると、そこで
彼らは、イエスと犯罪人とを十
字架につけた。犯罪人のひとは右
に、ひとは左に。34 そのとき、
イエスはこう言われた。「父よ。
彼らをお赦しください。彼らは、
何をしていますのか自分でわか
らないのです。」彼らは、くじを
引いて、イエスの着物を分けた。
35 民衆はそばに立ってながめ
ていた。指導者たちもあざ笑って
言った。「あれは他人を救った。も
し、神のキリストで、選ばれた者
なら、自分を救ってみろ。」36
兵士たちもイエスをあざけり、
そばに寄って来て、酸いぶどう
酒を差し出し、37 「ユダヤ人の
王なら、自分を救え。」と言った
人をつかまえ、この人に十字架を
負わせた。38 「これはユダヤ人
の王。」と書けてイエスのうしろ
から運ばせた。27 いた札もイエ
スの頭上に掲げてあった大ぜい
の民衆やイエスのことを嘆き悲
しむ女たちの群れが、イエスのあ
とに

あなたはキリストではないか。自分と私
たちを救え。」と言った。40ところが、もうひとりのほうが答えて、彼を
たしなめて言った。「おまえは神をも
恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受
けているのではないか。41われわれは
、自分のしたことの報いを受けている
のだからあたりまえだ。だがこの方は
、悪いことは何もしなかったのだ。」
42そして言った。「イエスさま。あなた
の御国の位にお着きになるときは
、私を思い出してください。」43イ
エスは、彼に言われた。「まことに、
あなたに告げます。あなたはきょう、
わたしとともにパラダイスにいます。
」44そのときすでに十二時ごろにな
っていたが、全地が暗くなって、三時
まで続いた。45太陽は光を失ってい
た。また、神殿の幕は真二つに裂けた
。46イエスは大声で叫んで、言われ
た。「父よ。わが霊を御手にゆだねま
す。」こう言って、息を引き取られた
。47この出来事を見た百人隊長は、
神をほめたたえ、「ほんとうに、この
人は正しい方であった。」と言った。
48また、この光景を見に集まっていた
群衆もみな、こういういろいろの出来
事を見たので、胸をたたいて悲しみな
がら帰った。49しかし、イエスの知
人たちと、ガリラヤからイエスにつ
いて来ていた女たちとはみな、遠く離
れて立ち、これらのことを見ていた。50
さてここに、ヨセフという、議員のひ
とりで、りっぱな、正しい人がいた。
51この人は議員たちの計画や行動には
同意しなかった。彼は、アリマタヤと
いうユダヤ人の町の人で、神の国を待
ち望んでいた。52この人が、ピラト

のところに行って、イエスのからだの
下げ渡しを願った。53それから、イ
エスを取り降ろして、亜麻布で包み、
そして、まだだれをも葬ったことな
い、岩に掘られた墓にイエスを納め
た。54この日は準備の日で、もう安息
日が始まろうとしていた。55ガリラ
ヤからイエスといっしょに出て来た女
たちは、ヨセフについて行って、墓と
、イエスのからだの納められる様子
を見届けた。56そして、戻って来て、
香料と香油を用意した。安息日には、
戒めに従って、休んだが、

24週の初めの日の明け方早く、女た
ちは、準備しておいた香料を持つ
て墓に着いた。2見ると、石が墓から
わきまのところにあった。3はいつ
て見ると、主イエスのからだはなかつ
た。4そのため女たちが途方にくれて
いると、見よ、まばゆいばかりの衣を
着たふたりの人が、女たちの近くに
来た。5恐ろしくなって、地面に顔
を伏せると、その人たちはこう言
った。「あなたがたは、なぜ生きて
いる方を死人の中で捜すのですか。
6ここにはおられません。よみがえ
られたのです。まだガリラヤにお
られたころ、お話しになったこと
を思い出さない。7人の子は必ず
罪人らの手に引き渡され、十字
架につけられ、三日目によみが
えらなければならない、と言われ
たでしょう。」8女たちはイエス
のみことばを思い出した。9そし
て、墓から戻って、十一弟子とそ
のほかの人たち全部に、一部始終
を報告した。10この女たちは、
マグダラのマリヤとヨハンナと
ヤコブの母マリヤとであった。彼
女たちといっしょにいたほかの女

も、このことを使徒たちに話した。11 女たちが私たちが驚かせました。その
ところが使徒たちにはこの話はたわごと女たちは朝早く墓に行ってみました
とと思われたので、彼らは女たちを信、23 イエスのからだが見当たらない
用しなかった。12 [しかしペテロは ので、戻って来ました。そして御使
、立ち上がると走って墓へ行き、かが たちの幻を見たが、御使いたちがイエ
んでのぞき込んだところ、亜麻布だけ スは生きておられると告げた、と言う
があった。それで、この出来事に驚い のです。24 それで、仲間の何人かが
て家に帰った。] 13 ちょうどこの日 墓に行ってみたのですが、はたして女
、ふたりの弟子が、エルサレムから十 たちの言ったとおりで、イエスさまは
一キロメートル余り離れたエマオとい 見当たらなかった、というのです。]
う村に行く途中であった。14 そして 25 するとイエスは言われた。「ああ、
、ふたりでこのいっさいの出来事につ 愚かな人たち。預言者たちの言ったす
いて話し合っていた。15 話し合っ べてを信じない、心の鈍い人たち。26
り、論じ合ったりしているうちに、イ キリストは、必ず、そのような苦しみ
エスご自身が近づいて、彼らとともに を受けて、それから、彼の栄光にはい
道を歩いておられた。16 しかしふた るはずではなかったのですか。」27
りの目はさえぎられていて、イエスだ それから、イエスは、モーセおよびす
とはわからなかった。17 イエスは彼 べての預言者から始めて、聖書全体の
らに言われた。「歩きながらふたりで 中で、ご自分について書いてある事が
話し合っているその話は、何のことで らを彼らに説き明かされた。28 彼ら
すか。」すると、ふたりは暗い顔つき は目的の村に近づいたが、イエスはま
になって、立ち止まった。18 クレオ だ先へ行きそうなお様子であった。29
パというほうが答えて言った。「エル それで、彼らが、「いっしょにお泊ま
サレムにいながら、近ごろそこで起こ りください。そろそろ夕刻になります
った事を、あなただけが知らなかった し、日もおおかた傾きましたから。」
のですか。」19 イエスが、「どんな と行って無理に願ったので、イエスは
事ですか。」と聞かれると、ふたりは 彼らといっしょに泊まるために中には
答えた。「ナザレ人イエスのことで いられた。30 彼らとともに食卓に着
。この方は、神とすべての民の前で、 かれると、イエスはパンを取って祝福
行ないにもことばにも力のある預言者 し、裂いて彼らに渡された。31 それ
でした。20 それなのに、私たちの祭 で、彼らの目が開かれ、イエスだとわ
司長や指導者たちは、この方を引き渡 かった。するとイエスは、彼らには見
して、死刑に定め、十字架につけたの えなくなった。32 そこでふたりは話
です。21 しかし私たちは、この方こ し合った。「道々お話しになっている
そイスラエルを贖ってくださるはずだ 間も、聖書を説明して下さった間も
、と望みをかけていました。事実、そ 、私たちの心はうちに燃えていたでは
ればかりでなく、その事があってから ないか。」33 すぐさまふたりは立っ
三日目になります。22 また仲間の て、エルサレムに戻ってみると、十一

使徒とその仲間が集まって、**34** 「ほ 49 さあ、わたしは、わたしの
んとうに主はよみがえって、シモンに 父の約束してくださったものをあなた
お姿を現わされた。」と言っていた。 がたに送ります。あなたがたは、いと
35 彼らも、道であったいろいろなこと 高き所から力を着せられるまでは、都
や、パンを裂かれたときにイエスだと にとどまっていなさい。」 **50** それか
わかった次第を話した。 **36** これらの ら、イエスは、彼らをベタニヤまで連
ことを話している間に、イエスご自身 れて行き、手を上げて祝福された。 **51**
37 彼らは そして祝福しながら、彼らから離れて
驚き恐れて、霊を見ているのだと思っ 行かれた。 **52** 彼らは、非常な喜びを
た。 **38** すると、イエスは言われた。 抱いてエルサレムに帰り、 **53** いつも
「なぜ取り乱しているのですか。どう 宮にいて神をほめたたえていた。
して心に疑いを起こすのですか。 **39**
わたしの手やわたしの足を見なさい。
まさしくわたしです。わたしにさわっ
て、よく見なさい。霊ならこんな肉や
骨はありません。わたしは持っていま
す。」 **40** それでも、彼らは、うれし
さのあまりまだ信じられず、不思議が
っているので、イエスは、「ここに何
か食べ物がありますか。」と言われた
。 **42** それで、焼いた魚を一切れ差し
上げると、 **43** イエスは、彼らの前で
、それを取って召し上がった。 **44** さ
て、そこでイエスは言われた。「わた
しがまだあなたがたといっしょにいた
ころ、あなたがたに話したことはこ
うです。わたしについてモーセの律法
と預言者と詩篇とに書いてあることは
、必ず全部成就するということでした
。」 **45** そこで、イエスは、聖書を悟
らせるために彼らの心を開いて、 **46**
こう言われた。「次のように書いてあ
ります。キリストは苦しみを受け、三
日目に死人の中からよみがえり、 **47**
その名によって、罪の赦しを得させる
悔い改めが、エルサレムから始まって
あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。
48 あなたがたは、これらのことの証人

ヨハネの福音書

1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。**2** この方は、初めに神とともにおられた。**3** すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。**4** この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。**5** 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。**6** 神から遣わされたヨハネという人が現われた。**7** この人はあかしのために来た。光についてあかしするためであり、すべての人が彼によって信じるためである。**8** 彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。**9** すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。**10** この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。**11** この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。**12** しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**13** この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。**14** ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。**15** ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである。』

と私が言ったのは、この方のことです。」**16** 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。**17** というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。**18** いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。**19** ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのもとに遣わして、「あなたはどなたですか。」と尋ねさせた。**20** 彼は告白して否まず、「私はキリストではありません。」と言明した。**21** また、彼らは聞いた。「では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか。」彼は言った。「そうではありません。」「あなたはあの預言者ですか。」彼は答えた。「違います。」**22** そこで、彼らは言った。「あなたはだれですか。私たちを遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」**23** 彼は言った。「私は、預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ。』と荒野で叫んでいる者の声です。」**24** 彼らは、パリサイ人の中から遣わされたのであった。**25** 彼らはまた尋ねて言った。「キリストでもなく、エリヤでもなく、またあの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」**26** ヨハネは答えて言った。「私は水でバプテスマを授けているが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。**27** その方は私のあとから来られ

る方で、私はその方のくつのひもを解か。』 39 イエスは彼らに言われた。く値うちありません。」 28 この事 「来なさい。そうすればわかります。があったのは、ヨルダンの向こう岸の」そこで、彼らはついて行って、イエベタニヤであって、ヨハネはそこでバスの泊まっておられる所を知った。そプテスマを授けていた。 29 その翌日して、その日彼らはイエスといっしょ、ヨハネは自分のほうにイエスが来らにいた。時は十時ごろであった。 40 れるのを見て言った。「見よ、世の罪ヨハネから聞いて、イエスについて行を取り除く神の小羊。 30 私が『私のったふたりのうちのひとりは、シモンあとから来る人がある。その方は私に・ペテロの兄弟アンデレであった。 41 まさる方である。私より先におられた彼はまず自分の兄弟シモンを見つけてからだ。』と言ったのは、この方のこ、「私たちはメシヤ（訳して言えば、とです。 31 私もこの方を知りませんキリスト）に会った。」と言った。 42 でした。しかし、この方がイスラエル彼はシモンをイエスのもとに連れて来に明らかにされるために、私は来て、た。イエスはシモンに目を留めて言わ水でバプテスマを授けているのです。れた。「あなたはヨハネの子シモンで」 32 またヨハネは証言して言った。す。あなたをケパ（訳すとペテロ）と「御霊が鳩のように天から下って、こ呼ぶことにします。」 43 その翌日、の方の上にとどまられるのを私は見まイエスはガリラヤに行こうとされた。した。 33 私もこの方を知りませんでそして、ピリポを見つけて「わたしにした。しかし、水でバプテスマを授け従って来なさい。」と言われた。 44 させるために私を遣わされた方が、私ピリポは、ベツサイダの人で、アンデに言われました。『聖霊がある方の上レやペテロと同じ町の出身であった。に下って、その上にとどまられるのが 45 彼はナタナエルを見つけて言った。あなたに見えたなら、その方こそ、聖「私たちは、モーセが律法の中に書き霊によってバプテスマを授ける方であ、預言者たちも書いている方に会いまる。』 34 私はそれを見たのです。そした。ナザレの人で、ヨセフの子イエれで、この方が神の子であると証言しスです。」 46 ナタナエルは彼に言っているのです。」 35 その翌日、またた。「ナザレから何の良いものが出るヨハネは、ふたりの弟子とともに立っだろう。」ピリポは言った。「来て、ていたが、 36 イエスが歩いて行かれそして、見なさい。」 47 イエスはナるのを見て、「見よ、神の小羊。」とタナエルが自分のほうに来るのを見て言った。 37 ふたりの弟子は、彼がそ、彼について言われた。「これこそ、う言うのを聞いて、イエスについて行ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちった。 38 イエスは振り向いて、彼らには偽りが無い。」 48 ナタナエルはがついて来るのを見て、言われた。「イエスに言った。「どうして私をご存あなたがたは何を求めているのですかじなのですか。」イエスは言われた。」 彼らは言った。「ラビ（訳して言「わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前えば、先生）。今どこにお泊まりですに、あなたがいちじくの木の下にいる

のを見たのです。」 49 ナタナエルは答えた。「先生。あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」 50 イエスは答えて言われた。「あなたがわたくしが言ったので、あなたは信じるのですか。あなたは、それよりもさらに大きなことを見ることになります。」 51 そして言われた。「まことに、あなたがたに告げます。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたはいまに見ます。」

2 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、そこにイエスの母がいた。 2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。 3 ぶどう酒がなくなったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません。」と言った。 4 すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」 5 母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」 6 さて、そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百二十リットル入りの石の水がめが六つ置いてあった。 7 イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。 8 イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。 9 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの、――しかし

、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。――彼は、花婿を呼んで、 10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」 11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。 12 その後、イエスは母や兄弟たちや弟子たちといっしょに、カペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。 13 ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。 14 そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、 15 細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、 16 また、鳩を売る者に言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」 17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす。」と書いてあるのを思い起こした。 18 そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをするからには、どんなしるしを私たちにを見せてくれるのですか。」 19 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」 20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」 21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言

われたのである。22それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。23イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行なわれたしるしを見て、御名を信じた。24しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、25また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。

3 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。2この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行なうことができません。」3イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」4ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいつて生まれることができますでしょうか。」5イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。6肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれ

た者は霊です。7あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。8風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」9ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」10イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。11まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。12あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。13だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。14モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。15それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」(aiōnios g166) 16神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(aiōnios g166) 17神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。18御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれ

ている。19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないのほうに来ない。21 しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。22 その後、イエスは弟子たちと、ユダヤの地に行き、彼らとともにそこに滞在して、パプテスマを授けておられた。23 一方ヨハネもサリムに近いアイノンでパプテスマを授けていた。そこには水が多かったからである。人々は次々にやって来て、パプテスマを受けていた。24 ——ヨハネは、まだ投獄されていなかったからである。—— 25 それで、ヨハネの弟子たちが、あるユダヤ人ときよめについて論議した。26 彼らはヨハネのところに来て言った。「先生。見てください。ヨルダンの向こう岸であなたといっしょにいて、あなたが証言なさったあの方が、パプテスマを授けておられます。そして、みなあの方のほうへ行きます。」 27 ヨハネは答えて言った。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることはできません。28 あなたがたこそ、『私はキリストではなく、その前に遣わされた者である。』と私が言ったことの証人です。29 花嫁を迎える者は花婿です。そこにて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされているのです。30 あの方は盛んになり私は衰えなければ

なりません。」 31 上から来る方は、すべてのものの上におられ、地から出る者は地に属し、地のことばを話す。天から来る方は、すべてのものの上におられる。32 この方は見たこと、また聞いたことをあかしされるが、だれもそのあかしを受け入れない。33 そのあかしを受け入れた者は、神は真実であるということに確認の印を押したのである。34 神がお遣わしになった方は、神のことばを話される。神が御霊を無限に与えられるからである。35 父は御子を愛しておられ、万物を御子の手にお渡しになった。36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。(aiōnios g166)

4 イエスがヨハネよりも弟子を多くつくって、パプテスマを授けていることがパリサイ人の耳にはいった。それを主が知られたとき、2 ——イエスご自身はパプテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが、—— 3 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。4 しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。5 それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は六時ごろであった。7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。9 そこで、そのサマリヤの女は言った。「あ

あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマ
リヤの女の私に、飲み水をお求めにな
るのですか。」——ユダヤ人はサマリ
ヤ人とつきあいをしなかったからであ
る。—— **10** イエスは答えて言われた
。「もしあなたが神の賜物を知り、ま
た、あなたに水を飲ませてくれと言
者がだれであるかを知っていたなら、
あなたのほうでその人に求めたこと
をしよう。そしてその人はあなたに生
ける水を与えたことでしょう。」 **11** 彼
女は言った。「先生。あなたはくむ物
を持っておいでにならず、この井戸
深いのです。その生ける水をどこか
手にお入れになるのですか。 **12** あな
たは、私たちの先祖ヤコブよりも偉
いのでしょうか。ヤコブは私たちにこ
の井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも
家畜も、この井戸から飲んだのです。
」 **13** イエスは答えて言われた。「こ
の水を飲む者はだれでも、また渴きま
す。 **14** しかし、わたしが与える水を
飲む者はだれでも、決して渴くことが
ありません。わたしが与える水は、そ
の人のうちで泉となり、永遠のいのち
への水がわき出します。」 (aiōn g165, aiōnios
g166) **15** 女はイエスに言った。「先生。
私が渴くことがなく、もうここまでく
みに来なくてもよいように、その水を
私に下さい。」 **16** イエスは彼女に言
われた。「行って、あなたの夫をここ
に呼んで来なさい。」 **17** 女は答えて
言った。「私には夫はありません。」
イエスは言われた。「私には夫がない
というのは、もっともです。 **18** あな
たには夫が五人あったが、今あなた
といっしょにいるのは、あなたの夫で
ないからです。あなたが言ったことは
ほんとうです。」 **19** 女は言った。「
先生。あなたは預言者だと思います。
」 **20** 私たちの先祖は、この山で礼拝しま
したが、あなたがたは、礼拝すべき場
所はエルサレムだと言われます。」 **21**
イエスは彼女に言われた。「わたしの
言うことを信じなさい。あなたがたが
父を礼拝するのは、この山でもなく、
エルサレムでもない、そういう時が来
ます。 **22** 救いはユダヤ人から出るの
ですから、わたしたちは知って礼拝し
ていますが、あなたがたは知らないで
礼拝しています。 **23** しかし、真の礼
拝者たちが霊とまことによって父を礼
拝する時が来ます。今がその時です。
父はこのように人々を礼拝者として求
めておられるからです。 **24** 神は霊で
すから、神を礼拝する者は、霊とまこ
とによって礼拝しなければなりません
。」 **25** 女はイエスに言った。「私は
、キリストと呼ばれるメシヤの来られ
ることを知っています。その方が来ら
れるときには、いっさいのことを私た
ちに知らせてくださるでしょう。」 **26**
イエスは言われた。「あなたと話して
いるこのわたしがそれです。」 **27** こ
のとき、弟子たちが帰って来て、イエ
スが女の人と話しておられるのを不思議
に思った。しかし、だれも、「何を
求めておられるのですか。」とも、「
なぜ彼女と話しておられるのですか。
」とも言わなかった。 **28** 女は、自分
の水がめを置いて町へ行き、人々に言
った。 **29** 「来て、見てください。私
のしたこと全部を私に言った人がいる
のです。この方がキリストなのでしょ
うか。」 **30** そこで、彼らは町を出て
、イエスのほうへやって来た。 **31** そ

のころ、弟子たちはイエスに、「先生
。召し上がってください。」とお願い
した。 32 しかし、イエスは彼らに言
ません。自分で聞いて、この方がほん
われた。「わたしには、あなたがたの
とうに世の救い主だと知っているの
で知らない食物があります。」 33 そこ
す。」 43 さて、二日の後、イエスは
で、弟子たちは互いに言った。「だれ
か食べる物を持って来たのだろうか。
44 イエスご自身が、「預言者は自分の
」 34 イエスは彼らに言われた。「わ
故郷では尊ばれない。」と証言してお
たしを遣わした方のみこころを行ない
られたからである。 45 そういうわけ
で、イエスがガリラヤに行かれたとき
たしの食物です。 35 あなたがたは、
、ガリラヤ人はイエスを歓迎した。彼
『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か
月ある。』と言ってはいませんか。さ
祭りの間にエルサレムでなされたすべ
あ、わたしの言うことを聞きなさい。
てのことは見ていたからである。 46
目を上げて畑を見なさい。色づいて、
イエスは再びガリラヤのカナに行かれ
刈り入れるばかりになっています。 36
た。そこは、かつて水をぶどう酒にさ
れた所である。さて、カペナウムに病
気の息子がいる王室の役人がいた。 47
。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶ
この人は、イエスがユダヤからガリラ
ためです。(aiōnios g166) 37 こうい
やに来られたと聞いて、イエスのとこ
ろへ行き、下って来て息子をいやして
くださいるように願った。息子が死にか
かっていたからである。 48 そこで、
イエスは彼に言われた。「あなたがた
り取らせるために、あなたがたを遣わ
は、しるしと不思議を見ないかぎり、
しました。ほかの人々が労苦して、あ
決して信じない。」 49 その王室の役
あなたがたはその労苦の実を得ている
人はイエスに言った。「主よ。どうか
です。」 39 さて、その町のサマリヤ
私の子どもが死なないうちに下って来
人のうち多くの者が、「あの方は、私
てください。」 50 イエスは彼に言わ
がしたこと全部を私に言った。」と証
れた。「帰って行きなさい。あなたの
言したその女のことによってイエス
息子は直っています。」その人はイエ
を信じた。 40 そこで、サマリヤ人た
スが言われたことばを信じて、帰途に
ちはイエスのところに来たとき、自分
ついた。 51 彼が下って行く途中、そ
たちのところに滞在してくださるよう
のしもべたちが彼に出会って、彼の息
に願った。そこでイエスは二日間そこ
子が直ったことを告げた。 52 そこで
に滞在された。 41 そして、さらに多
子どもがよくなくなった時刻を彼らに尋ね
くの人々が、イエスのことばによって
ると、「きのう、七時に熱がひきまし
信じた。 42 そして彼らはその女に言
た。」と言った。 53 それで父親は、

イエスが「あなたの息子は直っている」と言われた時刻と同じであること、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなりました。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」**14** その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた。**15** このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。**16** イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」**17** このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。**18** そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。父がなさることは何でも、子ども同様に行なうのです。」**19** それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです。また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。それは、あなたがたが驚き怪しむためです。**20** 父が死人を生かし、いのちをお与えになるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。**21** また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。**22** それは、すべての者が、父を敬うように子を敬うためです。子を敬わない者は、子を遣わし

5 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。**2** さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスタと呼ばれる池があって、五つの回廊がついていた。**3** その中に大ぜいの病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者が伏せていた。**4** そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた。**5** イエスは彼が伏せているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」**6** 病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」**7** イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」**8** すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。**9** そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った。「きょうは安息日だ。床を取り上げてはいけない。」**10** しかし、その人は彼らに答えた。「私を直してくださった方が、『床を取り上げて歩け。』と言われたのです。」**11** 彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け。』と言った人はだれだ。」**12** しかし、いやされた人は、それがだれであるか知らなかった。人が大ぜいそこにいる間に、イエスは

た父をも敬いません。 **24** まことに、**24** まことに、あなたに告げます。あなたは輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。 **35** しかし、わたしにはヨハネの証言よりもすぐれた証言があります。父がわたしに成し遂げさせようとしてお与えになったわが、すなわちわたしが行なっているわがそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わしたことを証言しているのです。 **36** また、わたしを遣わした父ご自身がわたしについて証言しておられます。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を見たこともありません。 **37** また、そのみことばをあなたがたのうちにとどめてもいません。父が遣わした者をあなたがたが信じないからです。 **38** あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。 **(aiōnios g166)** **39** それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。 **40** わたしは人からの榮譽は受けません。 **41** ただ、わたしはあなたがたを知っています。あなたがたのうちには、神の愛がありません。 **42** わたしはわたしの父の名によって来ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。ほかの人がその人自身の名において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。 **43** 互いの榮譽は受けても、唯一の神からの榮譽を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。 **44** わたしが、父の前にあなたがたを訴えようとしていると思っ

た父をも敬いません。 **24** まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。 **25** それは、父がご自分のうちにいのちを持つておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにして下さったからです。 **26** また、父はさばきを行なう権を子に与えられました。子は人の子だからです。 **27** このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。 **28** 善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。 **29** わたしは、自分からは何事も行なうことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。 **30** もしわたしだけが自分のことを証言するのなら、わたしの証言は真実ではありません。 **31** わたしについて証言する方がほかにあるのです。その方のわたしについて証言される証言が真実であることは、わたしが知っています。 **32** あなたがたは、ヨハネのところに人をやりましたが、彼は真理について証言しました。 **33** といっても、わたしは人の証言を受けるものではありません。わたしは、あなたがたが救われるた

訴える者は、あなたがたが望みをおいているモーセです。46 もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。47 しかし、あなたがたがモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょう。」

6 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、テベリヤの湖の向こう岸へ行かれた。2 大ぜいの人の群れがイエスにつき従っていた。それはイエスが病人たちになさっていたしるしを見たからである。3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこにすわられた。4 さて、ユダヤ人の祭りである過越が間近になっていた。5 イエスは目を上げて、大ぜいの人の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」6 もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。9 「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」10 イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。11 そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげながら、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしいだけ分けられた。12 そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」13 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ。」と言った。15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。16 夕方になって、弟子たちは湖畔に降りて行った。17 そして、舟に乗り込み、カペナウムのほうへ湖を渡っていた。すでに暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところに来ておられなかった。18 湖は吹きまくる強風に荒れ始めた。19 こうして、四、五千メートルほどこぎ出したころ、彼らは、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、恐れた。20 しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしだ。恐れることはない。」21 それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的の地に着いた。22 その翌日、湖の向こう岸にいた群衆は、そこには小舟が一隻あっただけで、ほかにはなかったこと、また、その舟にイエスは弟子たちといっしょに乗られないで、弟子たちだけが行ったということに気づいた。23 しかし、主が感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の

近くに、テベリヤから数隻の小舟が来た。24 群衆は、イエスがそこにおられ、弟子たちもいないことを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに来了。25 そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。「先生。いつここにおいでになりましたか。」26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」(aiōnios g166) 28 すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。」31 私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた。』と書いてあるとおりです。」32 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」34 そこで彼らはイエスに言った。「主よ、いつもそのパンを私たちにお与えください。」35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。36 しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。38 わたしが天から下って来たのは、自分のところを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみところを行なうためです。39 わたしを遣わした方のみところは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。40 事実、わたしの父のみところは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」(aiōnios g166) 41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンである。」と言われたので、イエスについてつぶやいた。42 彼らは言った。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうしていま彼は『わたしは天から下って来た。』と言うのか。」43 イエスは彼らに答えて言われた。「互いにつぶやくのはやめなさい。44 わたしを遣わした父が引き

寄せられないかぎり、だれもわたしのうちに来るところにはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。45 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられます。』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。46 だれも神を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。(aiōnios g166) 48 わたしはいのちのパンです。49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死にました。50 しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。』(aiōn g165) 52 すると、ユダヤ人たちは、「この人は、どのようにしてその肉を私たちに与えて食べさせることができるのか。」と言って互いに議論し合った。53 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。(aiōnios g166) 55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。57 生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きていくように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。58 これは、天から下って来たパンです。あなたがたの先祖が食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています。」(aiōn g165) 59 これは、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」61 しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知っておられ、彼らに言われた。「このことでああなたがたはつまづくのか。62 それでは、もし人の子がもといた所に上るのを見たら、どうなるのか。63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。64 しかし、あなたがたのうちには信じない者がいます。」——イエスは初めから、信じない者がだれであるか、裏切る者がだれであるかを、知っておられたのである。——65 そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのかぎり、だれもわたしのところに来るところにはできない。』と言ったのです。」66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。67 そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたい

と思うのではないでしょう。」 68すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのこトバを持っておられます。(aiōnios g166) 69私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」 70イエスは彼らに答えられた。「わたしがあなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかしそのうちのひとりには悪魔です。」 71イエスはイスカリオテ・シモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二弟子のひとりであったが、イエスを売ろうとしていた。

7その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。それは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡りたいとは思われなかったからである。2さて、仮庵の祭りというユダヤ人の祝いが近づいていた。3そこで、イエスの兄弟たちはイエスに向かって言った。「あなたの弟子たちもあなたがしているわざを見ることができるように、ここを去ってユダヤに行きなさい。4自分から公の場に出たいと思いながら、隠れた所で事を行なう者はありません。あなたがこれらの事を行なうのなら、自分を世に現わしなさい。」 5兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。6そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。7世はあなたがたを憎むことはできません。しかしわたしを憎んでいます。わたしが、世について、その行ないが悪いことをあかしするからです。8あなたが

たは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りには行きません。わたしの時がまだ満ちていないからです。」 9こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。10しかし、兄弟たちが祭りに上ったとき、イエスご自身も、公にはなく、いわば内密に上って行かれた。11ユダヤ人たちは、祭りのとき、「あの方はどこにおられるのか。」と言って、イエスを捜していた。12そして群衆の間には、イエスについて、いろいろとひそひそ話がされていた。「良い人だ。」と言う者もあり、「違う。群衆を惑わしているのだ。」と言う者もいた。13しかし、ユダヤ人たちは恐れたため、イエスについて公然と語る者はひとりもいなかった。14しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められた。15ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規に学んだことがないのに、どうして学問があるのか。」16そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。17だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。18自分から語る者は、自分の栄光を求めます。しかし自分を遣わした方の栄光を求める者は真実であり、その人には不正がありません。19モーセがあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも、律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとするのですか。」 20群衆は答えた。「あなた

は悪霊につかれています。だれがあなたを殺そうとしているのですか。」 21 イエスは彼らに答えて言われた。「わたしは一つのわざをしました。それであなたがたはみな驚いています。 22 モーセはこのためにあなたがたに割礼を与えました。――ただし、それは一セから始まったのではなく、先祖たちからです。――それで、あなたがたは安息日にも人に割礼を施しています。 23 もし、人がモーセの律法が破られないようにと、安息日にも割礼を受けるのなら、わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、何でわたしに腹を立てるのですか。 24 うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」 25 そこで、エルサレムのある人たちが言った。「この人は、彼らが殺そうとしている人ではないか。 26 見なさい。この人は公然と語っているのに、彼らはこの人に何も言わない。議員たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知ったのだろうか。 27 けれども、私たちはこの人がどこから来たのか知っている。しかし、キリストが来られるとき、それが、どこからか知っている者はだれもないのだ。」 28 イエスは、宮で教えておられるとき、大声をあげて言われた。「あなたがたはわたしを知っており、また、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たのではありませぬ。わたしを遣わした方は真実です。あなたがたは、その方を知らないのです。 29 わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わし

たからです。」 30 そこで人々はイエスを捕えようとしたが、しかし、だれもイエスに手をかけた者はなかった。イエスの時が、まだ来ていなかったからである。 31 群衆のうちの多くの者たちがイエスを信じて言った。「キリストが来られても、この方がしているよりも多くのしるしを行なわれるだろうか。」 32 パリサイ人は、群衆がイエスについてこのようなことをひそひそと話しているのを耳にした。それで祭司長、パリサイ人たちは、イエスを捕えようとして、役人たちを遣わした。 33 そこでイエスは言われた。「まだしばらくの間、わたしはあなたがたというわべによって人をさばかないで、正しい方のもとに行きます。 34 あなたがたはわたしを捜しますが、見いだすことはありません。また、わたしがいる所に、あなたがたは来ることができません。」 35 そこで、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちには、見つからないという。それならあの人はどこへ行こうとしているのか。まさかギリシヤ人の中に離散している人々のところへ行行って、ギリシヤ人を教えるつもりではあるまい。 36 『あなたがたはわたしを捜すが、見いだすことはできない。』また『わたしのいる所にあなたがたは来ることができない。』とあの人が言ったこのことばは、どういう意味だろうか。」 37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いでいるなら、わたしのもとに来て飲みなさい。 38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るよう

になる。」 39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。 40 このことばを聞いて、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにあの預言者なのだ。」と言い、 41 またある者は、「この方はキリストだ。」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラヤからは出ないだろう。 42 キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」 43 そこで、群衆の間にイエスのことで分裂が起こった。 44 その中にはイエスを捕えたいと思った者もいたが、イエスに手をかけた者はなかった。 45 それから役人たちは祭司長、パリサイ人たちのもとに帰って来た。彼らは役人たちに言った。「なぜあの人を連れて来なかったのか。」 46 役人たちは答えた。「あの方が話すように話した人は、いまだかつてありません。」 47 すると、パリサイ人が答えた。「おまえたちも惑わされているのか。 48 議員とかパリサイ人のうちで、だれかイエスを信じた者があったか。 49 だが、律法を知らないこの群衆は、のろわれている。」 50 彼らのうちのひとりで、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。 51 「私たちの律法では、まずその人から直接聞き、その人が何をしているのか知ったうえでなければ、判決を下さないのではないか。」 52 彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤの出身なのか。調べてみなさい。ガリラヤ

から預言者は起こらない。」 53 [そして人々はそれぞれ家に帰った。

8 イエスはオリーブ山に行かれた。 2 そして、朝早く、イエスはもう一度宮にはいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。 3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、 4 イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。 5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」 6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。 7 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」 8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。 9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。 10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」 11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」] 12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに

従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」
13 ところでパリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分のことを自分で証言しています。だから、あなたの証言は真実ではありません。」
14 イエスは答えて、彼らに言われた。「もしこのわたしが自分のことを証言するならば、その証言は真実です。わたしは、わたしがどこから来たか、また、どこへ行くかを知っているからです。しかしあなたがたは、わたしがどこから来たか、またどこへ行くのか知りません。」
15 あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません。
16 しかし、もしわたしがさばくなら、そのさばきは正しいのです。なぜなら、わたしひとりではなく、わたしとわたしを遣わした方がさばくからです。
17 あなたがたの律法にも、わたしの証言は真実であると書かれています。
18 わたしが自分の証人であり、わたしを遣わした父が、わたしについてあかしされます。」
19 すると、彼らはイエスに言った。「あなたの父はどこにいるのですか。」
イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしをも、わたしの父をも知りません。もし、あなたがたがわたしを知っていたら、わたしの父をも知っていたでしょう。」
20 イエスは宮で教えられたとき、献金箱のある所でこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕えなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。
21 イエスはまた彼らに言われた。「わたしは去って行きます。あなたがたはわたしを捜すけれども、自分の罪の中で死に

わたしが行く所に、あなたがたは来ることができません。」
22 ところで、ユダヤ人たちは言った。「あの人は『わたしが行く所に、あなたがたは来ることができない。』』と言うが、自殺するつもりなのか。」
23 それでイエスは彼らに言われた。「あなたがたが来たのは下からであり、わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世の者であり、わたしはこの世の者ではありません。
24 それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。」
25 ところで、彼らはイエスに言った。「あなたはだれですか。」
イエスは言われた。「初めからわたしがあなたに話して来たことは何でしたか。」
26 あなたがたについて言うべきことと、さばくべきことがたくさんあります。しかし、わたしを遣わした方は真実であって、わたしはその方から聞いたことをそのまま世に告げるのです。」
27 彼らは、イエスが父のことを語っておられたことを悟らなかつた。
28 イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げてしまうと、その時、あなたがたは、わたしが何であるか、また、わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していることを、知るようになります。
29 わたしを遣わした方はわたしとともにおられます。わたしをひとり残されることはありません。わたしがいつも、そのみどころにかなうことを行なうからです。」
30 イエスがこれらのことを話し

ておられると、多くの者がイエスを信ずる。41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行なっています。」彼らは言った。「私たちは不品行によってあなたがたが、わたしのことばにとどまらなれば、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。42 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」43 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどのようにして、神がわたしを遣わしたのです。43 『あなたがたは自由になる。』と言われるのですか。」44 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。45 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし、息子はいつまでもいます。(aiōn g165) 46 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。47 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちにはいっていないからです。48 わたしは父のもとで見たことを話しています。ところが、あなたがたは、あなたがたの父から示されたことを行なうのです。」49 彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行ないなさい。40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに話しているこのわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのようなことはしなかったのです。41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行なっています。」彼らは言った。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちに父、神があります。」42 イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずで、なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。43 あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼らには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。45 しかし、このわたしは真理を話しているために、あなたがたはわたしを信じません。46 あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」48 ユダヤ人たちは答えて、イエスに言った。「私たちが、あなたはサマリヤ人で、悪霊につかれていると言うのは当然ではありませんか。」49 イエス

は答えられた。「わたしは悪霊につか
れてはいません。わたしは父を敬って
います。しかしあなたがたは、わたし
を卑しめています。50しかし、わた
しはわたしの榮譽を求めません。それ
をお求めになり、さばきをなさる方が
おられます。51まことに、まことに
、あなたがたに告げます。だれでもわ
たしのことばを守るならば、その人は
決して死を見ることはありません。」
(aiōn g165) 52 ユダヤ人たちはイエスに言
った。「あなたが悪霊につかれている
ことが、今こそわかりました。アブラ
ハムは死に、預言者たちも死にました
。しかし、あなたは、『だれでもわた
しのことばを守るならば、その人は決
して死を味わうことがない。』と言
うのです。(aiōn g165) 53 あなたは、私たち
の父アブラハムよりも偉大なのですか
。そのアブラハムは死んだのです。預
言者たちもまた死にました。あなたは
、自分自身をだれだと言うのですか
。」 54 イエスは答えられた。「わたし
がもし自分自身に栄光を帰するなら、
わたしの栄光はむなしいものです。わ
たしに栄光を与える方は、わたしの父
です。この方のことを、あなたがたは
『私たちの神である。』と言っています
。55けれどもあなたがたはこの方
を知ってはいません。しかし、わたし
は知っています。もしわたしがこの方
を知らないと言うなら、わたしはあな
たがたと同様に偽り者となるでしょう
。しかし、わたしはこの方を知ってお
り、そのみことばを守っています。56
あなたがたの父アブラハムは、わたし
の日を見ることを思っ大いに喜びま
した。彼はそれを見て、喜んだのです

。」 57そこで、ユダヤ人たちはイエ
スに向かって言った。「あなたはまだ
五十歳になっていないのにアブラハム
を見たのですか。」 58 イエスは彼ら
に言われた。「まことに、まことに、
あなたがたに告げます。アブラハムが
生まれる前から、わたしはいるのです
。」 59すると彼らは石を取ってイエ
スに投げつけようとした。しかし、イ
エスは身を隠して、宮から出て行かれ
た。

9 またイエスは道の途中で、生まれつ
きの盲人を見られた。2 弟子たちは
彼についてイエスに質問して言った。
「先生。彼が盲目に生まれついたのは
、だれが罪を犯したからですか。この
人ですか。その両親ですか。」 3 イエ
スは答えられた。「この人が罪を犯し
たのでもなく、両親でもありません。
神のわざがこの人に現われるためです
。4 わたしたちは、わたしを遣わした
方のわざを、昼の間に行なわなければ
なりません。だれも働くことのできな
い夜が来ます。5 わたしが世にいる間
、わたしは世の光です。」 6 イエスは
、こう言ってから、地面につばきをし
て、そのつばきで泥を作られた。そし
てその泥を盲人の目に塗って言われた
。7 「行って、シロアム（訳して言え
ば、遣わされた者）の池で洗いなさい
。」そこで、彼は行って、洗った。す
ると、見えるようになって、帰って行
った。8 近所の人たちや、前に彼がこ
じきをしていたのを見ていた人たちが
言った。「これはすわって物ごいをし
ていた人ではないか。」 9 ほかの人は
、「これはその人だ。」と言ひ、また
ほかの人は、「そうではない。ただそ

の人に似ているだけだ。」と言った。人はあなたがたの息子で、生まれつき
盲人は、「私がその人です。」と言った。盲目だったとあなたがたが言っている
た。10そこで、彼らは言った。「そ人ですか。それでは、どうしていま見
れでは、あなたの目はどのようにしてえるのですか。」20そこで両親は答
あいたのですか。」11彼は答えた。えた。「私たちは、これが私たちの息
「イエスという方が、泥を作って、私子で、生まれつき盲目だったことを知
の目に塗り、『シロアムの池に行っています。21しかし、どのように
洗いなさい。』と私に言われました。していま見えるのかは知りません。ま
それで、行って洗うと、見えるようにた、だれがあれの目をあけたのか知り
なりました。」12また彼らは彼に言ません。あれに聞いてください。あれ
った。「その人はどこにいるのですかはもうおとなです。自分のことは自分
。」彼は「私は知りません。」と言っで話すでしょう。」22彼の両親がこ
た。13彼らは、前に盲目であったそう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れた
の人を、パリサイ人たちのところに連からであった。すでにユダヤ人たちは
れて行った。14ところで、イエスが、イエスをキリストであると告白する
泥を作って彼の目をあけられたのは、者があれば、その者を会堂から追放す
安息日であった。15こういうわけでると決めていたからである。23その
もう一度、パリサイ人も彼に、どのよために彼の両親は、「あれはもうおと
うにして見えるようになったかを尋ねなです。あれに聞いてください。」と
た。彼は言った。「あの方が私の目に言ったのである。24そこで彼らは、
泥を塗ってくださって、私が洗いまし盲目であった人をもう一度呼び出して
た。私はいま見えるのです。」16す言った。「神に栄光を帰しなさい。私
ると、パリサイ人の中のある人々が、たちはあの方が罪人であることを知っ
「その人は神から出たのではない。安てているのだ。」25彼は答えた。「あ
息日を守らないからだ。」と言った。の方が罪人かどうか、私は知りません
しかし、ほかの者は言った。「罪人で。ただ一つのことだけ知っています。
ある者に、どうしてこのようなしるし私は盲目であったのに、今は見えると
を行なうことができよう。」そして、いうことです。」26そこで彼らは言
彼らの間に、分裂が起こった。17そった。「あの人はおまえに何をしたの
こで彼らはもう一度、盲人に言った。か。どのようにしてその目をあけたの
「あの方が目をあけてくれたことで、か。」27彼は答えた。「もうお話し
あの人を何だと思っているのか。」彼したのですが、あなたがたは聞いてく
は言った。「あの方は預言者です。」れませんでした。なぜもう一度聞こう
18しかしユダヤ人たちは、目が見えるとするのです。あなたがたも、あの方
ようになったこの人について、彼が盲の弟子になりたいのですか。」28彼
目であったが見えるようになったといらは彼をののしって言った。「おまえ
うことを信ぜず、ついにその両親を呼もあの方の弟子だ。しかし私たちはモ
び出して、19尋ねて言った。「この一セの弟子だ。29私たちは、神がモ

一セにお話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らないのだ。」 30 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。 31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。 32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。(aiōn g165) 33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずです。」 34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。 35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」 36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がお方を信じることができますように。」 37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」 38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。 39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目が見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」 40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」 41

イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と語っています。あなたがたの罪は残るのです。」

10 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門からはいらないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。 2 しかし、門からはいる者は、その羊の牧者です。 3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。 4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているので、彼について行きます。 5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」 6 イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった。 7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。 8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。 9 わたしは門です。だれでも、わたしを通ってはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つめます。 10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。 11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨て

ます。12 牧者でなく、また、羊の所
有者でない雇い人は、狼が来るのを見
ると、羊を置き去りにして、逃げて行
きます。それで、狼は羊を奪い、また
13 それは、彼が雇い
人であって、羊のことを心にかけてい
ないからです。14 わたしは良い牧者
です。わたしはわたしのものを知って
います。また、わたしのものは、わた
しを知っています。15 それは、父が
わたしを知っておられ、わたしが父を
知っているのと同様です。また、わた
し、あなたがたは信じません。それは
16 わたしにはまた、この囲い
に属さないほかの羊があります。わた
しはそれをも導かなければなりません
。彼らはわたしの声に聞き従い、一つ
の群れ、ひとりの牧者となるのです。
17 わたしが自分のいのちを再び得るた
めに自分のいのちを捨てるからこそ、
父はわたしを愛してくださいます。18
だれも、わたしからいのちを取った者
はいません。わたしが自分からいのち
を捨てるのです。わたしには、それを
捨てる権威があり、それをもう一度得
る権威があります。わたしはこの命令
をわたしの父から受けたのです。」19
このみことばを聞いて、ユダヤ人たち
の間にまた分裂が起こった。20 彼ら
のうちの多くの者が言った。「あれは
悪霊につかれて気が狂っている。どう
してあなたがたは、あの人の言うこと
に耳を貸すのか。」21 ほかの者は言
った。「これは悪霊につかれた者のこ
とばではない。悪霊がどうして盲人の
目をあけることができようか。」22
そのころ、エルサレムで、宮きよめ
の祭りがあった。23 時は冬であった。34 イエスは彼らに答えられた。「あな

イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を
歩いておられた。24 それでユダヤ人
たちは、イエスを取り囲んで言った。
「あなたは、いつまで私たちに気をも
ませるのですか。もしあなたがキリス
トなら、はっきりとそう言ってくださ
い。」25 イエスは彼らに答えられた
。「わたしは話しました。しかし、あ
なたがたは信じないのです。わたしが
父の御名によって行なうわざが、わた
しについて証言しています。26 しか
し、あなたがたは信じません。それは
、あなたがたがわたしの羊に属してい
ないからです。27 わたしの羊はわた
しの声を聞き分けます。またわたしは
彼らを知っています。そして彼らはわ
たしについて来ます。28 わたしは彼
らに永遠のいのちを与えます。彼らは
決して滅びることがなく、また、だれ
もわたしの手から彼らを奪い去るよ
うなことはありません。(aiōn g165, aiōnios
g166) 29 わたしに彼らをお与えになつた
父は、すべてにまさって偉大です。だ
れもわたしの父の御手から彼らを奪い
去ることはできません。30 わたしと
父とは一つです。」31 ユダヤ人たち
は、イエスを石打ちにしようとして、
また石を取り上げた。32 イエスは彼
らに答えられた。「わたしは、父から
出た多くの良いわざを、あなたがたに
示しました。そのうちのどのわざのた
めに、わたしを石打ちにしようとする
のですか。」33 ユダヤ人たちはイエ
スに答えた。「良いわざのためにあな
たを石打ちにするのではありません。
冒涇のためです。あなたは人間であり
ながら、自分を神とするからです。」

たがたの律法に、『わたしは言った、あなたがたは神である。』と書いてはありますか。 35 もし、神のことばを受けた人々を、神と呼んだとすれば、聖書は廃棄されるものではないから、 36 『わたしは神の子である。』とあなたがたが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖別して世に遣わした者について、『神を冒瀆して

て、言った。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」 4 イエスはこれを聞いて、言われ

た。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受け

るためです。」 5 イエスはマルタとそ

の姉妹とラザロとを愛しておられた。

6 そのようなわけで、イエスは、ラザ

ロが病んでいることを聞かれたときも

、そのおられた所になお二日とどまら

れた。 7 その後、イエスは、「もう一

いなさい。 38 しかし、もし行なつて

いられるなら、たとえわたしの言うことが

信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に

いることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」 39

そこで、彼らはまたイエスを捕えようとし

た。しかし、イエスは彼らの手から

がれられた。 40

そして、イエスはまたヨルダンを渡って、ヨハネが初めに

バプテスマを授けていた所に行かれ、

そこに滞在された。 41

多くの人がイエスのところに来た。彼らは、「ヨハネは何一つしるしを行なわなかったけれども、彼がこの方について話したことはみな真実であった。」と

言った。 42

そして、その地方で多くの人がイエスを信じた。

11 さて、ある人が病気にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。 2 このマリヤは、主に香油を塗り、髪の毛でその足をぬぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。 3

そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送っ

た。イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だが、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。 14

そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。 15

わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせ

なかつたことを喜んでいます。さあ、と言った。29 マリヤはそれを聞くと彼のところへ行きましょう。」16 そ、すぐ立ち上がって、イエスのところで、デドモと呼ばれるトマスが、弟に行つた。30 さてイエスは、まだ村子の仲間に行った。「私たちも行つてにはいらなくて、マルタが出迎えた場所におられた。31 マリヤとともに家」17 それで、イエスがおいでになつて、彼女を慰めていたユダヤ人たちをみると、ラザロは墓の中に入れられては、マリヤが急いで立ち上がって出て四日もたっていた。18 ベタニヤはエルサレムに近く、三千メートルほど行くのだからと思ひ、彼女について行離れた所にあつた。19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来てた所に来て、お目にかかる、その足いた。その兄弟のことについて慰めるもとにひれ伏して言った。「主よ。もためであつた。20 マルタは、イエスしここにいてくださつたなら、私の兄が来られたと聞いて迎えに行つた。マ弟は死ななかつたでしょうに。」33 リヤは家ですわつていた。21 マルタそこでイエスは、彼女が泣き、彼女とはイエスに向かつて言った。「主よ。いっしょに来たユダヤ人たちも泣いてもしここにいてくださつたなら、私のいるのをご覧になると、霊の憤りを覚兄弟は死ななかつたでしょうに。22 え、心の動揺を感じて、34 言われた今でも私は知っております。あなたが。「彼をどこに置きましたか。」彼ら神にお求めになることは何でも、神ははイエスに言った。「主よ。来てご覧あなたにお与えになります。」23 イください。」35 イエスは涙を流されエスは彼女に言われた。「あなたの兄た。36 そこで、ユダヤ人たちは言つた。37 しかしのよみがえりの時に、彼がよみがえる、「盲人の目をあけたこの方が、あのことを知っております。」25 イエスを死なせないでおくことはできなかは言われた。「わたしは、よみがえりつたのか。」と言う者もいた。38 そです。いのちです。わたしを信じる者こでイエスは、またも心のうちに憤りは、死んでも生きるのです。26 またを覚えながら、墓に来られた。墓はほら穴であつて、石がそこに立てかけてあつた。39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言つた。「主よ。もう臭なくなつておりました。四日になりまである、と信じております。」28 こすから。」40 イエスは彼女に言われう言つてから、歸つて行つて、姉妹マた。「もしあなたが信じるなら、あなたを呼び、「先生が見えています。たは神の栄光を見る、とわたしは言つあなたを呼んでおられます。」とそつたではありませんか。」41 そこで、

彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。42 わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになられたことを、預言したのである。53 そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てよう申しましたのです。」43 そして、イエスはそう言われると、大声で叫びました。「ラザロよ。出て来なさい。」44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」45 そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなされたことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。46 しかし、そのうちの幾人かは、パリサイ人たちのところへ行って、イエスのなされたことを告げた。47 そこで、祭司長とパリサイ人たちは議会を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの人が多いのしるしを行なっているというのに。48 もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も奪い取ることになる。」49 しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは全然何もわかっていない。50 ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が滅びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」51 ところが、このことは彼が自分から言ったのではなくて、その年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしたい。52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。53 そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。54 そのために、イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをしないで、そこから荒野に近い地方に去り、エフラ임という町にはいり、弟子たちとともにそこに滞在された。55 さて、ユダヤ人の過越の祭りが間近であった。多くの人々が、身を清めるために、過越の祭りの前にいなかからエルサレムに上って来た。56 彼らはイエスを捜し、宮の中に立って、互いに言った。「あなたがたはどう思いますか。あの方は祭りに来られることはないでしょうか。」57 さて、祭司長、パリサイ人たちはイエスを捕えるために、イエスがどこにいるかを知っている者は届け出なければならぬという命令を出していた。

12 イエスは過越の祭りの六日前にベタニヤに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。2 人々はイエスのために、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた。3 マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。4

ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ・ユダが言った。5「なぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」6しかしこう言ったのは、彼が貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたからである。7イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。8。19そこで、パリサイ人たちは互いあなたがたは、貧しい人々とはいつもいっしょにいるが、わたしとはいつもいっしょにいるわけではないからです。」9大ぜいのユダヤ人の群れが、イエスがそこにおられることを聞いて、ただイエスのためだけでなく、イエスによって死人の中からよみがえったラザロを見るためでもあった。10祭司長たちはラザロでも殺そうと相談した。11それは、彼のために多くのユダヤ人が去って行き、イエスを信じるようになったからである。12その翌日、祭りに来ていた大ぜいの人の群れは、イエスがエルサレムに来ようとしておられると聞いて、13しゅろの木の枝を取って、出迎えるために出て行った。そして大声で叫んだ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」14イエスは、ろばの子を見つけて、それに乗られた。それは次のように書かれているとおりであった。15「恐れるな。シオンの娘。見よ。あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」16初め、弟子たちにはこれらのことがわからなかった。しかし、イエスが栄光を受けられてから、これらのことがイエスについて書かれたことであって、人々がそのとおりにイエスに対して行なったことを、彼らは思い出した。17イエスがラザロを墓から呼び出し、死人の中からよみがえらせたときにイエスといっしょにいた大ぜいの人々は、そのことのあかしをした。18そのために群衆もイエスを出迎えた。イエスがこれらのしるしを行なわれたことを聞いたからである。19そこで、パリサイ人たちは互いあなたがたは、貧しい人々とはいつもいっしょにいるが、わたしとはいつもいっしょにいるわけではないからです。」20さて、祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシヤ人が幾人かいた。21この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て、「先生。イエスにお目にかかりたいのですが。」と言って頼んだ。22ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポとは行って、イエスに話した。23すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。24まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。25自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。(aiōnios g166) 26わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。も

しわたしに仕えるなら、父はその人に
報いてくださいます。 27 今わたしの
心は騒いでいる。何と言おうか。『父
よ。この時からわたしをお救いくださ
い。』と言おうか。いや。このために
こそ、わたしはこの時に至ったので
す。 28 父よ。御名の栄光を現わしてく
ださい。」そのとき、天から声が聞こ
えた。「わたしは栄光をすでに現わし
たし、またもう一度栄光を現わそう。
」 29 そばに立っていてそれを聞いた
群衆は、雷が鳴ったのだと言った。ほ
かの人々は、「御使いがあの方に話し
たのだ。」と言った。 30 イエスは答
えて言われた。「この声が聞こえたの
は、わたしのためにではなくて、あな
たがたのためにです。 31 今がこの世
のさばきです。今、この世を支配する
者は追い出されるのです。 32 わたし
が地上から上げられるなら、わたしは
すべての人を自分のところに引き寄せ
ます。」 33 イエスは自分がどのよう
な死に方で死ぬかを示して、このこと
を言われたのである。 34 そこで、群
衆はイエスに答えた。「私たちは、律
法で、キリストはいつまでも生きてお
られると聞きましたが、どうしてあな
たは、人の子は上げられなければならない、
と言われるのですか。その人の
子とはだれですか。」 (aiōn g165) 35 イ
エスは彼らに言われた。「まだしばらく
の間、光はあなたがたの間にあります
。やみがあなたがたを襲うことのない
ように、あなたがたは、光がある間に
歩きなさい。やみの中を歩く者は、自
分がどこに行くのかわかりません。 36
あなたがたに光がある間に、光の子ど
もとなるために、光を信じなさい。」
イエスは、これらのことをお話しにな
ると、立ち去って、彼らから身を隠さ
れた。 37 イエスが彼らの目の前でこ
のように多くのしるしを行なわれたの
に、彼らはイエスを信じなかった。 38
それは、「主よ。だれが私たちの知ら
せを信じましたか。また主の御腕はだ
れに現わされましたか。」と言った預
言者イザヤのことばが成就するためで
あった。 39 彼らが信じることができ
なかったのは、イザヤがまた次のよう
に言ったからである。 40 「主は彼ら
の目を盲目にされた。また、彼らの心
をかたくなにされた。それは、彼ら
が目で見、心で理解し、回心し、そし
てわたしが彼らをいやす、ということ
がないためである。」 41 イザヤがこ
う言ったのは、イザヤがイエスの栄
光を見たからで、イエスをさして言
ったのである。 42 しかし、それにもか
かわらず、指導者たちの中にもイエ
スを信じる者がたくさんいた。ただ、
パリサイ人たちははばかりで、告白
はしなかった。会堂から追放されな
いためであった。 43 彼らは、神
からの榮譽よりも、人の榮譽を愛
したからである。 44 また、イエ
スは大声で言われた。「わたしを
信じる者は、わたしではなく、わた
しを遣わした方を信じるのです。 45
また、わたしを見る者は、わたしを
遣わした方を見るのです。 46 わた
しは光として世に来ました。わたし
を信じる者が、だれもやみの中にと
どまることのないためです。 47
だれかが、わたしの言うことを聞
いてそれを守らなくても、わたし
はその人をさばきません。わたし
は世をさばくために来たのではなく、
世を救うために来たから

です。48 わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。49 わたしは、自分から話したではありません。わたしを遣わした父ご自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。50 わたしは、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、わたしが話していることは、父がわたしに言われたとおりを、そのままに話しているのです。」 (aiōnios g166)

13 さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。2 夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行くことを知られ、4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまどっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」8 ペテロはイエスに言った。「洗

て私の足をお洗いにならないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」 (aiōn g165) 9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない。」と言われたのである。12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。18 わたしは、あなたがた全部の者について言っているではありません。わたしは、わたしが選んだ者を知っています。しかし聖書に『わたしのパンを食べ

ている者が、わたしに向かってかかとを上げた。』と書いてあることは成就するのです。19 わたしは、そのことが起こる前に、今あなたがたに話しておきます。そのことが起こったときに、わたしがその人であることをあなたがたが信じるためです。20 まことに、あなたがたに告げます。わたしの遣わす者を受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。わたしを遣わした方を受け入れるのです。」21 イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。」22 弟子たちは、だれのことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。23 弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。24 そこで、シモン・ペテロが彼に合図をして言った。「だれのことを言っておられるのか、知らせなさい。」25 その弟子は、イエスの右側で席に着いたまま、イエスに言った。「主よ。それはだれですか。」26 イエスは答えられた。「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。27 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼にはいった。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」28 席に着いている者で、イエスが何のためにユダにそう言われたのか知

っている者は、だれもなかった。29 ユダが金入れを持っていたので、イエスが彼に、「祭りのために入用の物を買え。」と言われたのだとか、または、貧しい人々に何か施しをするように言われたのだとか思った者も中にはいなかった。30 ユダは、パン切れを受けると、すぐ、外に出て行った。すでに夜であった。31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。32 神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。33 子どもたちよ。わたしはいましばらくの間、あなたがたといっしょにいます。あなたがたはわたしを捜すでしょう。そして、『わたしが行く所へは、あなたがたは来ることができない。』とわたしがユダヤ人たちに言ったように、今はあなたがたにも言うのです。34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ。どこにおいてになるのですか。」イエスは答えられた。「あなたがしようとした。『わたしが行く所に、あなたは今とついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。』37 ペテロはイエスに言った。「主よ。なぜ今は

あなたについて行くことができないのですか。あなたのためにはいのちも捨てます。」 38 イエスは答えられた。「わたしのためにはいのちも捨てる、と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

14 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。 2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。 3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。 4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」 5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」 6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。 7 あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」 8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」 9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らな

ったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。 10 わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。 11 わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。 12 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。 13 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。 14 あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう。 15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずですが。 16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。(aiōn g165) 17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児たがたにわたしの平安を与えます。わたしにはしません。わたしは、あなたがたがたにわたしがあなたがたに与えるのは、世がのところに戻って来るのです。 19 い与えるのとは違います。あなたがたはましばらくで世はもうわたしを見なく心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。しかし、あなたがたはわたなりません。 28 『わたしは去って行しを見ます。わたしが生きるので、あなき、また、あなたがたのところに来るあなたがたも生きるからです。 20 その。』とわたしが言ったのを、あなたが日には、わたしが父におり、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかりのものと行くことを喜ぶはずです。父を愛する人は、わたしを愛する人です。 29 そして今わたしは、そのことの起こわたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身が彼に現わします。」 22 イスカリヤはわたしを愛する人ではない。わたしは、もう、あなたを愛してないユダがイエスに言った。「あなたがたに多くは話すまい。この世を主よ。あなたは、私たちにはご自分を支配する者が来るからです。彼はわたしを現わそうとしながら、世には現わそうしに対して何もすることはできません。 31 しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」

23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。 24 わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたがたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。 25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。 26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてください。 27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなた

15 わたしはまことのおどろの木であり、わたしの父は農夫です。 2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。 3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もう刈り込みが済むんだのです。 4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまりませぬ。枝がおどろの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。 5 わたしはおどろの木

で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。13 人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていない。14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。21 しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行ないます。それは彼らがわたしを遣わした方から知らないからです。22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。23

わたしを憎んでいる者は、わたしの父がたの心は悲しみでいっぱいになってをも憎んでいるのです。24 もしわたしが、ほかのだれも行なったことのないわが、ほかに、彼らの間で罪がなかったでしよう。しかし今、彼らはわたしをも、わたしの父をも見て、そのうえで憎んだのです。25 これは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ。』と彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。27 あなたがたもあかしするのです。初めからわたしといっしょにいたからです。

16 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつかずくことのないためです。2 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。3 彼らがこういうことを行なうのは、父をもわたしをも知らないからです。4 しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしが初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたといっしょにいたからです。5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなた

は、わたしを見なくなる。しかし、まけるのです。それはあなたがたの喜び
たしばらくするとわたしを見る。』まが満ち満ちたものとなるためです。 25
た『わたしは父のもとに行くからだ。これらのことを、わたしはあなたがた
』と主が言われるのは、どういうことにとたとえで話しました。もはやたとえ
なのだろう。」 18そこで、彼らは「では話さないで、父についてはっきり
しばらくすると、と主が言われるのはと告げる時が来ます。 26 その日には
何のことだろうか。私たちには主の言、あなたがたはわたしの名によって求
われることがわからない。」と言っためるのです。わたしはあなたがたに代
。 19 イエスは、彼らが質問したがっわって父に願ってあげようとは言いま
ていることを知って、彼らに言われたせん。 27 それはあなたがたがわたし
。「『しばらくするとあなたがたは、を愛し、また、わたしを神から出て来
わたしを見なくなる。しかし、またし、た者と信じたので、父ご自身があなた
しばらくするとわたしを見る。』とわたがたを愛しておられるからです。 28
しが言ったことについて、互いに論じわたしは父から出て、世にきました。
合っているのですか。 20 まことに、もう一度、わたしは世を去って父のみ
まことに、あなたがたに告げます。あもとに行きます。」 29 弟子たちは言
あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世はった。「ああ、今あなたははっきりと
喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、お話しになって、何一つたとえ話はな
しかし、あなたがたの悲しみは喜びにさいません。 30 いま私たちは、あな
変わります。 21 女が子を産むときにたがいつさいのことをご存じで、だれ
は、その時が来たので苦しみます。しもあるあなたにお尋ねする必要がないこと
かし、子を産んでしまうと、ひとりのがわかりました。これで、私たちはあ
人が世に生まれた喜びのために、もはあなたが神から来られたことを信じます
やその激しい苦痛を忘れてしまいます。」 31 イエスは彼らに答えられた。
。 22 あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたか。 32 見なさい。あなたがたが散ら
に会います。そうすれば、あなたがたされて、それぞれ自分の家に帰り、わ
の心は喜びに満たされます。そして、たしをひとり残す時が来ます。いや、
その喜びをあなたがたから奪い去る者すでに来ています。しかし、わたしは
はありません。 23 その日には、あなひとりではありません。父がわたしと
あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねまいつしよにおられるからです。 33 わ
せん。まことに、まことに、あなたがたしがこれらのことをあなたがたに話
たに告げます。あなたがたが父に求めしたのは、あなたがたがわたしにあっ
ることは何でも、父は、わたしの名にて平安を持つためです。あなたがたは
よってそれをあなたがたにお与えにな、世にあっては患難があります。しか
ります。 24 あなたがたは今まで、何し、勇敢でありなさい。わたしはすで
もわたしの名によって求めたことはあに世に勝ったのです。』
りません。求めなさい。そうすれば受

17 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください。 **2** それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。 (aiōnios g166) **3** その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。 (aiōnios g166) **4** あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました。 **5** 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。 **6** わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。 **7** いま彼らは、あなたがわたしに下さったものはみな、あなたから出ていることを知っています。 **8** それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。 **9** わたしは彼らのためにお願いします。世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのもものだからです。 **10** わたしのもものはみなあなたのもの、あなたのもものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。 **11** わたしはもう世にいなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。 **12** わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びた子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。 **13** わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。 **14** わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。 **15** 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。 **16** わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。 **17** 真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。 **18** あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。 **19** わたしは、彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。 **20** わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々

のためにもお願いします。21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいたるように、彼らが一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおられるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしにいたる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。25 正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これから知らせます。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」

18 イエスはこれらのことを話し終わられると、弟子たちとともに、ケデロンの川筋の向こう側に出て行かれた。そこに園があって、イエスは弟子

たちといっしょに、そこにはいられた。2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたからである。3 そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。4 イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出て来て、「だれを捜すのか。」と彼らに言われた。5 彼らは、「ナザレ人イエスを。」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです。」と言われたとき、彼はあとずさりし、そして地に倒れた。7 そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか。」と問われると、彼は「ナザレ人イエスを。」と言った。8 イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」9 それは、「あなたがわたしに下さった者のうち、ただのひとりをも失いませんでした。」とイエスが言われたことばが実現するためであった。10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを打ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」12 そこで、一隊の兵士と千人隊

長、それにユダヤ人から送られた役人」と言っ
て、平手でイエスを打った。たちは、イエスを捕えて縛り、**13** **23** イエスは彼に答えられた。「もしわ
ずアンナスのところに連れて行った。たしの言ったことが悪いなら、その悪
彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとい証拠を示しなさい。しかし、もし正
だったからである。**14** カヤパは、ひしいなら、なぜ、わたしを打つのか。
とりの人が民に代わって死ぬことが得」**24** アンナスはイエスを、縛ったま
策である、とユダヤ人に助言した人でまで大祭司カヤパのところに送った。
ある。**15** シモン・ペテロともうひと**25** 一方、シモン・ペテロは立って、暖
りの弟子は、イエスについて行った。まっていた。すると、人々は彼に言っ
この弟子は大祭司の知り合いで、イエた。「あなたもあの人の子ではない
スといっしょに大祭司の中庭にはいっでしょうね。」ペテロは否定して、「
た。**16** しかし、ペテロは外で門のとそんな者ではない。」と言った。**26**
ころに立っていた。それで、大祭司の大祭司のしもべのひとりで、ペテロに
知り合いである、もうひとりの弟子が耳を切り落とされた人の親類に当たる
出て来て、門番の女に話して、ペテロ者が言った。「私が見なかったとでも
を連れてはいった。**17** すると、門番いうのですか。あなたは園であの人と
のはしためがペテロに、「あなたもあいっしょにいました。」**27** それで、
の人の弟子ではないでしょうね。」とペテロはもう一度否定した。するとす
言った。ペテロは、「そんな者ではなぐ鶏が鳴いた。**28** さて、彼らはイエ
い。」と言った。**18** 寒かったので、スを、カヤパのところから総督官邸に
しもべたちや役人たちは、炭火をおこ連れて行った。時は明け方であった。
し、そこに立って暖まっていた。ペテ彼らは、過越の食事が食べられなくな
口も彼らといっしょに、立って暖まることがないように、汚れを受けまい
ていた。**19** そこで、大祭司はイエスとして、官邸にはいらなかった。**29**
に、弟子たちのこと、また、教えのこそこで、ピラトは彼らのところに出て
とについて尋問した。**20** イエスは彼来て言った。「あなたがたは、この人
に答えられた。「わたしは世に向かっに対して何を告発するのですか。」**30**
て公然と話しました。わたしはユダヤ彼らはピラトに答えた。「もしこの人
人がみな集まって来る会堂や宮で、いが悪いことをしていなかったら、私た
つも教えたのです。隠れて話したことちはこの人をあなたに引き渡しはしな
は何もありません。**21** なぜ、あなたかかったでしょう。」**31** そこでピラト
はわたしに尋ねるのですか。わたしがは彼らに言った。「あなたがたがこの
人々に何を話したかは、わたしから聞人を引き取り、自分たちの律法に従っ
いた人たちに尋ねなさい。彼らならわてさばきなさい。」ユダヤ人たちは彼
たしが話した事がらを知っています。に言った。「私たちには、だれを死刑
」**22** イエスがこう言われたとき、そにすることも許されてはいません。」
ばに立っていた役人のひとりが、「大**32** これは、ご自分がどのような死に方
祭司にそのような答え方をするのか。をされるのかを示して話されたイエス

のことばが成就するためであった。33 そこで、ピラトはもう一度官邸にはいって、イエスを呼んで言った。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」34 イエスは答えられた。「あなたは、自分でそのことを言っているのですか。それともほかの人が、あなたにわたしのことを話したのですか。」35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人ではないでしょう。あなたの同国人と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのです。あなたは何をしたのですか。」36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりで。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。39 しかし、過越の祭りに、私があなたがたのためにひとりの者を釈放するのがならわしになっています。それで、あなたがたのために、ユダヤ人の王を釈放することにしましょうか。」40 すると彼らはみな、また大声をあげて、「この人ではない。バラバだ。」と言った。このバラバは強盗であった。

19 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんごい。」と言ひ、またイエスの顔を平手で打った。4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということ、あなたがたに知らせるためです。」5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です。」と言った。6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ。」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちに律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。9 そして、また官邸にはいって、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」11 イエスは答えられた。「もし

それが上から与えられているのでな 書きを読んだ。イエスが十字架につけ
たら、あなたにはわたしに対して何 られた場所は都に近かったからである
の権威ありません。ですから、わた 。またそれはヘブル語、ラテン語、ギ
シをあなたに渡した者に、もっと大き リシヤ語で書いてあった。 21 そこ
い罪があるのです。」 12 こういうわ 、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、
けで、ピラトはイエスを釈放しようと 「ユダヤ人の王、と書かないで、彼は
努力した。しかし、ユダヤ人たちは激 ユダヤ人の王と自称した、と書いてく
しく叫んで言った。「もしこの人を釈 ださい。」と言った。 22 ピラトは答
放するなら、あなたはカイザルの味方 えた。「私の書いたことは私が書いた
ではありません。自分を王だとする者 のです。」 23 さて、兵士たちは、イ
はすべて、カイザルにそむくのです。 エスを十字架につけると、イエスの着
」 13 そこでピラトは、これらのこと 物を取り、ひとりの兵士に一つずつあ
ばを聞いたとき、イエスを外に引き出 たるよう四分した。また下着をも取っ
し、敷石（ヘブル語ではガパタ）と呼 したが、それは上から全部一つに織った
ばれる場所で、裁判の席に着いた。 14 、縫い目なしのものであった。 24 そ
その日は過越の備え日で、時は六時ご こで彼らは互いに言った。「それは裂
ろであった。ピラトはユダヤ人たちに かないで、だれの物になるか、くじを
言った。「さあ、あなたがたの王です 引こう。」それは、「彼らはわたしの
。」 15 彼らは激しく叫んだ。「除け 着物を分け合い、わたしの下着のため
。除け。十字架につける。」ピラトは にくじを引いた。」という聖書が成就
彼らに言った。「あなたがたの王を私 するためであった。 25 兵士たちはこ
が十字架につけるのですか。」祭司長 のようなことをしたが、イエスの十字
たちは答えた。「カイザルのほかには 架のそばには、イエスの母と母の姉妹
、私たちに王はありません。」 16 そ と、クロパの妻のマリヤとマグダラの
こでピラトは、そのとき、イエスを、 マリヤが立っていた。 26 イエスは、
十字架につけるため彼らに引き渡した 母と、そばに立っている愛する弟子と
。 17 彼らはイエスを受け取った。そ を見て、母に「女の方。そこに、あな
たの息子がいます。」と言われた。 27
て、「どくろの地」という場所（ヘブ それからその弟子に「そこに、あなた
ル語でゴルゴタと言われる）に出て行 の母がいます。」と言われた。その時
かれた。 18 彼らはそこでイエスを十 から、この弟子は彼女を自分の家に引
字架につけた。イエスといっしょに、 き取った。 28 この後、イエスは、す
ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、 べてのことが完了したのを知って、聖
イエスを真中にしてであった。 19 ピ 書が成就するために、「わたしは渴く
ラトは罪状書きも書いて、十字架の上 。」と言われた。 29 そこには酸いぶ
に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナ どう酒のいっぱいはいった入れ物が置
ザレ人イエス。」と書いてあった。 20 いてあった。そこで彼らは、酸いぶど
それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状 う酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけ

て、それをイエスの口もとに差し出した。30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に（その安息日は大いなる日であったので）、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。34 しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実である。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということをよく知っているのである。36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない。」という聖書のことばが成就するためであった。37 また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る。」と言われているからである。38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は来て、イエスのからだを取り降ろした。39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを混ぜ合わせたものを

およそ三十キログラムばかり持って、やって来た。40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料といっしょに亜麻布で巻いた。41 イエスが十字架につけられた場所に園があって、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。42 その日がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったので、彼らはイエスをそこに納めた。

20 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。5 そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。6 シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいつて来た。そして、見て、信じた。9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。10 それで、弟

弟子たちはまた自分のところに帰って行 弟子たちに告げた。 19 その日、すな
った。 11 しかし、マリヤは外で墓のと わち週の初めの日の夕方のことであつ
ころにたたずんで泣いていた。そして た。弟子たちがいた所では、ユダヤ人
、泣きながら、からだをかがめて墓の を恐れて戸がしめてあつたが、イエス
中をのぞき込んだ。 12 すると、ふた が来られ、彼らの中に立って言われた
りの御使いが、イエスのからだを置か 。「平安があなたがたにあるように。
れていた場所に、ひとりは頭のところ 』 20 こう言ってイエスは、その手と
に、ひとりは足のところに、白い衣を わき腹を彼らに示された。弟子たちは
まどってすわっているのが見えた。 13 、主を見て喜んだ。 21 イエスはもう
彼らは彼女に言った。「なぜ泣いてい 一度、彼らに言われた。「平安があな
るのですか。」彼女は言った。「だれ たがたにあるように。父がわたしを遣
かが私の主を取って行きました。どこ わしたように、わたしもあなたがたを
に置いたのか、私にはわからないので 遣わします。」 22 そして、こう言わ
す。」 14 彼女はこう言ってから、う れると、彼らに息を吹きかけて言われ
しろを振り向いた。すると、イエスが た。「聖霊を受けなさい。 23 あなた
立っておられるのを見た。しかし、彼 がたがだれかの罪を赦すなら、その人
女にはイエスであることがわからなか の罪は赦され、あなたがたがだれかの
った。 15 イエスは彼女に言われた。 罪をそのまま残すなら、それはそのま
「なぜ泣いているのですか。だれを捜 ま残ります。」 24 十二弟子のひとり
しているのですか。」彼女は、それを で、デドモと呼ばれるトマスは、イエ
園の管理人だと思って言った。「あな スが来られたときに、彼らといっしょ
たが、あの方を運んだのでしたら、ど にいなかった。 25 それで、ほかの弟
こに置いたのか言ってください。そう 子たちが彼に「私たちは主を見た。」
すれば私が引き取ります。」 16 イエ と言った。しかし、トマスは彼らに「
スは彼女に言われた。「マリヤ。」彼 私は、その手に釘の跡を見、私の指を
女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボ 釘のところに差し入れ、また私の手を
ニ（すなわち、先生）。」とイエスに そのわきに差し入れてみなければ、決
言った。 17 イエスは彼女に言われた して信じません。」と行った。 26 八
。「わたしにすがりついてはいけ 日後に、弟子たちはまた室内におり、
ません。わたしはまだ父のもとに上っ トマスも彼らといっしょにいた。戸が
ていないからです。わたしの兄弟たち 閉じられていたが、イエスが来て、彼
のところに行って、彼らに『わたしは らの中に立って「平安があなたがたに
、わたしの父またあなたがたの父、わ あるように。」と言われた。 27 それ
たしの神またあなたがたの神のもとに からトマスに言われた。「あなたの指
上げる。』と告げなさい。」 18 マグダ をここに付けて、わたしの手を見なさ
うのマリヤは、行って、「私は主にお いて。手を伸ばして、わたしのわきに差
目にかかりました。」と言ひ、また、 し入れなさい。信じない者にならない
主が彼女にこれらのことを話されたと で、信じる者になりなさい。」 28 ト

マスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」 29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」 30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。 31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

21 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。 2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナの子ナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいつしよにいた。 3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいつしよに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。 4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。 5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」 6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。 7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまとって、湖に飛び込んだ。 8 しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。 9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。 10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」 11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。 12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。 13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。 14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。 15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」 16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは

彼に言われた。「わたしの羊を牧しな
さい。」 17 イエスは三度ペテロに言
われた。「ヨハネの子シモン。あなた
はわたしを愛しますか。」ペテロは、
「イエスが三度「あなたはわたしを愛し
ますか。」と言われたので、心を痛め
てイエスに言った。「主よ。あなたは
いつかのことをご存じです。あなた
は、私があなたを愛することを知って
います。 25 イエスが行なわれたことは、
おいでになります。」イエスは彼に言
われた。「わたしの羊を飼いなさい。
18 まことに、まことに、あなたに告げ
ます。あなたは若かった時には、自分
で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩
きました。しかし年をとると、あなた
は自分の手を伸ばし、ほかの人があな
たに帯をさせて、あなたの行きたくな
い所に連れて行きます。」 19 これは
、ペテロがどのような死に方をして、
神の栄光を現わすかを示して、言われ
たことであった。こうお話しになっ
てから、ペテロに言われた。「わたしに
従いなさい。」 20 ペテロは振り向い
て、イエスが愛された弟子があとにつ
いて来るのを見た。この弟子はあの晩
餐のとき、イエスの右側にいて、「主
よ。あなたを裏切る者はだれですか。
」と言った者である。 21 ペテロは彼
を見て、イエスに言った。「主よ。こ
の人はどうですか。」 22 イエスはペ
テロに言われた。「わたしの来るまで
彼が生きながらえるのをわたしが望む
としても、それがあなたに何のかかわ
りがありますか。あなたは、わたしに
従いなさい。」 23 そこで、その弟子
は死なないという話が兄弟たちの間に
行き渡った。しかし、イエスはペテロ
に、その弟子が死なないと言われたの

使徒の働き

1 テオピロよ。私は前の書で、イエスが行ない始め、教え始められたすべてのことについて書き、**2** お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。**3** イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。**4** 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。**5** ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」**6** そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」**7** イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。**8** しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」**9** こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなりました。**10** イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。**11** そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立

っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」**12** そこで、彼らはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムの近くにあつて、安息日の道のりほどの距離であつた。**13** 彼らは町にはいると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党員シモンとヤコブの子ユダであつた。**14** この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。**15** そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に立ってこう言った。**16** 「兄弟たち。イエスを捕えた者どもの手引きをしたユダについて、聖霊がダビデの口を通して預言された聖書のことばは、成就しなければならなかったのです。**17** ユダは私たちの仲間として数えられており、この務めを受けていました。**18** (ところがこの男は、不正なことをして得た報酬で地所を手に入れたが、まっさかさまに落ち、からだは真二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった。**19** このことが、エルサレムの住民全部に知れて、その地所は彼らの国語でアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになった。) **20** 実には詩篇には、こう書いてあるのです。『彼の住まいは荒れ果てよ、そこには住む者がいなくなれ。』また、『その職は、ほかの人に取らせよ

。』 21ですから、主イエスが私たち
といっしょに生活された間、 22すな
わち、ヨハネのバプテスマから始まっ
て、私たちを離れて天に上げられた日
までの間、いつも私たちと行動をと
にした者の中から、だれかひとりが、
私たちとともにイエスの復活の証人と
ならなければなりません。」 23そこ
で、彼らは、バルサバと呼ばれ別名を
ユストというヨセフと、マッテヤとの
ふたりを立てた。 24そして、こう祈
った。「すべての人の心を知っておら
れる主よ。 25この務めと使徒職の地
位を継がせるために、このふたりのう
ちのどちらをお選びになるか、お示し
ください。ユダは自分のところへ行く
ために脱落して行きましたから。」 26
そしてふたりのためにくじを引くと、
くじはマッテヤに当たったので、彼は
十一人の使徒たちに加えられた。

2 五旬節の日になって、みなが一つ所
に集まっていた。 2すると突然、天
から、激しい風が吹いて来るような響
きが起り、彼らのいた家全体に響き
渡った。 3また、炎のような分かれた
舌が現われて、ひとりひとりの上にと
どまった。 4すると、みなが聖霊に満
たされ、御霊が話させてくださるとお
りに、他国のことばで話しだした。 5
さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ
人たちが、天下のあらゆる国から来て
住んでいたが、 6この物音が起ると
、大ぜいの人々が集まって来た。彼ら
は、それぞれ自分の国のことばで弟子
たちが話すのを聞いて、驚きあきれて
しまった。 7彼らは驚き怪しんで言っ
た。「どうでしょう。いま話している
この人たちは、みなガリラヤの人では

ありませんか。 8それなのに、私たち
めいめいの国の国語で話すのを聞くと
は、いったいどうしたことでしょう。
9私たちは、パルテヤ人、メジャ人、
エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ
、カパドキヤ、ポントとアジア、 10
フルギヤとパンフリヤ、エジプトとク
レネに近いリビヤ地方などに住む者た
ち、また滞在中のローマ人たちで、 11
ユダヤ人もいれば改宗者もいる。また
クレテ人とアラビヤ人なのに、あの人
たちが、私たちのいろいろな国ことば
で神の大きなみわざを語るのを聞こう
とは。」 12人々はみな、驚き感つて
、互いに「いったいこれはどうしたこ
とか。」と言った。 13しかし、ほか
に「彼らは甘いぶどう酒に酔っている
のだ。」と言ってあざける者たちもい
た。 14そこで、ペテロは十一人とと
もに立って、声を張り上げ、人々には
つきりこう言った。「ユダヤの人々
、ならびにエルサレムに住むすべての
人々。あなたがたに知っていただきたい
ことがあります。どうか、私のこと
ばに耳を貸してください。 15今は朝
の九時ですから、あなたがたの思っ
ているようにこの人たちは酔っているの
ではありません。 16これは、預言者
ヨエルによって語られた事です。 17
『神は言われる。終わりの日に、わた
しの霊をすべての人に注ぐ。すると、
あなたがたの息子や娘は預言し、青年
は幻を見、老人は夢を見る。 18その
日、わたしのしもべにも、はしために
も、わたしの霊を注ぐ。すると、彼
らは預言する。 19また、わたしは、
上は天に不思議なわざを示し、下は地
にしるしを示す。それは、血と火と立

ち上る煙である。20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。21 しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』22 イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと、不思議なわざと、あかしの奇蹟を行なわれました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身をご承知のように、23 神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、あなたがたは不法な者の手によって十字架につけて殺しました。24 しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。25 ダビデはこの方について、こう言っています。『私はいつも、自分の目の前に主を見ていた。主は、私が動かされないように、私の右におられるからである。26 それゆえ、私の心は楽しみ、私の舌は大いに喜んだ。さらに私の肉体も望みの中に安らう。27 あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず、あなたの聖者が朽ち果てるのをお許しにならないからである。(Hadēs g86) 28 あなたは、私にいのちの道を知らせ、御顔を示して、私を喜びで満たしてください。』29 兄弟たち。先祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりとして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。31 それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨て置かれず、その肉体は朽ち果てない。』と語ったのです。(Hadēs g86) 32 神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。33 ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。34 ダビデは天に上ったわけではありませぬ。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。』36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちには、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか。」と言った。38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けられるでしょう。39 なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。』40 ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさい。」

と言って彼らに勧めた。41そこで、彼のことばを受け入れた者は、パプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。42そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。43そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。44信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。45そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。46そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

3 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。2すると、生まれつき足のきかない男が運ばれて来た。この男は、宮にはいる人たちから施しを求めするために、毎日「美しい門」という名の宮の門に置いてもらっていた。3彼は、ペテロとヨハネが宮にはいろうとするのを見て、施しを求めた。4ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい。」と言った。5男は何かもらえんと思つて、ふたりに目を注いだ。6すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」と言って、7彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、8おどり上がってまっすぐに立ち、歩

きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮にはいって行った。9人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美しているのを見た。10そして、これをし、施しを求めるために宮の「美しい門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに驚き、あきれた。11この人が、ペテロとヨハネにつきまといっている間に、非常に驚いた人々がみないっせいに、ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところに、やって来た。12ペテロはこれを見て、人々に向かってこう言った。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。13アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの先祖の神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。14そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、15いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。16そして、このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。17ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たち

と同様に、無知のためにあのような行 4 彼らが民に話していると、祭司たち
ないをしたのです。 18 しかし、神は 、宮の守衛長、またサドカイ人たち
、すべての預言者たちの口を通して、 がやって来たが、 2 この人たちは、ペ
キリストの受難をあらかじめ語ってお テロとヨハネが民を教え、イエスのこ
られたことを、このように実現されま とを例にあげて死者の復活を宣べ伝え
ました。 19 そういうわけですから、あ ているのに、困り果て、 3 彼らに手を
なたがたの罪をぬぐい去っていただく かけて捕えた。そして翌日まで留置す
ために、悔い改めて、神に立ち返りな ることにした。すでに夕方だったから
さい。 20 それは、主の御前から回復 である。 4 しかし、みことばを聞いた
の時が来て、あなたがたのためにメシ 人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほ
ヤと定められたイエスを、主が遣わし どになった。 5 翌日、民の指導者、長
てくださるためなのです。 21 このイ 老、学者たちは、エルサレムに集まっ
エスは、神が昔から、聖なる預言者た た。 6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハ
ちの口を通してたびたび語られた、あ ネ、アレキサンデル、そのほか大祭司
の万物の改まる時まで、天にとどまっ の一族もみな出席した。 7 彼らは使徒
ていなければなりません。(aiōn g165) 22 たちを真中に立たせて、「あなたがた
モーセはこう言いました。『神である は何の権威によって、また、だれの名
主は、あなたがたのために、私によ によってこんなことをしたのか。』と
なひとりの預言者を、あなたがたの兄 尋問しだした。 8 そのとき、ペテロは
弟たちの中からお立てになる。この方 聖霊に満たされて、彼らに言った。「
があなたがたに語ることはみな聞きな 民の指導者たち、ならびに長老の方々
さい。 23 その預言者に聞き従わない 。 9 私たちがきょう取り調べられてい
者はだれでも、民の中から滅ぼし絶や るのが、病人に行なった良いわざにつ
される。』 24 また、サムエルをはじ いてであり、その人が何によっていや
めとして、彼に続いて語ったすべての されたか、ということのためであるな
預言者たちも、今の時について宣べま ら、 10 皆さんも、またイスラエルの
しました。 25 あなたがたは預言者たちの すべての人々も、よく知ってください
子孫です。また、神がアブラハムに、 。この人が直って、あなたがたの前に
『あなたの子孫によって、地の諸民族 立っているのは、あなたがたが十字架
はみな祝福を受ける。』と言って、あ につけ、神が死者の中からよみがえら
あなたがたの先祖と結ばれたあの契約の せたナザレ人イエス・キリストの御名
子孫です。 26 神は、まずそのしもべ によるのです。 11 『あなたがた家を
を立てて、あなたがたにお遣わしにな 建てる者たちに捨てられた石が、礎の
りました。それは、この方があなたが 石となった。』というのはこの方のこ
たを祝福して、ひとりひとりをその邪 とです。 12 この方以外には、だれに
悪な生活から立ち返らせてくださるた よっても救いはありません。世界中で
めなのです。』 この御名のほかには、私たちが救われ
るべき名としては、どのような名も、

人間に与えられていないからです。」して、神に向かい、声を上げて言った
13 彼らはペテロとヨハネとの大胆さを。「主よ。あなたは天と地と海とその
見、またふたりが無学な、普通の人で中のすべてのものを造られた方です。
あるのを知って驚いたが、ふたりがイ 25 あなたは、聖霊によって、あなたの
エスとともにいたのだ、ということがしもべであり私たちの先祖であるダビ
わかって来た。 14 そればかりでなくデの口を通して、こう言われました。
、いやされた人がふたりといっしょに『なぜ異邦人たちは騒ぎ立ち、もろも
立っているのを見ては、返すことばもろの民はむなしことを計るのか。 26
なかった。 15 彼らはふたりに議会か地の王たちは立ち上がり、指導者たち
ら退場するように命じ、そして互いには、主とキリストに反抗して、一つに
協議した。 16 彼らは言った。「あの組んだ。』 27 事実、ヘロデとポンテ
人たちをどうしよう。あの人たちによオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの
って著しいしが行なわれたことは民といっしょに、あなたが油を注がれ
、エルサレムの住民全部に知れ渡った、あなたの聖なるしもべイエスに逆
いるから、われわれはそれを否定できらってこの都に集まり、 28 あなたの
ない。 17 しかし、これ以上民の間に御手とみこころによって、あらかじめ
広がらないために、今後だれにもこのお定めになったことを行ないました。
名によって語ってはならないと、彼ら 29 主よ。いま彼らの脅かしをご覧にな
をきびしく戒めよう。」 18 そこで彼り、あなたのしもべたちにみことばを
らを呼んで、いっさいイエスの名によ大胆に語らせてください。 30 御手を
って語ったり教えたりしてはならない伸ばしていやしを行なわせ、あなたの
、と命じた。 19 ペテロとヨハネは彼聖なるしもべイエスの御名によって、
らに答えて言った。「神に聞き従うよしるしと不思議なわざを行なわせてく
り、あなたがたに聞き従うほうが、神ださい。」 31 彼らがこう祈ると、そ
の前に正しいかどうか、判断してくだの集まっていた場所が震い動き、一同
さい。 20 私たちは、自分の見たことは聖霊に満たされ、神のことばを大胆
、また聞いたことを、話さないわけに語りだした。 32 信じた者の群れは
はいきません。」 21 そこで、彼らは、心と思いを一つにして、だれひとり
ふたりをさらにおどしたうえで、釈放その持ち物を自分のものと言わず、す
した。それはみなのが、この出来事べてを共有にしていた。 33 使徒たち
のゆえに神をあがめていたので、人々は、主イエスの復活を非常に力強くあ
の手前、ふたりを罰するすべがなかつかしし、大きな恵みはそのすべての者
たからである。 22 この奇蹟によっての上にあった。 34 彼らの中には、ひ
いやされた男は四十歳余りであった。とりも乏しい者がなかった。地所や家
23 釈放されたふたりは、仲間のところを持っている者は、それを売り、代金
へ行き、祭司長たちや長老たちが彼らを携えて来て、 35 使徒たちの足もと
に言ったことを残らず報告した。 24 に置き、その金は必要に従っておのお
これを聞いた人々はみな、心を一つにのに分け与えられたからである。 36

キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ（訳すと、慰めの子）と呼ばれていたヨセフも、**37**畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

5ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、**2**妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。**3**そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。**4**それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」**5**アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。**6**青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。**7**三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずにはいつて来た。**8**ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段です。」と言った。**9**そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」**10**すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。はいつて来た青年たちは、彼女が死ん

だのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。**11**そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。**12**また、使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議なわざが人々の間で行なわれた。みなは一つ心になってソロモンの廊にいた。**13**ほかの人々は、ひとりもこの交わりに加わろうとしなかったが、その人々は彼らを尊敬していた。**14**そればかりか、主を信じる者は男も女もますますふえていった。**15**ついに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるとするほどになった。**16**また、エルサレムの付近の町々から、大ぜいの人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを連れて集まって来たが、その全部がいやされた。**17**そこで、大祭司とその仲間たち全部、すなわちサドカイ派の者はみな、ねたみに燃えて立ち上がり、**18**使徒たちを捕え、留置場に入れた。**19**ところが、夜、主の使いが牢の戸を開き、彼らを連れ出し、**20**「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい。」と言った。**21**彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮にはいつて教え始めた。一方、大祭司とその仲間たちは集まって来て、議会とイスラエル人のすべての長老を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を獄舎にやった。**22**ところが役人たちが行ってみると、牢の中には彼らがいなかったので、引き返してこう報告した。**23**「獄舎は完全にしまっており、番人たちが戸口に立

っていましたが、あけてみると、中に
はだれもおりませんでした。」 24 宮
の守衛長や祭司長たちは、このことば
を聞いて、いったいこれはどうなって
行くのかと、使徒たちのことで当惑し
た。 25 そこへ、ある人がやって来て
、「大変です。あなたがたが牢に入れ
た人たちが、宮の中に立って、人々を
教えています。」と告げた。 26 そこ
で、宮の守衛長は役人たちといっしょ
に出て行き、使徒たちを連れて来た。
しかし、手荒なことはしなかった。人
々に石で打ち殺されるのを恐れたから
である。 27 彼らが使徒たちを連れて
来て議会の中に立たせると、大祭司は
使徒たちを問いただして、 28 言っ
た。「あの名によって教えるはならぬ
ときびしく命じておいたのに、何とい
うことだ。エルサレム中にあなたがた
の教えを広めてしまい、そのうえ、あ
の人の血の責任をわれわれに負わせよ
うとしているではないか。」 29 ペテ
ロをはじめ使徒たちは答えて言った。
「人に従うより、神に従うべきです。
30 私たちの先祖の神は、あなたがたが
十字架にかけて殺したイエスを、よみ
がえらせたのです。 31 そして神は、
イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与
えるために、このイエスを君とし、救
い主として、ご自分の右に上げられま
した。 32 私たちはそのことの証人で
す。神がご自分に従う者たちにお与え
になった聖霊もそのことの証人です。
」 33 彼らはこれを聞いて怒り狂い、
使徒たちを殺そうと計った。 34 とこ
ろが、すべての人に尊敬されている律
法学者で、ガマリエルというパリサイ
人が議会の中に立ち、使徒たちをしば
らく外に出させるように命じた。 35
それから、議員たちに向かってこう言
った。「イスラエルの皆さん。この人
々をどう扱うか、よく気をつけてくだ
さい。 36 というのは、先ごろチウダ
が立ち上がって、自分を何か偉い者の
ように言い、彼に従った男の数が四百
人ほどありましたが、結局、彼は殺さ
れ、従った者はみな散らされて、あと
かたもなくなりました。 37 その後、
人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立
ち上がり、民衆をそそのかして反乱を
起こしましたが、自分は滅び、従った
者たちもみな散らされてしまいました
。 38 そこで今、あなたがたに申した
いのです。あの人たちから手を引き、
放っておきなさい。もし、その計画や
行動が人から出たものならば、自滅し
てしまうでしょう。 39 しかし、もし
神から出たものならば、あなたがたに
は彼らを滅ぼすことはできないでしょ
う。もしかすれば、あなたがたは神に
敵対する者になってしまいます。」彼
らは彼に説得され、 40 使徒たちを呼
んで、彼らをむちで打ち、イエスの名
によって語ってはならないと言ひ渡し
たうえで釈放した。 41 そこで、使徒
たちは、御名のためにはずかしめられ
るに値する者とされたことを喜びなが
ら、議会から出て行った。 42 そして
、毎日、宮や家々で教え、イエスがキ
リストであることを宣べ伝え続けた。
6 そのころ、弟子たちがふえるにつれ
て、ギリシャ語を使うユダヤ人たち
が、ヘブル語を使うユダヤ人たちに對
して苦情を申し立てた。彼らのうちの
やもめたちが、毎日の配給でなおざり
にされていたからである。 2 そこで、

十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。3そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。4そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」

5この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、6この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。7こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰にはいった。8さて、ステパノは恵みと力とに満ち、人々の間で、すばらしい不思議なわざと行なっていた。9ところが、いわゆるリベルテンの会堂に属する人々で、クレネ人、アレキサンドリヤ人、キリキヤやアジヤから来た人々などが立ち上がって、ステパノと議論した。10しかし、彼が知恵と御霊によって語っていたので、それに対抗することができなかった。11そこで、彼らはある人々をそそのかし、「私たちは彼がモーセと神とをけがすことばを語るのを聞いた。」と言わせた。12また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、彼を襲って捕え、議会にひっぱって行った。13そして、偽りの証人たちを立てて、こ

う言わせた。「この人は、この聖なる所と律法とに逆らうことばを語るのをやめません。14『あのナザレ人イエスはこの聖なる所をこわし、モーセが私たちに伝えた慣例を変えてしまう。』と彼が言うのを、私たちは聞きまし

た。」15議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。

7大祭司は、「そのとおりか。」と尋ねた。2そこでステパノは言った。「兄弟たち、父たちよ。聞いてください。私たちの父祖アブラハムが、カランに住む以前まだメソポタミヤにいたとき、栄光の神が彼に現われて、3『あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け。』と言われました。4そこで、アブラハムはカルデア人の地を出て、カランに住みました。そして、父の死後、神は彼をそこから今あなたがたの住んでいるこの地にお移しになりましたが、5ここでは、足の踏み場となるだけのものさえも、相続財産として彼にお与えになりませんでした。それでも、子どももなかった彼に対して、この地を彼とその子孫に財産として与えることを約束されたのです。6また神は次のようなことを話されました。『彼の子孫は外国に移り住み、四百年間、奴隷にされ、虐待される。』7そして、こう言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしがさばく。その後、彼らはのがれ出て、この所で、わたしを礼拝する。』8また神は、アブラハムに割礼の契約をお与えになりました。こうして、彼にイサクが生まれました。彼

は八日目にイサクに割礼を施しました。それから、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブに十二人の族長が生まれ、族長たちはヨセフをねたんで、彼をエジプトに売り飛ばしました。しゆるの学問を教え込まれ、ことばにもわかし、神は彼とともにおられ、あざにも力がありました。四十歳にらゆる患難から彼を救い出し、エジプト王パロの前で、恵みと知恵をお与えになったので、パロは彼をエジプトとしました。そして、同胞のひとりが虐王の家全体を治める大臣に任じました。ところが、エジプトとカナンとい、エジプト人を打ち倒して、乱暴さの全地にききんが起こり、大きな災難が襲って来たので、私たちの先祖たちは、食物がなくなりました。しかし、ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、初めに私たちの先祖たちを遣わしました。二回目のとき、ヨセフは兄弟たちに、自分のことを打ち明け、ヨセフの家族のことがパロに明らかになりました。そこで、ヨセフは人をやって、父ヤコブと七十五人の全親族を呼び寄せました。ヤコブはエジプトに下り、そこで彼も私たちの先祖たちも死にました。しかし、シケムに運ばれ、かねてアブラハムがいくらかの金でシケムのハモルの子から買っておいた墓に葬られました。』

21 ついに捨てられたのをパロの娘が拾い上げ、自分の子として育てたの
22 モーセはエジプト人のあら
23 四十歳に
24 そして、同胞のひとりが虐
25 彼は、自分の手によって神が兄弟た
26 翌日彼は、兄弟たちが争
27 すると、隣人を傷つけていた者が、
28 きのうエジブ
29 このことばを聞いたモーセは、
30 エジプトの中にふえ広がり、
31 その光景を見
32 『わたしはあなたの先
33 上がり、見定める勇気もなくなりまし

か月の間、父の家で育てられましたが
が拾い上げ、自分の子として育てたの
です。
はエジプト人のあら
あざにも力がありました。
四十歳に
なつたころ、モーセはその兄弟である
イスラエル人を、顧みる心を起こしま
した。
そして、同胞のひとりが虐
王の家全体を治める大臣に任じました
待されているのを見て、その人をかば
い、エジプト人を打ち倒して、乱暴さ
の全地にききんが起こり、大きな災難
れているその人の仕返しをしました。
25 彼は、自分の手によって神が兄弟た
ちには、食物がなくなりました。12 し
ちに救いを与えようとしておられるこ
とを、みなが理解してくれるものと思
っていましたが、彼らは理解しません
遣わしました。13 二回目のとき、ヨ
セフは兄弟たちに、自分のことを打ち
ついているところに現われ、和解させよ
うとして、『あなたがたは、兄弟なの
らかになりました。14 そこで、ヨセ
フは人をやって、父ヤコブと七十五人
け合っているのか。』と言いました。
27 すると、隣人を傷つけていた者が、
モーセを押しのかけてこう言いました。
『だれがあなたを、私たちの支配者や
裁判官にしたのか。28 きのうエジブ
ト人を殺したように、私も殺す気か。
29 このことばを聞いたモーセは、
逃げてミデアンの地に身を寄せ、そこ
で男の子ふたりをもうけました。30
四十年たったとき、御使いが、モーセ
に、シナイ山の荒野で柴の燃える炎の
中に現われました。31 その光景を見
たモーセは驚いて、それをよく見よう
として近寄ったとき、主の御声が聞こ
えました。32 『わたしはあなたの先
祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブ
の神である。』そこで、モーセは震え

た。33すると、主は彼にこう言われ書いてあるとおりです。『イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十の間に、ほふられた獣と供え物となる地である。34わたしは、確かにエ、わたしにささげたことがあったか。ジプトにいるわたしの民の苦難を見、43あなたがたは、モロクの幕屋とロンそのうめき声を聞いたので、彼らを救パの神の星をかついでいた。それらはい出すために下って来た。さあ、行き、あなたがたが拝むために作った偶像なさい。わたしはあなたをエジプトにではないか。それゆえ、わたしは、あ遣わそう。』35『だれがあなたを支なたがたをバビロンのかなたへ移す。配者や裁判官にしたのか。』と云って』44私たちの先祖のためには、荒野人々が拒んだこのモーセを、神は柴のにあかしの幕屋がありました。それは中で彼に現われた御使いの手によって、見たとおりの形に造れとモーセに言われた方の命令どおりに、造られていきました。45私たちの先祖は、この幕導き出し、エジプトの地で、紅海で、屋を次々に受け継いで、神が先祖たちまた四十年間荒野で、不思議なわざとの前から異邦人を追い払い、その領土しるしを行ないました。37このモーセを取らせてくださったときには、ヨシセが、イスラエルの人々に、『神はあなたのために、私のようなひとりダビデの時代となりました。46ダビデは神の前に恵みをいただき、ヤコブの神のために御住まいを得たいと願います。38また、この人が、シナイ山で求めました。47けれども、神のために彼に語った御使いや私たちの先祖たちに家を建てたのはソロモンでした。48とともに、荒野の集会において、生けしかし、いと高き方は、手で造った家るみことばを授かり、あなたがたに与にはお住みになりません。預言者が語えたのです。39ところが、私たちの持っているとおりで。49『主は言われ。天はわたしの王座、地はわたしの足の足台である。あなたがたは、く思って、40『私たちに、先立ってどのような家をわたしのために建てようとするのか。わたしの休む所とは、エジプトの地から導き出したモーセはどこか。50わたしの手が、これらのものをみな、造ったのではないか。』』とアロンに言いました。41そのこ51かたくなで、心と耳とに割礼を受ける彼らは子牛を作り、この偶像に供えていない人たち。あなたがたは、先祖物をささげ、彼らの手で作った物を楽しんでいました。42そこで、神は彼いるのです。52あなたがたの先祖がらに背を向け、彼らが天の星に仕える迫害しなかつた預言者がだれかあったまにされました。預言者たちの書にでしょうか。彼らは、正しい方が来ら

れることを前もって宣べた人たちを殺したが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。53 あなたがたは、御使いたちによって定められた律法を受けたが、それを守ったことはありません。」54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。55 しかし、聖霊に満たされ

マリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。6 群衆はピリポの話を聞き、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。7 汚れた霊につかれた多くの人の人々からは、その霊が大声で叫んで出て行くし、大ぜいの中風の者や足のきかない者は直ったからである。8 それでその町に大きな喜びが起こっていた。9 ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行なって、サマリヤの人々を驚かさし、自分は偉大な者だと話していた。10 小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。11 人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。12 しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。13 シモン自身も信じて、バプテスマを受け、いつもピリポについていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟が行なわれるのを見て、驚いていた。14 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。15 ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。16 彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。17 ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。18 使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、使徒た

8 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のために非常に悲しんだ。3 サウロは教会を荒らし、家々にはいって、男も女も引きずり出し、次々に牢に入れた。4 他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。5 ピリポはサ

ちのところ、金を持って来て、**19** 「が走って行くと、預言者イザヤの書
私が手を置いた者がだれでも聖霊を受 読んでいるのが聞こえたので、「あな
けられるように、この権威を私にも下 たは、読んでいることが、わかります
さい。」と言った。**20** ペテロは彼に か。」と言った。**31**すると、その人
向かって言った。「あなたの金は、あ は、「導く人がなければ、どうしてわ
なたとともに滅びるがよい。あなたは かりましょう。」と言った。そして馬
金で神の賜物を手に入れようと思って 車に乗っていっしょにすわるように、
いるからです。**21**あなたは、このこ ピリポに頼んだ。**32**彼が読んでいた
とについては何の関係もないし、それ 聖書の箇所には、こう書いてあった。
にあずかることもできません。あなた 「ほふり場に連れて行かれる羊のよう
の心が神の前に正しくないからです。 に、また、黙々として毛を刈る者の
22だから、この悪事を悔い改めて、主 前に立つ小羊のように、彼は口を開か
に祈りなさい。あるいは、心に抱いた なかった。**33**彼は、卑しめられ、そ
思いが赦されるかもしれませぬ。**23** のさばきも取り上げられた。彼の時代
あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずな のことを、だれが話すことができよう
の中にあることが、私にはよくわかっ か。彼のいのちは地上から取り去られ
ています。」**24**シモンは答えて言っ たのである。」**34**宦官はピリポに向
た。「あなたがたの言われた事が何も かって言った。「預言者はだれについ
私に起こらないように、私のために主 て、こう言っているのですか。どうか
に祈ってください。」**25**このように 教えてください。自分についてですか
して、使徒たちはおごそかにあかしを 。それとも、だれかほかの人について
し、また主のことばを語って後、エル ですか。」**35**ピリポは口を開き、こ
サレムへの帰途につき、サマリヤ人の の聖句から始めて、イエスのことを彼
多くの村でも福音を宣べ伝えた。**26** に宣べ伝えた。**36**道を進んで行くう
ところが、主の使いがピリポに向かっ ちに、水のある所に来たので、宦官は
てこう言った。「立って南へ行き、エル 言った。「ご覧なさい。水があります
サレムからガザに下る道に出なさい 。私がバプテスマを受けるのに、何か
。」（このガザは今、荒れ果てている さしつかえがあるでしょうか。」**37**
。）**27**そこで、彼は立って出かけた そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官
。すると、そこに、エチオピア人の女 も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官
王カンダケの高官で、女王の財産全部 にバプテスマを授けた。**39**水から上
を管理していた宦官のエチオピア人が がって来たとき、主の霊がピリポを連
いた。彼は礼拝のためエルサレムに上 れ去られたので、宦官はそれから後彼
り、**28**いま帰る途中であった。彼は を見なかったが、喜びながら帰って行
馬車に乗って、預言者イザヤの書を読 った。**40**それからピリポはアゾトに
んでいた。**29**御霊がピリポに「近寄 現われ、すべての町々を通して福音を
って、あの馬車といっしょに行きなさい 宣べ伝え、カイザリヤに行った。
い。」と言われた。**30**そこでピリポ

9 さてサウロは、なおも主の弟子たち
に対する脅かしと殺害の意に燃えて
、大祭司のところに行き、 2 ダマス
コの諸会堂あての手紙を書いてくれるよ
う頼んだ。それは、この道の者であれ
ば男でも女でも、見つけ次第縛り上げ
てエルサレムに引いて来るためであっ
ていた。 3 ところが、道を進んで行っ
て、ダマスコの近くまで来たとき、突
然、天からの光が彼を巡り照らした。
4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。
なぜわたしを迫害するのか。」とい
う声を聞いた。 5 彼が、「主よ。あ
なたはどなたですか。」と言うと、お
答えがあった。「わたしは、あなたが
迫害しているイエスである。 6 立ち
上がって、町にはいりなさい。そうす
れば、あなたのしなければならな
いことが告げられるはずですよ。」
7 同行していた人たちは、声は聞
こえても、だれも見えないので、も
のも言えずに立っていた。 8 サウ
ロは地面から立ち上がったが、目は
開いていても何も見えなかった。そ
こで人々は彼の手を引いて、ダマス
コへ連れて行った。 9 彼は三日の間
、目が見えず、また飲み食いもしな
かった。 10 さて、ダマスコにア
ナニヤという弟子がいた。主が彼に
幻の中で、「アナニヤよ。」と言われ
たので、「主よ。ここにおります。」と
答えた。 11 すると主はこう言われ
た。「立って、『まっすぐ』という街
路に行き、サウロというタルソ人
をユダの家に尋ねなさい。そこで、
彼は祈っている。そこで、彼は祈っ
ています。 12 彼は、アナニヤとい
う者がはいて来て、自分の上に手
を置くと、目が再び見えるようになる
のを、幻で見たのです。」 13 し
かし、アナニヤはこう答えた。「主
よ。私は多くの人々から、この人
がエルサレムで、あなたの聖徒
たちにどんなにひどいことを
したかを聞きました。 14 彼は
ここであなたを呼ぶ者たちを
みな捕縛する権限を、祭司長
たちから授けられているので
す。」 15 しかし、主はこう
言われた。「行きなさい。あ
なたはわたしの名を、異邦人、
王たち、イスラエルの子孫の
前に運ぶ、わたしの選びの器
です。 16 彼がわたしの名
のために、どんなに苦しまな
ければならないかを、わたし
は彼に示すつもりです。」 17
そこでアナニヤは出かけ、そ
の家にはいり、サウロの上に
手を置いてこう言った。「兄
弟サウロ。あなたが来る途中
でお現われになった主イエ
スが、私を遣わされました。
あなたが再び見えるようにな
り、聖霊に満たされるため
です。」 18 するとただちに、
サウロの目からうろこのような
物が落ちて、目が見えるよう
になった。彼は立ち上がって、
バプテスマを受け、 19 食
事をして元気づいた。サウロ
は数日の間、ダマスコの弟
子たちとともにいた。 20 そ
してただちに、諸会堂で、
イエスは神の子であると宣
べ伝え始めた。 21 これを
聞いた人々はみな、驚いて
こう言った。「この人はエル
サレムで、この御名を呼ぶ
者たちを滅ぼした者ではあり
ませんか。ここへやって来た
のも、彼らを縛って、祭司長
たちのところへ引いて行く
ためではないのですか。」 22
しかしサウロはますます力を
増し、イエスがキリストであ
ることを証明して、ダマス
コに住むユダヤ人たちをう
ろたえさせた。 23 多くの
日数がたって後、

ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、**24** その陰謀はサウロに知られてしまった。彼らはサウロを殺してしまおうと、昼も夜も町の門を全部見張っていた。**25** そこで、彼の弟子たちは、夜中に彼をかごに乗せ、町の城壁につり降ろした。**26** サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間にはいろいろと試みたが、みなは彼を弟子だとは信じないで、恐れていた。**27** ところが、バルナバは彼を引き受けて、使徒たちのところへ連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に向かって語られたこと、また彼がダマスコでイエスの御名を大胆に宣べた様子などを彼らに説明した。**28** それからサウロは、エルサレムで弟子たちとともにいて自由に出はいりし、主の御名によって大胆に語った。**29** そして、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていた。しかし、彼らはサウロを殺そうとねらっていた。**30** 兄弟たちはそれと知って、彼をカイザリヤに連れて下り、タルソへ送り出した。**31** こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。**32** さて、ペテロはあらゆる所を巡回したが、ルダに住む聖徒たちのところへも下って行った。**33** 彼はそこで、八年の間も床にしているアイネヤという人に出会った。彼は中風であった。**34** ペテロは彼にこう言った。「アイネヤ。イエス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そして自分で床

を整えなさい。」すると彼はただちに立ち上がった。**35** ルダとサロンに住む人々はみな、アイネヤを見て、主に立ち返った。**36** ヨッパにタビタ（ギリシヤ語に訳せば、ドルカス）という女の弟子がいた。この女は、多くの良いわざと施しをしていた。**37** ところが、そのころ彼女は病気になって死に、人々はその遺体を洗って、屋上の間に置いた。**38** ルダはヨッパに近かったので、弟子たちは、ペテロがそこにいると聞いて、人をふたり彼のところへ送って、「すぐに来てください。」と頼んだ。**39** そこでペテロは立って、いっしょに出かけた。ペテロが到着すると、彼らは屋上の間に案内した。やもめたちはみな泣きながら、彼のそばに来て、ドルカスがいっしょにいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。**40** ペテロはみなを外に出し、ひざまずいて祈った。そしてその遺体のほうを向いて、「タビタ。起きなさい。」と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起き上がった。**41** そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちとを呼んで、生きている彼女を見せた。**42** このことがヨッパ中に知れ渡り、多くの人が主を信じた。**43** そして、ペテロはしばらくの間、ヨッパで、皮なめしのシモンという人の家に泊まっていた。

10 さて、カイザリヤにコルネリオという人がいて、イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。**2** 彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていたが、**3**

ある日の午後三時ごろ、幻の中で、は がきよめた物を、きよくないと言って
つきりと神の御使いを見た。御使いは はならない。」 16 こんなことが三回
彼のところに来て、「コルネリオ。」 あって後、その入れ物はすぐ天に引き
と呼んだ。 4 彼は、御使いを見つめて 上げられた。 17 ペテロが、いま見た
いと、恐ろしくなって、「主よ。何 幻はいったいどういうことだろう、と
でしょうか。」と答えた。すると御使 思い惑っていると、ちょうどそのとき
いはこう言った。「あなたの祈りと施 、コルネリオから遣わされた人たちが
しは神の前に立ち上って、覚えられて 、シモンの家をたずね当てて、その門
います。 5 さあ今、ヨッパに人をやっ 口に立っていた。 18 そして、声をか
て、シモンという人を招きなさい。彼 けて、ペテロと呼ばれるシモンという
の名はペテロとも呼ばれています。 6 人がここに泊まっているだろうかと尋
この人は皮なめしのシモンという人の ねていた。 19 ペテロが幻について思
家に泊まっていますが、その家は海べ い巡らしているとき、御霊が彼にこう
にあります。」 7 御使いが彼にこう語 言われた。「見なさい。三人の人があ
って立ち去ると、コルネリオはそのし なたをたずねて来ています。 20 さあ
もべたちの中のふたりと、側近の部下 、下に降りて行って、ためらわずに、
の中の敬虔な兵士ひとりと呼び寄せ 彼らといっしょに行きなさい。彼らを
、 8 全部のことを説明してから、彼ら 遣わしたのはわたしです。」 21 そこ
をヨッパへ遣わした。 9 その翌日、こ でペテロは、その人たちのところへ降
の人たちが旅を続けて、町の近くまで りて行って、こう言った。「あなたが
来たころ、ペテロは祈りをするために たのたずねているペテロは、私です。
屋上に上った。昼の十二時ごろであっ どんなど用でおいでになったのですか
た。 10 すると彼は非常に空腹を覚え 。」 22 すると彼らはこう言った。「
、食事をしたくなかった。ところが、食 百人隊長コルネリオという正しい人で
事の用意がされている間に、彼はうっ 、神を恐れかしくみ、ユダヤの全国民
とりと夢ごこちになった。 11 見ると に評判の良い人が、あなたを自分の家
、天が開けており、大きな敷布のよう にお招きして、あなたからお話を聞く
な入れ物が、四隅をつるされて地上に ように、聖なる御使いによって示され
降りて来た。 12 その中には、地上の ました。」 23 それで、ペテロは、彼
あらゆる種類の四つ足の動物や、はう らを中に入れて泊ませた。明るる日
もの、また、空の鳥などがいた。 13 、ペテロは、立って彼らといっしょに
そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふ 出かけた。ヨッパの兄弟たちも数人同
って食べなさい。」という声が聞こえ 行した。 24 その翌日、彼らはカイザ
た。 14 しかしペテロは言った。「主 リヤに着いた。コルネリオは、親族や
よ。それはできません。私はまだ一度 親しい友人たちを呼び集め、彼らを待
も、きよくない物や汚れた物を食べた っていた。 25 ペテロが着くと、コル
ことがありません。」 15 すると、再 ネリオは出迎えて、彼の足もとにひれ
び声があって、彼にこう言った。「神 伏して拝んだ。 26 するとペテロは彼

を起こして、「お立ちなさい。私もひとりの人間です。」と言った。27 それから、コルネリオとことばをかわしながら家にはいり、多くの人が集まっているのを見て、28 彼らにこう言った。「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人の仲間にはいたり、訪問したりするのは、律法にかなわないことです。ところが、神は私に、どんな人のことでも、きよくないとか、汚れているとか言ってはならないことを示してくださいました。29 それで、お迎えを受けたとき、ためらわずに来たのです。そこで、お尋ねしますが、あなたがたは、いったいどういうわけで私をお招きになったのですか。」30 するとコルネリオがこう言った。「四日前のこの時刻に、私が家で午後三時の祈りをしていますと、どうでしょう、輝いた衣を着た人が、私の前に立って、31 41 しかし、それはすべての人々にではこう言いました。『コルネリオ。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられている。32 それで、ヨッパに人をやってシモンを招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれている。この人は海べにある、皮なめしのシモンの家に泊まっている。』33 それで、私はすぐあなたのところへ人を送ったのですが、よくおいでくださいました。いま私たちは、主がお命じになったすべてのことを伺おうとして、みな神の御前に出ています。」34 そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はつきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、35 どの国の人であつても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。36 神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。37 あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事から、よくご存じです。38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。39 私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行なわれたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。40 しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現われさせてくださいました。41 しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ごいっしょに食事をしました。42 イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように、言われたのです。43 イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられる、とあかししています。」44 ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。45 割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人

にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。46 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでペテロはこう言った。47 「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましようか。」48 そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。

11 さて、使徒たちやユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のみことばを受け入れた、ということを目にした。2 そこで、ペテロがエルサレムに上ったとき、割礼を受けた者たちは、彼を非難して、3 「あなたは割礼のない人々のところに行って、彼らとっしよに食事をした。」と言った。4 そこでペテロは口を開いて、事の次第を順序正しく説明して言った。5 「私がヨッパの町で祈っていると、うっとり夢ごちになり、幻を見ました。四隅をつり下げられた大きな敷布のような入れ物が天から降りて来て、私のところに届いたのです。6 その中をよく見ると、地の四つ足の獣、野獣、はうもの、空の鳥などが見えました。7 そして、『ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。』と言う声を聞きました。8 しかし私は、『主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。』と言いました。9 すると、もう一度天から声がして、『神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。』というお答えがありました。10 こ

んなことが三回あって後、全部の物がまた天へ引き上げられました。11 すると、どうでしょう。ちょうどそのとき、カイザリヤから私のところへ遣わされた三人の人が、私たちのいた家の前に来ていました。12 そして御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、と言われました。そこで、この六人の兄弟たちも私に同行して、私たちはその人の家にはいつて行きました。13 その人が私たちに告げたところによると、彼は御使いを見ましたが、御使いは彼の家の中に立って、『ヨッパに使いをやって、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。14 その人があなたとあなたの家にいるすべての人を救うことばを話してくれませす。』と言ったということです。15 そこで私が話し始めていると、聖霊が、あの最初るとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。16 私はそのとき、主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる。』と言われたみことばを思い起こしました。17 こういうわけですから、私たちが主イエス・キリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが神のなさることを妨げることができましよう。』18 人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。」と言って、神をほめたたえた。19 さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、ア

ンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人を剣で殺した。3それがユダヤ人のヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかつた。20ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。21そして、主の御手が彼らとともにあつたので、大ぜいの人が信じて主に立ち返つた。22この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。23彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保つて、常に主にとどまつていくようにと励ました。24彼ははりつぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であつた。こうして、大ぜいの人が主に導かれた。25バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、26彼に会つて、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。27そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下つて来た。28その中のひとりアガボという人が立つて、世界中に大ききんが起これると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウドエの治世に起こつた。29そこで、弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。30彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送つた。

12 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとして、その手を伸ばし、2ヨハネの兄弟ヤコ

ブを剣で殺した。3それがユダヤ人のヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかつた。20ところが、その中にキプロス人とクレネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエスのことを宣べ伝えた。21そして、主の御手が彼らとともにあつたので、大ぜいの人が信じて主に立ち返つた。22この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。23彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保つて、常に主にとどまつていくようにと励ました。24彼ははりつぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であつた。こうして、大ぜいの人

が主に導かれた。25バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、26彼に会つて、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。27そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下つて来た。28その中のひとりアガボという人が立つて、世界中に大ききんが起これると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウドエの治世に起こつた。29そこで、弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。30彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送つた。

が、ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとして、その手を伸ばし、2ヨハネの兄弟ヤコ

ペテロは、マルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家へ行った。そこには大ぜいの人が集まって、祈っていた。13 彼が入口の戸をたたくと、ロダという女中が応対に出て来た。14 ところが、ペテロの声だとわかると、喜びのあまり門をあけもしないで、奥へ駆け込み、ペテロが門の外に立っていることをみなに知らせた。15 彼らは、「あなたは気が狂っているのだ。」と言ったが、彼女はほんとうだと言い張った。そこで彼らは、「それは彼の御使いだ。」と言っていた。16 しかし、ペテロはたたき続けていた。彼らが門をあけると、そこにペテロがいたので、非常に驚いた。17 しかし彼は、手ぶりで彼らを静かにさせ、主がどのようにして牢から救い出してくださったかを、彼らに話して聞かせた。それから、「このことをヤコブと兄弟たちに知らせてください。」と言って、ほかの所へ出て行った。18 さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが起こった。19 ヘロデは彼を捜したが見つけることができないので、番兵たちを取り調べ、彼らを処刑するように命じ、そして、ユダヤからカイザリヤに下って行って、そこに滞在した。20 さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そこで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従プラストに取り入って和解を求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。21 定められた日に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。22 そこで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない。」と叫び続けた。23 するとたちまち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからである。24 彼は虫にかまれて息が絶えた。25 任務を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、エルサレムから帰って来た。26 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。4 ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから船でキプロスに渡った。5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神のこぼを宣べ始めた。彼らはヨハネを助手として連れていた。6 島全体を巡回して、パポスまで行ったところ、にせ預言者で、名をバルイエスというユダヤ人の魔術師に出会った。7 この男は地方総督セルギオ・パウロのもとにいた。この総督は賢明な人であって、バルナバとサウロを招いて、神のこぼを聞きたいと思っていた。8 ところが、魔術師エルマ(エルマという名を訳すと魔術師)は、ふたりに反対して、総督を信仰の道から遠ざけようとした。9 しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、10 言った。「

ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。11 見よ。主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」と言った。するとたちまち、かすみとやみが彼をおおったので、彼は手を引いてくれる人を捜し回った。12 この出来事を見た総督は、主の教えに驚嘆して信仰にはいった。13 パウロの一行は、パボスから船出して、パンフリヤのベルガに渡った。ここでヨハネは一行から離れて、エルサレムに帰った。14 しかし彼らは、ベルガから進んでピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂にはいつて席に着いた。15 律法と預言者の朗読があつて後、会堂の管理者たちが、彼らのところに人をやってこう言させた。「兄弟たち。あなたがたのうちどなたか、この人たちのために奨励のことばがあつたら、どうぞお話しください。」16 そこでパウロが立ち上がり、手を振りながら言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を恐れかしこむ方々。よく聞いてください。17 この民イスラエルの神は、私たちの先祖たちを選び、民がエジプトの地に滞在していた間にこれを強大に解せず、御腕を高く上げて、彼らをその地から導き出してくださいました。18 そして約四十年間、荒野で彼らを養われました。19 それからカナンので、七つの民を滅ぼし、その地を相続財産として分配されました。これが、約四百五十年間のことです。20 その後、預言者サムエルの時代までは、さば

き人たちをお遣わしになりました。21 それから彼らが王をほしがったので、神はベニヤミン族の人、キスの子サウロを四十年間お与えになりました。22 それから、彼を退けて、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心になつた者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』23 神は、このダビデの子孫から、約束に従つて、イスラエルに救い主イエスをお送りになりました。24 この方がおいでになる前に、ヨハネがイスラエルのすべての民に、前もって悔い改めのバプテスマを宣べ伝えていました。25 ヨハネは、その一生を終えようとするころ、こう言いました。『あなたがたは、私をだれと思つたのですか。私はその方ではありません。ご覧なさい。その方は私のあとからおいでになります。私は、その方のくつのひもを解く値うちもありません。』26 兄弟の方々、アブラハムの子孫の方々、ならびに皆さんの中で神を恐れかしこむ方々。この救いのことばは、私たちに送られているのです。27 エルサレムに住む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる預言者のことばを理

30 しかし、神はこの方を死者の中からよみがえらせたのです。31 イエスは、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに、幾日もお現われになりました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人となっています。32 私たちは、神が先祖たちに対してなされた約束について、あなたがたに良い知らせをしているのです。33 神は、イエスをよみがえらせ、それによって、私たち子孫にその約束を果たされました。詩篇の第二篇に、『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』と書いてあるとおりです。34 神がイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ちることのない方とされたことについては、『わたしはダビデに約束した聖なる確かな祝福を、あなたがたに与える。』というように言われていました。35 ですから、ほかの所でこう言っておられます。『あなたは、あなたの聖者を朽ち果てるままにはしておかれない。』36 ダビデは、その生きていた時代において神のみこころに仕えて後、死んで先祖の仲間に加えられ、ついに朽ち果てました。37 しかし、神がよみがえらせた方は、朽ちることがありませんでした。38 ですから、兄弟たち。あなたがたに罪の赦しを宣べられているのはこの方によるということを、よく知っておいてください。39 モーセの律法によっては解放されることのできなかつたすべての点について、信じる者はみな、この方によって、解放されるのです。40 ですから、預言者に言われているような事が、あなたがたの上に起こらないように気をつけなさい。41 『見よ。あざける者たち。驚け。そして滅びよ。わたしはおまえたちの時代に一つのことをする。それは、おまえたちに、どんなに説明しても、とうてい信じられないほどのことである。』」42 ふたりが会堂を出るとき、人々は、次の安息日にも同じことについて話してくれるように頼んだ。43 会堂の集会が終わってから、多くのユダヤ人と神を敬う改宗者たちが、パウロとバルナバについて来たので、ふたりは彼らと話し合っていて、いつまでも神の恵みにとどまっているように勧めた。44 次の安息日には、ほとんど町中の人々が、神のことばを聞きに集まって来た。45 しかし、この群衆を見たユダヤ人たちは、ねたみに燃え、パウロの話に反対して、口ぎたなくののしった。46 そこでパウロとバルナバは、はっきりとこう宣言した。「神のことばは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者と決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほうへ向かいます。(aiōnios g166) 47 なぜなら、主は私たちに、こう命じておられるからです。『わたしはあなたを立てて、異邦人の光とした。あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである。』」48 異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。そして、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰にはいった。(aiōnios g166) 49 こうして、主のみことばは、この地方全体に広まった。50 ところが、ユダヤ人たちは、神を敬う貴

婦人たちや町の有力者たちを扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、ふたりをその地方から追い出した。51 ふたりは、彼らに対して足のちりを払い落として、イコニオムへ行つた。52 弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

14 イコニオムでも、ふたりは連れ立ってユダヤ人の会堂にはいり、話をする。ユダヤ人もギリシヤ人も大ぜいの人々が信仰にはいった。2 しかし、信じようとしなないユダヤ人たちは、異邦人たちをそそのかして、兄弟たちに対し悪意を抱かせた。3 それでも、ふたりは長らく滞在し、主によって大胆に語った。主は、彼らの手にしるしと不思議なわざを行なわせ、御恵みのことばの証明をされた。4 ところが、町の人々は二派に分かれ、ある者はユダヤ人の側につき、ある者は使徒たちの側についた。5 異邦人とユダヤ人が彼らの指導者たちといっしょになって、使徒たちをはずかしめて、石打ちにしようとして企てたとき、6 ふたりはそれを知って、ルカオニヤの町であるルステラとデルベ、およびその付近の地方に難を避け、7 そこで福音の宣教を続けた。8 ルステラでのことであるが、ある足のきかない人がすわっていた。彼は生まれながらの足なえで、歩いたことがなかった。9 この人がパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼に目を留め、いやされる信仰があるのを見て、10 大声で、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい。」と言った。すると彼は飛び上がって、歩き出した。11 パウロのしたことを見た群衆は、声を張り上げ、ルカオニヤ語で

、「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになったのだ。」と言った。12 そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人であったので、パウロをヘルメスと呼んだ。13 すると、町の門の前にあるゼウス神殿の祭司は、雄牛数頭と花飾りを門の前に携えて来て、群衆といっしょに、いけにえをささげようとした。14 これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて、群衆の中に駆け込み、叫びながら、15 言った。「皆さん。どうしてこんなことをするのですか。私たちも皆さんと同じ人間です。そして、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とその中にあるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えている者たちです。16 過ぎ去った時代には、神はあらゆる国の人々がそれぞれ自分の道を歩むことを許しておられました。17 とはいえ、ご自身のことをあかししないでおられたのではありません。すなわち、恵みをもって、天から雨を降らせ、実りの季節を与え、食物と喜びとで、あなたがたの心を満たしてくださったのです。」18 こう言って、ようやくのことで、群衆が彼らにいけにえをささげるのをやめさせた。19 ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。20 しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町にはいって行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。21 彼らはその町で

福音を宣べ、多くの人を弟子としてか
ら、ルステラとイコニオムとアンテオ
ケとに引き返して、**22** 弟子たちの心
を強め、この信仰にしっかりとどまる
ように勧め、「私たちが神の国にはい
るには、多くの苦しみを経なければな
らない。」と言った。**23** また、彼ら
のために教会ごと長老たちを選び、
断食をして祈って後、彼らをその信じ
ていた主にゆだねた。**24** ふたりはピ
シデヤを通してパンフリヤに着き、**25**
ペルガでみことばを語ってから、アタ
リヤに下り、**26** そこから船でアンテ
オケに帰った。そこは、彼らがいま成
し遂げた働きのために、以前神の恵み
にゆだねられて送り出された所であっ
た。**27** そこに着くと、教会の人々を
集め、神が彼らとともにいて行なわれ
たすべてのことと、異邦人に信仰の門
を開いてくださったこととを報告した
。**28** そして、彼らはかなり長い期間
を弟子たちとともに過ごした。

15 さて、ある人々がユダヤから下っ
て来て、兄弟たちに、「モーセの
慣習に従って割礼を受けなければ、あ
なたがたは救われない。」と教えてい
た。**2** そしてパウロやバルナバと彼ら
との間に激しい対立と論争が生じたの
で、パウロとバルナバと、その仲間
のうちの幾人かが、この問題について使
徒たちや長老たちと話し合うために、
エルサレムに上ることになった。**3** 彼
らは教会の人々に見送られ、フェニキ
ヤとサマリヤを通る道々で、異邦人の
改宗のことを詳しく話したので、すべ
ての兄弟たちに大きな喜びをもたらし
た。**4** エルサレムに着くと、彼らは教
会と使徒たちと長老たちに迎えられ、

神が彼らとともにいて行なわれたこと
を、みなに報告した。**5** しかし、パリ
サイ派の者で信者になった人々が立ち
上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ
、また、モーセの律法を守ることを命
じるべきである。」と言った。**6** そ
こで使徒たちと長老たちは、この問題
を、検討するために集まった。**7** 激しい論
争があって後、ペテロが立ち上がって
言った。「兄弟たち。ご存じのとおり
、神は初めのころ、あなたがたの間で
事をお決めになり、異邦人が私の口か
ら福音のことばを聞いて信じるよう
にされたのです。**8** そして、人の心の中
を知っておられる神は、私たちに与え
られたと同じように異邦人にも聖霊を
与えて、彼らのためにあかしをし、**9**
私たちと彼らとに何の差別もつけず、
彼らの心を信仰によってきよめてくだ
されたのです。**10** それなのに、なぜ
、今あなたがたは、私たちの先祖も私
たちも負いきれなかつたくびきを、あ
の弟子たちの首に掛けて、神を試みよう
とするのです。**11** 私たちが主イエ
スの恵みによって救われたことを私
たちは信じますが、あの人たちもそう
なのです。」**12** すると、全会衆は沈黙
してしまった。そして、バルナバとパ
ウロが、彼らを通して神が異邦人の間
で行なわれたしるしと不思議なわざに
ついて話すのに、耳を傾けた。**13** ふ
たりが話し終えると、ヤコブがこう言
った。「兄弟たち。私の言うことを聞
いてください。**14** 神が初めに、どの
ように異邦人を顧みて、その中から御
名をもって呼ばれる民をお召しになっ
たかは、シメオンが説明したとおりで
す。**15** 預言者たちのことばもこれと

一致しており、それにはこう書いてあります。16『この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち、廃墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。17それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めるようになるためである。18大昔からこれらのことを知らせておられる主が、こう言われる。』(aiōn g165) 19そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。20ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるように書き送るべきだと思います。21昔か、町ごとにモーセの律法を宣べる者がいて、それが安息日ごとに諸会堂で読まれているからです。22そこで使徒たちと長老たち、また、全教会ともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。選ばれたのは兄弟たちの中の指導者たちで、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスであった。23彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「使徒および長老たちは、アンテオケ、シリヤ、キリキヤにいる異邦人の兄弟たちに、あいさつをいたします。24私たちの中のあつる者たちが、私たちからは何も指示を受けていないのに、いろいろなことを言っただがたを動揺させ、あなたがたの心を乱したことを聞きました。25そこで、私たちは人々を選び、私たちの愛するバルナバおよびパウロといっしょに、あなたがたのところへ送ることに衆議一決しました。26このバルナバとパウロは、私たちの主イエス

・キリストの御名のために、いのちを投げ出した人たちです。27こういうわけで、私たちはユダとシラスを送りました。彼らは口頭で同じ趣旨のことを伝えるはずです。28聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかに、あなたがたにその上、どんな重荷も負わせないことを決めました。29すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを注意深く避けていれば、それで結構です。以上。」30さて、一行は送り出されて、アンテオケに下り、教会の人々を集めて、手紙を手渡した。31それを讀んだ人々は、その励ましによって喜んだ。32ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。33彼らは、しばらく滞在して後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、彼らを送り出した人々のところへ帰って行った。34パウロとバルナバはアンテオケにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のみことばを教え、宣べ伝えた。36幾日かたつて後、パウロはバルナバにこう言った。「先に主のことばを伝えたすべての町々の兄弟たちのところに、またあつねて行って、どうしているか見て来ようではありませんか。」37ところが、バルナバは、マルコとも呼ばれるヨハネもいっしょに連れて行くつもりであった。38しかしパウロは、パンフリヤで一行から離れてしまい、仕事のために同行しなかったような者はいっしょに連れて行かないほうがよいと考えた。39そして激しい反目となり、その結果、互いに別行動をとるこ

とになって、バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行った。40パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。41そして、シリヤおよびキリキヤを通り、諸教会を力づけた。

16それからパウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、2ルステラとイコニオムとの兄弟たちの間で評判の良い人であった。3パウロは、このテモテを連れてきたかったので、その地方にいるユダヤ人の手前、彼に割礼を受けさせた。彼の父がギリシヤ人であることを、みんなが知っていたからである。4さて、彼らは町々を巡回して、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を守らせようと、人々にそれを伝えた。5こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。6それから彼らは、アジャでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。7こうしてムシヤに面した所に来たとき、ピテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。8それでムシヤを通過して、トロアスに下った。9ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。10パウロがこの幻を見たとき、私たちがただちにマケドニヤへ出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからであ

る。11そこで、私たちはトロアスから船に乗り、サモトラケに直航して、翌日ネアポリスに着いた。12それからピリピに行ったが、ここはマケドニヤのこの地方第一の町で、植民都市であった。私たちはこの町に幾日か滞在した。13安息日に、私たちは町の門を出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰をおろして、集まった女たちに話した。14テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。15そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊まりください。」と言って頼み、強いてそうさせた。16私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。17彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。18幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。」と言った。すると即座に、霊は出て行った。19彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕え、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。20そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人であり

まして、私たちの町をかき乱し、**21** ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」**22** 群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、**23** 何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には嚴重に番をするように命じた。**24** この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。**25** 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。**26** ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。**27** 目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げたものと思ひ、剣を抜いて自殺しようとした。**28** そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいます。」と叫んだ。**29** 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。**30** そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と言った。**31** ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言った。**32** そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。**33** 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。**34** それから、ふたりをその家に案内して、食事の

もてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。**35** 夜が明けると、長官たちは警吏たちを送つて、「あの人たちを釈放せよ。」と言わせた。**36** そこで看守は、この命令をパウロに伝えて、「長官たちが、あなたがたを釈放するようと、使いをよこしました。どうぞ、ここを出て、ご無事に行ってください。」と言った。**37** ところが、パウロは、警吏たちにこう言った。「彼らは、ローマ人である私たちを、取り調べもせず公衆の前でむち打ち、牢に入れてしまいました。それなのに今になって、ひそかに私たちを送り出そうとするのは、とんでもない。彼ら自身で出向いて来て、私たちを連れ出すべきです。」**38** 警吏たちは、このことばを長官たちに報告した。すると長官たちは、ふたりがローマ人であると聞いて恐れ、**39** 自分で出向いて来て、わびを言い、ふたりを外に出して、町から立ち去ってくれるように頼んだ。**40** 牢を出たふたりは、ルデヤの家に行った。そして兄弟たちに会い、彼らを励ましてから出て行った。

17 彼らはアムピポリスとアポロニヤを通過して、テサロニケへ行った。そこには、ユダヤ人の会堂があった。**2** パウロはいつもしているように、会堂にはいつて行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。**3** そして、キリストは苦しみを受けて、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです。」と言った。**4** 彼らのうちの幾人かはよくわ

かって、パウロとシラスに従った。またほかにも、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。5ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。6しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱり行って行き、大声でこう言った。「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにもはいり込んでいます。7それをヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、イエスという別の王がいると言って、カイザルの詔勅にそむく行ないをしているのです。」8こうして、それを聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。9彼らは、ヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。10兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出した。ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂にはいつて行った。11ここのユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりにどうかと毎日聖書を調べた。12そのため、彼らのうちの多くの者が信仰にはいつた。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少なくなかった。13ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤでも神のことばを伝えていることを知り、ここにもやっけて来て、群衆を扇動して騒ぎを起こした。14そこで兄弟たちは、ただちにパウロを送り出して海べまで行かせたが、シラスとテモテはベレヤに踏みとどまった。15パウロを案内した人たちは、彼をアテネまで連れて行った。そしてシラスとテモテに一刻も早く来るように、という命令を受けて、帰って行った。16さて、アテネでふたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを感じた。17そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた。18エピクロス派とストア派の哲学者たちも幾人かいて、パウロと論じていたが、その中のある者たちは、「このおしゃべりは、何を言うつもりなのか。」と言い、ほかの者たちは、「彼は外国の神々を伝えているらしい。」と言った。パウロがイエスと復活を宣べ伝えたからである。19そこで彼らは、パウロをアレオパゴスに連れて行ってこう言った。「あなたの語っているその新しい教えがどんなものであるか、知らせていただけませんか。20私たちににとっては珍しいことを聞かせてくださるので、それがいったいどんなものか、私たちは知りたいのです。」21アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。22そこでパウロは、アレオパゴスの真中に立つて言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつい方々だと見ております。23私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られないうちに、いかに神に。』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えまし

よう。24 この世界とそこの中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその子孫である。』と言ったとおりです。29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。30 神は、そのような無知の時代を見過ぎておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもつてこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」32 死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、「このことについては、またいつか聞くことにし

よう。」と言った。33 こうして、パウロは彼らの中から出て行った。34 しかし、彼につき従って信仰にはいった人たちもいた。それは、アレオパゴスの裁判官デオヌシオ、ダマリスという女、その他の人々であった。

18 その後、パウロはアテネを去って、コリントへ行った。2 ここで、アクラというポイント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろイタリヤから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き、3 自分も同業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシヤ人を承服させようとした。5 そして、シラスとテモテがマケドニヤから下って来ると、パウロはみことばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちにはっきりと宣言した。6 しかし、彼らが反抗して暴言を吐いたので、パウロは着物を振り払って、「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけ。私には責任がない。今から私は異邦人のほうに行く。」と言った。7 そして、そこを去って、神を敬うテテオ・ユストという人の家に行った。その家は会堂の隣であった。8 会堂管理者クリスポは、一家をあげて主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。9 ある夜、主は幻によってパウロに、「恐れないうで、語り続けなさい。黙ってはいけない。10 わたしがあなたとともにい

るのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町には、わたしの民がたくさんいるから。」と言われた。**11**そこでパウロは、一年半ここに腰を据えて、彼らの間で神のことは教え続けた。**12**ところが、ガリオがアカヤの地方総督であったとき、ユダヤ人たちはこぞってパウロに反抗し、彼を法廷に引いて行って、**13**「この人は、律法にそむいて神を拝むことを、人々に説き勧めています。」と訴えた。**14**パウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人に向かってこう言った。「ユダヤ人の諸君。不正事件や悪質な犯罪のことであれば、私は当然、あなたがたの訴えを取り上げもしようが、**15**あなたがたの、ことばや名称や律法に関する問題であるなら、自分たちで始末をつけるのがよからう。私はそのようなことの裁判官にはなりたくない。」**16**こうして、彼らを法廷から追い出した。**17**そこで、シリアへ向けて出帆した。プリスキラとアクラも同行した。パウロは一つの誓願を立てていたので、ケンクレヤで髪をそった。**19**彼らがエペソに着くと、パウロはふたりをそこに残し、自分だけ会堂にはいって、ユダヤ人たちと論じた。**20**人々は、もっと長くとどまるように頼んだが、彼は聞き入れないで、**21**「神のみこころなら、またあなたがたのところに帰って来ます。」と言って別れを告げ、エペソか

ら船出した。**22**それからカイザリヤに上陸してエルサレムに上り、教会に会いさつしてからアンテオケに下って行った。**23**そこにしばらくいてから、彼はまた出発し、ガラテヤの地方およびフルギヤを次々に巡って、すべての弟子たちを力づけた。**24**さて、アレキサンドリヤの生まれで、雄弁なポロというユダヤ人がエペソに来了。彼は聖書に通じていた。**25**この人は、主の道の教えを受け、霊に燃えて、イエスのことを正確に語り、また教えていたが、ただヨハネのバプテスマしか知らなかった。**26**彼は会堂で大胆に話し始めた。それを聞いていたプリスキラとアクラは、彼を招き入れて、神の道をもっと正確に彼に説明した。**27**そして、アポロがアカヤへ渡りたいと思っていたので、兄弟たちは彼を励まし、そこの弟子たちに、彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。彼はそこに着くと、すでに恵みによって信者になっていた人々を大いに助けた。**28**彼は聖書によって、イエスがキリストであることを証明して、力強く、公然とユダヤ人たちを論破したからである。

19アポロがコリントにいた間に、パウロは奥地を通ってエペソに来了。そして幾人かの弟子に出会って、**2**「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ねると、彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした。」と答えた。**3**「では、どんなバプテスマを受けたのですか。」と言うと、「ヨハネのバプテスマです。」と答えた。**4**そこで、パウロは、「ヨハネは、自分のあとに来られるイ

エスを信じるように人々に告げて、悔打ち負かしたので、彼らは裸にされ、い改めのパプテスマを授けたのです。傷を負ってその家を逃げ出した。17」と言った。5これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってパプテスマを受けた。6パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。7その人々は、みなで十二人ほどであった。8それから、パウロは会堂にはいつて、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、彼らを説得しようとした。9しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。10これが二年の間続いたので、アジャに住む者はみな、ユダヤ人もギリシャ人も主のことばを聞いた。11神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行なわれた。12パウロの身に付けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。13ところが、諸国を巡回しているユダヤ人の魔よけ祈祷師の中のある者たちも、ためしに、悪霊につかれている者に向かって主イエスの御名をとえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる。」と言ってみた。14そうすることをしたのは、ユダヤの祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。15すると悪霊が答えて、「自分分はイエスを知っているし、パウロもよく知っている。けれどおまえたちは何者だ。」と行った。16そして悪霊につかれている人は、彼らに飛びかかると、ふたりの者を押えつけて、みなを

このことがエペソに住むユダヤ人とギリシャ人の全部に知れ渡ったので、みな恐れを感じて、主イエスの御名をあがめるようになった。18そして、信仰にはいった人たちの中から多くの者がやって来て、自分たちのしていることをさらけ出して告白した。19また魔術を行っていた多くの者が、その書物をかかえて来て、みなの前で焼き捨てた。その値段を合計してみると、銀貨五万枚になった。20こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。21これらのことが一段落すると、パウロは御霊の示しにより、マケドニヤとアカヤを通ったあとでエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行ってから、ローマも見なければならぬ。」と言った。22そこで、自分に仕えている者の中からテモテとエラストのふたりをマケドニヤに送り出したが、パウロ自身は、なおしばらくアジャにとどまっていた。23そのころ、この道のことから、ただならぬ騒動が持ち上がった。24それというのは、デメテリオという銀細工人がいて、銀でアルテミス神殿の模型を作り、職人たちにかの収入を得させていたが、25彼が、その職人たちや、同業者たちをも集めて、こう言ったからである。「皆さん。ご承知のように、私たちが繁盛しているのは、この仕事のおかげです。26ところが、皆さんが見てもいいし聞いてもいいように、あのパウロが、手で作った物など神ではないと言っている、エペソばかりか、ほとんどアジ

ヤ全体にわたって、大ぜいの人々を説き伏せ、迷わせているのです。27 これでは、私たちのこの仕事も信用を失う危険があるばかりか、大女神アルテミスの神殿も顧みられなくなり、全アソジャ、全世界の拝むこの大女神のご威光も地に落ちてしまいそうです。」28 そう聞いて、彼らは大いに怒り、「偉大なのはエペソ人のアルテミスだ。」と叫び始めた。29 そして、町中が大騒ぎになり、人々はパウロの同行者であるマケドニヤ人ガイオとアリスタルコを捕え、一団となって劇場へなだれ込んだ。30 パウロは、その集団の中には行って行こうとしたが、弟子たちがそうさせなかった。31 アジャ州の高官で、パウロの友人である人たちも、彼に使いを送って、劇場にはいらなように頼んだ。32 ところで、集会は混乱状態に陥り、大多数の者は、なぜ集まったのかさえ知らなかったの、ある者はこのことを叫び、ほかの者は別のことを叫んでいた。33 ユダヤ人たちがアレキサンデルという者を前に押し出したので、群衆の中のある人たちが彼を促すと、彼は手を振って、会衆に弁明しようとした。34 しかし、彼がユダヤ人だとわかると、みんなの者がいっせいに声をあげ、「偉大なのはエペソ人のアルテミスだ。」と二時間ばかりも叫び続けた。35 町の書記役は、群衆を押し静めてこう言った。「エペソの皆さん。エペソの町が、大女神アルテミスと天から下ったそのご神体との守護者であることを知らない者が、いったいいるのでしょうか。36 これは否定できない事実ですから、皆さんは静かにして、軽はずみなことを

しないようにしなければいけません。37 皆さんがここに引き連れて来たこの人たちは、宮を汚した者でもなく、私たちの女神をそしった者でもないのです。38 それで、もしデメテリオとそこの仲間の職人たちが、だれかに文句があるのなら、裁判の日があるし、地方総督たちもいることですから、互いに訴え出たらよいのです。39 もしあなたがたに、これ以上何か要求することがあるなら、正式の議会で決めてもらわなければいけません。40 きょうの事件については、正当な理由がないのですから、騒擾罪に問われる恐れがあります。その点に関しては、私たちはこの騒動の弁護はできません。」41 こう言って、その集まりを解散させた。

20 騒ぎが治まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げて、マケドニヤへ向かって出発した。2 そして、その地方を通り、多くの勧めをして兄弟たちを励ましてから、ギリシヤに来た。3 パウロはここで三か月を過ごしたが、そこからシリヤに向けて船出しようというときに、彼に対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニヤを経て帰ることにした。4 プロの子であるベレヤ人ソパテロ、テサロニケ人アリスタルコとセクンド、デルベ人ガイオ、テモテ、アジャ人テキコとトロピモは、パウロに同行していたが、5 彼らは先発して、トロアスで私たちを待っていた。6 種なしパンの祝いが過ぎてから、私たちはピリピから船出し、五日かかってトロアスで彼らと落ち合い、そこに七日間滞在した。7 週の初めの日に、私たちは

パンを裂くために集まった。そのとき、パウロはこう言った。「皆さんは、パウロは、翌日出発することにして、私がアジヤに足を踏み入れた最初の日のので、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。8 私たちが集まっていた屋がたと過ぎて来たか、よくご存じで上の間には、ともしびがたくさんともす。19 私は謙遜の限りを尽くし、涙してあった。9 ユテコというひとりのをもって、またユダヤ人の陰謀により青年が窓のところに腰を掛けていたがわが身にふりかかる数々の試練の中で、ひどく眠けがさし、パウロの話が長、主に仕えました。20 益になることく続くので、とうとう眠り込んでしまは、少しもためらわず、あなたがたにとって、三階から下に落ちた。抱き起こ知らせました。人々の前でも、家々でしてみると、もう死んでいた。10 パウロは降りて来て、彼の上に身をかがにもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。22 と言った。11 そして、また上がっていま私は、心を縛られて、エルサレム行き、パンを裂いて食べてから、明けに上る途中です。そこで私にどんなことが起こるのかわかりません。23 たした。12 人々は生き返った青年を家だわかっているのは、聖霊がどの町でも私にはっきりとあかしされて、なわれた。13 さて、私たちは先に船に乗めと苦しみが私を待っているとわれり込んで、アソスに向けて出帆した。ることです。24 けれども、私が自分そしてアソスでパウロを船に乗せるこの走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかをとるつもりで、そう決めておいたかする任務を果たし終えることができらである。14 こうして、パウロはアなるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。25 皆さん。御国を宣べ伝えてあなたがたの中を巡回した私の顔を、あなたがたはもう二度と見る達し、次の日サモスに立ち寄り、そのことがないことを、いま私は知っています。26 ですから、私はきょうここで、あなたがたに宣言します。私は、にと、エペソには寄港しないで行くことすべての人たちが受けるさばきについて責任がありません。27 私は、神のきれば五旬節の日にはエルサレムに着ご計画の全体を、余すところなくあなたに知らせておいたからです。28 ある。17 パウロは、ミレトからエペあなたがたは自分自身と群れの全体とソに使いを送って、教会の長老たちをに気を配りなさい。聖霊は、神がご自呼んだ。18 彼らが集まって来たとき身の血をもって買い取られた神の教会

を牧させるために、あなたがたを群れ **21** 私たちは彼らと別れて出帆し、コ
の監督にお立てになったのです。 **29** スに直航し、翌日ロドスに着き、
私が出発したあと、狂暴な狼があなた そこからパタラに渡った。 **2**そこには
がたの中にはいり込んで来て、群れを フェニキヤ行きの船があったので、そ
荒らし回ることを、私は知っています れに乗って出帆した。 **3**やがてキプロ
。 **30** あなたがた自身の中からも、い スが見えて来たが、それを左にして、
ろいろな曲がったことを語って、弟子 シリヤに向かって航海を続け、ツロに
たちを自分のほうに引き込もうとする 上陸した。ここで船荷を降ろすことに
者たちが起こるでしょう。 **31** ですか なっていたからである。 **4** 私たちは弟
ら、目をさましていなさい。私が三年 子たちを見つけ出して、そこに七日間
の間、夜も昼も、涙とともにあなたが 滞在した。彼らは、御霊に示されて、
たひとりひとりを訓戒し続けて来たこ エルサレムに上らぬようと、しきり
とを、思い出してください。 **32** いま にパウロに忠告した。 **5**しかし、滞在
私は、あなたがたを神とその恵みのみ の日数が尽きると、私たちはそこを出
ことばとにゆだねます。みことばは、 て、旅を続けることにした。彼らはみ
あなたがたを育成し、すべての聖別さ な、妻や子どももいっしょに、町はず
れた人々の中にあつて御国を継がせる れまで私たちを送って来た。そして、
ことができるのです。 **33** 私は、人の ともに海岸にひざまずいて祈ってから
金銀や衣服をむさぼったことはありま 、私たちは互いに別れを告げた。 **6**そ
せん。 **34** あなたがた自身が知ってい れから私たちは船に乗り込み、彼らは
るとおり、この両手は、私の必要のた 家へ帰って行った。 **7** 私たちはツロか
めにも、私とともにいる人たちのため らの航海を終えて、トレマイに着いた
にも、働いて来ました。 **35** このよう 。そのの兄弟たちにあいさつをして、
に労苦して弱い者を助けなければなら 彼らのところに一日滞在した。 **8** 翌日
ないこと、また、主イエスご自身が、 そこを立て、カイザリヤに着き、あ
『受けるよりも与えるほうが幸いであ の七人のひとりである伝道者ピリポの
る。』と言われたみことばを思い出す 家にはいって、そこに滞在した。 **9** こ
べきことを、私は、万事につけ、あな の人には、預言する四人の未婚の娘が
たがたに示して来たのです。』 **36** こ いた。 **10** 幾日かそこに滞在している
う言い終わって、パウロはひざまずき と、アガボという預言者がユダヤから
、みなの方とともに祈った。 **37** みな 下って来た。 **11** 彼は私たちのところ
は声をあげて泣き、パウロの首を抱い に来て、パウロの帯を取り、自分の両
て幾度も口づけし、 **38** 彼が、「もう 手と両足を縛って、「『この帯の持ち
二度と私の顔を見ることがないでしよ 主は、エルサレムでユダヤ人に、こん
う。』』と言ったことばによって、特に なふうには縛られ、異邦人の手に渡され
心を痛めた。それから、彼らはパウロ る。』』と聖霊がお告げになっています
を船まで見送った。 』』と言った。 **12** 私たちはこれを聞
いて、土地の人たちと一緒になっ

て、パウロに、エルサレムには上らな
いよう頼んだ。 13するとパウロは、
「あなたがたは、泣いたり、私の心を
なくじいたりして、いったい何をし
ているのですか。私は、主イエスの御名
のためなら、エルサレムで縛られること
ばかりでなく、死ぬことさえも覚悟し
ています。」と答えた。 14彼が聞き
入れようとしないので、私たちは、「
主のみこころのままに。」と言って、
黙ってしまった。 15こうして数日た
つと、私たちは旅仕度をして、エルサ
レムに上った。 16カイザリヤの弟子
たちも幾人か私たちと同行して、古く
からの弟子であるキプロス人マナソ
ンのところに案内してくれた。私たち
そこに泊まることになっていたのであ
る。 17エルサレムに着くと、兄弟た
ちは喜んで私たちを迎えてくれた。 18
次の日、パウロは私たちを連れて、ヤ
コブを訪問した。そこには長老たちが
みな集まっていた。 19彼らにあいさ
つしてから、パウロは彼の奉仕を通し
て神が異邦人の間でなされたことを、
一つ一つ話しだした。 20彼らはそれ
を聞いて神をほめたたえ、パウロにこ
う言った。「兄弟よ。ご承知のよう
に、ユダヤ人の中で信仰にはいつてい
る者は幾万となくありますが、みな律法
に熱心な人たちです。 21ところで、
彼らが聞かされていることは、あなた
は異邦人の中にいるすべてのユダヤ人
に、子どもに割礼を施すな、慣習に従
って歩むな、と言って、モーセにそむ
くように教えているということなので
す。 22それで、どうしましょうか。
あなたが来たことは、必ず彼らの耳に
はいるでしょう。 23ですから、私た

ちの言うとおりにしてください。私た
ちの中に誓願を立てている者が四人い
ます。 24この人たちを連れて、あな
たも彼らといっしょに身を清め、彼ら
が頭をそる費用を出してやりなさい。
そうすれば、あなたについて聞かされ
ていることは根も葉もないことで、あ
なたも律法を守って正しく歩んでいる
ことが、みなにわかるでしょう。 25
信仰にはいった異邦人に関しては、偶
像の神に供えた肉と、血と、絞め殺し
た物と、不品行とを避けるべきである
と決定しましたので、私たちはすでに
手紙を書きました。」 26そこで、パ
ウロはその人たちを引き連れ、翌日、
ともに身を清めて宮にはいり、清めの
期間が終わって、ひとりひとりのため
に供え物をささげる日時を告げた。 27
ところが、その七日がほとんど終わら
うとしていたころ、アジャから来たユ
ダヤ人たちは、パウロが宮にいるの
を見ると、全群衆をあおりたて、彼に手
をかけて、 28こう叫んだ。「イスラ
エルの民は、この民と、律法と、この場所
に逆らうことを、至る所ですべての人
々に教えている者です。そのうえ、ギリ
シヤ人を宮の中に連れ込んで、この神
聖な場所をけがしています。」 29彼
らは前にエペソ人トロピモが町でパウ
ロといっしょにいるのを見かけたので
、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと
思ったのである。 30そこで町中が大
騒ぎになり、人々は殺到してパウロを
捕え、宮の外へ引きずり出した。そし
て、ただちに宮の門が閉じられた。 31
彼らがパウロを殺そうとしていたとき
、エルサレム中が混乱状態に陥ってい

るといふ報告が、ローマ軍の千人隊長語りかけるのを聞いて、人々はますます届いた。32 彼はただちに、兵士たち静粛になった。そこでパウロは話しちと百人隊長たちとを率いて、彼らの続けた。3 「私はキリキヤのタルソでところに駆けつけた。人々は千人隊長生まれたユダヤ人ですが、この町で育と兵士たちを見て、パウロを打つのをてられ、ガマリエルのもとで私たちのやめた。33 千人隊長は近づいてパウ先祖の律法について厳格な教育を受けロを捕え、二つの鎖につなぐように命、今日の皆さんと同じように、神に対じたうえ、パウロが何者なのか、何をして熱心な者でした。4 私はこの道をしたのか、と尋ねた。34 しかし、群迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死衆がめいめい勝手なことを叫び続けたにまでも至らせたのです。5 このことので、その騒がしさのために確かなこは、大祭司も、長老たちの全議会も証とがわからなかった。そこで千人隊長言してくれます。この人たちから、私は、パウロを兵営に連れて行くようには兄弟たちへあてた手紙までも受け取命令した。35 パウロが階段にさしかり、ダマスコへ向かって出発しましたかったときには、群衆の暴行を避ける。そこにいる者たちを縛り上げ、エルために、兵士たちが彼をかつぎ上げなサレムに連れて来て処罰するためでしたければならなかった。36 大ぜいの群た。6 ところが、旅を続けて、真昼ごろダマスコに近づいたとき、突然、天いて来たからである。37 兵営の中にからまばゆい光が私の回りを照らした連れ込まれようとしたとき、パウロがのです。7 私は地に倒れ、『サウロ、千人隊長に、「一言お話ししてもよいサウロ。なぜわたしを迫害するのか。でしょうか。」と尋ねると、千人隊長』という声を聞きました。8 そこで私は、「あなたはギリシヤ語を知っているが答えて、『主よ。あなたはどなたであるのか。38 するとあなたは、以前暴すか。』と言うと、その方は、『わた動を起こして、四千人の刺客を荒野にしは、あなたが迫害しているナザレの引き連れて逃げた、あのエジプト人でイエスだ。』と言われました。9 私とはないのか。」と言った。39 パウロいっしょにいた者たちは、その光は見は答えた。「私はキリキヤのタルソ出たのですが、私に語っている方の声は身のユダヤ人で、れっきとした町の市聞き分けられませんでした。10 私が民です。お願いです。この人々に話を、『主よ。私はどうしたらよいのでしさせてください。」30 千人隊長がそようか。』と尋ねると、主は私に、『れを許したので、パウロは階段の上起きて、ダマスコに行きなさい。あなた立ち、民衆に向かって手を振った。そあなたがするように決められていることはして、すっかり静かになったとき、彼みな、そこで告げられる。』と言われはへブル語で次のように話した。ました。11 ところが、その光の輝き

22 「兄弟たち、父たちよ。いま私がのために、私の目は何も見えなかったので、いっしょにいた者たちに手を引かれています。12
皆さんにしようとする弁明を聞いてください。」 2 パウロがへブル語で

すると、律法を重んじる敬虔な人で、**23**そして、人々がわめき立て、着そこに住むユダヤ人全体の間で評判の物を放り投げ、ちりを空中にまき散ら良いアナニヤという人が、**13**私のとすので、**24**千人隊長はパウロを兵営ころに来て、そばに立ち、『兄弟サウの中に引き入れるように命じ、人々がロ。見えるようになりなさい。』と言なぜこのようにパウロに向かって叫ぶいました。すると、そのとき、私はそのかを知ろうとして、彼をむち打つての人が見えるようになりました。**14**取り調べるようにと言った。**25**彼ら彼はこう言いました。『私たちの先祖がむちを当てるためにパウロを縛ったの神は、あなたにみこころを知らせ、とき、パウロはそばに立っている百人義なる方を見させ、その方の口から御隊長に言った。「ローマ市民である者声を聞かせようとお定めになったのでを、裁判にもかけずに、むち打つてよす。**15**あなたはその方のために、すいのですか。』**26**これを聞いた百人べての人に対して、あなたの見たこと隊長は、千人隊長のところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はら。**16**さあ、なぜためらっているのローマ人です。』と言った。**27**千人ですか。立ちなさい。その御名を呼んだ隊長はパウロのところに来て、「あなたでパテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』**17**こうして私がエルれ。」と言った。パウロは「そうですサレムに帰り、宮で祈っていますと、。」と言った。**28**すると、千人隊長夢ごこちになり、**18**主を見たのですは、「私はたくさんの金を出して、この主は言われました。『急いで、早くの市民権を買ったのだ。』』と言った。エルサレムを離れなさい。人々がわたしのでパウロは、「私は生まれながらしについてのあなたのあかしを受け入の市民です。』と言った。**29**このたれないからです。』**19**そこで私は答め、パウロを取り調べようとしていたえました。『主よ。私がどの会堂で者たちは、すぐにパウロから身を引いても、あなたの信者を牢に入れたり、むた。また千人隊長も、パウロがローマち打ったりしていたことを、彼らはよ市民だとわかると、彼を鎖につないでく知っています。**20**また、あなたのいたので、恐れた。**30**その翌日、千人証人ステパノの血が流されたとき、私人隊長は、パウロがなぜユダヤ人に告もその場において、それに賛成し、彼を訴されたのかを確かめたいと思って、殺した者たちの着物の番をしていたのパウロの鎖を解いてやり、祭司長たちです。』**21**すると、主は私に、『行と全議会の召集を命じ、パウロを連れきなさい。わたしはあなたを遠く、異て行って、彼らの前に立たせた。』**22**人々は、彼の話をここまで聞いていたが、このとき声を張り上げて、「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。』と言った**23**パウロは議会を見つめて、こう言った。「兄弟たちよ。私は今日まで、全くきよい良心をもって、神の前に生活して来ました。」**2**すると大祭司アナニヤは、パウロのそばに立って

いる者たちに、彼の口を打てと命じた。「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたよ
3 そのとき、パウロはアナニヤに向かかってこう言った。「ああ、白く塗った壁。神があなたを打たれる。あなたならぬ。」と言われた。12 夜が明は、律法に従って私をさばく座に着きながら、律法にそむいて、私を打てと命じるのですか。」4 するとそばに立っている者たちが、「あなたは神の大祭司をののしるのか。」と言ったので、5 パウロが言った。「兄弟たち。私は彼が大祭司だとは知らなかった。確かに、『あなたの民の指導者を悪く言

サレムでわたしのことをあかししなければならぬ。』と書いてあります、今あなたがたは議会と組んで、パウロのこともっと詳しく調べるふりがサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見て取って、議会の中でこう叫んだ。「兄弟たち。私はパリサイ人であり、パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばき」16 ところが、パウロの姉妹の子がを受けているのです。」7 彼がこう言うとき、この待ち伏せのことを耳にし、兵営に意見の衝突が起こり、議会は二つに割れた。8 サドカイ人は、復活はなく、御使いも霊もないと言ひ、パリサイ人は、どちらもあると言っていたからである。9 騒ぎがいよいよ大きくなり、パリサイ派のある律法学者たちが立ち上がって激しく論じて、「私たちは、この人に何の悪い点も見いださないので、あなたのところ。もしかしたら、霊か御使いかが、彼に語りかけたのかもしれない。」と言った。19 千人隊長は彼の手を取った。10 論争がますます激しくなり、だれもいない所に連れて行って、たので、千人隊長は、パウロが彼らに「私に伝えたいことというのは何か。引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵隊に、下に降りて行って、パウロを彼らの中から力ずくで引き出して、兵営に連れて来るように命じた。11 連れて来てくださるよう、あなたに

お願いすることを申し合わせました。トリスまで連れて行き、**32** 翌日、騎兵**21** どうか、彼らの願いを聞き入れないでください。四十人以上の者が、パウロを殺すまでは飲み食いしない、と誓い合って、彼を待ち伏せしているのです。今、彼らは手はずを整えて、あなたの承諾を待っています。」**22** そこで千人隊長は、「このことを私に知らせたことは、だれにも漏らすな。」と命じて、その青年を帰らせた。**23** そしてふたりの百人隊長を呼び、「今夜九時、カイザリヤに向けて出発できるように、歩兵二百人、騎兵七十人、槍兵二百人を整えよ。」と言いつけた。**24** また、パウロを乗せて無事に総督ペリクスのもとに送り届けるように、馬の用意もさせた。**25** そして、次のような文面の手紙を書いた。**26** 「クラウデオ・ルシヤ、つつしんで総督ペリクス閣下にごあいさつ申し上げます。**27** この者が、ユダヤ人に捕えられ、まさに殺されようとしていたとき、彼がローマ市民であることを知りましたので、私は兵隊を率いて行って、彼を助け出しました。**28** それから、どんな理由で彼が訴えられたかを知ろうと思ひ、彼をユダヤ人の議会に出頭させました。**29** その結果、彼が訴えられているのは、ユダヤ人の律法に関する問題のためで、死刑や投獄に当たる罪はないことがわかりました。**30** しかし、この者に対する陰謀があるという情報を得ましたので、私はただちに彼を閣下のもとにお送りし、訴える者たちには、閣下の前で彼のことを訴えるようにと言ひ渡しておきました。」**31** そこで兵士たちは、命じられたとおりにパウロを引き取り、夜中にアンテパ

トリスまで連れて行き、**32** 翌日、騎兵たちにパウロの護送を任せて、兵営に帰った。**33** 騎兵たちは、カイザリヤに着き、総督に手紙を手渡して、パウロを引き合わせた。**34** 総督は手紙を読んでから、パウロに、どの州の者かと尋ね、キリキヤの出であることを知って、**35** 「あなたを訴える者が来てから、よく聞くことにしよう。」と言った。そして、ヘロデの官邸に彼を守っておくように命じた。

24 五日の後、大祭司アナニヤは、数人の長老およびテルトロという弁護士といっしょに下って来て、パウロを総督に訴えた。**2** パウロが呼び出されると、テルトロが訴えを始めてこう言った。「ペリクス閣下。閣下のおかげで、私たちはすばらしい平和を与えられ、また、閣下のご配慮で、この国の改革が進行しておりますが、**3** その事実をあらゆる面において、また至る所で認めて、私たちは心から感謝しております。**4** さて、あまりご迷惑をおかけしないように、ごく手短に申し上げますから、ご寛容をもってお聞きくださいようお願いいたします。**5** この男は、まるでペストのような存在で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人という一派の首領でございます。**6** この男は宮さえもけがそうとしましたので、私たちは彼を捕えました。**7** 閣下ご自身で、これらすべてのことについて彼をお調べくださいますなら、私たちが彼を訴えております事がらを、おわかりになっていただけるはずです。」**9** ユダヤ人たちも、この訴えに同調し、全くそのとおりでと言った。**10** そのとき、

総督がパウロに、話すようにと合図したので、パウロはこう答えた。「閣下が多年に渡り、この民の裁判をつかさどる方であることを存じておりますので、私は喜んで弁明いたします。11 お調べになればわかることですが、私が礼拝のためにエルサレムに上って来たら、まだ十二日しかたっておりません。12 そして、宮でも会堂でも、また市内でも、私がだれかと論争したり、群衆を騒がせたりするのを見た者はありません。13 いま私を訴えていることについて、彼らは証拠をあげることができないはずです。14 しかし、私は、彼らが異端と呼んでいるこの道に従って、私たちの先祖の神に仕えていることを、閣下の前で承認いたします。私は、律法にかなうことと、預言者たちが書いていることを全部信じています。15 また、義人も悪人も必ず復活するという、この人たち自身も抱いている望みを、神にあって抱いております。16 そのため、私はいつても、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、と最善を尽くしています。17 さて私は、同胞に対して施しをし、また供え物をささげるために、幾年ぶりかで帰って来ました。18 その供え物のことで私は清めを受けて宮の中に入ったのを見られたのですが、別に群衆もおらず、騒ぎもありませんでした。ただアジアから来た幾人かのユダヤ人がおりました。19 もし彼らに、私について何か非難したいことがあるなら、自分で閣下の前に来て訴えるべきです。20 でなければ、今ここにいる人々に、議会の前に立っていたときの私にどんな不正を見つけたかを言わせてください。21 彼らの中に立っていたとき、私はただ一言、『死者の復活のことで、私はきょう、あなたがたの前でさばかれています。』と叫んだにすぎません。」22 しかしペリクスは、この道について相当詳しい知識を持っているので、「千人隊長ルシヤが下つて来るとき、あなたがたの事件を解決することにしよう。」と言って、裁判を延期した。23 そして百人隊長に、パウロを監禁するように命じたが、ある程度の自由を与え、友人たちが世話をすることを許した。24 数日後、ペリクスはユダヤ人である妻ドルシラを連れて来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスを信じる信仰について話を聞いた。25 しかし、パウロが正義と節制とやがて来る審判とを論じたので、ペリクスは恐れを感じ、「今は帰つてよい。おりを見て、また呼び出そう。」と言った。26 それとともに、彼はパウロから金をもらいたい下心があったので、幾度もパウロを呼び出して話し合った。27 二年たつて後、ポルキオ・フェストがペリクスの後任になったが、ペリクスはユダヤ人に恩を売ろうとして、パウロを牢につないだままにしておいた。

25 フェストは州総督として着任すると、三日後にカイザリヤからエルサレムに上った。2すると、祭司長たちとユダヤ人のおもだった者たちが、パウロのことを訴えて、3パウロを取り調べる件について自分たちに好意を持ってくれるように頼み、パウロをエルサレムに呼び寄せていただきたいと彼に懇願した。彼らはパウロを途中

で殺害するために待ち伏せをさせていた。4ところが、フェストは、パウロはカイザリヤに拘置されているし、自分分はまもなく出発の予定であると答え、5「だから、その男に何か不都合なことがあるなら、あなたがたのうちの有力な人たちが、私といっしょに下って行って、彼を告訴しなさい。」と言った。6フェストは、彼らのところへ八日あるいは十日ばかり滞在しただけで、カイザリヤへ下って行き、翌日、裁判の席に着いて、パウロの出廷を命じた。7パウロが出て来ると、エルサレムから下って来たユダヤ人たちは、彼を取り囲んで立ち、多くの重い罪状を申し立てたが、それを証拠立てることはできなかった。8しかしパウロは弁明して、「私は、ユダヤ人の律法に対して、宮に対して、またカイザルに対して、何の罪も犯してはおりません。」と言った。9ところが、ユダヤ人の歓心を買おうとしたフェストは、パウロに向かって、「あなたはエルサレムに上り、この事件について、私の前で裁判を受けることを願うか」と尋ねた。10すると、パウロはこう言った。「私はカイザルの法廷に立っているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。あなたもよくご存じのとおり、私はユダヤ人にどんな悪いこともしませんでした。11もし私が悪いことをして、死罪に当たることをしたのであれば、私は死をのがれようとはしません。しかし、この人たちが私を訴えていることに一つも根拠がないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はカイザルに上訴します。」12そのとき、フェストは陪席の者たちと協議したうえで、こう答えた。「あなたはカイザルに上訴したのだから、カイザルのもとへ行きなさい。」13数日たってから、アグリッパ王とベルニケが、フェストに敬意を表するためにカイザリヤに来了た。14ふたりがそこに長く滞在していたので、フェストはパウロの一件を王に持ち出してこう言った。「ペリクスが囚人として残して行ったひとりの男がおります。15私がエルサレムに行ったとき、祭司たちとユダヤ人の長老たちとが、その男のことを私に訴えて、罪に定めるように要求しました。16そのとき私は、『被告が、彼を訴えた者の面前で訴えに対して弁明する機会を与えられないで、そのまま引き渡されるということはローマの慣例ではない。』と答えておきました。17そういうわけで、訴える者たちがここに集まったとき、私は時を移さず、その翌日、裁判の席に着いて、その男を出廷させました。18訴えた者たちは立ち上がりましたが、私が予期していたような犯罪についての訴えは何一つ申し立てませんでした。19ただ、彼と言い争っている点は、彼ら自身の宗教に関することであり、また、死んでしまったイエスという者のことで、そのイエスが生きてるとパウロは主張しているのです。20このような問題をどう取り調べたらよいか、私には見当がつかないので、彼に『エルサレムに上り、そこで、この事件について裁判を受けたいのか。』と尋ねたところ、21パウロは、皇帝の判決を受けるまで保護してほしいと願い出たので、彼をカイザルのもとに送る時まで

守っておくように、命じておきました。あなたがユダヤ人の慣習や問題に精通し。」 22すると、アグリッパがフェスでおられるからです。どうか、私の申す通りに、「私も、その男の話を聞きたいし上げることを、忍耐をもってお聞きものです。」と言ったので、フェストにくださるよう、お願いいたします。 4は、「では、明日お聞きください。」では申し述べますが、私が最初から私と言った。 23 こういうわけで、翌日の国民の中で、またエルサレムにおいて過ごした若い時からの生活ぶりは、儀を整えて到着し、千人隊長たちや市すべてのユダヤ人の知っているところの首脳者たちにつき添われて講堂にはです。 5 彼らは以前から私を知っていますので、証言するつもりならできるといった。そのとき、フェストの命令によつてパウロが連れて来られた。 24 ことですが、私は、私たちの宗教の最も厳格な派に従って、パリサイ人として生活してまいりました。 6 そして今方々。ご覧ください。ユダヤ人がこぞ、神が私たちの先祖に約束されたものを待ち望んでいることで、私は裁判をばわり、エルサレムでも、ここでも、受けているのです。 7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでおります。王よ。私は、この希望のためにユダヤ人から訴えられているのです。 8 神が死者をよみがえらせるということ、あなたがたは、なぜ信じがたいこととされるのでしょうか。 9 以前は、私自身も、ナザレ人イエスの名に強硬に敵対すべきだと考えていました。 10 そして、それをエルサレムで実行してみました。祭司長たちから権限を授けられた私は、多くの聖徒たちを牢に入れ、彼らが殺されるときには、それに賛成の票を投じました。 11 また、すべての会堂で、しばしば彼らを罰しては、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを追跡して行きました。 12 このようにして、私は祭司長たちから権限と委任を受けて、ダマスコへ出かけて行きますと、 13 その途中、正午ご

26すると、アグリッパがパウロに、「あなたは、自分の言い分を申し述べてよろしい。」と言った。そこでパウロは、手を差し伸べて弁明し始めた。 2 「アグリッパ王。私がユダヤ人に訴えられているすべてのことについて、きょう、あなたの前で弁明できることを、幸いに存じます。 3 特に、あ

ろ、王よ、私は天からの光を見ました。それは太陽よりも明るく輝いて、私と同行者たちとの回りを照らしたのです。14 私たちはみな地に倒れました。23 すなわち、キリストは苦しみが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』15 私が『主よ。あなたはどなたですか。』と言いますと、主がこう言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。16 起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現われたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。17 わたしは、この民と異邦人の中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。18 それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖別された人々の中であつて御国を受け継がせるためである。』19 こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。21 そのために、ユダヤ人たちは私を宮の中で捕え、殺そうとしました。22 こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、堅く立っています。23 またアグリッパは、小さい者にも大きい者にもあかしをして、預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんでした。24 パウロがこのように弁明していると、フェストが大声で、「気が狂っているぞ。パウロ。博学があなたの気を狂わせている。」と言った。25 するとパウロは次のように言った。「フェスト閣下。気は狂っておりません。私は、まじめな真理のこぼを話しています。26 王はこれらのことをよく知っておられるので、王に対して私は率直に申し上げているのです。これらのことは片隅で起こった出来事ではありませんから、そのうちの一つでも王の目に留まらなかったものはないと信じます。27 アグリッパ王。あなたは預言者を信じておられますか。もちろん信じておられると思います。」28 するとアグリッパはパウロに、「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている。」と言った。29 パウロはこう答えた。「ことばが少なかりうと、多かりうと、私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみな、この鎖は別として、私のようになつてくださることです。」30 ここで王と総督とベルニケ、および同席の人々が立ち上がった。31 彼らは退場してかたは、互いに話し合つて言った。「あの人は、死や投獄に相当することは何もしていない。」32 またアグリッパはフェストに、「この人は、もしカイザ

ルに上訴しなかったら、釈放されたであろうに。」と言った。

27 さて、私たちが船でイタリアへ行くことが決まったとき、パウロとほかの数人の囚人は、ユリアスという親衛隊の百人隊長に引き渡された。**2** 私たちは、アジアの沿岸の各地に寄港して行くアドラミテオの船に乗り込んで出帆した。テサロニケのマケドニヤ人アリストアルコも同行した。**3** 翌日、シドンに入港した。ユリアスはパウロを親切に取り扱い、友人たちのところへ行って、もてなしを受けることを許した。**4** そこから出帆したが、向かい風なので、キプロスの島陰を航行した。**5** そしてキリキヤとパンフリヤの沖を航行して、ルキヤのミラに入港した。**6** そこに、イタリアへ行くアレキサンドリヤの船があったので、百人隊長は私たちをそれに乗り込ませた。**7** 幾日かの間、船の進みはおそく、ようやくのことでクニドの沖に着いたが、風のためにそれ以上進むことができず、サルモネ沖のクレテの島陰を航行し、**8** その岸に沿って進みながら、ようやく、良い港と呼ばれる所に着いた。その近くにラサヤの町があった。**9** かなりの日数が経過しており、断食の季節もすでに過ぎていたため、もう航海は危険であったので、パウロは人々に注意して、**10** 「皆さん。この航海では、きっと、積荷や船体だけではなく、私たちの生命にも、危害と大きな損失が及ぶと、私は考えます。」と言った。**11** しかし百人隊長は、パウロのことよりも、航海士や船長のほうを信用した。**12** また、この港が冬を過ぎすのに適していなかったため、大

数の者の意見は、ここを出帆して、できれば何とかして、南西と北西とに面しているクレテの港ピニクスまで行って、そこで冬を過ごしたいということになった。**13** おりから、穏やかな南風が吹いて来ると、人々はこの時とばかり錨を上げて、クレテの海岸に沿って航行した。**14** ところが、まもなくユーラクロンという暴風が陸から吹きおろして来て、**15** 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができないので、しかたなく吹き流されるままにした。**16** しかしクラウドという小さな島の陰にはいったので、ようやくのことで小舟を処置することができた。**17** 小舟を船に引き上げ、備え綱で船体を巻いた。また、スルテスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて、船具をはずして流れるに任せた。**18** 私たちは暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人々は積荷を捨て始め、**19** 三日目には、自分の手で船具までも投げ捨てた。**20** 太陽も星も見えない日が幾日も続き、激しい暴風が吹きまくるので、私たちが助かる最後の望みも今や絶たれようとしていた。**21** だれも長いこと食事をとらなかったが、そのときパウロが彼らの中に立って、こう言った。「皆さん。あなたがたは私の忠告を聞き入れて、クレテを出帆しなかったら、こんな危害や損失をこうむらなくて済んだのです。**22** しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。**23** 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、**24** こう言いました。『恐れては

いけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』**25** ですから、皆さん。元気を出さない。すべて私に告げられたとおりに。と、私は神によって信じています。**26** 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』**27** 十四日目の夜になって、私たちがアドリヤ海を漂っている。と、真夜中ごろ、水夫たちは、どこかの陸地に近づいたように感じた。**28** 水の深さを測ってみると、四十メートルほどであることがわかった。少し進んでまた測ると、三十メートルほどであった。**29** どこかで暗礁に乗り上げはしないかと心配して、ともから四つの錨を投げおろし、夜の明けのを待った。**30** ところが、水夫たちは船から逃げ出そうとして、へさきから錨を降ろすように見せかけて、小舟を海に降ろしていたので、**31** パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたにも助かりません。」と言った。**32** そこで兵士たちは、小舟の綱を断ち切って、そのまま流れ去るのに任せた。**33** ついに夜の明けかけたころ、パウロは、一同に食事をとることを勧めて、こう言った。「あなたがたは待ちに待って、きょうまで何も食べずに過ごして、十四日になります。**34** ですから、私はあなたがたに、食事をとることを勧めます。これであなたがたは助かることになるのです。あなたがたの頭から髪一筋も失われることはありません。』**35** こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝をささげてから

、それを裂いて食べ始めた。**36** そこで一同も元気づけられ、みなが食事をとった。**37** 船にいた私たちは全部で二百七十六人であった。**38** 十分食べてから、彼らは麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。**39** 夜が明けると、この陸地かわからないが、砂浜のある入江が目にとまったので、できれば、そこに船を乗り入れようということになった。**40** 錨を切って海に捨て、同時にかじ綱を解き、風に前の帆を上げて、砂浜に向かって進んで行った。**41** ところが、潮流の流れ合う浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。へさきはめり込んで動かなくなり、ともは激しい波に打たれて破れ始めた。**42** 兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと相談した。**43** しかし百人隊長は、パウロをあくまでも助けようと思って、その計画を押え、泳げる者がまず海に飛び込んで陸に上がるように、**44** それから残りの者は、板切れや、その他の、船にある物につかまって行くように命じた。こうして、彼らはみな、無事に陸に上がった。

28 こうして救われてから、私たちは、ここがマルタと呼ばれる島であることを知った。**2** 島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。おりから雨が降りだして寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなをもてなしてくれた。**3** パウロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、熱気のために、一匹のまむしがはい出して来て、彼の手に取りついた。**4** 島の人々は、この生き物がパウロの手から下がっているのを見て、「この人はきっと人殺しだ

。海からはのがれたが、正義の女神はて、神に感謝し、勇気づけられた。16
この人を生かしてはおかないのだ。」私たちがローマにはいると、パウロは
と互いに話し合った。5しかし、パウロは、その生き物を火の中に振り落と
番兵付きで自分だけの家に住むことが
許された。17三日の後、パウロはユ
して、何の害も受けなかった。6島の
ダヤ人のおもだった人たちを呼び集め
人々は、彼が今にも、はれ上がって来
、彼らが集まったときに、こう言っ
るか、または、倒れて急死するだろう
。「兄弟たち。私は、私の国民に対し
と待っていた。しかし、いくら待つて
ても、先祖の慣習に対しても、何一つ
も、彼に少しも変わった様子が見えな
そむくことはしていないのに、エルサ
いので、彼らは考えを変えて、「この
レムで囚人としてローマ人の手に渡さ
人は神さまだ。」と言いだした。7さ
れました。18ローマ人は私を取り調
て、その場所の近くに、島の首長でポ
ベましたが、私を死刑にする理由が何
プリオという人の領地があった。彼は
もなかったのを、私を釈放しようと思
ったのです。19ところが、ユダヤ人
くもてなしてくれた。8たまたまポプ
リオの父が、熱病と下痢とで床に着い
ていた。そこでパウロは、その人のも
とに行き、祈ってから、彼の上に手を
置いて直してやった。9このことがあ
なたがたに会ってお話ししようと思
ってから、島のほかの病人たちも来て
、お招きしました。私はイスラエルの
、直してもらった。10それで彼らは
望みのためにこの鎖につながれている
、私たちが非常に尊敬し、私たちが出
帆するときには、私たちに必要な品々
を用意してくれた。11三か月後に、
いて、ユダヤから何の知らせも受けて
私たちは、この島で冬を過ごしていた
おりません。また、当地に来た兄弟た
、船首にデオスクロイの飾りのある、
ちの中で、あなたについて悪いことを
アレキサンドリヤの船で出帆した。12
告げたり、話したりした者はおりませ
シラクサに寄港して、三日間とどまり
ん。22私たちは、あなたが考えてお
られることを、直接あなたから聞くの
、13そこから回って、レギオンに着
がよいと思っています。この宗派につ
いた。一日たつと、南風が吹き始めた
いては、至る所で非難があることを私
ので、二日目にはポテオリに入港した
たちは知っているからです。」23そ
。14ここで、私たちは兄弟たちに会
いで、彼らは日を定めて、さらに大ぜ
い、勧められるままに彼らのところで
こで、彼らは日を定めて、さらに大ぜ
七日間滞在した。こうして、私たちは
いでパウロの宿にやって来た。彼は朝
ローマに到着した。15私たちのこと
から晩まで語り続けた。神の国のこと
を聞いた兄弟たちは、ローマからアピ
をあかしし、また、モーセの律法と預
オ・ポロとトレス・タベルネまで出迎
言者たちの書によって、イエスのこと
えに来てくれた。パウロは彼らに会っ
について彼らを説得しようとした。24

ある人々は彼の語る事を信じたが、ある人々は信じようとしなかった。 25 こうして、彼らは、お互いの意見が一致せずに帰りかけたので、パウロは一言、次のように言った。「聖霊が預言者イザヤを通してあなたがたの先祖に語られたことは、まさにそのとおりでした。 26 『この民のところに行って、告げよ。あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。 27 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、その目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って、立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』 28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。」 29 こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、 31 大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

ローマ人への手紙

1 神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、**2** —この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前から約束されたもので、**3** 御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、**4** きよい御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。**5** このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。**6** あなたがたも、それらの人々の中であって、イエス・キリストによって召された人々です。—このパウロから、**7** ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。**8** まず第一に、あなたがたすべてのために、私はイエス・キリストによって私の神に感謝します。それは、あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです。**9** 私が御子の福音を宣べ伝えつつ霊をもって仕えている神があかししてくださることで、私はあなたがたのことを思わぬ時はなく、**10** いつも祈りのたびごとに、神のみこころによって、何とかして、今度はついに道が開かれて、あなたがたのところに行けるようにと願っています。**11** 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分けて、あなたがたを強くし

たいからです。**12** というよりも、あなたがたの間において、あなたがたと私との互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。**13** 兄弟たち。ぜひ知っておいていただきたい。私はあなたがたの中でも、ほかの国の人々の中で得たと同じように、いくらかの実を得ようと思って、何度もあなたがたのところに行こうとしたのですが、今なお妨げられているのです。**14** 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならぬ負債を負っています。**15** ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。**16** 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。**17** なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。**18** というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。**19** なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。**20** 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。(aĩdios g126) **21** というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえっ

てその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたち似た物と代えてしまいました。24 それゆえ、神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。(aiōn g165) 26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうして情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、31 わきまえない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。32 彼らは、そのようなことを行なえば、死罪に当たるといふ神の定めを知ってい

ながら、それを行なっているだけでなく、それを行なう者に心から同意しているのです。

2 ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行なっているからです。2 私たちは、そのようなことを行なっている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。3 そのようなことをしている人々をさばきながら、自分で同じことをしている人よ。あなたは、自分は神のさばきを免れるのだとでも思っているのですか。4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。7 忍耐をもって善を行ない、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、(aiōnios g166) 8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行なうすべての者の上に下り、10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、善を行なうすべての者の上にあります。11 神にはえこひいきなどはないからです。12 律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅

び、律法の下にあって罪を犯した者は、律法によってさばかれます。価値があります。しかし、もしあなたが、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行なう者が正しいと認められるからです。もし割礼を受けていない人が律法の規——律法を持たない異邦人が、生まれ定を守るなら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされなつきのみで律法の命じる行ないをすいでしょうか。また、からだに割分自身が自分に対する律法なのです。礼を受けていないで律法を守る者が、15彼らはこのようにして、律法の命じ律法の文字と割礼がありながら律法にる行ないが彼らの心に書かれていることそむいているあなたを、さばくこととを示しています。彼らの良心もいっならないでしょうか。28外見上のユしよになってあかしし、また、彼らのダヤ人がユダヤ人ではなく、外見思いは互いに責め合ったり、また、弁上のからだの割礼が割礼なのではありません。16私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れく、御霊による、心の割礼こそ割礼でたことをさばかれる日に、行なわれるす。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

3では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。2それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。3では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるでしょうか。4絶対にそんなことはありません。たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。それは、「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利を得られるため。」と書いてあるとおりです。5しかし、もし私たちの不義が神の義を明らかにするとしたら、どうなるでしょうか。人間的な言い方をしますが、怒りを

下す神は不正なのでしょうか。6 絶対それは、すべての口がふさがれて、全にそんなことはありません。もしそう世界が神のさばぎに服するためです。だとしたら、神はいったいどのように20 なぜなら、律法を行なうことによ世をさばかれるのでしょうか。7 でも、ては、だれひとり神の前に義と認められ私の偽りによって、神の真理がますますれないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。21 あれば、なぜ私がなお罪人としてさばしかし、今は、律法とは別に、しかもかれるのでしょうか。8 「善を現わす律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。22 すなわち言ってははいけないのでしょうか。、イエス・キリストを信じる信仰によ――私たちはこの点でそしられるのでる神の義であって、それはすべての信す。ある人たちは、それが私たちのこじる人に与えられ、何の差別もありまとばだと言っていますが、――もちろんせん。23 すべての人は、罪を犯したんこのように論じる者どもは当然罪なので、神からの栄誉を受けることができず、24 ただ、神の恵みにより、キでしよう。私たちは他の者にまさってリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。25 ありません。私たちは前に、ユダヤ人も神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というの、今までに犯されて来たりのある人はいない。神を求める人はいない。26 それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行ないの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。28 人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。29 それとも、とはみな、律法の下にある人々に対し神はユダヤ人だけの神でしょうか。異て言われていることを知っています。邦人にとっても神ではないのでし

か。確かに神は、異邦人にとっても、神です。30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。

4 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた。」とあります。4 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。8 主が罪を認めない人は幸いである。」9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときに

でしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。11 彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。14 もし律法による者が相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののお呼びになる方の御前で、そうなのです。18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われていたと

おりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだは死んだと同然であることと、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱りませんでした。20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。23 しかし、「彼の義とみなされた。」と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、24 また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです。25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

5 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。6 私たちがまだ弱かつ

たとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。13 というのは、律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認められないものです。14 ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきたるべき方のひな型です。15 ただし、恵みには違反のばあいとは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それに

もまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。16 また、賜物には、罪を犯したひとりによればあいと違った点があります。さばきのばあいは、一つの違反のために罪に定められたのですが、恵みのばあいは、多くの違反が義と認められるからです。17 もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのことが、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちによって支配するのです。18 こういうわけで、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行いによってすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。20 律法がはいって来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。21 それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。(aiōnios g166)

6 それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。3 それとも、あなたがたは知ら

ないのですか。キリスト・イエスについて、バプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたので、それは、キリストが御父の栄光にあって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだは滅びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることもなる、と信じます。9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささ

げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下にはなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たのでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。(aiōnios g166) 23 罪から来る報酬は死

です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。(aiōnios g166)

7 それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。——私は律法を知っている人々に言っているのです。—— 2 夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。3 ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとえ他の男に行っても、姦淫の女ではありません。4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。5 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。6 しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。7 それでは、どういうことになりますか。律法は罪なののでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。8 しかし

、罪はこの戒めによって機会を捕え、分でしたいと思う善を行なわないで、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死にます。20 もし私が自分でしたくないんだものです。9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。10 、私のうちに住む罪です。21 そういそれで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。11 それは戒めによって機会を捕えた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。12 ですから、律法は聖なるものであり、戒めも聖であり、正しく、また良いものなのです。13 では、この良いものが、私に死をもたらしただろうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪なのです。罪は、この良いもので私に死をもたらしることによって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。16 もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。19 私は、自

8 こうい、今、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。4 それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。5 肉に従う者は肉のなことをもつぱ

ら考えますが、御霊に従う者は御霊の霊とともに、あかししてください
属することをひたすら考えます。6肉す。17もし子どもであるなら、相続
の思いは死であり、御霊による思いは人でもあります。私たちがキリストと
、いのちと平安です。7というのは、、栄光をともに受けるために苦難をと
肉の思いは神に対して反抗するものだもにしているなら、私たちは神の相続
からです。それは神の律法に服従しま人であり、キリストとの共同相続人で
せん。いや、服従できないのです。8あります。18今の時のいろいろの苦
肉にある者は神を喜ばせることができしめは、将来私たちに啓示されようと
ません。9けれども、もし神の御霊がしている栄光に比べれば、取るに足り
あなたがたのうちに住んでおられるなないものと私は考えます。19被造物
ら、あなたがたは肉の中にではなく、も、切実な思いで神の子どもたちの現
御霊の中にいるのです。キリストの御われを待ち望んでいるのです。20そ
霊を持たない人は、キリストのものでれは、被造物が虚無に服したのが自分
はありません。10もしキリストがあ意志ではなく、服従させた方による
あなたがたのうちに住んでおられるなら、からのであって、望みがあるからです。21
だは罪のゆえに死んでいても、霊が、被造物自体も、滅びの束縛から解放さ
義のゆえに生きています。11もしイれ、神の子どもたちの栄光の自由の中
エスを死者の中からよみがえらせた方に入れられます。22私たちは、被造
の御霊が、あなたがたのうちに住んで物全体が今に至るまで、ともにうめき
おられるなら、キリスト・イエスを死ともに産みの苦しみをしていることを
者の中からよみがえらせた方は、あな知っています。23そればかりでなく
あなたがたのうちに住んでおられる御霊に、御霊の初穂をいただいている私たち
よって、あなたがたの死ぬべきからだ自身も、心の中でうめきながら、子に
をも生かしてくださるのです。12でしていただくこと、すなわち、私たち
すから、兄弟たち。私たちは、肉に従のからだの贖われることを待ち望んで
って歩む責任を、肉に対して負ってはいます。24私たちは、この望みによ
いません。13もし肉に従って生きるって救われているのです。目に見える
なら、あなたがたは死ぬのです。しか望みは、望みではありません。だれで
し、もし御霊によって、からだの行なも目で見ていることを、どうしてさら
いを殺すなら、あなたがたは生きるのに望むでしょう。25もしまだ見てい
です。14神の御霊に導かれる人は、ないものを望んでいるのなら、私たち
だれでも神の子どもです。15あなたは、忍耐をもって熱心に待ちます。26
あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような御霊も同じようにして、弱い私たちを
、奴隷の霊を受けたのではなく、子と助けてくださいます。私たちは、どの
してくださる御霊を受けたのです。私ように祈ったらよいかかわらないので
たちは御霊によって、「アバ、父。」すが、御霊ご自身が、言いようもない
と呼びます。16私たちが神の子ども深いうめきによって、私たちのために
であることは、御霊ご自身が、私たちとりなしてください。27人間の

心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。28 神を愛する人々、すなわち神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多

くの兄弟たちの中で長子となられるためです。30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、それが私たちに敵対できるでしょう。32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊

とみなされた。」と書いてあるとおりです。37 しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

9 私はキリストにあつて真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。2 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。3 もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。4 彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。5 先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。(aiōn g165) 6 しかし、神のみことばが無効になったわけではありません。なぜなら、イスラエルから出る者がみな、イスラエル人ではなく、7 アブラハムから出たからといって、すべてが子どもではなく、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる。」のだからです。8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫

とみなされるのです。9 約束のみこと 陶器を作る者は、同じ土のかたまりか
ばはこうです。「私は来年の今ごろ来 ば、尊いことに用いる器でも、また、
ます。そして、サラは男の子を産みま つまらないことに用いる器でも作る権
す。」 10 このことだけでなく、私た 利を持っていないのでしょうか。 22
ちの先祖イサクひとりによってみごも ですが、もし神が、怒りを示してご自
ったりベカのこともあります。 11 そ 分の力を知らせようと望んでおられる
の子どもたちは、まだ生まれてもおら のに、その滅ばされるべき怒りの器を
ず、善も悪も行なわないうちに、神の 、豊かな寛容をもって忍耐してくださ
選びの計画の確かさが、行ないにはよ ったとしたら、どうでしょうか。 23
らず、召してくださる方によるように それも、神が栄光のためにあらかじめ
と、 12 「兄は弟に仕える。」と彼女 用意しておられたあわれみの器に対し
に告げられたのです。 13 「わたしは て、その豊かな栄光を知らせてくださ
ヤコブを愛し、エサウを憎んだ。」と るためなのです。 24 神は、このあ
書いてあるとおりで。 14 それでは われみの器として、私たちを、ユダヤ
、どういうことになりますか。神に不 人の中からだけでなく、異邦人の中か
正があるのですか。絶対にそんなこと らも召してくださったのです。 25 そ
はありません。 15 神はモーセに、「 れは、ホセアの書でも言っておられる
わたしは自分のあわれむ者をあわれみ とおりです。「わたしは、わが民でな
、自分のいつくしむ者をいつくしむ。 い者をわが民と呼び、愛さなかった者
」と言われました。 16 したがって、 を愛する者と呼ぶ。 26 『あなたがた
事は人間の願いや努力によるのではな は、わたしの民ではない。』と、わた
く、あわれんでくださる神によるので しと言ったその場所で、彼らは、生け
す。 17 聖書はパロに、「わたしがあ る神の子どもと呼ばれる。」 27 また
なたを立てたのは、あなたにおいてわ 、イスラエルについては、イザヤがこ
たしの力を示し、わたしの名を全世界 う叫んでいます。「たといイスラエル
に告げ知らせるためである。」と言っ の子どもたちの数は、海への砂のよう
ています。 18 こういうわけで、神は であっても、救われるのは、残された
、人をみこころのままにあわれみ、ま 者である。 28 主は、みことばを完全
たみこころのままにかたくなにされる に、しかも敏速に、地上に成し遂げら
のです。 19 すると、あなたはこう言 れる。」 29 また、イザヤがこう預言
うでしょう。「それなのになぜ、神は したとおりで。「もし万軍の主が、
人を責められるのですか。だれが神の 私たちに 子孫を残されなかつたら、
ご計画に逆らうことができましょう。 私たちはソドムのようになり、ゴモラ
」 20 しかし、人よ。神に言い逆らう と同じものとされたであろう。」 30
あなたは、いったい何ですか。形造ら では、どういうことになりますか。義
れた者が形造った者に対して、「あな を追い求めなかった異邦人は義を得ま
たはなぜ、私をこのようなものにした した。すなわち、信仰による義です。
のですか。」と言えるでしょうか。 21 31 しかし、イスラエルは、義の律法を

追い求めながら、その律法に到達しませんでした。32なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。33それは、こう書かれていますとおりです。「見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

10 兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。2私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。3というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。4キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。5モーセは、律法による義を行なう人は、その義によって生きる、と書いています。6しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、と言っはいけない。」それはキリストを引き降ろすことです。7また、「だれが地の奥底に下るだろうか、と言っはいけない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。(Abyssos g12) 8では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。9なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえ

らせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。10人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。11聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」12ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。13「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。14しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。15遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれていますとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」16しかし、すべての人が福音に従ったではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。」とイザヤは言っています。17そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。18でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。「その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた。」19でも、私はこう言いましょう。「はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか。」まず、モーセがこう言っています。「わたしは、民でない者のことで、あなたがたのねたみを起こさせ、無知な

国民のことで、あなたがたを怒らせる。」 20 またイザヤは大胆にこう言っています。「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、わたしをたずねない者に自分を現わした。」 21 またイスラエルについては、こう言っています。「不従順で反抗する民に対して、わたしは一日中、手を差し伸べた。」

11 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。 2 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。 3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわし、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」 4 ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかがめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」 5 それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。 6 もし恵みによるのであれば、もはや行ないによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。 7 では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです。 8 こう書かれているとおりです。「神は、彼らに鈍い心と

見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。」 9 ダビデもこう言います。「彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。 10 その目はくらんで見えなくなり、その背はいつまでもかがんでおれ。」 11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなののでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。 12 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょうか。 13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。 14 そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。 15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょうか。 16 初物がきよければ、粉の全部がきよいのです。根がきよければ、枝もきよいのです。 17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、 18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。 19 枝が折られたの

は、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。 **20** そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。 **21** もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。 **22** 見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。 **23** 彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。 **24** もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもは、もったやすく自分の台木につがれるはずです。 **25** 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、 **26** こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬度を取り払う。 **27** これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」 **28** 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、

神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されています。 **29** 神の賜物と召命とは変わることがありません。 **30** ちょうどあなたがたが、かつては神に不従順であったが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けているのと同様に、 **31** 彼らも、今は不従順になっていますが、それは、あなたがたの受けたあわれみによって、今や、彼ら自身もあわれみを受けるためなのです。 **32** なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。

(eleēsē g1653) **33** ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りたいたいことでしょう。 **34** なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。 **35** また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。 **36** というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。 (aiōn g165)

12 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、きよい、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 **2** この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全である

のかをわきまえ知るために、心の一新
によって自分を変えなさい。(aiōn g165)

3 私は、自分に与えられた恵みによつて、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。12 望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。13 聖徒の入用に協力し、旅人をもてなさない。14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こ

そ知者だなどと思っははいけません。17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

13 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。6 同じ理由で、あ

あなたがたは、みつぎを納めるのです。信じている人もいますが、弱い人は野
彼らは、いつもその務めに励んでいる。菜よりほかには食べません。3 食べる
神のしもべなのです。7 あなたがたは、人は食べない人を侮ってはいけないし
、だれにでも義務を果たしなさい。み、食べない人も食べる人をさばいては
つぎを納めなければならない人にはみいけません。神がその人を受け入れて
つぎを納め、税を納めなければならないくたさったからです。4 あなたはいつ
い人には税を納め、恐れなければならないたいだれなので、他人のしもべをさば
ない人を恐れ、敬わなければならないくのですか。しもべが立つのも倒れる
人を敬いなさい。8 だれに対しても、のも、その主人の心次第です。このし
何の借りもあってはいけません。ただもべは立つのです。なぜなら、主にはし
し、互いに愛し合うことについては別、彼を立たせることができるからです
です。他の人を愛する者は、律法を完。5 ある日を、他の日に比べて、大事
全に守っているのです。9 「姦淫するだど考える人もいますが、どの日も同
な、殺すな、盗むな、むさぼるな。」じだど考える人もいます。それぞれ自
という戒め、またほかにどんな戒めが分の心の中で確信を持ちなさい。6 日
あっても、それらは、「あなたの隣人を守る人は、主のために守っています
をあなた自身のように愛せよ。」とい。食べる人は、主のために食べていま
うことばの中に要約されているからです。なぜなら、神に感謝しているから
す。10 愛は隣人に対して害を与えまです。食べない人も、主のために食べ
せん。それゆえ、愛は律法を全うしまないのであって、神に感謝しているの
す。11 あなたがたは、今がどのようなです。7 私たちの中でだれひとりとし
時か知っているのですから、このようて、自分のために生きている者はなく
に行ないなさい。あなたがたが眠りか、また自分のために死ぬ者もありませ
らさめるべき時刻がもう来ています。ん。8 もし生きるなら、主のために生
というのは、私たちが信じたころよりき、もし死ぬなら、主のために死ぬの
も、今は救いが私たちにもっと近づいす。ですから、生きるにしても、死
ているからです。12 夜はふけて、昼ぬにしても、私たちは主のものです。
が近づきました。ですから、私たちは9 キリストは、死んだ人にとっても、
、やみのわざを打ち捨てて、光の武具生きている人にとっても、その主とな
を着けようではありませんか。13 遊るために、死んで、また生きられたの
興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみです。10 それなのに、なぜ、あなた
の生活ではなく、昼間らしい、正しいは自分の兄弟をさばくのですか。また
生き方をしようではありませんか。14、自分の兄弟を侮るのですか。私たち
主イエス・キリストを着なさい。肉のはみな、神のさばきの座に立つように
欲のために心を用いてはいけません。なるのです。11 次のように書かれて
いるからです。「主は言われる。わた
しは生きている。すべてのひごは、わ
たしの前にひごまづき、すべての舌は

14 あなたがたは信仰の弱い人を受け
入れなさい。その意見をさばいて
はいけません。2 何でも食べてよいと

、神をほめたたえる。」 12 こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。 13 ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまりまずきになるものを置かないように決心しなさい。 14 主イエスにあって、私が知り、また確信していることは、それ自体で汚れているものは何一つないということです。ただ、これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。 15 もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。 16 ですから、あなたがたが良いとしている事によって、そしられないようにしなさい。 17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。 18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。 19 そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。 20 食べ物の中で神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。 21 肉を食わず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。 22 あなたの持っている信仰は

、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。 23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

15 私たち力のある者は、力のない人たちの弱さをになうべきです。自分を喜ばせるべきではありません。 2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。 3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。むしろ、「あなたをそしる人々のそしりは、わたしの上にもふりかかった。」と書いてあるとおりです。 4 昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。 5 どううか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいませうように。 6 それは、あなたがたが、心をついにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。 7 こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。 8 私はいいます。キリストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとされました。それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、 9 また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるよう

になるためです。こう書かれていると
さらにまた、御霊の力によって、それ
おりです。「それゆえ、私は異邦人の
を成し遂げてくださいました。その結
中で、あなたをほめたたえ、あなた
果、私はエルサレムから始めて、ずっ
の御名をほめ歌おう。」 10 また、こ
と回ってイルリコに至るまで、キリス
うも言われています。「異邦人よ。主
トの福音をくまなく伝えました。 20
の民とともに喜べ。」 11 さらにまた
このように、私は、他人の土台の上に
、「すべての異邦人よ。主をほめよ。
建てないように、キリストの御名がま
もろもろの国民よ。主をたたえよ。」
だ語られていない所に福音を宣べ伝え
12 さらにまた、イザヤがこう言ってい
ることを切に求めたのです。 21 それ
ます。「エッサイの根が起る。異
は、こう書いてあるとおりです。「彼
邦人を治めるために立ち上がる方であ
のことを伝えられなかった人々が 見る
る。異邦人はこの方に望みをかける。
ようになり、聞いたことのなかった人
」 13 どうか、望みの神が、あなたが
々が 悟るようになる。」 22 そうい
たを信仰によるすべての喜びと平和を
わけて、私は、あなたがたのところ
もって満たし、聖霊の力によって望み
行くのを幾度も妨げられましたが、 23
にあふれさせてくださいますように。
今は、もうこの地方には私の働くべき
14 私の兄弟たちよ。あなたがた自身が
所がなくなりましたし、また、イスパ
善意にあふれ、すべての知恵に満たさ
ニヤに行くばあいは、あなたがたのと
れ、また互いに訓戒し合うことができ
ころに立ち寄ることを多年希望してい
ることを、この私は確信しています。
ましたので、 24 ——というのは、途
15 ただ私が所々、かなり大胆に書いた
中あなたがたに会い、まず、しばらく
のは、あなたがたにもう一度思い起こ
の間あなたがたとともにいて心を満た
してもらったためでした。 16 それも私
されてから、あなたがたに送られ、そ
が、異邦人のためにキリスト・イエス
こへ行きたいと望んでいるからです。
の仕え人となるために、神から恵みを
—— 25 ですが、今は、聖徒たちに奉
いただいているからです。私は神の福
仕するためにエルサレムへ行こうとし
音をもって、祭司の務めを果たしてい
ています。 26 それは、マケドニヤと
ます。それは異邦人を、聖霊によって
アカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒
きよめられた、神に受け入れられる供
たちの中の貧しい人たちのために贖金
え物とするためです。 17 それで、神
することにしたからです。 27 彼らは
に仕えることに関して、私はキリスト
確かに喜んでそれをしたのですが、同
・イエスにあって誇りを持っているの
時にまた、その人々に対してはその義
務があるのです。異邦人は霊的なこと
です。 18 私は、キリストが異邦人を
では、その人々からもらいものをした
従順にならせるため、この私を用いて
のですから、物質的な物をもって彼ら
成し遂げてくださったこと以外に、何
にかを話そうなどはしません。キリス
に奉仕すべきです。 28 それで、私は
トは、ことばと行ないにより、 19 ま
このことを濟ませ、彼らにこの実を確
かた、しるしと不思議をなす力により、
かに渡してから、あなたがたのところ

を通過してイスパニヤに行くことにします。**29** あなたがたのところに行くときは、キリストの満ちあふれる祝福をもって行くことと信じています。**30** 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって大切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。**31** 私がユダヤにいる不信仰な人々から救い出され、またエルサレムに対する私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように。**32** その結果として、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところへ行き、あなたがたの中で、ともにいこいを得ることができるようになりますように。**33** どうか、平和の神が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。

16 ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。**2** どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。**3** キリスト・イエスにあって私の同労者であるプリスカとアクラによりよく伝えてください。**4** この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを守ってくれたのです。この人たちには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。**5** またその家の教会によりよく伝えてください。私の愛するエパネットによりよく。この人はアジヤでキリストを信じた最初の人です。**6** あなたがたのた

めに非常に労苦したマリヤによりよく。**7** 私の同国人で私といっしょに投獄されたことのある、アンドロニコとユニアスにもよろしく。この人々は使徒たちの間によく知られている人々で、また私より先にキリストにある者となったのです。**8** 主にあって私の愛するアムプリアトによりよく。**9** キリストにあって私たちの同労者であるウルバノと、私の愛するスタキスとによりよく。**10** キリストにあって練達したアペレによりよく。アリストプロの家の人たちによりよく。**11** 私の同国人ヘロデオンによりよく。ナルキソの家の主にある人たちによりよく。**12** 主にあって労している、ツルパナとツルポサによりよく。主にあって非常に労苦した愛するペルスシによりよく。**13** 主にあって選ばれた人ルポスによりよく。また彼と私との母によりよく。**14** アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる兄弟たちによりよく。**15** フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパおよびその人たちといっしょにいるすべての聖徒たちによりよく。**16** あなたがたはきよい口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみな、あなたがたによりよくと言っています。**17** 兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまづきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。**18** そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばを

もって純朴な人たちの心をだまして
いるのです。 **19** あなたがたの従順は
すべての人に知られているので、私は
あなたがたのことを喜んでます。しか
し、私は、あなたがたが善にはさどく
、悪にはうとくあつてほしい、と望
んでいます。 **20** 平和の神は、すみ
やかに、あなたがたの足でサタンを
踏み砕いてくださいます。どうか、
私たちの主イエスの恵みが、あなた
がたとともにありますように。 **21** 私
の同労者テモテが、あなたがたによ
ろしくと言っています。また私の同
国人ルキオとヤソンとソシパテロ
がよろしくと言っています。 **22** こ
の手紙を筆記した私、テルテオも
、主にあつてあなたがたにごあいさ
つ申し上げます。 **23** 私と全教会
との家主であるガイオも、あなた
がたによろしくと言っています。市
の収入役であるエラストと兄弟ク
ワルトもよろしくと言っています。 **25**
私の福音とイエス・キリストの宣
教によって、すなわち、世々にわた
って長い間隠されていたが、 **(aiōnios g166)** **26** 今や
現わされて、永遠の神の命令に従
い、預言者たちの書によって、信
仰の従順に導くためにあらゆる国
の人々に知らされた奥義の啓示に
よつて、あなたがたを堅く立たせ
ることができる方、 **(aiōnios g166)** **27** 知
恵に富む唯一の神に、イエス・キ
リストによつて、御栄えがとこし
えまでありますように。アーメン。
(aiōn g165)

コリント人への手紙第一

1 神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、**2** コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあつてきよめられた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。**3** 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**4** 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。**5** というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあつて豊かな者とされたからです。**6** それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、**7** その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。**8** 主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保ってくださいます。**9** 神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。**10** さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みなが一致して、仲

間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。**11** 実にはあなたがたのことをクロエの家の者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、**12** あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく。」「私はアポロに。」「私はケパに。」「私はキリストにつく。」と言っているということです。**13** キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたのはパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名によるのでしょうか。**14** 私は、クリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けたことがないことを感謝しています。**15** それは、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたと言われないようにするためにした。**16** 私はステパナの家族にもバプテスマを授けましたが、そのほかはだれにも授けた覚えはありません。**17** キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授けさせるためではなく、福音を宣べ伝えさせるためです。それも、キリストの十字架がむなしくならないために、ことばの知恵によってはならないのです。**18** 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。**19** それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」**20** 知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。(aiōn g165) **21** 事

実、この世が自分の知恵によって神を
知ることがないのは、神の知恵による
のです。それゆえ、神はみこころによ
って、宣教のことばの愚かさを通して
、信じる者を救おうと定められたので
す。22 ユダヤ人はしるしを要求し、
ギリシヤ人は知恵を追求します。23
十字架につけられた方のほかは、何も知
しかし、私たちは十字架につけられた
らなことに決心したからです。3 あ
キリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ
人にとってはつまずき、異邦人にとっ
ては愚かでしょうが、24 しかし、ユ
ダヤ人であってもギリシヤ人であって
も、召された者にとっては、キリスト
は神の力、神の知恵なのです。25 な
げなら、神の愚かさは人よりも賢く、
神の弱さは人よりも強いからです。26
兄弟たち、あなたがたの召しのことを
考えてごらん下さい。この世の知者は
多くはなく、権力者も多くはなく、身
分の高い者も多くはありません。27
しかし神は、知恵ある者はずかしめ
るために、この世の愚かな者を選び、
強い者はずかしめるために、この世
の弱い者を選ばれたのです。28 また
、この世の取るに足りない者や見下さ
れている者を、神は選ばれました。す
なわち、有るものをない者のようにす
るため、無に等しいものを選ばれたの
です。29 これは、神の御前でだれを
も誇らせないためです。30 しかしあ
なたがたは、神によってキリスト・イ
エスのうちにあるのです。キリストは
、私たちにとって、神の知恵となり、
心にも思い浮かんだことのないもの。神
また、義ときよめと、贖いとになられ
ました。31 まさしく、「誇る者は主
にあつて誇れ。」と書かれているとお
りになるためです。

2 さて兄弟たち。私があなたがたのと
ころへ行つたとき、私は、すぐれた
ことば、すぐれた知恵を用いて、神の
あかしを宣べ伝えることはしませんで
した。2 なぜなら私は、あなたがたの
間で、イエス・キリスト、すなわち十
字架につけられた方のほかは、何も知
らないことに決心したからです。3 あ
なたがたといっしょにいたときの私は
、弱く、恐れおののいていました。4
そして、私のことばと私の宣教とは、
説得力のある知恵のことばによって行
なわれたものではなく、御霊と御力の
現われでした。5 それは、あなたがた
の持つ信仰が、人間の知恵にささえら
れず、神の力にささえられるためでし
た。6 しかし私たちは、成人の間で、
知恵を語ります。この知恵は、この世
の知恵でもなく、この世の過ぎ去って
行く支配者たちの知恵でもありません
。(aiōn g165) 7 私たちの語るのは、隠さ
れた奥義としての神の知恵であつて、
それは、神が、私たちの栄光のために
、世界の始まる前から、あらかじめ定
められたものです。(aiōn g165) 8 この知
恵を、この世の支配者たちは、だれひ
とりとして悟りませんでした。もし悟
っていたら、栄光の主を十字架につけ
はしなかつたでしょう。(aiōn g165) 9 ま
さしく、聖書に書いてあるとおりです
。「目が見たことのないもの、耳が
聞いたことのないもの、そして、人の
心に思い浮かんだことのないもの。神
を愛する者のために、神の備えてくだ
さったものは、みなそうである。」10
神はこれを、御霊によって私たちに啓
示されたのです。御霊はすべてのこと
を探り、神の深みにまで及ばれるから

です。11 いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。12 ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜わったものを、私たちが知るためです。13 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のこれを解くのです。14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れられません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。15 御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分だけによってもわきまえられません。16 いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。

3 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属してい

るではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。4 ある人が、「私はパウロにつく。」と言えば、別の人は、「私はアポロに。」と言う。そういうことで、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。5 アポロとは何でしょう。パウロとは何でしょう。あなたがたが信仰にはいるために用いられたしもべであって、主がおののちに授けられたとおりのことをしたのです。6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。8 植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。9 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。10 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報い

を受けます。15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたに宿っておられることを知らないのですか。17 もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたがその神殿です。

18 だれも自分を欺いてはいけません。もしあなたがたの中で、自分は今の世の知者だと思ふ者がいたら、知者になるためには愚かになりなさい。(aiōn g165) 19 なぜなら、この世の知恵は、神の御前では愚かだからです。こう書いてあります。「神は、知者どもを彼らの悪賢さの中で捕える。」20 また、次のようにも書いてあります。「主は、知者の論議を無益だと知っておられる。」21 ですから、だれも人間を誇ってははいけません。すべては、あなたがたのものであります。22 パウロであれ、アポロであれ、ケパであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてあなたがたのものであります。23 そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものであります。

4 こういうわけで、私たちを、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい。2 このばあい、管理者には、忠実であることが要求されます。3 しかし、私にとっては、あなたがたによる判定、あるいは、およそ人間による判決を受けることは、非常に小さなことです。事実、私は自分で自分をさばくことさえしません。4 私にはやましいことは少しもありませんが、だからといって、それで無罪とされるわけではありません。私をさばく方は主です。5 ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです。6 さて、兄弟たち。以上、私は、私自身とアポロに当てはめて、あなたがたのために言つて来ました。それは、あなたがたが、私たちの例によって、「書かれていることを越えない。」ことを学ぶため、そして、一方にくみし、他方に反対して高慢にならないためです。7 いったいだれが、あなたをすぐれた者と認められるのですか。あなたには、何か、もらったものでないものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。8 あなたがたは、もう満ち足りています。もう豊かになっています。私たち抜きで、王さまになっています。いっそのこと、あなたがたがほんとうに王さまになっていたらよかったです。そうすれば、私たちも、あなたがたといっしょに王になれたでしょうに。9 私は、こう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、行列のしんがりとして引き出されました。こうして私たちは、御使いにも人々にも、この世の見せ物になったのです。10 私たちはキリストのために愚かな者ですが、あなたがたはキリストにあつて賢い者です。私たちは弱いですが、あなたがたは強いのです。あなたがたは榮譽

を持っているが、私たちは卑しめられています。11 今に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、虐待され、落ち着く先也没有せん。12 また、私たちは苦勞して自分の手で働いています。はずかしめられるときにも祝福し、迫害されるときにも耐え忍び、13 ののしられるときには、慰めのことばをかけます。今でも、私たちはこの世のちり、あらゆるもののかすです。14 私がこう書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、愛する私の子どもとして、さとすためです。15 たといあなたがたに、キリストにある養育係が一人であろうとも、父は多くあるはずがありません。この私が福音によって、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。16 ですから、私はあなたがたに勧めます。どうか、私にならう者となってください。17 そのために、私はあなたがたのところへテモテを送りました。テモテは主にあって私の愛する、忠実な子です。彼は、私が至る所のすべての教会で教えているとおりに、キリスト・イエスにある私の生き方を、あなたがたに思い起こさせてくれるでしょう。18 私があなたがたのところへ行くとことはあるまいと、思い上がっている人たちがいます。19 しかし、主のみこころであれば、すぐにもあなたがたのところへ行きます。そして、思い上がっている人たちの、ことばではなく、力を見せてもらいましょう。20 神の国はことばにはなく、力にあるのです。21 あなたがたはどちらを望むのですか。私はあなたがたのところへ

むちを持って行きましょうか。それとも、愛と優しい心で行きましょうか。

5 あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれは、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとのことです。2 それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています。そればかりか、そのような行ないをしている者をあなたがたの中から取り除こうとして悲しむこともなかったのです。3 私のほうでは、からだはそこにいなくても心はそこにおり、現にそこにいるのと同じように、そのような行ないをした者を主イエスの御名によってすでにさばきました。4 あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、5 このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。6 あなたがたの高慢は、よくないことです。あなたがたは、ほんのわずかのパン種が、粉のかたまり全体をふくらませることを知らないのですか。7 新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。8 ですから、私たちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン種のはいらぬ、純粹で眞實なパンで、祭りをしようではありませんか。9 私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。10 それは、世の中の不品行

行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像
を礼拝する者と全然交際しないように
という意味ではありません。もしそう
だとしたら、この世界から出て行かな
ければならないでしょう。11私を書
いたことのほんとうの意味は、もし、
兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な
者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人
をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者
がいたなら、そのような者とはつきあ
ってはいけない、いっしょに食事をし
てもいけない、ということです。12
外部の人たちをさばくことは、私のす
べきことでしょうか。あなたがたがさ
ばくべき者は、内部の人たちではあり
ませんか。13外部の人たちは、神が
おさばきになります。その悪い人をあ
なたがたの中から除きなさい。

6あなたがたの中には、仲間の者と争
いを起こしたとき、それを聖徒たち
に訴えないで、あえて、正しくない人
たちに訴え出るような人がいるのでし
ょうか。2あなたがたは、聖徒が世界
をさばくようになることを知らないの
ですか。世界があなたがたによってさ
ばかれるはずなのに、あなたがたは、
ごく小さな事件さえもさばく力がない
のですか。3私たちは御使いをもさば
くべき者だ、ということ、知らない
のですか。それならこの世のことは、
言うまでもないではありませんか。4
それなのに、この世のことで争いが起
けると、教会のうちでは無視される人
たちを裁判官に選ぶのですか。5私は
あなたがたをはずかしめるためにこう
言っているのです。いったい、あなた
がたの中には、兄弟の間の争いを仲裁
することのできるような賢い者が、ひ

とりもないのですか。6それで、兄
弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信
者の前でするのですか。7そもそも、
互いに訴え合うことが、すでにあなた
がたの敗北です。なぜ、むしろ不正を
も甘んじて受けないのですか。なぜ、
むしろだまされていないのですか。8
ところが、それぞれか、あなたがた
は、不正を行なう、だまし取る、しか
もそのようなことを兄弟に対してして
いるのです。9あなたがたは、正しく
ない者は神の国を相続できないことを
、知らないのですか。だまされてはい
けません。不品行な者、偶像を礼拝す
る者、姦淫をする者、男娼となる者、
男色をする者、10盗む者、貪欲な者
、酒に酔う者、そしめる者、略奪する者
はみな、神の国を相続することができ
ません。11あなたがたの中のある人
たちは以前はそのような者でした。し
かし、主イエス・キリストの御名と私
たちの神の御霊によって、あなたがた
は洗われ、きよい者とされ、義と認め
られたのです。12すべてのことが私
には許されたことです。しかし、すべ
てが益になるわけではありません。私
にはすべてのことが許されています。
しかし、私はどんなことにも支配され
はしません。13食物は腹のためにあ
り、腹は食物のためにあります。とこ
ろが神は、そのどちらをも滅ぼされま
す。からだは不品行のためにあるので
はなく、主のためであり、主はからだ
のためです。14神は主をよみがえら
せましたが、その御力によって私たち
をもよみがえらせてくださいます。15
あなたがたのからだはキリストのから
だの一部であることを、知らないので

すか。キリストのからだを取って遊女のからだとするのですか。そんなことは絶対に許されません。16 遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。「ふたりの者は一心同体となる。」と言われていたからです。17 しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。18 不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものであります。しかし、不品行を行なう者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。

7 さて、あなたがたの手紙に書いてあったことについてですが、男が女に触れないのは良いことです。2 しかし、不品行を避けるため、男はそれぞれ自分の妻を持ち、女もそれぞれ自分の夫を持ちなさい。3 夫は自分の妻に対して義務を果たし、同様に妻も自分の夫に対して義務を果たしなさい。4 妻は自分のからだに関する権利を持つてはならず、それは夫のものであります。同様に夫も自分のからだについての権利を持つてはならず、それは妻のものであります。5 互いの権利を奪い取ってははいけません。ただし、祈りに専心するために、合意の上でしばらく離れていて、また再びいっしょになるというのならかまいません。あなたがたが自制力を欠くとき、サタン誘惑にかからないためです。6 以上、私の言うところは、

容認であって、命令ではありません。7 私の願うところは、すべての人が私のようにあることです。しかし、ひとりひとり神から与えられたそれぞれの賜物を持っているので、人それぞれに行き方があります。8 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていただけるなら、それが高いのです。9 しかし、もし自制することができなければ、結婚しなさい。情の燃えるよりは、結婚するほうがよいからです。10 次に、すでに結婚した人々に命じます。命じるのは、私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。11 ——もし別れたのだったら、結婚せずにいるか、それとも夫と和解するか、どちらかにしなさい。——また夫は妻を離別してはいけません。12 次に、そのほかの人々に言いますが、これを言うのは主ではなく、私です。信者の男子に信者でない妻があり、その妻がいっしょにいることを承知しているばあいは、離婚してはいけません。13 また、信者でない夫を持つ女は、夫がいっしょにいることを承知しているばあいは、離婚してはいけません。14 なぜなら、信者でない夫は妻によってきよめられており、また、信者でない妻も信者の夫によってきよめられているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れているわけです。ところが、現にきよいのです。15 しかし、もし信者でないほうの者が離れて行くのであれば、離れて行かせなさい。そのようなばあいには、信者である夫あるいは妻は、縛られることはありません。神は、平和を得させようとしてあなたがたを召

されたのです。16 なぜなら、妻よ。はいけません。28 しかし、たとえあなたが夫を救えるかどうか、あなたが結婚したからといって、罪を犯してわかりますか。また、夫よ。あなたではありません。たとえ処女が結婚した妻を救えるかどうか、どうして結婚したからといって、罪を犯すのかわかりますか。17 ただ、おのおのではありません。ただ、それらの人々は、主からいただいた分に応じ、また神その身に苦難を招くでしょう。私はあがおのおのをお召しになったときのまあなたがたを、そのようなめに会わせたまの状態です。私は、すべくないのです。29 兄弟たちよ。私はての教会で、このように指導しています。時は縮まっています。今からは、妻のある者はたのなら、その跡をなくしてはいけません。また、召されたとき割礼を受けては30 泣く者は泣かない者のように、喜ぶていなかったのなら、割礼を受けては者は喜ばない者のように、買う者は所いけません。19 割礼は取るに足らぬ有しない者のようにしていなさい。31 こと、無割礼も取るに足らぬことです世の富を用いる者は用いすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。32 あなたがたが思い煩われないことを私は望んでいます。独身の状態にとどまっていなさい。21 奴隷の状態で召されたのなら、それを気に男は、どうしたら主に喜ばれるかと、してはいけません。しかし、もし自由主のことに心を配ります。33 かつの身になれるなら、むしろ自由になり、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばなさい。22 奴隷も、主にあつて召されるかと世のことに心を配り、34 心れた者は、主に属する自由人であり、が分かれるのです。独身の女や処女は同じように、自由人も、召された者は、身もたましいもきよくなるため、主キリストに属する奴隷だからです。23 のことに心を配りますが、結婚した女あなたがたは、代価をもって買われたは、どうしたら夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。35 ですが、24 兄弟たち。おのおの召され私がこう言っているのは、あなたがた自身の益のためであつて、あなたがたを束縛しようとしているのではありませぬ。むしろあなたがたが秩序ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるためなのです。36 もし、処女である自分の娘の婚期も過ぎようとしていて、そのままでは、娘に対しての扱い方が正しくないといい、またやむをえないことがあるならば、その人は、その心のままにしなさい。罪を犯すわけで

はありません。彼らに結婚させなさい。37しかし、もし心のうちに堅く決意しており、ほかに強いられる事情もなく、また自分の思うとおりに行なうことのできる人が、処女である自分の娘をそのままにしておくのなら、そのことはりっぱです。38ですから、処女である自分の娘を結婚させる人は良いことをしているのであり、また結婚させない人は、もっと良いことをしているのです。39妻は夫が活着ている間は夫に縛られています。しかし、もし夫が死んだなら、自分の願う人と結婚する自由があります。ただ主にあつてのみ、そうなのです。40私の意見では、もしそのままにしていれば、そのほうがもっと幸いです。私も、神の御霊をいただいていると思います。

8次に、偶像にささげた肉についてですが、私たちはみな知識を持っているということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。2人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らなければならないほどのことも知ってはいないのです。3しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのです。4そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。5なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天にも地にもありますが、6私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこ

の神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。7しかし、すべての人にこの知識があるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ、それで彼らのそのように弱い良心が汚れるのです。8しかし、私たちが神に近づけるのは食物ではありません。食べなくても損にはならないし、食べても益にはなりません。9ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように、気をつけなさい。10知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささげた肉を食べるようなことにならないでしょうか。11その弱い人は、あなたの知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死んでくださったのです。12あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を踏みにじる時、キリストに対して罪を犯しているのです。13ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら、私は今後いっさい肉を食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです。(aiōn g165)

9私には自由がないのでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たちの主イエスを見たのではないのでしょうか。あなたがたは、主にあつて私の働きの実ではありませんか。2たと

い私がほかの人々に対しては使徒でなくとも、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、主にあって、私が使徒であることの証印です。3 私をさばく人たちに対して、私は次のように弁明します。4 いったい私たちには飲み食いする権利がないのでしょうか。5 私たちには、ほかの使徒、主の兄弟たち、ケパなどと違って、信者である妻を連れて歩く権利がないのでしょうか。6 それともまた、私とバルナバだけには、生活のための働きをやめる権利がないのでしょうか。7 いったい自分の費用で兵士になる者がいるのでしょうか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない者がいるのでしょうか。羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない者がいるのでしょうか。8 私がこんなことを言うのは、人間の考えによって言っているのでしょうか。律法も同じことを言っているではありませんか。9 モーセの律法には、「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけな。」と書いてあります。いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。10 それとも、もっぱら私たちのために、こう言っておられるのでしょうか。むろん、私たちのためにこう書いてあるので、なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは当然だからです。11 もし私たちが、あなたがたに御霊のものを蒔いたのであれば、あなたがたから物質的なものを刈り取ることは行き過ぎでしょうか。12 もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私

なおさらその権利を用いてよいはずではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。かえて、すべてのことについて耐え忍んでいます。それは、キリストの福音に少しの妨げも与えまいとしてなのです。13 あなたがたは、宮に奉仕している者が宮の物を食べ、祭壇に仕える者が祭壇の物にあずかることを知らないのですか。14 同じように、主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活のささえを得るように定めておられます。15 しかし、私はこれらの権利の一つも用いませんでした。また、私は自分がそうされたくてこのように書いているのでもありません。私は自分の誇りをだれかに奪われるよりは、死んだほうがましだからです。16 というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならぬことだからです。もし福音を宣べ伝えなかつたら、私はわざわいに会います。17 もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましよう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。18 では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え、福音の働きによって持つ自分の権利を十分に用いないことなのです。19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。20 ユダヤ人にはユダヤ人となりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいま

せんが、律法の下にある者のようになり、それを獲得するためです。21 律法を持たない人々に対しては、――私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、――律法を持たない者のようになり、それを獲得するためです。22 弱い人々には、弱い者になり、それを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなり、それを、何とかして、幾人かでも救うためです。23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。24 競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。25 また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするので、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするので。26 ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいけません。27 私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。

10 そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいのです。私たちの先祖はみな、雲の下におり、みな海を通って行きました。2 そしてみな、雲と海とで、モーセにつくパプテスマを受け、3 みな同

じ御霊の食べ物を食べ、4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。5 にもかかわらず、彼らの大部分は神のみこころにかなわず、荒野で滅ぼされました。6 これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。それは、彼らがむさぼったように私たちが悪をむさぼることのないためです。7 あなたがたは、彼らの中のある人たちにあって、偶像崇拜者となつてはいけません。聖書には、「民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った。」と書いてあります。8 また、私たちが、彼らのある人たちが姦淫をしたのにならつて姦淫をすることはしないようにしましょう。彼らは姦淫のゆえに一日に二万三千人死にました。9 私たちは、さらに、彼らの中のある人たちが主を試みたのにならつて主を試みることはしないようにしましょう。彼らは蛇に滅ぼされました。10 また、彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならつてつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。(aiōn g165) 12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに

に、脱出の道も備えてくださいます。、他人の利益を心がけなさい。 25 市
14 ですから、私の愛する者たちよ。偶 場に売っている肉は、良心の問題とし
像礼拝を避けなさい。 15 私は賢い人 て調べ上げることはしないで、どれで
たちに話すように話します。ですから も食べなさい。 26 地とそれに満ちて
私の言うことを判断してください。 16 いるものは、主のものだからです。 27
私たちが祝福する祝福の杯は、キリス もし、あなたがたが信仰のない者に招
トの血にあずかることではありません 待されて、行きたいと思うときは、良
か。私たちの裂くパンは、キリストの 心の問題として調べ上げることはしな
からだにあずかることではありません いで、自分の前に置かれる物はどれで
か。 17 パンは一つですから、私たち も食べなさい。 28 しかし、もしだれ
は、多数であっても、一つのからだで かが、「これは偶像にささげた肉です
す。それは、みなの方がともに一つの。」とあなたがたに言うなら、そう知
パンを食べるからです。 18 肉による らせた人のために、また良心のために
イスラエルのことを考えてみなさい。、食べてはいけません。 29 私が良心
供え物を食べる者は、祭壇にあずかる と言うのは、あなたの良心ではなく、
ではありませんか。 19 私は何を言お ほかの人の良心です。私の自由が、他
うとしているのでしょうか。偶像の神に の人の良心によってさばかれるわけが
がささげた肉に、何か意味があるとか、 あるでしょうか。 30 もし、私が神に
偶像の神に真実な意味があるとか、言 感謝をささげて食べるなら、私が感謝
おうとしているのでしょうか。 20 い する物のために、そしられるわけがあ
や、彼らのささげる物は、神にはな るでしょうか。 31 こういうわけで、
くて悪霊にささげられている、と言っ あなたがたは、食べるにも、飲むにも
ているのです。私は、あなたがたに悪、何をするにも、ただ神の栄光を現わ
霊と交わる者になってもらいたくあり すためにしなさい。 32 ユダヤ人にも
ません。 21 あなたがたが主の杯を飲、ギリシヤ人にも、神の教会にも、つ
んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むこと まずきを与えないようにしなさい。 33
は、できないことです。主の食卓にあ 私も、人々が救われるために、自分の
ずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあ 利益を求めず、多くの人の利益を求め
ずかることはできないことです。 22、どんなことでも、みなの人を喜ばせ
それとも、私たちは主のねたみを引き ているのですから。
起こそうとするのですか。まさか、私 **11** 私がキリストを見ならっているよ
たちが主よりも強いことはないでしょ うに、あなたがたも私を見ならっ
う。 23 すべてのことは、してもよい てください。 2 さて、あなたがたは、
のです。しかし、すべてのことが有益 何かにつけて私を覚え、また、私があ
とはかぎりません。すべてのことは、 なたがたに伝えたものを、伝えられた
してもよいのです。しかし、すべての とおりに堅く守っているのです、私はあ
ことが徳を高めるとはかぎりません。 なたがたをほめたいと思います。 3 し
24 だれでも、自分の利益を求めないで かし、あなたがたに次のことを知って

いただきたいのです。すべての男のか
しらはキリストであり、女のかしらは
男であり、キリストのかしらは神です
。4 男が、祈りや預言をするとき、頭
にかぶり物を着けていたら、自分の頭
をはずかしめることになります。5 し
かし、女が、祈りや預言をするとき、
頭にかぶり物を着けていなかったら、
自分の頭をはずかしめることになりま
す。それは髪をそっているのと全く同
じことだからです。6 女がかぶり物を
着けないのなら、髪も切ってしまいな
さい。髪を切り、頭をそることが女と
して恥ずかしいことなら、かぶり物を
着けなさい。7 男はかぶり物を着ける
べきではありません。男は神の似姿で
あり、神の栄光の現われだからです。
女は男の栄光の現われです。8 なぜな
ら、男は女をもとにして造られたので
はなく、女が男をもとにして造られ
たのであり、9 また、男は女のために
造られたのではなく、女が男のために
造られたのだからです。10 ですから
、女は頭に権威のしるしをかぶるべき
です。それも御使いたちのためにです
。11 とはいえ、主にあつては、女は
男を離れてあるものではなく、男も女
を離れてあるものではありません。12
女が男をもとにして造られたように、
何と言ったらよいでしょう。ほめるべ
く、男も女によって生まれるのだ
からです。しかし、すべては神から発
しています。13 あなたがたは自分自
身で判断しなさい。女が頭に何もかぶ
らないで神に祈るのは、ふさわしいこ
とでしょうか。14 自然自体が、あな
たがたにこう教えていないでしょうか
。男が長い髪をしていたら、それは男
として恥ずかしいことであり、15 女
が長い髪をしていたら、それは女の光
栄であるということです。なぜなら、
髪はかぶり物として女に与えられてい
るからです。16 たとい、このことに
異議を唱えたがる人がいても、私たち
にはそのような習慣はないし、神の諸
教会にもありません。17 ところで、
聞いていただくことがあります。私は
あなたがたをほめません。あなたがた
の集まりが益にならないで、かえって
害になっているからです。18 まず第
一に、あなたがたが教会の集まりをす
るとき、あなたがたの間には分裂があ
ると聞いています。ある程度は、それ
を信じます。19 というのは、あなた
がたの中でほんとうの信者が明らかに
されるためには、分派が起こるのもや
むをえないからです。20 しかし、そ
ういうわけで、あなたがたはいっしょ
に集まっても、それは主の晩餐を食べ
るためではありません。21 食事のと
き、めいめい我先にと自分の食事を済
ませるので、空腹な者もおれば、酔っ
ている者もいるというしまつです。22
飲食のためなら、自分の家があるでし
ょう。それとも、あなたがたは、神の
教会を軽んじ、貧しい人たちをはずか
しめたいのですか。私はあなたがたに
何と言ったらよいでしょう。ほめるべ
く、きでしょうか。このことに関して
は、ほめるわけにはいきません。23 私
は主から受けたことを、あなたがたに伝
えたのです。すなわち、主イエスは、
渡される夜、パンを取り、24 感謝を
ささげて後、それを裂き、こう言われ
ました。「これはあなたがたのための
、わたしのからだです。わたしを覚え
るために、このようにしなさい。」25

夕食の後、杯をも同じようにして言は、ものを言わない偶像の所でした。れました。「この杯は、わたしの血に3ですから、私は、あなたがたに次のよる新しい契約です。これを飲むたびにことを教えておきます。神の御霊により、わたしを覚えるために、このように語る者はだれも、「イエスはのろにしなさい。」26ですから、あなたわれよ。」と言わず、また、聖霊によがたは、このパンを食べ、この杯を飲むのでなければ、だれも、「イエスはむたびに、主が来られるまで、主の死主です。」と言うことはできません。を告げ知らせるのです。27したがっ4さて、御霊の賜物にはいろいろの種類で、もし、ふさわしくないままでパン類がありますが、御霊は同じ御霊ですを食べ、主の杯を飲む者があれば、主。5奉仕にはいろいろの種類があります。のからだと血に対して罪を犯すことにすが、主は同じ主です。6働きにはいなります。28ですから、ひとりひとりいろいろの種類がありますが、神はすべての人が自分を吟味して、そのうえでパンての人の中ですべての働きをなさる同を食べ、杯を飲みなさい。29みからじ神です。7しかし、みな益となるだをわきまえないで、飲み食いするなために、おのおのに御霊の現われが与らば、その飲み食いが自分をさばくこえられているのです。8ある人には御とになります。30そのために、あなた霊によって知恵のことばが与えられ、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなほかの人には同じ御霊にかなう知識のり、死んだ者が大ぜいいます。31しことばが与えられ、9またある人にはかし、もし私たちが自分をさばくなら同じ御霊による信仰が与えられ、ある、さばかれることはありません。32人には同一の御霊によって、いやしのしかし、私たちがさばかれるのは、主賜物が与えられ、10ある人には奇蹟によって懲らしめられるのであって、を行なう力、ある人には預言、ある人それは、私たちが、この世とともに罪には霊を見分ける力、ある人には異言に定められることのないためです。33、ある人には異言を解き明かす力が与ですから、兄弟たち。食事に集まるとえられています。11しかし、同一のきは、互いに待ち合わせなさい。34御霊がこれらすべてのことをなさるの空腹な人は家で食べなさい。それは、であって、みこころのままに、おのおあなたがたが集まることによって、さのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。12ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分が、からだの部分とはたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。13なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そ

12 さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいのです。2ご承知のように、あなたがたが異教徒であったときには、どう導かれたとしても、引かれて行った所

してすべての者が一つの御霊を飲む者です。25 それは、からだの中に分裂とされたからです。14 確かに、からだがただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。15 たとい、足が、「私は手ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。16 たとい、耳が、「私は目ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が聞くところであったら、どこでかぐのでしょうか。18 しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。19 もし、全部がただ一つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょうか。20 しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。21 そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」言うこともできません。22 それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。23 また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、24 かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったの

13 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。5

礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、6 不正を喜ばずに真理を喜びます。7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。8 愛は決して絶えることがあります。6 ですから、兄弟たち。私があなただけのところへ行って異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなたがたに何の益となるでしょう。7 笛や琴などいのかのちのない楽器でも、はつきりした音を出さなければ、何を吹いているのか、何をひいているのか、どうしてわかりましょう。8 また、ラッパがももとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どもが戦闘の準備をするでしょう。9 そのものをやめました。12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見るようになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私がしているのです。10 世界にはおそらく完全に知られているのと同じように、非常に多くの種類のことばがあります。11 ようが、意味のないことばなど一つもありません。11 それで、もし私がそのことばの意味を知らないなら、私はそれを話す人にとって異国人であり、それを話す人も私にとって異国人です。

14 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。2 異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。3 ところが預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。4 異言を話す者は自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。5 私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいま

すが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話すがその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。6 ですから、兄弟たち。私があなただけのところへ行って異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなたがたに何の益となるでしょう。7 笛や琴などいのかのちのない楽器でも、はつきりした音を出さなければ、何を吹いているのか、何をひいているのか、どうしてわかりましょう。8 また、ラッパがももとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どもが戦闘の準備をするでしょう。9 そのものをやめました。12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見るようになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私がしているのです。10 世界にはおそらく完全に知られているのと同じように、非常に多くの種類のことばがあります。11 ようが、意味のないことばなど一つもありません。11 それで、もし私がそのことばの意味を知らないなら、私はそれを話す人にとって異国人であり、それを話す人も私にとって異国人です。12 あなたがたのばあいも同様です。あなたがたは御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会の徳を高めるために、それが豊かに与えられるように、熱心に求めなさい。13 こういうわけですから、異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。15 ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、

また知性においても祈りましょう。霊で、神が確かにあなたがたの中におら
において賛美し、また知性においてもれると言つて、ひれ伏して神を拝むで
賛美しましょう。16 そうでないと、しょう。26 兄弟たち。では、どうす
あなたが霊において祝福しても、異言ればよいのでしょうか。あなたがたが集
を知らない人々の座席に着いている人まるときには、それぞれの人が賛美し
は、あなたの言っていることがわからたり、教えたり、黙示を話したり、異
ないので、あなたの感謝につい言を話したり、解き明かしたりします
て、どうしてアーメンと言えるでしょ。そのすべてのことを、徳を高めるた
う。17 あなたの感謝は結構ですが、めにしなさい。27 もし異言を話すの
他の人の徳を高めることはできませんらば、ふたりか、多くても三人で順
。18 私は、あなたがたのだれよりも番に話すべきで、ひとりは解き明かし
多くの異言を話すことを神に感謝してをしなさい。28 もし解き明かす者が
いますが、19 教会では、異言で一万だれもいなければ、教会では黙ってい
語話すよりは、ほかの人を教えるためなさい。自分だけで、神に向かって話
に、私の知性を用いて五つのことばをしなさい。29 預言する者も、ふたり
話したいのです。20 兄弟たち。物のか三人が話し、ほかの者はそれを吟味
考え方において子どもであってはなりしなさい。30 もしも座席に着いてい
ません。悪事においては幼子でありなる別の人に黙示が与えられたら、先の
さい。しかし考え方においてはおとな人は黙りなさい。31 あなたがたは、
になりなさい。21 律法にこう書いてみながかわるがわる預言できるのであ
あります。「『わたしは、異なった舌り、すべての人が学ぶことができ、
により、異国の人のくちびるによつてすべての人が勧めを受けることができ
この民に語るが、彼らはなおわたしのるのです。32 預言者たちの霊は預言
言うことを聞き入れない。』と主は言者たちに服従するものなのです。33
われる。」22 それで、異言は信者のそれは、神が混乱の神ではなく、平和
のためのしるしではなく、不信者のため神だからです。聖徒たちのすべての
のしるしです。けれども、預言は不信教会で行なわれているように、34 教
者でなく、信者のためのしるしです。会では、妻たちは黙っていないさい。彼
23 ですから、もし教会全体が一か所にらは語ることを許されていません。律
集まって、みな異言を話すとしたら法も言うように、服従しなさい。35
、初心の者とか信者でない者とかがはもし何かを学びたければ、家で自分の
いって来たとき、彼らは、あなたがた夫に尋ねなさい。教会で語ることは、
を気違いだと言わないででしょうか。24 妻にとつてはふさわしくないことで
し、もしみな預言をするなら、。36 神のことばは、あなたがたのと
信者でない者や初心の者がはいつて来ころから出たのでしょうか。あるいは
たとき、その人はみな者の者によって罪また、あなたがたにだけ伝わったので
を示されます。みなにさばかれ、25 しょうか。37 自分を預言者、あるい
心の秘密があらわにされます。そうしは、御霊の人と思う者は、私あなた

がたに書くことが主の命令であること
を認めなさい。 38 もしそれを認めな
いなら、その人は認められません。 39
それゆえ、私の兄弟たち。預言するこ
とを熱心に求めなさい。異言を話すこ
とも禁じてはいけません。 40 ただ、
すべてのことを適切に、秩序をもって
行ないなさい。

15 兄弟たち。私は今、あなたがたに
福音を知らせましょう。これは、
私があなたがたに宣べ伝えたもので、
あなたがたが受け入れ、また、それによ
って立っている福音です。 2 また、
もしあなたがたがよく考えもしないで
信じたのでないなら、私の宣べ伝えた
この福音のことはしっかりと保って
いれば、この福音によって救われるの
です。 3 私があなたがたに最もたいせ
つなこととして伝えたのは、私も受け
たことであって、次のことです。キリ
ストは、聖書の示すとおりに、私たち
の罪のために死なれたこと、 4 また、
葬られたこと、また、聖書に従って三
日目によみがえられたこと、 5 また、
ケパに現われ、それから十二弟子に現
われたことです。 6 その後、キリス
トは五百人以上の兄弟たちに同時に現わ
れました。その中の大多数の者は今な
お生き残っていますが、すでに眠った
者もいくらかいます。 7 その後、キリ
ストはヤコブに現われ、それから使徒
たち全部に現われました。 8 そして、
最後に、月足らずで生まれた者と同様
な私にも、現われてくださいました。
9 私は使徒の中では最も小さい者であ
って、使徒と呼ばれる価値のない者で
す。なぜなら、私は神の教会を迫害し
たからです。 10 ところが、神の恵み

によって、私は今の私になりました。
そして、私に対するこの神の恵みは、
むだにはならず、私はほかのすべての
使徒たちよりも多く働きました。しか
し、それは私ではなく、私にある神の
恵みです。 11 そういうわけですから
、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私
たちはこのように宣べ伝えているので
あり、あなたがたはこのように信じた
のです。 12 ところで、キリストは死
者の中から復活された、と宣べ伝えら
れているのなら、どうして、あなたが
たの中に、死者の復活はない、と言っ
ている人がいるのですか。 13 もし、
死者の復活がないのなら、キリストも
復活されなかったでしょう。 14 そし
て、キリストが復活されなかったの
ら、私たちの宣教は実質のないもの
になり、あなたがたの信仰も実質のない
ものになるのです。 15 それどころか
、私たちは神について偽証をした者
ということになります。なぜなら、もし
もかりに、死者の復活はないとしたら
、神はキリストをよみがえらせなかつ
たはずですが、私たちは神がキリス
トをよみがえらせた、と言って神に逆ら
う証言をしたからです。 16 もし、死
者がよみがえらないのなら、キリス
トもよみがえらなかつたでしょう。 17
そして、もしキリストがよみがえらな
かつたのなら、あなたがたの信仰はむ
なしく、あなたがたは今もお、自分
の罪の中にいるのです。 18 そうだつ
たら、キリストにあつて眠った者たち
は、滅んでしまったのです。 19 もし
、私たちがこの世にあつてキリストに
単なる希望を置いているだけなら、私
たちは、すべての人の中で一番哀れな

者です。20しかし、今やキリストは の誇りにかけて、誓って言えることで、眠った者の初穂として死者の中から す。32もし、私が人間的な動機からよみがえられました。21というのは、エペソで獣と戦ったのなら、何の益があるでしょう。もし、死者の復活が、死者の復活もひとりの人を通して来ないのなら、「あすは死ぬのだ。さあだからです。22すなわち、アダムに、飲み食いしようではないか。」というように うことになるのです。33思い違いを、キリストによってすべての人が生かしてはいけません。友だちが悪ければされるからです。23しかし、おのお、良い習慣がそこなわれます。34目のにその順番があります。まず初穂ををさまして、正しい生活を送り、罪のあるキリスト、次にキリストの再臨の やめなさい。神についての正しい知識ときキリストに属している者です。24 を持っていない人たちがいます。私はそれから終わりが来ます。そのとき、 あなたがたをはずかしめるために、こキリストはあらゆる支配と、あらゆる う言っているのです。35ところが、権威、権力を滅ぼし、国を父なる神に ある人はこう言うでしょう。「死者はお渡しになります。25キリストの支、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」36愚まで、と定められているからです。26 かな人だ。あなたの蒔く物は、死なな最後の敵である死も滅ぼされます。27 ければ、生かされません。37あなた「彼は万物をその足の下に従わせた。 が蒔く物は、後にできるからだではな」からです。ところで、万物が従わせ く、麦やそのほかの穀物の種粒です。られた、と言うとき、万物を従わせた 38しかし神は、みこころに従って、そその方がそれに含まれていないこと れにからだを与え、おのおのの種にそは明らかです。28しかし、万物が御 れぞれのからだをお与えになります。子に従うとき、御子自身も、ご自分に 39すべての肉が同じではなく、人間の万物を従わせた方に従われます。これ 肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉もあは、神が、すべてにおいてすべてとな り、魚の肉もあります。40また、天られるためです。29もしこうでなかり、天上のからだもあり、地上のからだもあ たら、死者のゆえにバプテスマを受 り、天上のからだの栄光と地上のからける人たちは、何のためにそうするの だの栄光とは異なっており、41太陽ですか。もし、死者は決してよみがえ の栄光もあり、月の栄光もあり、星のらないのなら、なぜその人たちは、死 栄光もあります。個々の星によって栄者のゆえにバプテスマを受けるのです 光が違います。42死者の復活もこれか。30また、なぜ私たちがいつも危 と同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽険にさらされているのでしょうか。31 ちないものによみがえらされ、43卑兄弟たち。私にとって、毎日が死の連 しいもので蒔かれ、栄光あるものによ続です。これは、私たちの主キリスト みがえらされ、弱いもので蒔かれ、強・イエスにあつてあなたがたを誇る私 いものによみがえらされ、44血肉の

からだで蒔かれ、御霊に属するからだ
によみがえらされるのです。血肉の
からだがあるのですから、御霊のからだ
もあるのです。 45 聖書に「最初の人
アダムは生きた者となった。」と書い
てありますが、最後のアダムは、生か
す御霊となりました。 46 最初にあっ
たのは血肉のものであり、御霊のも
ではありません。御霊のものはあとに
来るのです。 47 第一の人は地から出
て、土で造られた者ですが、第二の
人は天から出た者です。 48 土で造ら
れた者はみな、この土で造られた者
に似ており、天からの者はみな、こ
の天から出た者に似ているのです。
49 私たちは土で造られた者のかち
を持つていたように、天上のかちを
も持つのです。 50 兄弟たちよ。私
はこのことを言っておきます。血肉
のからだは神の国を相続できません。
朽ちるものは、朽ちないものを
相続できません。 51 聞きなさい。
私はあなたがたに奥義を告げましょ
う。私たちはみな眠ってしまうの
ではなく、みな変えられるのです。
52 終わりのラッパとともに、
たちまち、一瞬のうちにです。ラッ
パが鳴ると、死者は朽ちないもの
によみがえり、私たちは変えられる
のです。 53 朽ちるものは、必ず
朽ちないものを着なければならず、
死ぬものは、必ず不死を着なければ
ならないからです。 54 しかし、
朽ちるものが朽ちないものを着、
死ぬものが不死を着るとき、「死は
勝利にのまれた。」としるされて
いる、みことばが実現します。 55 「
死よ。おまえの勝利はどこにあるの
か。死よ。おまえのとげはどこにあ
るか。」 (Hadēs g86) 56 死のとげは罪であ

り、罪の力は律法です。 57 しかし、
神に感謝すべきです。神は、私たち
の主イエス・キリストによって、私
たちに勝利を与えてくださいました。
58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。
堅く立って、動かされることなく、
いつも主のわざに励みなさい。あ
なたがたのは自分たちの労苦が、
主にあつてむだでないことを知
っているのですから。

16 さて、聖徒たちのための献金につ
いては、ガラテヤの諸教会に命じ
たように、あなたがたにもこう命じ
ます。 2 私がそちらに行ってから
献金を集めるようなことがないよ
うに、あなたがたはおの、いつも週
の初めの日に、収入に応じて、手
もとにそれをたくわえておきなさい。
3 私がそちらに行ったとき、あ
なたがたの承認を得た人々に手紙
を持たせて派遣し、あなたがたの
献金をエルサレムに届けさせま
しょう。 4 しかし、もし私も行く
ほうがよければ、彼らは、私とい
っしょに行くことになるでしょう。
5 私は、マケドニヤを通過して
後、あなたがたのところへ行
きます。マケドニヤを通るつもり
でいますから。 6 そして、たぶ
んあなたがたのところに滞在する
でしょう。冬を越すことになるか
もしれません。それは、どこに行
くとしても、あなたがたに送って
いただくからです。 7 私は、いま
旅の途中に、あなたがたの顔を見
たいと思っています。 8 しかし、
滞りたいと願っています。 9 し
かし、五旬節まではエペソに滞
在するつもりです。 9 というのは、
働きのための広い門が私のために
開かれており、反

対者も大ぜいいるからです。 **10** テモ もって、互いにあいさつをかわしなきてがそちらへ行ったら、あなたがたのい。 **21** パウロが、自分の手であいさところて心配なく過ごせるよう心を配つを書きます。 **22** 主を愛さない者はってください。彼も、私と同じようにだれでも、のろわれよ。主よ、来てく、主のみわざに励んでいるからです。 ださい。 **23** 主イエスの恵みが、あな **11** だれも彼を軽んじてはいけません。 たがたとともにありますように。 **24** 彼を平安のうちに送り出して、私のと 私の愛は、キリスト・イエスにあつてころに来させてください。私は、彼が、あなたがたすべての者とともにあり兄弟たちとともに来るのを待ち望んでいます。アーメン。

12 兄弟アポロのことですが、兄弟たちといっしょにあなたがたのところへ行くように、私は強く彼に勧めました。しかし、彼は今、そちらへ行こうとは全然思っていない。しかし、機会があれば行くでしょう。 **13** 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。 **14** いっさいのことを愛をもって行ないなさい。 **15** 兄弟たちよ。あなたがたに勧めます。ご承知のように、ステパナの家族は、アカヤの初穂であつて、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。 **16** あなたがたは、このような人たちに、また、ともに働き、労しているすべての人たちに服従しなさい。 **17** ステパナとポルトナトとアカイコが来たので、私は喜んでいます。なぜなら、彼らは、あなたがたの足りない分を補ってくれたからです。 **18** 彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれました。このような人々の労をねぎらいなさい。 **19** アジャの諸教会がよろしくと言っています。アクラとプリスカ、また彼らの家の教会が主にあつて心から、あなたがたによろしくと言っています。 **20** すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。きよい口づけを

コリント人への手紙第二

1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ。**2** 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**3** 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。**4** 神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができますのです。**5** それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。**6** もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。**7** 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知っているからです。**8** 兄弟たちよ。私たちがアジャヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはいのちさえも危くなり、**9** ほんとうに、自分の心

の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。**10** ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちに救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいます。なおも救い出してくださいという望みを、私たちはこの神に置いているのです。**11** あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださいませ。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです。**12** 私たちがこの世の中で、特にあなたがたに対して、きよさと神から来る誠実さをもつて、人間的な知恵によらず、神の恵みによって行動していることは、私たちの良心のあかしするところであつて、これこそ私たちの誇りです。**13** 私たちは、あなたがたへの手紙で、あなたがたが読んで理解できること以外は何も書いていません。そして私は、あなたがたが十分に理解してくれることを望みます。**14** あなたがたは、ある程度は、私たちを理解しているのですから、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りであるということを、さらに十分に理解して下さるよう望むのです。**15** この確信をもって、私は次のような計画を立てました。まず初めにあなたがたのところへ行くことによって、あなたがたが恵みを二度受けられるようにしようとしたのです。**16** すなわち、あなたがたのところを通過してマケドニヤに行き、そしてマケドニヤ

から再びあなたがたのところに帰り、り返すまいと決心したのです。2 もしあなたがたに送られてユダヤに行きたい私があなたがたを悲しませているのな
いと思ったのです。17 そういうわけら、私が悲しませているその人以外に
ですから、この計画を立てた私が、ど、だれが私を喜ばせてくれるでしょう
うして軽率でありえたでしょう。それか。3 あのような手紙を書いたのは、
とも、私の計画は人間的な計画であつ私が行くときには、私に喜びを与えて
て、私にとっては、「しかり、しかりくれるはずの人たちから悲しみを与え
。」は同時に、「否、否。」なのでしられたくないからでした。それは、私
ようか。18 しかし、神の真実にかける喜びがあなたがたすべての喜びであ
て言いますが、あなたがたに対する私ることを、あなたがたすべてについて
たちのことばは、「しかり。」と言っ確信しているからです。4 私は大きな
て、同時に「否。」と言うようなもの苦しきと心の嘆きから、涙ながらに、
ではありません。19 私たち、すなわあなたがたに手紙を書きました。それ
ち、私とシルワノとテモテとが、あなは、あなたがたを悲しませるためでは
あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・なく、私があなたがたに対して抱いて
イエスは、「しかり。」と同時に「否いる、あふれるばかりの愛を知ってい
。」であるような方ではありません。ただきたいからでした。5 もしある人
この方には「しかり。」だけがあるのが悲しみのもとになったとすれば、そ
です。20 神の約束はことごとく、この人は、私を悲しませたというよりも
の方において「しかり。」となりまし、ある程度——というのは言い過ぎに
た。それで私たちは、この方によってならないためですが、——あなたがた
「アーメン。」と言ひ、神に栄光を帰全部を悲しませたのです。6 その人に
するのです。21 私たちをあなたがたとしては、すでに多数の人から受けた
といっしょにキリストのうちに堅く保あの処罰で十分ですから、7 あなたが
ち、私たちに油を注がれた方は神ですたは、むしろ、その人を赦し、慰めて
。22 神はまた、確認の印を私たちにあげなさい。そうしないと、その人は
押し、保証として、御霊を私たちの心あまりにも深い悲しみに押しつぶされ
に与えてくださいました。23 私はこのてしまうかもしれませぬ。8 そこで私
のいのちに向け、神を証人にお呼びしは、その人に対する愛を確認すること
て言います。私がまだコリントへ行かを、あなたがたに勧めます。9 私が手
ないでいるのは、あなたがたに対する紙を書いたのは、あなたがたがすべて
思いやりのためです。24 私たちは、のことに於いて従順であるかどうかを
あなたがたの信仰を支配しようとするためすためであったのです。10 もし
者ではなく、あなたがたの喜びのためあなたがたが人を赦すなら、私もその
に働く協力者です。あなたがたは、信人を赦します。私が何かを赦したのな
仰に堅く立っているからです。ら、私の赦したことは、あなたがたの
ために、キリストの御前で赦したので
す。11 これは、私たちがサタンに欺

まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。16しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれます。17主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。18私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

4 こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、**2** 恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。**3** それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいには、おおいが掛かっているのです。**4** そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。(aiōn g165) **5** 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。**6** 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。**7** 私たちは、この宝を、土の器の中に入れて置いているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから

出たものでないことが明らかにされるためです。**8** 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。**9** 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。**10** いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。**11** 私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。**12** こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。**13** 「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。**14** それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。**15** すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです。**16** ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。**17** 今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。(aiōnios g166) **18** 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり

、見えないものはいつまでも続くから
です。(aiōnios g166)

5 私たちの住まいである地上の幕屋が
こわれても、神の下さる建物がある
ことを、私たちは知っています。それ
は、人の手によらない、天にある永遠
の家です。(aiōnios g166) **2** 私たちはこの
幕屋にあってうめき、この天から与え
られる住まいを着たいと望んでいます。
3 それを着たなら、私たちは裸の状
態になることはないからです。**4** 確か
にこの幕屋の中にいる間は、私たちは
重荷を負って、うめいています。それ
は、この幕屋を脱ぎたいと思うからで
なく、かえって天からの住まいを着た
いからです。そのことによって、死ぬ
べきものがいのちにのまれてしまうた
めにです。**5** 私たちをこのことにな
う者としてくださった方は神です。神
は、その保証として御霊を下さいまし
た。**6** そういうわけで、私たちはいつ
も心強いのです。ただし、私たちが肉
体にいる間は、主から離れているとい
うことも知っています。**7** 確かに、私
たちは見るところによってではなく、
信仰によって歩んでいます。**8** 私たち
はいつも心強いのです。そして、むし
ろ肉体を離れて、主のみもとにいるほ
うがよいと思っています。**9** そうい
うわけで、肉体の中にあると、肉体を
離れていようと、私たちの念願とする
ところは、主に喜ばれることです。**10**
なぜなら、私たちはみな、キリストの
さばきの座に現われて、善であれ悪で
あれ、各自その肉体にあってした行為
に応じて報いを受けることになるから
です。**11** こういうわけで、私たちは
、主を恐れることを知っているので、

人々を説得しようとするのです。私た
ちのことは、神の御前に明らかです。
しかし、あなたがたの良心にも明らか
になることが、私の望みです。**12** 私
たちはまたも自分自身をあなたがたに
推薦しようとするものではありません。
ただ、私たちのことを誇る機会をあな
たがたに与えて、心においてではなく
、うわべのことで誇る人たちに答える
ことができるようにさせたいのです。
13 もし私たちが気が狂っているとすれ
ば、それはただ神のためであり、もし
正気であるとすれば、それはただあな
たがたのためです。**14** というのは、
キリストの愛が私たちを取り囲んでい
るからです。私たちはこう考えました
。ひとりの人がすべての人のために死
んだ以上、すべての人が死んだので
す。**15** また、キリストがすべての人の
ために死なれたのは、生きている人々
が、もはや自分のためにではなく、自
分のために死んでよみがえった方のた
めに生きるためなのです。**16** ですから
、私たちは今後、人間的な標準で人
を知ろうとはしません。かつては人間
的な標準でキリストを知っていたとし
ても、今はもうそのような知り方はし
ません。**17** だれでもキリストのうち
にあるなら、その人は新しく造られた
者です。古いものは過ぎ去って、見よ
、すべてが新しくなりました。**18** こ
れらのことはすべて、神から出ている
のです。神は、キリストによって、私
たちをご自分と和解させ、また和解の
務めを私たちに与えてくださいました
。**19** すなわち、神は、キリストにあ
って、この世をご自分と和解させ、違
反行為の責めを人々に負わせないで、

和解のことばを私たちにゆだねられた
のです。20 こういうわけで、私たち
はキリストの使節なのです。ちょうど
神が私たちを通して懇願しておられ
るようです。私たちは、キリストに代わ
って、あなたがたに願います。神の和
解を受け入れなさい。21 神は、罪を
知らない方を、私たちの代わりに罪と
されました。それは、私たちが、この
方であって、神の義となるためです。

6 私たちは神とともに働く者として、
あなたがたに懇願します。神の恵み
をむだに受けないようにしてください。
2 神は言われます。「わたしは、恵
みの時にあなたに答え、救いの日にあ
なたを助けた。」確かに、今は恵みの
時、今は救いの日です。3 私たちは、
この務めがそしられないために、どん
なことにも人につまずきを与えないよ
うにと、4 あらゆることにおいて、自
分を神のしもべとして推薦しているの
です。すなわち非常な忍耐と、悩みと
、苦しみと、嘆きの中で、5 また、む
ち打たれるときにも、入獄にも、暴動
にも、労役にも、徹夜にも、断食にも
、6 また、純潔と知識と、寛容と親切
と、聖霊と偽りのない愛と、7 真理の
ことばと神の力とにより、また、左右
の手に持っている義の武器により、8
また、ほめられたり、そしられたり、
悪評を受けたり、好評を博したりする
ことによって、自分を神のしもべとし
て推薦しているのです。私たちは人を
だます者のように見えても、真実であ
り、9 人に知られないようでも、よく
知られ、死にそうでも、見よ、生きて
おり、罰せられているようであっても
、殺されず、10 悲しんでいるようで

も、いつも喜んでおり、貧しいよう
でも、多くの人を富ませ、何も持たない
ようでも、すべてのものを持っていま
す。11 コリントの人たち。私たちは
あなたがたに包み隠すことなく話しま
した。私たちの心は広く開かれていま
す。12 あなたがたは、私たちの中で
制約を受けているのではなく、自分の
心で自分を窮屈にしているのです。13
私は自分の子どもに対するように言い
ます。それに報いて、あなたがたのほ
うでも心を広くしてください。14 不
信者と、つり合わぬくびきをいっしょ
につけてはいけません。正義と不法と
に、どんなつながりがあるでしょう。
光と暗やみとに、どんな交わりがある
でしょう。15 キリストとベリアルと
に、何の調和があるでしょう。信者と
不信者とに、何のかかわりがあるでし
ょう。16 神の宮と偶像とに、何の一
致があるでしょう。私たちは生ける神
の宮なのです。神はこう言われました
。「わたしは彼らの間に住み、また歩
む。わたしは彼らの神となり、彼ら
はわたしの民となる。17 それゆえ、
彼らの中から出て行き、彼らと分離せ
よ、と主は言われる。汚れたものに触
れないようにせよ。そうすれば、わた
しはあなたがたを受け入れ、18 わた
しはあなたがたの父となり、あなたが
たはわたしの息子、娘となる、と全能
の主が言われる。」

7 愛する者たち。私たちはこのよう
な
約束を与えられているのですから、
いっさいの霊肉の汚れから自分をきよ
め、神を恐れかしこんできよきを全う
しようではありませんか。2 私たちに
対して心を開いてください。私たちは

、だれにも不正をしたことがなく、だすが、世の悲しみは死をもたらします
れをもそこなったことがなく、だれか。 **11** ご覧なさい。神のみこころに添
らも利をむさぼったことがありませんったその悲しみが、あなたがたのうち
。 **3** 責めるためにこう言うのではありに、どれほどの熱心を起こさせたこと
ません。前にも言ったように、あなたでしよう。また、弁明、憤り、恐れ、
がたは、私たちとともに死に、ともに慕う心、熱意を起こさせ、処罰を断行
生きるために、私たちの心のうちにあさせたことでしょう。あの問題につい
るのです。 **4** 私のあなたがたに対するて、あなたがたは、自分たちがすべて
信頼は大きいのであって、私はあなたこの点で潔白であることを証明したので
がたを大いに誇りとしています。私はす。 **12** ですから、私はあなたがたに
慰めに満たされ、どんな苦しみの中に手紙を書きましたが、それは悪を行な
あっても喜びに満ちあふれています。った人のためでもなく、その被害者の
5 マケドニヤに着いたとき、私たちのためでもなくて、私たちにに対するあな
身には少しの安らぎもなく、さまざまたがたの熱心が、神の御前に明らかに
の苦しみに会って、外には戦い、うちされるためであったのです。 **13** こう
には恐れがありました。 **6** しかし、気いうわけですから、私たちは慰めを受
落ちした者を慰めてくださる神は、テけました。この慰めの上にテトスの喜
トスが来たことによって、私たちを慰びが加わって、私たちはなおいっそう
めてくださいました。 **7** ただテトスが喜びました。テトスの心が、あなたが
来たことばかりでなく、彼があなたがたすべてによって安らぎを与えられた
たから受けた慰めによっても、私たちからです。 **14** 私はテトスに、あなたは
は慰められたのです。あなたがたが私このことを少しばかり誇りましたが
を慕っていること、嘆き悲しんでいる、そのことで恥をかかずに済みました
こと、また私に対して熱意を持ってい。というのは、私たちがあなたがたに
てくれることを知らされて、私はまず語ったことがすべて真実であったよう
ます喜びにあふれました。 **8** あの手紙に、テトスに対して誇ったことも真実
によってあなたがたを悲しませたけれとなったからです。 **15** 彼は、あなた
ども、私はそれを悔いていません。あがたがみなよく言うことを聞き、恐れ
の手紙がしばらくの間であったにしろおののいて、自分を迎えてくれたこと
あなたがたを悲しませたのを見て、悔を思い出して、あなたがたへの愛情を
いたけれども、 **9** 今は喜んでいます。ますます深めています。 **16** 私は、あ
あなたがたが悲しんだからではなく、なたがたに全幅の信頼を寄せることが
あなたがたが悲しんで悔い改めたからできるのを喜んでいます。

8 さて、兄弟たち。私たちは、マケド
ニヤの諸教会に与えられた神の恵み
を、あなたがたに知らせようと思いま
す。 **2** 苦しみゆえの激しい試練の中に
あっても、彼らの満ちあふれる喜びは

、その極度の貧しさにもかかわらず、できるはずで**す**。**12**もし熱意があるあふれ出て、その惜しみなく施す富とならば、持たない物によってではなくなったのです。**3**私はあかしします。、持っている程度に応じて、それは受彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力納されるのです。**13**私はこのことに以上にささげ、**4**聖徒たちをささえるよって、他の人々には楽をさせ、あな交わりの恵みにあずかりたいと、熱心たがたには苦労をさせようとしているに私たちに願ったのです。**5**そして、のではなく、平等を図っているのです私たちの期待以上に、神のみこころに。**14**今あなたがたの余裕が彼らの欠従って、まず自分自身を主にささげ、乏を補うなら、彼らの余裕もまた、あまた、私たちにもゆだねてくれましたあなたがたの欠乏を補うことになるので。**6**それで私たちは、テトスがすでにす。こうして、平等になるのです。**15**この恵みのわざをあなたがたの間で始「多く集めた者も余るところがなく、めていたのですから、それを完了させ少し集めた者も足りないところがあるよう彼に勧めたのです。**7**あなたがった。」と書いてあるとおりで**す**。**16**たは、すべてのことに、すなわち、信私があなたがたのことを思うのと同じ仰にも、ことばにも、知識にも、あら熱心を、テトスの心にも与えてくださゆる熱心にも、私たちから出てあなたった神に感謝します。**17**彼は私の勧めがたの間にある愛にも富んでいるようめを受け入れ、非常な熱意をもって、に、この恵みのわざにも富むようにな自分から進んであなたがたのところになってください。**8**こうは言っても、私行こうとしています。**18**また私たちは命令するものではありません。ただ、は、テトスといっしょに、ひとりの兄他の人々の熱心さをもって、あなたが弟を送ります。この人は、福音の働きた自身の愛の真実を確かめたいのですよ**う**て、すべての教会で称賛されて。**9**あなたがたは、私たちの主イエスいます**が**、**19**そればかりでなく、彼・キリストの恵みを知っています。すは、この恵みのわざに携わっている私なわち、主は富んでおられたのに、あたちに同伴するよう諸教会の任命を受あなたがたのために貧しくなられましたけたのです。私たちがこの働きをして。それは、あなたがたが、キリストのいるのは、主ご自身の栄光のため、ま貧しさによって富む者となるためですた、私たちの誠意を示すためにほかな。**10**この献金のことについて、私のりません。**20**私たちは、この献金の意見を述べましょう。それはあなたが取り扱いについて、だれからも非難さたの益になることだからです。あなたれることがないように心がけていますあなたがたは、このことを昨年**か**ら、他に先。**21**それは、主の御前ばかりでなくんじて行なっただけでなく、このこと、人の前でも公明正大なことを示そうを他に先んじて願った人たちです。**11**と**考**えているからです。**22**また、彼ですから、今、それをし遂げなさい。らといっしょに、もうひとりの兄弟を喜んでしようと思ったのですから、持送ります。私たちはこの兄弟が多くのっている物で、それをし遂げることがことについて熱心であることを、しば

しば認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。23 テトスについて言えば、彼は私の仲間で、あなたがたの間での私の同労者です。兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光です。24 ですから、あなたがたの愛と、私たちがあなたがたを誇りとしている証拠とを、諸教会の前で、彼らに示してほしいのです。

9 聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る必要はないでしょう。2 私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたがたのことをマケドニヤの人々に誇って、アカヤでは昨年準備が進められていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました。3 私が兄弟たちを送ることにしたのは、このばあい、私たちがあなたがたについて誇ったことがむだにならず、私が言っていたとおりに準備してもらうためです。4 そうでない、もしマケドニヤの人が私といっしょに行き、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろんです。私たちも、このことを確信していただいただけに、恥をかくことになるでしょう。5 そこで私は、兄弟たちに勧め、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。6 私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く

者は、豊かに刈り取ります。7 ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられなくても、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してください。8 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。9 「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりです。(aiōn g165) 10 蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。12 なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。13 このわざを証拠として、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であり、彼らに、またすべての人々に惜しみなく与えていることを知って、神をあがめることでしよう。14 また彼らは、あなたがたのために祈るとき、あなたがたに与えられた絶大な神の恵みのゆえに、あなたがたを慕うようになるのです。15 ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

10 さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧めします。私は、あなたがたの間において、面と向かっているときはおと

なく、離れているあなたがたに対し 行動もそのとおりです。 **12** 私たちは
ては強気な者です。 **2** しかし、私は、自己推薦をしているような人たちの
あなたがたのところに行くときには、中のだれかと自分を同列に置いたり、
私たちを肉に従って歩んでいるかのよう 比較したりしようなどとは思いません
うに考える人々に対して勇敢にふるま 。しかし、彼らが自分たちの間で自分
おうと思っているその確信によって、を量ったり、比較したりしているのは
強気にふるまうことがなくて済むよう、知恵のないことなのです。 **13** 私た
に願っています。 **3** 私たちは肉にあつ ちは、限度を越えて誇りはしません。
て歩んではいても、肉に従って戦って 私たちがあなたがたのところまで行く
はしません。 **4** 私たちの戦いの武器は のも、神が私たちに量って割り当てて
、肉の物ではなく、神の御前で、要塞 くださった限度内で行くのです。 **14**
をも破るほどに力のあるものです。 **5** 私たちは、あなたがたのところまでは
私たちは、さまざまの思弁と、神の知 行かないのに無理に手を伸ばしている
識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打 のではありません。事実、私たちは、
ち砕き、すべてのはかりごとをとりこ キリストの福音を携えてあなたがたの
にしてキリストに服従させ、 **6** また、 ところにもで行ったのです。 **15** 私た
あなたがたの従順が完全になるとき、 ちは、自分の限度を越えてほかの人の
あらゆる不従順を罰する用意ができて 働きを誇ることはしません。ただ、あ
いるのです。 **7** あなたがたは、うわべ なたがたの信仰が成長し、あなたがた
のことだけを見ています。もし自分は によって、私たちの領域内で私たちの
キリストに属する者だと確信している 働きが広げられることを望んでいます
人があるなら、その人は、自分がキリ 。 **16** それは、私たちがあなたがたの
ストに属しているように、私たちもま 向こうの地域にまで福音を宣べ伝える
たキリストに属しているということ をためであって、決して他の人の領域で
、もう一度、自分でよく考えなさい。 なされた働きを誇るためではないので
8 あなたがたを倒すためにではなく、 す。 **17** 誇る者は、主にあつて誇りな
立てるために主が私たちに授けられた さい。 **18** 自分で自分を推薦する人で
権威については、たとえ私が多少誇り なく、主に推薦される人こそ、受け入
すぎることがあつても、恥とはならな れられる人です。

11 私の少しばかりの愚かさをこらえ
ていただきたいと思います。いや
、あなたがたはこらえているのです。
2 というのも、私は神の熱心をもって
、熱心にあなたがたのことを思っている
からです。私はあなたがたを、清純
な処女として、ひとりの人の花嫁に定
め、キリストにささげることにしたか
らです。 **3** しかし、蛇が悪巧みによつ

てエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。4 というわけは、ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかつた別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです。5 私は自分をあの大使徒たちに少しでも劣っているとは思いません。6 たとい、話は巧みでないにしても、知識についてはそうではありません。私たちは、すべての点で、いろいろなばあいにも、そのことをあなたがたに示して来まして。7 それとも、あなたがたを高めるために、自分を低くして報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えましたが、私の罪だったのでしょうか。8 。19 あなたがたは賢いのに、よくも私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たので。9 あなたがたのところにおいて困窮にされても、食い尽くされても、だましていたときも、私はだれにも負担をかけませんでした。マケドニヤから来た兄弟たちが、私の欠乏を十分に補ってくれたのです。私は、万事につけあなたがたの重荷にならないようにしましたし、今後ともそうするつもりです。10 私にあるキリストの真実にかけて言います。アカヤ地方で私のこの誇りが封じられることは決してありません。11 なぜでしょう。私があなたがたを愛していないからでしょうか。神はご存じです。12 しかし、私は、今していることを今後も、し続けるつもりです。13 彼らはキリストのしもべです。14 私には彼ら以上に誇る機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです。15 こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。16 しかし、驚くに及びません。サタンさえ光の御使に変装するのです。17 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。18 くり返して言いますが、だれも、私を愚かと思つてはなりません。しかし、もしそう思うなら、私を愚か者扱いにしないでください。私も少し誇つてみせます。19 これから話すことは、主によって話すのではな。20 多くの人々が肉によって誇つていたので、私も誇ることにします。21 あなたがたは賢いのに、よくも喜んで愚か者たちをこらえています。22 事実、あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、だまされても、いばられても、顔をたたかされても、こらえているではありませんか。23 言うのも恥ずかしいことですが、言わなければなりません。私たちが弱かつたのです。しかし、人があえて誇ろうとすることなら、――私は愚かになって言いますが、――私もあえて誇りましょう。24 彼らはヘブル人ですか。私もそうです。彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。彼らはアブラハムの子孫ですか。私もそうです。25 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労

苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。24 ユダヤ人から三十のむちを受けたことが五度、25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともあります。28 このような外から来るこのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。29 だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるのでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。30 もしどうしてても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。31 主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないのをご存じです。(aiōn g165) 32 ダマスコではアレタ王の代官が、私を捕えようとしてダマスコの町を監視しました。33 そのとき私は、城壁の窓からかごで降り降ろされ、彼の手をのがれました。

12 無益なことですが、誇るのもやむをえないことです。私は主の幻と啓示のことを話しましょう。2 私はキリストにあるひとりの人を知っています。この人は十四年前に――肉体のままであったか、私は知りません。肉体

を離れてであったか、それも知りません。神はご存じです。――第三の天にまで引き上げられました。3 私はこの人が、――それが肉体のままであったか、肉体を離れてであったかは知りません。神はご存じです。――4 パラダイスに引き上げられて、人間には語ることを許されていない、口に出すことのできないことばを聞いたことを知っています。5 このような人について私は誇るのです。しかし、私自身については、自分の弱さ以外には誇りません。6 たとい私が誇りたいと思っても、愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。しかし、誇ることは控えましょう。私について見ること、私から聞くこと以上に、人が私を過大に評価するといけないからです。7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンを使いです。8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。11 私は愚か者になりました。あなたがたが無

理に私をそうしたのです。私は当然あなたがたの推薦を受けてよかったです。たとい私は取るに足りない者であっても、私はあの使徒たちにどのような点でも劣るところはありませんでした。12使徒としてのしるしは、忍耐を尽くしてあなたがたの間でなされた、あの奇蹟と不思議と力あるわざです。13あなたがたが他の諸教会より劣っている点は何でしょうか。それは、私のほうであなたがたには負担をかけなかったことだけです。この不正については、どうか、赦してください。14今、私はあなたがたのところに行こうとして、三度目の用意ができています。しかし、あなたがたに負担をかけません。私が求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のためにたくわえる必要はなく、親が子のためにたくわえるべきです。15ですから、私はあなたがたのたましいのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身をさえ使い尽くしましょう。私があるあなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。16あなたがたに重荷は負わせなかったにしても、私は、悪賢くて、あなたがたからだまし取ったのだと言われます。17あなたがたのところ遣わした人たちのうちのだれによって、私があるあなたがたを欺くようなことがあったのでしょうか。18私はテトスにそちらに行くように勧め、また、あの兄弟を同行させました。テトスはあなたがたを欺くようなことをしたのでしょうか。私たちは同じ心で、同じ歩調で歩いたではありませんか。19あなたが

たは、前から、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと思っていたことでしょう。しかし、私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する人たち。すべては、あなたがたを築き上げるためのものです。20私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないのでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないのでしょうか。21私がいもう一度行くとき、またも私の神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめることはないのでしょうか。そして私は、前から罪を犯していて、その行なった汚れと不品行と好色を悔い改めない多くの人たちのために、嘆くようなことにはならないのでしょうか。

13私があるあなたがたのところへ行くのは、これで三度目です。すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。2私は二度目の滞在のときに前もって言っておいたのですが、こうして離れている今も、前から罪を犯している人たちとほかのすべての人たちに、あらかじめ言っておきます。今度そちらに行ったときには、容赦はしません。3こう言うのは、あなたがたはキリストが私によって語っておられるという証拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対して弱くはなく、あなたがたの間にあって強い方です。4確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます。私た

ちもキリストにあって弱い者ですが、。 **13** すべての聖徒たちが、あなたがあなたがたに対する神の力のゆえに、たによろしくと言っています。 **14** 主キリストとともに生きているのです。 イエス・キリストの恵み、神の愛、聖 **5** あなたがたは、信仰に立っているか 霊の交わりが、あなたがたすべてとどうか、自分自身をためし、また吟味 もにありますように。しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのでですか。——あなたがたがそれに不適格であれば別です。—— **6** しかし、私たちは不適格でないことを、あなたがたが悟るように私は望んでいます。 **7** 私たちは、あなたがたがどんな悪をも行なわないように神に祈っています。それによって、私たち自身の適格であることが明らかになるというのではなく、たとい私たちは不適格のように見えても、あなたがたに正しい行ないをしてもらいたいためです。 **8** 私たちは、真理に逆らっては何をするすることもできず、真理のためなら、何でもできるのです。 **9** 私たちは、自分は弱くてもあなたがたが強ければ、喜ぶのです。私たちはあなたがたが完全な者になることを祈っています。 **10** そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったとき、主が私に授けてくださった権威を用いて、きびしい処置をとることのないようにするためです。この権威が与えられたのは築き上げるためであって、倒すためではないのです。 **11** 終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。 **12** きよい口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい

ガラテヤ人への手紙

1使徒となったパウロ——私が使徒となったのは、人間から出たことでなく、また人間の手を通したことでなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです。——**2** および私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。**3** どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**4** キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです。(aiōn g165) **5** どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。アーメン。(aiōn g165) **6** 私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。**7** ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。**8** しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。**9** 私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。**10** い

ま私は人に取り入ろうとしているのでしょうか。いや。神に、でしよう。あるいはまた、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。**11** 兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。**12** 私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。**13** 以前ユダヤ教徒であったころの私の行動は、あなたがたがすでに聞いているところです。私は激しく神の教会を迫害し、これを滅ぼそうとしました。**14** また私は、自分と同族で同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心でした。**15** けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が、**16** 異邦人の間に御子を宣べ伝えさせるために、御子を私のうちに啓示することをよしとされたとき、私はすぐに、人には相談せず、**17** 先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行き、またダマスコに戻りました。**18** それから三年後に、私はケパをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。**19** しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒にはだれにも会いませんでした。**20** 私があなたがたに書いていることには、神の御前で申しますが、偽りはありません。**21** それから、私はシリヤおよびキリキヤの地方に行きました。**22** しかし、キ

リストにあるユダヤの諸教会には顔を知られていませんでした。23けれども、「以前私たちを迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている。」と聞いてだけはいたので、24彼らは私のことで神をあがめていました。

2それから十四年たって、私は、バルナバといっしょに、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。2それは啓示によって上ったのです。そして、異邦人の間で私の宣べている福音を、人々の前に示し、おもだった人たちには個人的にそうしました。それは、私が力を尽くしていま走っていること、またすでに走ったことが、むだにならないためでした。3しかし、私といっしょにいたテトスでさえ、ギリシヤ人であったのに、割礼を強いられませんでした。4実は、忍び込んだにせ兄弟たちがいたので、強いられる恐れがあったのです。彼らは私たちを奴隷に引き落とそうとして、キリスト・イエスにあつて私たちの持つ自由をうかがうために忍び込んでいたのです。5私たちは彼らに一時も譲歩しませんでした。それは福音の真理があなたがたの間で常に保たれるためです。6そして、おもだった者と見られていた人たちからは、――彼らがどれほどの人たちであるにしても、私には問題ではありません。神は人を分け隔てなさいませぬ。――そのおもだった人たちは、私に対して、何もつけ加えることをしませんでした。7それどころか、ペテロが割礼を受けた者への福音をゆだねられているように、私が割礼を受けない者への福音をゆだねられていること

を理解してくれました。8ペテロにみわざをなして、割礼を受けた者への使徒となさった方が、私にもみわざをなして、異邦人への使徒としてくださったのです。9そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた人々のところへ行くためです。10ただ私たちが貧しい人たちをいっつも顧みるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところでした。11ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。12なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。13そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました。14しかし、彼らが福音の真理についてまっすぐに歩んでいないのを見て、私はみなの前でケパにこう言いました。「あなたは、自分がユダヤ人でありながらユダヤ人のようには生活せず、異邦人のように生活していたのに、どうして異邦人に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか。15私たちは、生まれながらのユダヤ人であつて、異邦人のような罪人ではありません。16しかし、人は律法の行ないによっては義と認めら

れず、ただキリスト・イエスを信じる どこまで道理がわからないのですか。信仰によって義と認められる、という 御霊で始まったあなたがたが、いま肉ことを知ったからこそ、私たちもキリ によって完成されるというのですか。スト・イエスを信じたのです。これは 4 あなたがたがあれほどのことを経験、律法の行ないによってではなく、キ したのは、むだだったのでしょうか。リストを信じる信仰によって義と認め 万が一にもそんなことはないでしょうられるためです。なぜなら、律法の行 が。 5 とすれば、あなたがたに御霊をないによって義と認められる者は、ひ 与え、あなたがたの間で奇蹟を行なわとりもないからです。 17 しかし、 れた方は、あなたがたが律法を行なっもし私たちが、キリストにあつて義と たから、そうなさったのですか。それ認められようとするによって、罪 ともあなたがたが信仰をもって聞いた人となってしまうのなら、キリストは からですか。 6 アブラハムは神を信じ罪の助成者なのででしょうか。そんなこ 、それが彼の義とみなされました。そとは絶対にありえないことです。 18 れと同じことです。 7 ですから、信仰けれども、もし私が前に打ちこわした による人々こそアブラハムの子孫だともをもう一度建てたら、私は自分 知りなさい。 8 聖書は、神が異邦人を自身を違反者にしてしまうのです。 19 その信仰によって義と認めてくださるしかし私は、神に生きるために、律法 ことを、前から知っていたので、アブによって律法に死にました。 20 私は ラハムに対し、「あなたによってすべキリストとともに十字架につけられま での国民が祝福される。」と前もってした。もはや私が生きているのではな 福音を告げたのです。 9 そういうわけなく、キリストが私のうちに生きておら で、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。 10 というのは、律法の行ないによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。「律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみな、のろわれる。」 11 ところが、

3 ああ愚かなガラテヤ人。十字架につ けられたイエス・キリストが、あなた がつたの目の前に、あんなにはっきり 示されたのに、だれがあなたがたを迷 わせたのですか。 2 ただこれだけをあなた がつたから聞いておきたい。あなたが がつたが御霊を受けたのは、律法を行な ったからですか。それとも信仰をもつ て聞いたからですか。 3 あなたがたは

出してくださいました。なぜなら、「ものであったなら、義は確かに律法に木にかけられる者はすべてのろわれたよるものだったでしょう。22しかしものである。」と書いてあるからです。聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエスが、キリスト・イエスによって異邦人・キリストに対する信仰によって、人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受ける信仰が現われる以前には、私たちは律法のためなのです。15兄弟たち。人間の法の監督の下に置かれ、閉じ込められたいにたとえてみましょう。人間の契約でも、いったん結ばれたら、だれもそれを無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。16ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。神は「子孫たちに」と言って、多数をさすことはせず、ひとりだけをさして、「あなたの子孫に」と言っておられます。その方はキリストです。17私の言おうとすることはこうです。先に神によって結ばれた契約は、その後四百三十年たってできた律法によって取り消されたり、その約束が無効とされたりすることがないということです。18なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約束によるのではないからです。ところが、神は約束を通してアブラハムに相続の恵みを下さったのです。19では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。20仲介者は一方だけに属するものではありません。しかし約束を賜わる神は唯一者です。21とすると、律法は神の約束に反するのでしょうか。絶対にそんなことはありません。もしも、与えられた律法がいのちを与えることのできる

4ところが、相続人というものは、全財産の持ち主なのに、子どものうちは、奴隷と少しも違わず、2父の定められた日までは、後見人や管理者の下にあります。3私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、この世の幼稚な教えの下に奴隷となっていました。4しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者と

なさいました。5 これは律法の下にあなたに与えたいときえ思ったではありません。6 それでは、あなたは、あなたがたが子としての身分を受けようように、あなたがたに真理を語ったために、あなたがたなるためです。7 そして、あなたがたの敵になったのでしょうか。8 あなたは子であるゆえに、神は「アバ、父」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。9 ですが、あなたがたはもはや奴隷ではなくして、あなたがたを福音の恵みから締め出そうとしているのです。10 良いです。11 しかし、神を知らなかったことで熱心に慕われるのは、いつである時、あなたがたは本来は神でない神々の奴隷でした。12 ところが、今では神を知っているのに、いや、むしろ神にありません。13 私の子どもたちよ。知られているのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、あなたがたのうちにキリストが形造られ、再びあなたのために産みの苦しみをしています。14 そうですか。15 あなたがたは、各種の日れで、今あなたがたといっしょにいると月と季節と年とを守っています。16 ことができたら、そしてこんな語調であなたがたのために私の労したことはなく話せたらと思います。あなたがた、むだだったのではないか、と私はあなたをどうしたらよいかと困っているのです。17 律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。18 そこには、アブラハムにふたりの子があって、ひとりには女奴隷から、ひとりは自由の女から生まれたと書かれています。19 女奴隷の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。20 このことには比喩があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。21 このハガルは、アラビヤにあるシナイ山で、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。22 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私

たちの母です。27 すなわち、こう書いてあります。「喜べ。子を産まない不妊の女よ。声をあげて呼ばわれ。産みの苦しみを知らない女よ。夫に捨てられた女の産む子どもは、夫のある女の産む子どもよりも多い。」28 兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです。29 しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。30 しかし、聖書は何と言っていますか。「奴隷の女とその子どもを追い出せ。奴隷の女の子どもは決して自由の女の子どもととも相続人になってはならない。」31 こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。

5 キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。2 よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。3 割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行なう義務があります。4 律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。5 私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。6 キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事な

のです。7 あなたがたはよく走っているのに、だれがあなたがたを妨げて、真理に従わなくさせたのですか。8 そのような勧めは、あなたがたを召してくださった方から出たものではありません。9 わずかのパン種が、こねた粉の全体を発酵させるのです。10 私は主にあって、あなたがたが少しも違った考えを持っていないと確信しています。しかし、あなたがたをかき乱す者は、だれであろうと、さばきを受けるのです。11 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣伝しているなら、どうして今なお迫害を受けることがありますよう。それなら、十字架のつまずきは取り除かれているはずですが。12 あなたがたをかき乱す者どもは、いつそのこと不具になってしまうほうがよいのです。13 兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。14 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。15 もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。18 しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。

19 肉の行ないは明白であって、次のよ
うなものです。不品行、汚れ、好色、
20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そね
み、憤り、党派心、分裂、分派、 21
ねたみ、酩酊、遊興、そういった類の
ものです。前にもあらかじめ言ったよ
うに、私は今もあなたがたにあらかじ
め言っておきます。こんなことをして
いる者たちが神の国を相続することは
ありません。 22 しかし、御霊の実は
、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意
、誠実、 23 柔和、自制です。このよ
うなものを禁ずる律法はありません。

6 兄弟たちよ。もしだれかがあやまち
に陥ったなら、御霊の人であるあな
たがたは、柔和な心でその人を正して
あげなさい。また、自分自身も誘惑に
陥らないように気をつけなさい。 2 互
いの重荷を負い合い、そのようにして
キリストの律法を全うしなさい。 3 だ
れでも、りっぱでもない自分を何かり
っぱでもあるかのように思うなら、自
分を欺いているのです。 4 おのおの自
分の行ないをよく調べてみなさい。そ
うすれば、誇れると思ったことも、た
だ自分だけの誇りで、ほかの人に対
して誇れることではないでしょう。 5 人
にはおのおの、負うべき自分自身の重
荷があるのです。 6 みことばを教えら
れる人は、教える人とすべての良いも

のを分け合いなさい。 7 思い違いをし
てはいけません。神は侮られるよう
方ではありません。人は種を蒔けば、
その刈り取りもすることになります。
8 自分の肉のために蒔く者は、肉から
滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者
は、御霊から永遠のいのちを刈り取る
のです。(aiōnios g166) 9 善を行なうのに
飽いてはいけません。失望せずにいれ
ば、時期が来て、刈り取ることになり
ます。 10 ですから、私たちは、機会
のあるたびに、すべての人に対して、
特に信仰の家族の人たちに善を行ない
ましょう。 11 ご覧のとおり、私は今
こんなに大きな字で、自分のこの手で
あなたがたに書いています。 12 あな
たがたに割礼を強制する人たちは、肉
において外見を良くしたい人たちです
。彼らはただ、キリストの十字架のた
めに迫害を受けたくないだけなのです
。 13 なぜなら、割礼を受けた人た
ちは、自分自身が律法を守っていません
。それなのに彼らがあなたがたに割礼
を受けさせようとするのは、あなたが
たの肉を誇りたいためなのです。 14
しかし私には、私たちの主イエス・キ
リストの十字架以外に誇りとするもの
が決してあってはなりません。この十
字架によって、世界は私に対して十字
架につけられ、私も世界に対して十字
架につけられたのです。 15 割礼を受
けているか受けていないかは、大事な
ことではありません。大事なのは新し
い創造です。 16 どうか、この基準に
従って進む人々、すなわち神のイスラ
エルの上に、平安とあわれみがありま
すように。 17 これからは、だれも私
を煩わさないようにしてください。私

は、この身に、イエスの焼き印を帯びているのですから。 **18** どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、兄弟たちよ、あなたがたの霊とともにありますように。アーメン。

エペソ人への手紙

1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ。**2** 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**3** 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。**4** すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前できよく、傷のない者にしようとされました。**5** 神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。**6** それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。**7** 私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。**8** 神はこの恵みを私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、**9** みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子においてあらかじめお立てになったご計画によることであつて、**10** 時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあつて一つに集められることなのです。このキリストにあつて、**11** 私たちは彼にあつて御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころ

によりご計画のままをみな実現される方の目的に従つて、このようにあらかじめ定められていたのです。**12** それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえる者となるためです。**13** またあなたがたも、キリストにあつて、真理のことは、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによつて、約束の聖霊をもつて証印を押されました。**14** 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。**15** こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、**16** あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。**17** どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。**18** また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによつて与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、**19** また、神の全能の力の働きによつて私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができるようになります。**20** 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、**21** すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもと

なえられる、すべての名の上に高く置かれました。(aiōn g165) 22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

2 あなたがたは自分の罪過と罪の中に死んでいた者であって、2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。

(aiōn g165) 3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかにお示しになるためでした。(aiōn g165) 8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行ないによるものではありません。だれも誇ることをないためです。

10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。11 ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。13 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。18 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。19 こういうわけで、あなたがたは、もは

や他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。21 この方であって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、22 このキリストにあって、あなたがたとともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

3 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となった私パウロが言います。2 あなたがたのためにと私がいただいた、神の恵みによる私の務めについて、あなたがたはすでに聞いたことでしょう。3 先に簡単に書いたとおり、この奥義は、啓示によって私に知らされたのです。4 それを読めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよくわかるはずです。5 この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていませんでした。6 その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。7 私は、神の力の働きにより、自分に与えられた神の恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされました。8 すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが与えられたのは、私がキリストの測りたい富を異邦人に宣べ伝え、9 また、万物を創造された神の中に世々隠され

ていた奥義を実行に移す務めが何であるかを明らかにするためにほかなりません。(aiōn g165) 10 これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、11 私たちの主キリスト・イエスにおいて実現された神の永遠のご計画に沿ったことです。(aiōn g165) 12 私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができます。13 ですから、私あなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようお願いいたします。私の受けている苦しみは、そのまま、あなたがたの光栄なのです。14 こういうわけで、私はひざをかがめて、15 天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名元である父の前に祈ります。16 どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるようになります。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、21 教会により、またキリスト・

イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。(aiōn g165)

4 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。**2** 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、**3** 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。**4** からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。**5** 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。**6** すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。**7** しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。**8** そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」**9** ——この「上られた。」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。**10** この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方なのです。——**11** こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。**12** それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、**13** ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キ

リストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。**14** それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばされたりすることがなく、**15** むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。**16** キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。**17** そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。**18** 彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。**19** 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていきます。**20** しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。**21** ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのならばです。まさしく真理はイエスにあるのですから。**22** その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、**23** またあなたがたが心の霊において新しくされ、**24** 真理に基づき義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきこ

とでした。25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。26 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままだいてはいけません。27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要など話し、聞く人に恵みを与えなさい。30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。31 無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。32 お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださいのように、互いに赦し合いなさい。

5 ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。4 また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良く

ないことです。むしろ、感謝しなさい。5 あなたがたがよく見て知っているとおりの、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。6 むなしいことばに、だまされたいはいけません。こういう行ないゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。7 ですから、彼らの仲間になつてはいけません。8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。9 ——光の結ぶ実はき、人の徳を養うのに役立つことばを、あらゆる善意と正義と真実なのです。—— 10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。11 実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。12 なぜなら、彼らがひそかに行なっていることは、口にするのも恥ずかしいことだからです。13 けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。14 明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」 15 そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。18 また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御

霊に満たされなさい。19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美なさい。20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、きよく傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。30 私たちはキリストのからだの部分だからです。31 「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。33

それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。

6 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。4 父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。5 奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。6 人のごきげんとりのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行ない、7 人ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。8 良いことを行なえば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けることをあなたがたは知っています。9 主人たちよ。あなたがたも、奴隷に対して同じようにふるまいなさい。おどすことはやめなさい。あなたがたは、彼らとあなたがたとの主が天におられ、主は人を差別されることがないことを知っているのですから。10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天に

いるもろもろの悪霊に対するものです。 (aiōn g165) 13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。 14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、 15 足には平和の福音の備えをはきなさい。 16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。 17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。 18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。 19 また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように私のためにも祈ってください。 20 私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語るように、祈ってください。 21 あなたがたにも私の様子や、私が何をしているかなどを知っていただくために、主にあつて愛する兄弟であり、忠実な奉仕者であるテキコが、一部始終を知らせるでしょう。 22 テキコをあなたがたのもとに遣わしたのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるためです。 23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。 24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。

ピリピ人への手紙

1 キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。**2** どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**3** 私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、**4** あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、**5** あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。**6** あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。**7** 私があなたがたすべてについてこのように考えるのは正しいのです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人々であり、私は、そのようなあなたがたを、心に覚えているからです。**8** 私が、キリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、そのあかしをしてくださるのは神です。**9** 私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、**10** あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、**11** イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現わされますように。**12** さ

て、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。**13** 私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、**14** また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあつて確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のこぼを語るようになりました。**15** 人々の中にはねたみや争いをもってキリストを宣べ伝える者もいますが、善意をもってする者もいます。**16** 一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています、**17** 他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。**18** すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいます。そうです、今からも喜ぶことでしょう。**19** というわけは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、このことが私の救いとなることを私は知っているからです。**20** それは、私がどういふばあいにも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにしても、死ぬにしても、私の身によって、キリストのすばらしさが現わされることを求める私の切なる願いと望みにかなっているのです。**21** 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともま

た益です。22しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。23私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。24しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。25私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています。26 そうなれば、私はもう一度あなたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。27ただ、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、28また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。29あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜わったのです。30あなたがたは、私について先に見たこ

と、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

2 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがああり、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、2私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。3何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。5あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。6キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができずとは考えないで、7ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。8キリストは人間と同じようなかたちになり、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。9それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。10それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかかめ、11すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。12そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。13神は、みこころのままに、

あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、16 いのちのこばをしかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。17 たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となつても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。18 あなたがたも同じように喜んでください。私といっしょに喜んでください。19 しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところへ送りたいと、主イエスにあつて望んでいます。20 テモテのように私と同じ心になつて、眞実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもないからです。21 だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。22 しかし、テモテのりっぱな働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにして、彼は私といっしょに福音に奉仕して来ました。23 ですから、私のことがどうなるかがわかりしだい、彼を遣わしたいと望んでいます。24 しかし私自身も近いうちに行けることと、主にあつて確信しています。25 しかし、私の兄弟、同勞者、戦友、ま

たあなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた人エパフロデトは、あなたがたのところへ送らねばならないと思っています。26 彼は、あなたがたすべてを慕い求めており、また、自分の病氣のことがあなたがたに伝わつたことを気にしているからです。27 ほんとうに、彼は死ぬほどの病氣にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。彼ばかりでなく私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました。28 そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あなたがたが彼に再び会つて喜び、私も心配が少なくなつて、喜びにあふれて、主にあつて、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。30 なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになつたからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。

3最後に、私の兄弟たち。主にあつて喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。2 どうか犬に氣をつけてください。悪い働き人に氣をつけてください。肉体だけの割礼の者に氣をつけてください。3 神の御靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。4 ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると

思うなら、私は、それ以上です。5 私に召してくださる神の栄冠を得るは八日目の割礼を受け、イスラエル民のために、目標を目ざして一心に走って族に属し、ベニヤミンの分かれの者であるのです。15 ですから、成人です。きつすいのヘブル人で、律法に従う者はみな、このような考え方をしないうちはパリサイ人、6 その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義に就いてならば非難されるところのない者神はそのこともあなたがたに明らかにです。7 しかし、私にとって得であってくださいます。16 それはそれとたこのようなものをみな、私はキリストして、私たちはすでに達しているところのゆえに、損と思うようになりまして、進むべきです。17 た。8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることの手を兄弟たち。私を見ならう者になつてくださいます。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人た損とと思っています。私はキリストのうちに、目を留めてください。18 といめにすべてのものを捨てて、それらをするのは、私はしばしばあなたがたに言ちりあくたと思っています。それは、って来たし、今も涙をもって言うので私には、キリストを得、また、9 キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼信じる信仰による義、すなわち、信仰らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自に基づいて、神から与えられる義を持身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけのことができる、という望みがあるからことだけです。20 けれども、私たちがらです。10 私は、キリストとその復の国籍は天にあります。そこから主イ活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストのになるのを、私たちは待ち望んでいま死と同じ状態になり、11 どうにかしす。21 キリストは、万物をご自身にて、死者の中からの復活に達したいの従わせることのできる御力によって、です。12 私は、すでに得たのでもな私たちの卑しいからだを、ご自身の栄なく、すでに完全にされているのでもあ光のからだと同じ姿に変えてくださるりません。ただ捕えようとして、追求ののです。

4 そういいうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあつてしっかりと立ってください。私の愛する人たち。2 ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあつて一致してしてください。3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女た

ちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされています。13 私は、私を強くして下さるクレメンヌや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。6 何も思い煩わないうで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべてのきよいこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。10 私のことを心配してくれるあなたがたの心が、今ついによみがえって来たことを、私は主にあって非常に喜んでいますが、あなたがたは心にかけてはいたのですが、機会がなかったのです。11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。23 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。13 私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。14 それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくださいました。15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってくださいました。17 私は贈り物を求めているものではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊的祝福なのです。18 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいませ。20 どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこしえにありませうように。アーメン。(aiōn g165) 21 キリスト・イエスにある聖徒のひとりひとりに、よろしく伝えてください。私と一っしょにいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと云っています。22 聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと云っています。23 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

コロサイ人への手紙

1 神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、**2** コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**3** 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。**4** それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。**5** それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。**6** この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそうにしてあなたがたに届いたのです。**7** これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパフラスから学んだとおりのものです。彼は私たちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人であって、**8** 私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。**9** こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように

。 **10** また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。 **11** また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、 **12** また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができるよう。 **13** 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移していただきました。 **14** この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。 **15** 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。 **16** なぜなら、万物は御子にあつて造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。 **17** 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあつて成り立っています。 **18** また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。 **19** なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、 **20** その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくだ

さったのです。21あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となつて、悪い行ないの中にあつたのですが、22今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。それはあなたがたを、きよく、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。23ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであつて、このパウロはそれに仕える者となつたのです。24ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。25私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従つて、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。26これは、多くの世代にわたつて隠されていて、いま神の聖徒たちに現わされた奥義なのです。(aiōn g165) 27神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあつてどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。28私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、

すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。29このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しなから奮闘しています。

2あなたがたとオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。3このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。4私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。5私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいます。6あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあつて歩みなさい。7キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。8あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。そのようなものは、人の言い伝えによるものであり、この世に属する幼稚な教えによるものであつて、キリストに基づくものではありません。9キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとつて宿っています。10そしてあなたがたは、キリストにあつて、満ち満ち

ているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。11キリストにあって、あなたがたは人の手による割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。12あなたがたは、パプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。13あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、14いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。15神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。16こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。17これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。18あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、19かしらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合

わされて、神によって成長させられるのです。20もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのよう

に、21「すがるな。味わうな。さわらな。」というような定めに縛られるのですか。22そのようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教えによるものです。23そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいまま欲望に対しては、何のききめもないのです。

3 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。2あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。3あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。4私たちのいのちであるキリストが現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。5ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。6このようなことのために、神の怒りが下るのです。7あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。8しかし今は、あなたがたも、す

べてこれらのこと、すなわち、怒り、主にある者にふさわしく、夫に従いな
憤り、悪意、そしり、あなたがたの口 さい。19 夫たちよ。妻を愛しなさい
から出る恥ずべきことばを、捨ててし 。つらく当たってははいけません。20
まいなさい。9 互いに偽りを言うては 子どもたちよ。すべてのことについて
はいけません。あなたがたは、古い人を 、両親に従いなさい。それは主に喜ば
その行ないといっしょに脱ぎ捨てて、 れることだからです。21 父たちよ。
10 新しい人を着たのです。新しい人は 子どもをおこらせてはいけません。彼
、造り主のかたちに似せられてますま らを気落ちさせないためです。22 奴
す新しくされ、真の知識に至るのです 隷たちよ。すべてのことについて、地
。11 そこには、ギリシヤ人とユダヤ 上の主人に従いなさい。人のごきげん
人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人 とりのような、うわべだけの仕方
、奴隷と自由人というような区別はあ はなく、主を恐れかきこみつ、真心
りません。キリストがすべてであり、 から従いなさい。23 何をすることも、
すべてのうちにおられるのです。12 人に対してではなく、主に対してする
それゆえ、神に選ばれた者、きよい、 ように、心からしなさい。24 あなた
愛されている者として、あなたがたは がたは、主から報いとして、御国を相
深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容 続させていただくことを知っています
を身に着けなさい。13 互いに忍び合 。あなたがたは主キリストに仕えてい
い、だれかがほかの人に不満を抱くこ るのです。25 不正を行なう者は、自
とがあっても、互いに赦し合いなさい 分が行なった不正の報いを受けます。
。主があなたがたを赦してくださった それには不公平な扱いはありません。
ように、あなたがたもそうしなさい。4 主人たちよ。あなたがたは、自分た
14 そして、これらすべての上に、愛を ちの主も天におられることを知って
着けなさい。愛は結びの帯として完全 いるのですから、奴隷に対して正義と
なものです。15 キリストの平和が、 公平を示しなさい。2 目をさまして、
あなたがたの心を支配するようにしな 感謝をもって、たゆみなく祈りなさい
さい。そのためにこそあなたがたも召 。3 同時に、私たちのためにも、神が
されて一体となったのです。また、感 みことばのために門を開いてくださ
謝の心を持つ人になりなさい。16 キ リストの奥義を語れる
リストのことばを、あなたがたのうち ように、祈ってください。この奥義の
に豊かに住ませ、知恵を尽くして互 ために、私は牢に入れられています。
いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊 4 また、私がこの奥義を、当然語るべ
の歌とにより、感謝にあふれて心から き語り方で、はっきり語れるように、
神に向かって歌いなさい。17 あなた 祈ってください。5 外部の人に対して
がたのすることは、ことばによると行 賢明にふるまい、機会を十分に生かし
ないによるとを問わず、すべて主イエ て用いなさい。6 あなたがたのことば
スの名によってなし、主によって父な が、いつも親切で、塩味のきいたもの
る神に感謝しなさい。18 妻たちよ。 であるようにしなさい。そうすれば、

ひとりひとりに対する答え方がわかりオデキヤの兄弟たちに、またヌンパと
ます。7私の様子については、主にあその家にある教会に、よろしく言っ
って愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労くください。16この手紙があなたがた
のしもべであるテキコが、あなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ
に一部始終を知らせるでしょう。8私人の教会でも読まれるようにしてくだ
さがテキコをあなたがたのもとに送るのさい。あなたがたのほうも、ラオデキ
は、あなたがたが私たちの様子を知りヤから回って来る手紙を読んでくださ
い。17アルキポに、「主にあつて受
にほかなりません。9また彼は、あなけた務めを、注意してよく果たすよう
に。」と言ってください。18パウロ
る兄弟オネシモといっしょに行きますが自筆であいさつを送ります。私が牢
。このふたりが、こちらの様子をみなにつながれていることを覚えていてく
知らせてくれるでしょう。10私といださい。どうか、恵みがあなたがたと
っしょに囚人となっているアリストともにありますように。
コが、あなたがたによろしくと言っ
います。パルナバのいとこであるマル
コも同じです。——この人については
、もし彼があなたがたのところに行っ
たなら、歓迎するよという指示を
あなたがたは受けています。——11
ユストと呼ばれるイエスもよろしくと
言っています。割礼を受けた人では、
この人たちだけが、神の国のために働
く私の同労者です。また、彼らは私を
激励する者となってくれました。12
あなたがたの仲間のひとり、キリスト
・イエスのしもべエパfrasが、あな
たがたによろしくと言っています。彼
はいつも、あなたがたが完全な人とな
り、また神のすべてのみこころを十分
に確信して立つことができるよう、あ
なたがたのために祈りに励んでいます
。13私はあかしします。彼はあなた
がたのために、またラオデキヤとヒエ
ラポリスにいる人々のために、非常に
苦勞しています。14愛する医者ルカ
、それにデマスが、あなたがたによろ
しくと言っています。15どうか、ラ

テサロニケ人への 手紙第一

1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように。**2** 私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、**3** 絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。**4** 神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。**5** なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところへ来たのは、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。**6** あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。**7** こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。**8** 主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているのです、私たちは何も言わなくとも、私たちがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、**10** また、神が死

者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちに救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

2 兄弟たち。あなたがたが知っているとおおり、私たちがあなたがたのところへ行ったことは、むだではありませんでした。**2** ご承知のように、私たちはまずピリピで苦しみに会い、はずかしめを受けたのですが、私たちの神によつて、激しい苦闘の中でも大胆に神の福音をあなたがたに語りました。**3** 私たちの勧めは、迷いや不純な心から出ているものではなく、だましごとでもありません。**4** 私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのであります。**5** ご存じのとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、むさぼりの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。**6** また、キリストの使徒たちとして権威を主張することもできたのですが、私たちは、あなたがたからも、ほかの人々からも、人からの名誉を受けようとはしませんでした。**7** それどころか、あなたがたの間で、母がその子どもたちを養い育てるように、優しくふるまいました。**8** このようにあなたがたを思う心から、ただ神の福音だけではなく、私たち自身のいのちまでも、喜んであなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。**9** 兄弟た

ち。あなたがたは、私たちの労苦と苦闘を覚えているでしょう。私たちはあなたがたのだれにも負担をかけまいと、昼も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。10 また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことは、あなたがたがあかしし、神もあかししてくださることです。11 また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、12 ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。13 3

3 ところで、私たちはもはやがまんできなくなり、私たちだけがアテネにとどまることにして、2 私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者であるテモテを遣わしたのです。それは、あなたがたの信仰についてあなたがたを強め励まし、3 このような苦難の中にあっても、動揺する者がひとりもないようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。4 あなたがたのところに行ったとき、私たちは苦難に会うようになる、と前もって言っておいたのですが、それが、ご承知のとおり、はたして事実となったのです。5 そういうわけで、私も、あれ以上はがまんができず、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦がむだになるようなことがあってはいけないと思っ

て、あなたがたの信仰を知るために、彼を遣わしたのです。6 ところが、今テモテがあなたがたのところから私

は、しばらくの間あなたがたから引き離されたので、——といっても、顔を見ないだけで、心においてではありませんが、——なおさらのこと、あなたがたの顔を見たいと切に願っていました。18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一度ならず二度までも心を決めたのです。しかし、サタンが私たちを妨げました。19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。20 あなたがたこそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。

3 ところで、私たちはもはやがまんできなくなり、私たちだけがアテネにとどまることにして、2 私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者であるテモテを遣わしたのです。それは、あなたがたの信仰についてあなたがたを強め励まし、3 このような苦難の中にあっても、動揺する者がひとりもないようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。4 あなたがたのところに行ったとき、私たちは苦難に会うようになる、と前もって言っておいたのですが、それが、ご承知のとおり、はたして事実となったのです。5 そういうわけで、私も、あれ以上はがまんができず、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦がむだになるようなことがあってはいけないと思っ

て、あなたがたの信仰を知るために、彼を遣わしたのです。6 ところが、今テモテがあなたがたのところから私

たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせをもたせられました。また、あなたがたが、いつも私たちのことを親切に考えていて、私たちがあなたがたに会いたいと思うように、あなたがたも、しきりに私たちに会いたがっていることを、知らせてくれました。7このようなわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦しみと患難のうちにも、あなたがたのことで、その信仰によって、慰めを受けました。8あなたがたが主にあって堅く立っていてくれるなら、私たちは今、生きがいがあります。9私たちの神の御前にあって、あなたがたのことで喜んでいる私たちのこのすべての喜びのために、神にどんな感謝をささげたらよいでしょう。10私たちは、あなたがたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。11どうか、私たちの父なる神であり、また私たちの主イエスである方ご自身が、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。12また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいますように。13また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスをご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、きよく、責められるところのない者としてくださいますように。

4終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学ん

に、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそうに歩んでください。2私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを、あなたがたは知っていません。3神のみこころは、あなたがたがきよくなることです。あなたがたが品行を避け、4各自わきまえて、自分のからだを、きよく、また尊く保ち、5神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、6また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばられるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。7神が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるためです。8ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。9兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。10実にマケドニヤ全土のすべての兄弟たちに対して、あなたがたはそれを実行しています。しかし、兄弟たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであってください。11また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をすることを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。12外の人々に対してもりっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないようにするためです。13眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らな

いでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように、悲しみに沈むことのないためです。14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです。15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するよううなことは決してありません。16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみえり、17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

5 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。3 人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。6 ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。11 ですから、あなたがたは、今しているとおおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。12 兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。13 その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。14 兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があるあなたがたに望んでおられることです。

19 御霊を消してはなりません。 20 預言をないがしろにしてはいけません。 21 すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。 22 悪はどんな悪でも避けなさい。 23 平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。 24 あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。 25 兄弟たち。私たちのためにも祈ってください。 26 すべての兄弟たちに、きよい口づけをもってあいさつをなさい。 27 この手紙がすべての兄弟たちに読まれるように、主によって命じます。 28 私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように。

テサロニケ人への 手紙第二

1 パウロ、シルワノ、テモテから、私たちの父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。
2 父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。
3 兄弟たち。あなたがたのことに、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。
4 それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。
5 このことは、あなたがたを神の国にふさわしい者とするため、神の正しいさばきを示すしるしであって、あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。
6 つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、
7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。
8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。
9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。
(aiōnios g166) **10** その日に、主イエスは来

られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の——そうのです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです。——感嘆の的となられます。**11** そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいますように。**12** それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです。

2 さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。**2** 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。**3** だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。**4** 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。**5** 私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを思い出しませんか。**6** あなたがたが知っ

ているとおり、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。8 その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。13 しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊によるきよめと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。14 ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです。15 そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りなさい。16 どうか、私たちの主イエス・キリストであり、私たちの父なる神である方、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、(aiōnios g166)

17 あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。

3 終わりに、兄弟たちよ。私たちのために祈ってください。主のみことばが、あなたがたのところでも同じように早く広まり、またあがめられますように。2 また、私たちが、ひねくれた悪人どもの手から救い出されますように。すべての人が信仰を持っているのではないからです。3 しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。4 私たちが命じることを、あなたがたが現に実行しており、これからも実行してくれることを私たちは主にあつて確信しています。5 どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように。6 兄弟たちよ。主イエス・キリストの御名によって命じます。締まりのない歩み方をして私たちから受けた言い伝えに従わないでいる、すべての兄弟たちから離れていなさい。7 どのように私たちを見ならうべきかは、あなたがた自身を知っているのです。あなたがたのところで、私たちは締まりのないことはしなかったし、8 人のパンをただで食べることもしませんでした。かえって、あなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼も夜も労苦しながら働き続けました。9 それは、私たちに権利がなかったからではなく、ただ私たちを見ならうようにと、身をもってあなたがたに模範を示すためでした。10 私たちは、あなたがたのところに行ったときにも、働きたくない者は食べるなど命じました。11 ところ

が、あなたがたの中には、何も仕事をせず、おせっかいばかりして、締めりのない歩み方をしている人たちがあると聞いています。 **12** こういう人たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。 **13** しかしあなたがたは、たゆむことなく善を行ないなさい。兄弟たちよ。 **14** もし、この手紙に書いた私たちの指示に従わない者があれば、そのような人には、特に注意を払い、交際しないようにしなさい。彼が恥じ入るようになるためです。 **15** しかし、その人を敵とはみなさず、兄弟として戒めなさい。 **16** どうか、平和の主ご自身が、どんなばあいにも、いつも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてと、ともにおられますように。 **17** パウロが自分の手であいさつを書きます。これは私のどの手紙にもあるしるしです。これが私の手紙の書き方です。 **18** どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

テモテへの手紙第

一

1 私たちの救い主なる神と私たちの望みなるキリスト・イエスとの命令による、キリスト・イエスの使徒パウロから、**2** 信仰による真実のわが子テモテへ。父なる神と私たちの主なるキリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とがありますように。**3** 私がマケドニアに出発するとき、あなたにお願いしたように、あなたは、エペソにずっとどまっけていて、ある人たちが違った教えを説いたり、**4** 果てしのない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現をもたらすものではありません。**5** この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。**6** ある人たちはこの目当てを見失い、わき道にそれて無益な議論に走り、**7** 律法の教師でありたいと望みながら、自分の言っていることも、また強く主張していることについても理解していません。**8** しかし私たちは知っています。律法は、もし次のことを知っていて正しく用いるならば、良いものです。**9** すなわち、律法は、正しい人のためにあるのではなく、律法を無視する不従順な者、不敬虔な罪人、汚らわしい俗物、父や母を殺す者、人を殺す者、**10** 不品行な者、男色をする者、人を誘拐する者、うそをつく者、偽証をする者などのため、またそのほか健全な教えにそむく事のためにあるのです。**11** 祝福に満ちた神の

、栄光の福音によれば、こうなのであって、私はその福音をゆだねられたのです。**12** 私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。**13** 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないうちでしたことなので、あわれみを受けたのです。**14** 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。**15** 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。**16** しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。(aiōnios g166) **17** どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。(aiōn g165) **18** 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。**19** ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。**20** その中には、ヒメナオとアレキサンデルがいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました

。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。

2そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。**2**それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。**3**そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。**4**神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。**5**神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。**6**キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。**7**そのあかしのために、私は宣伝者また使徒に任じられ——私は真実を言っており、うそは言いません。——信仰と真理を異邦人に教える教師とされました。**8**ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。**9**同じように女にも、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、**10**むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。**11**女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。**12**私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、黙っていなさい。**13**アダムが初

めに造られ、次にエバが造られたからです。**14**また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。**15**しかし、女が慎みをもって、信仰と愛ときよさを保つなら、子を産むことによって救われます。

3「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである。」ということばは真実です。**2**ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、**3**酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、**4**自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。**5**——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができのでしょうか。——**6**また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。**7**また、教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔のわなに陥らないためです。**8**執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、**9**きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。**10**まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。**11**婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければ

なりません。12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。13 としたのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。14 私は、近いうちにあなたのもとに行きたいと思いつつも、この手紙を書いています。15 それは、たとい私がおそくなつたばあいでも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。16 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現われ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

4 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、3 結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるようにと、神が造られた物です。4 神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は何一つありません。5 神のことばと祈りによって、きよめられるからです。6 これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたはキリスト・イエスのりっぱな奉仕者になります。

す。信仰のことばと、あなたが従つて来た良い教えのことばとによって養われているからです。7 俗悪な、年寄り女性がするような空想話を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分を鍛練しなさい。8 肉体の鍛練もいくらかは有益ですが、今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益です。9 このことばは、真実であり、そのまま受け入れるに値することばです。10 私たちはそのために労し、また苦心しているのです。それは、すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いているからです。11 これらのことを命じ、また教えなさい。12 年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。13 私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい。14 長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはいけません。15 これらの務めに心を砕き、しっかりやりなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。16 自分自身にも、教える事にも、よく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。

5 年寄りをしかつてはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人たちには兄弟に対するように、2年とつた婦人たちには母親に対して、若い女たちには真に混じ

りけのない心で姉妹に対するように勧め、サタンのあとについて行った者があめなさい。3 やもめの中でもほんとうのやもめを敬いなさい。4 しかし、その身内にやもめがいたら、その人がそし、やもめに子どもか孫かがいるなら、まずこれらの者に、自分の家の者にならないようにしなさい。そうすれば、敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつかえさせなさい。それが神に喜ばれることができます。17 よく指導の任に当たります。5 ほんとうのやもめで、身寄っている長老は、二重に尊敬を受けるに足りない人は、望みを神に置いて、昼も夜も、絶えず神に願いと祈りをささげていますが、6 自堕落な生活をしているやもめは、生きてはいても、もう死んだ者なのです。7 彼女たちがそしめることを命じなさい。8 もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。9 やもめとして名簿に載せるのは、六十歳未満の人でなく、ひとりの夫の妻であつた人で、10 良い行ないによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助け、すべての良いわざに務め励んだ人としなさい。11 若いやもめは断わりなさい。というのは、彼女たちは、キリストにそむいて情欲に引かれると、結婚したが、12 初めの誓いを捨てたという非難を受けることになるからです。13 そのうたえ、怠けて、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話してはいけないことまで話します。14 ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子どもを産み、家庭を治め、反対者にそしる機会を与えないことです。15

、サタンのあとについて行った者があめなさい。16 もし信者である婦人の身内にやもめがいたら、その人がそし、やもめに子どもか孫かがいるなら、そのやもめを助け、教会には負担をかけないようしなさい。そうすれば、教会はほんとうのやもめを助けることができます。17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけなさい。」また、「働き手が報酬を受けることは当然である。」と言われているからです。19 長老に対する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。20 罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい。ほかの人をも恐れさせるためです。21 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちとの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行ないなさい。22 また、だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。また、他人の罪にかかわりを持つてはいけません。自分をきよく保ちなさい。23 これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のおどろ酒を用いなさい。24 ある人たちの罪は、それがさばきを受ける前から、だれの目にも明らかですが、ある人たちの罪は、あとで明らかになります。25 同じように、良い行ないは、だれの目にも明らかですが、そうでないばあいでも、いつまでも隠れたままでいることはありま

6 くびきの下にある奴隷は、自分の主人を十分に尊敬すべき人だと考えなさい。それは神の御名と教えとがそしられないためです。 **2** 信者である主人を持つ人は、主人が兄弟だからといって軽く見ず、むしろ、ますますよく仕えなさい。なぜなら、その良い奉仕から益を受けるのは信者であり、愛されている人だからです。あなたは、これらのことを教え、また勧めなさい。 **3** 現われの時まで、あなたは命令を守り違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えとに同意しない人がいるなら、 **4** その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そして、悪意の疑いが生じ、 **5** また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。 **6** しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。 **7** 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。 **8** 衣食があれば、それで満足すべきです。 **9** また、人の益を計り、良い行ないに金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れられる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。 **10** 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。 **11** しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しき、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。 **12** 信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。 (aiōnios g166) **13** 私は、すべてのものにいのちを与える神と、ポンテオ・ピラトに対してすばらしい告白をもってあかしされたキリスト・イエスとの御前で、あなたに命じます。 **14** 私たちの主イエス・キリストの、傷のない、非難されるところのない者でありなさい。 **15** その現われを、神はご自分の良しとする時に示してください。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、 **16** ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることのできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のものであります。アーメン。 (aiōnios g166) **17** この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。 (aiōn g165) **18** また、人の益を計り、良い行ないに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。 **19** また、まことのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げるように。 **20** テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話を、また、まちがって「靈知」と呼ばれる反対論を避けなさい。 **21** これを公然と主張したある人たちは、信仰からはずれてしまいました。恵みが、あなたがたとともにありますように。

テモテへの手紙第二

二

1 神のみこころにより、キリスト・イエスにあるいのちの約束によって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、**2** 愛する子テモテへ。父なる神および私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。**3** 私は、夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こしては、先祖以来きよい良心をもって仕えている神に感謝しています。**4** 私は、あなたの涙を覚えているので、あなたに会って、喜びに満たされたいと願っています。**5** 私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。**6** それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。**7** 神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。**8** ですから、あなたは、私たちの主をあかしすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください。**9** 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたもの

であって、(aiōnios g166) **10** それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現われによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。**11** 私は、この福音のために、宣教者、使徒、また教師として任命されたのです。**12** そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。**13** あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全なことばを手本にしてください。**14** そして、あなたにゆだねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって、守りなさい。**15** あなたの知っているとおりに、アジアにいる人々はみな、私を離れて行きました。その中には、フゲロとヘルモゲネがいます。**16** オネシポロの家族を主があわれんでくださるように。彼はたびたび私を元気づけてくれ、また私が鎖につながれていることを恥とも思わず、**17** ローマに着いたときには、熱心に私を捜して見つけ出してくれたのです。**18** ーかの日には、主があわれみを彼に示してくださいますように。ー彼がエペソで、どれほど私に仕えてくれたかは、あなたが一番よく知っています。

2 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。**2** 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠

実な人たちにゆだねなさい。3 キリストの論争などしないように、神の御ト・イエスのりっぱな兵士として、私前できびしく命じなさい。15 あなたと苦しみをともしてください。4 兵は熟練した者、すなわち、真理のみこ役についていながら、日常生活のこととばをまっすぐに説き明かす、恥じるに掛かり合っている者はだれもありません。それは徴募した者を喜ばせるためです。5 また、競技をするときも、俗悪なむだ話を避けなさい。人々はそ規定に従って競技をしなければ栄冠を得ることはできません。6 労苦した農夫こそ、まず第一に収穫の分け前にあです。ヒメナオとピレトはその仲間です。7 私が言っていること。18 彼らは真理からはずれてしまとをよく考えなさい。主はすべてのこい、復活がすでに起こったと言って、とについて、理解する力をあなたに必ず与えてくださいます。8 私の福音にある人々の信仰をくつがえしているのです。19 それにもかかわらず、神の言うとおりに、ダビデの子孫として生まれ不動の礎は堅く置かれていて、それにれ、死者の中からよみがえったイエス次のような銘が刻まれています。「主・キリストを、いつも思っていないさいはご自分に属する者を知っておられる。9 私は、福音のために、苦しみを受け。」また、「主の御名を呼ぶ者は、だけ、犯罪者のようにつながれています。それでも不義を離れよ。」20 大きな家。しかし、神のことばは、つながれてには、金や銀の器だけでなく、木や土はいません。10 ですから、私は選ばれた人たちのために、すべてのことをの器もあります。また、ある物は尊い耐え忍びます。それは、彼らもまたキリスト・イエスにある救いと、それとことに、ある物は卑しいことに用います。21 ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となるためです。(aiōnios g166) 11 次のことばは信頼すべきことばです。「もしの、主人にとって有益なもの、あらゆる私たちが、彼とともに死んだのなら、る良いわざに間に合うものとなるので彼とともに生きるようになる。12 もす。22 それで、あなたは、若い時のし耐え忍んでいるなら、彼とともに治情欲を避け、きよい心で主を呼び求めめるようになる。もし彼を否んだなら人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。23 愚かで、無私たちは真実でなくても、彼は常に真実知な思弁を避けなさい。それが争いのものである。彼にはご自身を否むことができなからである。」14 これらのこととおりです。24 主のしもべが争つとを人々に思い出させなさい。そしててはいけません。むしろ、すべての人何の益にもならず、聞いている人々に優しくし、よく教え、よく忍び、25 滅ぼすことになるような、ことばにつ反対する人たちを柔和な心で訓戒しな

さい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせ、26 一時は悪魔に捕えられて思うままになっていた人々でも、目ざめてそのわなをのがれることもあるでしょう。

3 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、5 敬虔のかたちをしていても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。6 こういう人々の中には、家々にはいり込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいます。その女たちは、さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、7 いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。8 また、こういう人々は、ちょうどヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らうのです。彼らは知性の腐った、信仰の失格者です。9 でも、彼らはもうこれ以上に進むことはできません。彼らの愚かさは、あのふたりのぼあいのように、すべての人にははっきりわかるからです。10 しかし、あなたは、私の教え、行動、計画、信仰、寛容、愛、忍耐に、11 またアンテオケ、イコニウム、ルステラで私にふりかかった迫害や苦難にも、よくついて来てくれました。何というひど

い迫害に私は耐えて来たことでしょう。しかし、主はいつさいのことから私を救い出してくださいました。12 確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。13 しかし、悪人や詐欺師たちは、だましたりだまされたりしながら、ますます悪に落ちて行くのです。14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

4 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。2 みことばを宣傳伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。5 しかし、あなたは、どのようなぼあいにも慎み、困難に耐

え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。6 私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるので。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。9 あなたは、何とかして、早く私のところに来てください。10 デマスは今の世を愛し、私を捨ててテサロニケに行ってしまう、また、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに行ったからです。(aiōn g165) 11 ルカだけは私とともにおります。マルコを伴って、いっしょに来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。12 私はテキコをエペソに遣わしました。13 あなたが来るときは、トロアスでカルポのところに残しておいた上着を持って来てください。また、書物を、特に羊皮紙の物を持って来てください。14 銅細工人のアレキサンデルが私をひどく苦しめました。そのしわざに応じて主が彼に報いられます。15 あなたも彼を警戒しなさい。彼は私たちのことばに激しく逆らったからです。16 私の最初の弁明の際には、私を支持する者はだれもなく、みな私を見捨ててしまいました。どうか、彼らがそのためにさばかれることありませんように。17 しかし、主は、私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。それは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるためでした。私はししの口から助け出されました。18 主は私を、すべての悪のわざから助け出し、天の御国に救い入れてくださいます。主に、御栄えがとこしえにありますように。アーメン。(aiōn g165) 19 プリスカとアクラによろしく。また、オネシポロの家族によろしく。20 エラストはコリントにとどまり、トロピモは病気のためにミレトに残して来ました。21 何とかして、冬になる前に来てください。ユフロ、プデス、リノス、クラウドヤ、またすべての兄弟たちが、あなたによろしくと言っています。22 主があなたの霊とともにおられますように。恵みが、あなたがたとともにありますように。

テトスへの手紙

1 神のしもべ、また、イエス・キリストの使徒パウロ——私は、神に選ばれた人々の信仰と、敬虔にふさわしい真理の知識とのために使徒とされたのです。**2** それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束してくださった永遠のいのちの望みに基づくことです。**(aiōnios g166)** **3** 神は、ご自分の定められた時に、このみことばを宣教によって明らかにされました。私は、この宣教を私たちの救い主なる神の命令によって、ゆだねられたのです。——このパウロから、**4** 同じ信仰による真実のわが子テトスへ。父なる神および私たちの救い主なるキリスト・イエスから、恵みと平安がありますように。**5** 私があなたをクレテに残したのは、あなたが残っている仕事の整理をし、また、私が指図したように、町ごとに長老たちを任命するためでした。**6** それには、その人が、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、その子どもは不品行を責められたり、反抗的であったりしない信者であることが条件です。**7** 監督は神の家の管理者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気ではなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正な利を求めず、**8** かえって、旅人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、敬虔で、自制心があり、**9** 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。それは健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを正したりすることができるためです。**10** 実は、反抗的な者、空論に走る者、人を惑わす

者が多くいます。特に、割礼を受けた人々がそうです。**11** 彼らの口を封じなければいけません。彼らは、不正な利を得るために、教えてはいけないことを教え、家々を破壊しています。**12** 彼らと同国人であるひとりの預言者がこう言いました。「クレテ人は昔からのうそつき、悪いけだもの、なまけ者の食いしんぼう。」**13** この証言はほんとうなのです。ですから、きびしく戒めて、人々の信仰を健全にし、**14** ユダヤ人の空想話や、真理から離れた人々の戒めには心を寄せないようにさせなさい。**15** きよい人々には、すべてのものがきよいのです。しかし、汚れた、不信仰な人々には、何一つきよいものはありません。それどころか、その知性と良心までも汚れています。**16** 彼らは、神を知っていると口では言いますが、行ないでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。

2 しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを話しなさい。**2** 老人たちには、自制し、謹厳で、慎み深くし、信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように。**3** 同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。**4** そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、**5** 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとしすることができます。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。**6** 同じように、若い人々には、

思慮深くあるように勧めなさい。7 また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教えにおいては純正で、威厳を保ち、8 非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちに、何も悪いことが言えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。9 奴隷には、すべての点で自分の主人に従って、満足を与え、口答えせず、10 盗みをせず、努めて真実を表わすように勧めなさい。それは、彼らがあらゆることで、私たちの救い主である神の教えを飾ようになるためです。11 というのは、すべての人を救う神の恵みが現われ、12 私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、(aiōn g165) 13 祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。14 キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。15 あなたは、これらのことを十分な権威をもって話し、勧め、また、責めなさい。だれにも軽んじられてはいけません。

3 あなたは彼らに注意を与えて、支配者たちと権威者たちに服従し、従順で、すべての良いわざを進んでする者とならせなさい。2 また、だれをもそしらず、争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。3 私たちも以前は、愚かな者であり、不従順で、迷った者であり、いろい

ろな欲情と快樂の奴隷になり、悪意とねたみの中に生活し、憎まれ者であり、互いに憎み合う者でした。4 しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現われたとき、5 神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。6 神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。7 それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人となるためです。(aiōnios g166) 8 これは信頼できることばですから、私は、あなたがこれらについて、確信をもって話すように願っています。それは、神を信じている人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらは良いことであつて、人々に有益なことです。9 しかし、愚かな議論、系図、口論、律法についての論争などを避けなさい。それらは無益で、むだなものです。10 分派を起す者は、一、二度戒めてから、除名しなさい。11 このような人は、あなたも知っているとおりに、墮落しており、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。12 私がアルテマスかテキコをあなたのもとに送ったら、あなたは、何としてでも、ニコポリにいる私のところに来てください。私はそこで冬を過ごすことに決めています。13 ぜひとも、律法学者ゼナスとアポロトが旅に出られるようにし、彼らが不自由しないように世話をしてあげなさい。14

私たち一同も、なくてはならないもののために、正しい仕事に励むように教えられなければなりません。それは、実を結ばない者にならないためです。 15 私と一しょにいる者たち一同が、あなたによろしくと言っています。私たちの信仰の友である人々に、よろしく言ってください。恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

ピレモンへの手紙

1 キリスト・イエスの囚人であるパウロ、および兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンへ。また、**2** 姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。**3** 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。**4** 私は、祈りのうちにあなたのことを覚え、いつも私の神に感謝しています。**5** それは、主イエスに対してあなたが抱いている信仰と、すべての聖徒に対するあなたの愛とについて聞いているからです。**6** 私たちの間でキリストのためになされているすべての良い行ないをよく知ることによって、あなたの信仰の交わりが生きて働くものとなりますように。**7** 私はあなたの愛から多くの喜びと慰めを受けました。それは、聖徒たちの心が、兄弟よ、あなたによって力づけられたからです。**8** 私は、あなたのなすべきことを、キリストにあって少しもはばからず命じることができるのですが、こういうわけですから、**9** むしろ愛によって、あなたにお願いしたいと思います。年老いて、今はまたキリスト・イエスの囚人となっている私パウロが、**10** 獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。**11** 彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。**12** そのオネシモを、あなたのもとに送り返します。彼は私の心そのものです。**13** 私は、彼を私のところにとどめておき、福音のために獄中にいる間、あなたに代

わって私のために仕えてもらいたいとも考えましたが、**14** あなたの同意なしには何一つすまいと思いました。それは、あなたがしてくれる親切は強制されてではなく、自発的でなければいけないからです。**15** 彼がしばらくの間あなたから離されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。(aiōnios g166) **16** もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、すなわち、愛する兄弟としてです。特に私にとってそうですが、あなたにとってはおさらのこと、肉においても主にあっても、そうではありませんか。**17** ですから、もしあなたが私を親しい友と思うなら、私を迎えるように彼を迎えてやってください。**18** もし彼があなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのであれば、その請求は私にしてください。**19** この手紙は私の自筆です。私がそれを支払います。——あなたが今のようなになれたのもまた、私によるのですが、そのことについては何も言いません。——**20** そうです。兄弟よ。私は、主にあって、あなたから益を受けたいのです。私の心をキリストにあって、元気づけてください。**21** 私はあなたの従順を確信して、あなたにこの手紙を書きました。私の言う以上のことをして下さるあなたであると、知っているからです。**22** それにまた、私の宿の用意もしておいてください。あなたがたの祈りによって、私もあなたがたのところに行けることと思っています。**23** キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパフラスが、あなたによろしくと言っています。**24** 私の

同労者たちであるマルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからもよろしくと言っています。 **25** 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

ヘブル人への手紙

1 神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。 **2** この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。(aiōn g165) **3** 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。 **4** 御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使いよりもまさるものとなりました。 **5** 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」 またさらに、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。」 **6** さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、こう言われました。「神の御使いはみな、彼を拝め。」 **7** また御使いについては、「神は、御使いたちを風とし、仕える者たちを炎とされる。」と言われましたが、 **8** 御子については、こう言われます。「神よ。あなたの御座は世々限りなく、あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。(aiōn g165) **9** あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」 **10** またこう言われます。「主よ。あなたは、初めに地の基を据えられました。天も、あな

たの御手のわざです。 **11** これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながえられます。すべてのものは着物のように古びます。 **12** あなたはこれらを、外套のように巻かれます。これらを、着物のように取り替われます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」 **13** 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていなさい。」 **14** 御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたのではありませんか。

2 ですから、私たちは聞いたことを、ますますしっかり心に留めて、押し流されないようにしなければなりません。 **2** もし、御使いたちを通して語られたみことばでさえ、堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたとすれば、 **3** 私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのができるのでしょうか。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、 **4** そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまの力あるわざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。 **5** 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさらなかったのです。 **6** むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししています。「人間が何者だというので、これをみこころに留められる

のでしょう。人の子が何者だといういた人々を解放してくださるためです。これを顧みられるのでしよう。7 た。16 主は御使いたちを助けるのであなたは、彼を、御使いよりも、しばはなく、確かに、アブラハムの子孫をらくの間、低いものとし、彼に栄光と助けてくださるのです。17 そういう誉れの冠を与え、8 万物をその足の下わけて、神のことについて、あわれみに従わせられました。」万物を彼に従深い、忠実な大祭司となるため、主はわせたとき、神は、彼に従わないものすべての点で兄弟たちと同じようになを何一つ残されなかったのです。それらなければなりません。それはなのに、今でもなお、私たちはすべての民の罪のために、なだめがなされるたのものが人間に従わせられているのをめなのです。18 主は、ご自身が試み見てはいません。9 ただ、御使いよりを受けて苦しまれたので、試みられても、しばらくの間、低くされた方である者たちを助けることがおできになるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであったのです。11 きよめる方も、きよめられる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」13 またさらに、「わたしは彼に信頼する。」またさらに、「見よ、わたしと、神がわたしに賜わった子たちは。」と言われます。14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、15 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となつて

3 そういふわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。2 モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なのです。3 家よりも、家を建てる者が大きな榮譽を持つのと同様に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。4 家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。6 しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。7 ですから、聖霊が言われるとおりで。「きょう、もし御声を聞くならば、8 荒野での試みの日に御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない

。9あなたがたの先祖たちは、そこでわたしを試みて証拠を求め、四十年の間、わたしのわざを見た。10だからわたしはその時代を憤って言った。彼らと同じなのです。ところが、その彼らは常に心が迷い、わたしの道を悟らなかつた。11わたしは、怒りをもって誓ったように、決して彼らをわたしの安息にはいさせない。」12兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。13「きょう。」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。14もし最初の確信を終わるまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。15「きょう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときの、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。16聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。17神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。18また、わたしの安息にはいさせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなかつた人たちのことではありませんか。19それゆえ、彼らが安息にはいれなかつたのは、不信仰のためであつたことがわかります。

4 こういうわけで、神の安息にはいるための約束はまだ残っているのですから、あなたがたのうちのひとりでも、万が一にもこれにはいれないような

ことのないように、私たちは恐れる心を持つて持とうではありませんか。2福音を説き聞かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかつたからです。3信じた私たちは安息にはいるのです。「わたしは、怒りをもって誓ったように、決して彼らをわたしの安息にはいさせない。」と神が言われたとおりです。みわざは創世の初めから、もう終わっているのです。4というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた。」と言われました。5そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息にはいさせない。」と言われたとおりです。6こういうわけで、その安息にはいる人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従順のゆえにはいれなかつたのですから、7神は再びある日を「きょう。」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」と語られたのです。8もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであつたら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかつたでしょう。9したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。10神の安息にはいった者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。11ですから、私たちは、この安息にはい

るよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。13 造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちが同じように、試みに会われたのです。16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

5 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事がらについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。2 彼は、自分自身も弱さを身にまとっている、無知な迷っている人々を思いやることができるのです。3 そしてまた、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のためのささげ物をしなければなりません。4 まただれでも、この名誉は自分で得るの

ではなく、アロンのように神に召され受けるのです。5 同様に、キリストも大祭司となる栄誉を自分で得られたのではなく、彼に、「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」と言われた方が、それをお与えになったのです。6 別の個所で、こうも言われます。「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」(aiōn g165) 7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。8 キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、9 完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、(aiōnios g166) 10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司となえられたのです。11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

6 ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、**2** きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。**(aiōnios g166)** **3** 神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。**4** 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、**5** 神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わったうえで、**(aiōn g165)** **6** しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。**7** 土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。**8** しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。**9** だが、愛する人たち。私たちはこのように言いますが、あなたがたについては、もっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。**10** 神は正しい方であって、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。**11** そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれ

るように切望します。**12** それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです。**13** 神は、アブラハムに約束される時、ご自分よりすぐれたものをさして誓うことがありえないため、ご自分をさして誓い、**14** こう言われました。「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたを大いにふやす。」**15** こうして、アブラハムは、忍耐の末に、約束のものを得ました。**16** 確かに、人間は自分よりすぐれた者をさして誓います。そして、確証のための誓いというものは、人間のすべての反論をやめさせます。**17** そこで、神は約束の相続者たちにご計画の変わらないことをさらにはつきり示そうと思い、誓いをもって保証されたのです。**18** それは、変えることのできない二つの事がらによって、――神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません。――前に置かれてある望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。**19** この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。**20** イエスは私たち先駆けとしてそこにはいり、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司とされました。**(aiōn g165)**

7 このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。**2** またアブラハムは彼に、すべての戦利品の十分の一を分けました。まず彼は、その名を訳すと義の王であり、次に、サレ

ムの王、すなわち平和の王です。3父別の部族に属しておられるのです。14もなく、母もなく、系図もなく、その私たちの主が、ユダ族から出られた生涯の初めもなく、いのちの終わりもとは明らかですが、モーセは、この部族については、祭司に関することを何でも祭司としてとどまっているのです。15もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられるのなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。16その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。17この方については、こうあかしされています。「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」(aiōn g165) 18一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止されましたが、19——律法は何事も全うしなかったのです。——他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。20また、そのためには、はっきりと誓いがなされています。21——彼らのばあいは、誓いなしに祭司となるのですが、主のばあいには、主に対して次のように言われた方の誓いがあります。「主は誓ってこう言われ、みこころを変えられることはない。『あなたはとこしえに祭司である。』」——(aiōn g165) 22そのようなして、イエスは、さらにすぐれた契約の保証となられたのです。23また、彼らのばあいは、死ということがあつて、務めにいつまでもとどまることができず、大ぜいの者が祭司となりました。24しかし、キリストは永遠に存在されるのであつて、変わるることのない祭司の務めを持っておられます。(aiōn g165) 25したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に

救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。

26 律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた御子を立てるのです。(aiōn g165)

8 以上述べたことの要点はこうです。

すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の右に着座された方であり、2 人間が設けたのではなく、主が設けられた真実の幕屋である聖所で仕えておられる方です。3 すべて、大祭司は、ささげ物といけにえとをささげるために立てられます。したがって、この大祭司も何かささげる物を持っていなければなりません。4 もしキリストが地上におられるのであったら、決して祭司とはなれないでしょう。律法に従ってささげ物をする人たちがいるからです。5 その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。「よく注意しなさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい。」6 し

かし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られました。それは彼が、さらにすぐれた約束に基づいて制定された、さらにすぐれた契約の仲介者であるからです。7 もしあの初めの契約が欠けないものであったなら、後のものが必要になる余地はなかったでしょう。8 しかし、神は、それに欠けがあるとして、こう言われたのです。「主が、言われる。見よ。日が来る。わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。9 それは、わたしが彼らの先祖たちの手を引いて、彼らをエジプトの地から導き出した日に彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約を守り通さないで、わたしも、彼らを顧みなかったと、主は言われる。10 それらの日の後、わたしが、イスラエルの家と結ぶ契約は、これであると、主が言われる。わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつける。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。11 また彼らが、おのおのその町の者に、また、おのおのその兄弟に教えて、『主を知れ。』と言うことは決してない。小さい者から大きい者に至るまで、彼らはみな、わたしを知るようになるからである。12 なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、もはや、彼らの罪を思い出さないからである。」13 神が新しい契約と言われたときには、初めのものを古いとされたのです。年を経て古びたものは、すぐに消えて行きます。

9 初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました。2 幕屋が設け

られ、その前部の所には、燭台と机と供えのパンがありました。聖所と呼ばれる所です。3 また、第二の垂れ幕のうちには、至聖所と呼ばれる幕屋が設けられ、4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナのはいった金のつぼ、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板がありました。5 また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光のケルビムがありました。しかしこれらについては、今いちいち述べるできません。6 さて、これらの物が以上のように整えられた上で、前の幕屋には、祭司たちがいつもはいつて礼拝を行なうのですが、7 第二の幕屋には、大祭司だけが年に一度だけは入ります。そのとき、血を携えずにはいるようなことはありません。その血は、自分のために、また、民が知らずに犯した罪のためにささげるものです。8 これによって聖霊は次のことを示しておられます。すなわち、前の幕屋が存続しているかぎり、まことの聖所への道は、まだ明らかにされていないということです。9 この幕屋はその当時のための比喩です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関するもので、新しい秩序の立てられる時まで課せられた、からだに関する規定にすぎないからです。11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事

らに完全な幕屋を通り、12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所には入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。(aiōnios g166) 13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それがきよめの働きをして肉体をきよいものにする

とすれば、14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。(aiōnios g166) 15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。(aiōnios g166) 16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。17 遺言は、人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力はありません。18 したがって、初めの契約も血なしに成立したわけではありません。19 モーセは、律法に従ってすべての戒めを民全体に語って後、水と赤い色の羊の毛とヒソップとのほかに、子牛とやぎの血を取って、契約の書自体にも民の全体にも注ぎかけ、20 「これは神があなたに対して立てられた契約の血である。」と言いました。21 また彼は、幕屋と礼拝のすべての器具にも同様に血を注ぎかけました。22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ

、罪の赦しはないのです。23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられるの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはいられたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるので、25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所にはいる大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることにはなさいません。26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。(aiōn g165) 27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられました。二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

10 律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても、その実物はないのですから、律法は、年ごとに絶えずささげられる同じいけにえによって神に近づいて来る人々を、完全にすることができないのです。2 もしそれができたのであったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなかったはずであり、したがって、ささげ物をするのは、やん

だはずです。3 ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。4 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。5 ですから、キリストは、この世界に来て、こう言われるのです。「あなたはいけにえやささげ物を望まないで、わたしのために、からだを造ってくださいました。6 あなたは全焼のいけにえと罪のためのいけにえとで満足されませんでした。7 そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについてしるされているとおり、神よ、あなたのみところを行なうために。』」8 すなわち、初めには、「あなたは、いけにえとささげ物、全焼のいけにえと罪のためのいけにえ(すなわち、律法に従ってささげられる、いろいろの物)を望まず、またそれらで満足されませんでした。」と言い、9 また、「さあ、わたしはあなたのみところを行なうために来ました。」と言われたのです。後者が立てられるために、前者が廃止されるのです。10 このみところが、ただ一度だけささげられたことにより、私たちはきよめられたものとされているのです。11 また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、13 それからは、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。14 キリストはきよめられる人々を、一つの

ささげ物によって、永遠に全うされたや残されていません。27ただ、さばののです。15聖霊も私たちに次のようきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しに言って、あかしされます。16「そい火とを、恐れながら待つよりほかはれらの日の後、わたしが、彼らと結ぼないのです。28だれでもモーセの律うとしている契約は、これであると、法を無視する者は、二、三の証人のこ主は言われる。わたしは、わたしの律とばに基づいて、あわれみを受けるこ法を彼らの心に置き、彼らの思いに書となく死刑に処せられます。29ましきつける。」またこう言われます。て、神の御子を踏みつけ、自分をきよ17「わたしは、もはや決して彼らの罪めた契約の血を汚れたものとみなし、と不法とを思い出すことはしない。」恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い18これらのことが赦されるところでは処罰に値するか、考えてみなさい。30、罪のためのささげ物はもはや無用で私たちは、「復讐はわたしのすることす。19こういうわけですから、兄弟である。わたしが報いをする。」、またち。私たちは、イエスの血によってた、「主がその民をさばかれる。」と、大胆にまことの聖所にはいることが言われる方を知っています。31生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいこ20イエスのご自分のとです。32あなたがたは、光に照ら肉体という垂れ幕を通して、私たちのされて後、苦難に会いながら激しい戦ださったのです。21また、私たちにいに耐えた初めのころを、思い起こしは、神の家をつかさどる、この偉大ななさい。33人々の目の前で、そしり祭司があります。22そのようなわけと苦しみとを受けた者もあれば、こので、私たちは、心に血の注ぎを受けてようなめに会った人々の仲間になった邪悪な良心をきよめられ、からだをき者もありました。34あなたがたは、よい水で洗われたのですから、全き信捕えられている人々を思いやり、また仰をもって、真心から神に近づこうで、もっとすぐれた、いつまでも残る財はありますか。23約束された方は、自分の財産が奪われても、喜んで忍24また、互いに勧めの確信を投げ捨ててはなりません。そめ合って、愛と善行を促すように注意れは大きな報いをもたらすものなのでし合おうではありませんか。25あるす。36あなたがたが神のみこころを人々のように、いっしょに集まること行なって、約束のものを手に入れるたをやめたりしないで、かえって励ましめに必要なのは忍耐です。37「もう合い、かの日が近づいているのを見てしばらくすれば、来るべき方が来られ、ますますそうしようではありません。おそくなることはない。38わたか。26もし私たちが、真理の知識をしの義人は信仰によって生きる。もし受けて後、ことさらに罪を犯し続ける、恐れ退くなら、わたしのころは彼ならば、罪のためのいけにえは、もはを喜ばない。」39私たちは、恐れ退

いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

11 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。 **2** 昔の人々はこの信仰によって称賛されました。 **3** 信仰によって、私たちは、この世界が神のことで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。 (aiōn

g165) **4** 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にしましたが、その信仰によって、今もなお語っています。 **5** 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。 **6** 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求めらる者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。 **7** 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事からについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。 **8** 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました。 **9** 信仰によって、彼は約束された地に他国人

のようにして住み、同じ約束をとともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。 **10** 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。 **11** 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。 **12** そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。 **13** これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。 **14** 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。 **15** もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。 **16** しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。 **17** 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。 **18** 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる。」と言われたのですが、 **19** 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考

ました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました。21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖をかしらに寄りかかって礼拝しました。22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。23 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。26 彼は、キリストのゆえに受ける苦しりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。27 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。28 信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないました。29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたのですが、のみこまれてしまいました。30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。31 信仰によって、遊

女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちと一っしょに滅びることを免れました。32 これ以上、何を言いましようか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても話すならば、時が足りないでしょう。33 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行ない、約束のものを得、ししの口をふさぎ、34 火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。35 女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受けました。36 また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、38 ——この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした。——荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。39 この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるといふことはなかったのです。

12 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪

とを捨てて、私たちの前に置かれていして、懲らしめるのです。11 すべて
る競走を忍耐をもって走り続けようでの懲らしめは、そのときは喜ばしいも
はありませんか。2 信仰の創始者であのではなく、かえって悲しく思われる
り、完成者であるイエスから目を離さものですが、後になると、これによっ
ないでいなさい。イエスは、ご自分のて訓練された人々に平安な義の実を結
前に置かれた喜びのゆえに、はずかしばせます。12 ですから、弱った手と
めをもものともせず十字架を忍び、神衰えたひざとを、まっすぐにしなさい
の御座の右に着座されました。3 あな。13 また、あなたがたの足のために
たがたは、罪人たちのこのような反抗は、まっすぐな道を作りなさい。足な
を忍ばれた方のことを考えなさい。そえの人も関節をはずすことのないため
れは、あなたがたの心が元気を失い、、いやむしろ、いやされるためです。
疲れ果ててしまわないためです。4 あ14 すべての人との平和を追い求め、ま
なたがたはまだ、罪と戦って、血を流た、きよめられることを追い求めなさ
すまで抵抗したことはありません。5 い。きよくなければ、だれも主を見る
そして、あなたがたに向かって子どもことができません。15 そのためには
に対するように語られたこの勧めを忘、あなたがたはよく監督して、だれも
れています。「わが子よ。主の懲ら神の恵みから落ちる者がないように、
しめを軽んじてはならない。主に責めまた、苦い根が芽を出して悩ましたり
られて弱り果ててはならない。6 主は、これによって多くの人が汚されたり
その愛する者を懲らしめ、受け入れるすることのないように、16 また、不
すべての子に、むちを加えられるから品行の者や、一杯の食物と引き替えに
である。」7 訓練と違って耐え忍びな自分のものであった長子の権利を売っ
さい。神はあなたがたを子として扱ったエサウのような俗悪な者がなくな
ておられるのです。父が懲らしめるこにしなさい。17 あなたがたが知って
とをしない子がいるのでしょうか。8 もいるとおりに、彼は後になって祝福を相
しあなたがたが、だれでも受ける懲ら続したと思ったが、退けられました
しめを受けていないとすれば、私生子。涙を流して求めても、彼には心を変
であって、ほんとうの子ではないのでえてもらう余地がありませんでした。
す。9 さらにまた、私たちには肉の父18 あなたがたは、手でさわれる山、燃
がいて、私たちを懲らしめたのですがえる火、黒雲、暗やみ、あらし、19
、しかも私たちは彼らを敬ったのであラッパの響き、ことばのとどろきに近
れば、なおさらのこと、私たちはすべづいていわけではありません。このと
での霊の父に服従して生きるべきではどろきは、これを聞いた者たちが、そ
ないでしょうか。10 なぜなら、肉のれ以上一言も加えてもらいたくないと
父親は、短い期間、自分が良いと思う願ったものです。20 彼らは、「たと
ままに私たちを懲らしめるのですが、い、獣でも、山に触れるものは石で打
霊の父は、私たちの益のため、私たちち殺されなければならない。」とい
をご自分のきよさにあずかせようとその命令に耐えることができなかつた

のです。21 また、その光景があまり使いたちを、それとは知らずにもてな恐ろしかったので、モーセは、「私は使いました。3 牢につながれている人々恐れて、震える。」と言いました。22 を、自分も牢にいる気持ちで思いやりしかし、あなたがたは、シオンの山、また、自分も肉体を持っているので生ける神の都、天にあるエルサレム、すから、苦しめられている人々を思い無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。23 また、天に登録さればれるようにしなさい。寝床を汚している長子たちの教会、万民の審判者はいけません。なぜなら、神は不品行である神、全うされた義人たちの霊、な者と姦淫を行なう者とをさばかれる24 さらに、新しい契約の仲介者イエスからです。5 金銭を愛する生活をして、それに、アベルの血よりもすぐれたはいけません。いま持っているものでことを語る注ぎかけの血に近づいてい満足しなさい。主ご自身がこう言われます。25 語っておられる方を拒まなるのです。「わたしは決してあなたをいように注意しなさい。なぜなら、地離れず、また、あなたを捨てない。」上においても、警告を与えた方を拒ん6 そこで、私たちは確信に満ちてこうだ彼らが処罰を免れることができなか言います。「主は私の助け手です。私ったとすれば、まして天から語っておは恐れません。人間が、私に対して何られる方に背を向ける私たちが、処罰ができません。7 神のみことばをを免れることができないのは当然ではあなたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。い。8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

13 兄弟愛をいつも持っていなさい。

2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御

きょうも、いつまでも、同じです。
(aiōn g165) 9 さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民をきよめるために、門の外で苦しみを受けられました。13 ですから、私たちは、キリスト

のはずかしめを身に負って、宿営の外に出、みもとに行こうではありませんか。 **14** 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。 **15** ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。 **16** 善を行なうことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。 **17** あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。 **18** 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動しようと願っているからです。 **19** また、もっと祈ってくださるよう特にお願いします。それだけ、私があなたがたのところに早く帰れるようになるからです。 **20** 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、 **(aiōn g165)** **21** イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。 **(aiōn g165)** **22** 兄弟たち。このような勧めのことばを受けてください。私はただ手短に書きました。 **23** 私たちの兄弟テモテが釈放されたことをお知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼といっしょにあなたがたに会えるでしょう。 **24** すべてのあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく言うてください。イタリヤから来た人たちが、あなたがたによろしくとっています。 **25** 恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

ヤコブの手紙

1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。**2** 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。**3** 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。**4** その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。**5** あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきつと与えられます。**6** ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。**7** そういう人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。**8** そうするのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。**9** 貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。**10** 富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。**11** 太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。**12** 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。**13** だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言

ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。**14** 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。**15** 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。**16** 愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。**17** すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。**18** 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。**19** 愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。**20** 人の怒りは、神の義を実現するものではありません。**21** ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。**22** また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。**23** みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。**24** 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。**25** ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。

こういう人は、その行ないによって祝福されます。26 自分は宗教に熱心であると思っても、自分の舌にくつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなしいものです。27 父なる神の御前できよく汚れない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。

2 私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。2 あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな服装をした人がはいて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいて来たとします。3 あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていない。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、4 あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったではありませんか。5 よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。6 それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。7 あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。8 もし、ほんとうにあな

たがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。9 しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。11 なぜなら、「姦淫してはならない。」と言われた方からです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。12 自由の律法によってさばかれる者らしく語り、またそのように行ないなさい。13 あわれみを示したことのない者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行な

いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。

20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなししいことを知りたいと思いますか。

21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認められたではありませんか。

22 あなたの見ておおり、彼の信仰は彼の行ないとともに働いたのであり、信仰は行ないによって全うされ、

23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

24 人は行ないによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。

25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行ないによって義と認められたではありませんか。

26 たましいを離れたからだが、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。

3 私の兄弟たち。多くの者が教師になつてはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

3 馬を御するために、くつわをその口にかけると、馬のからだ全体を引き回すことができます

。 **4** また、船を見なさい。あのよう大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。

5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言うて誇るのです。ご覧なさい。あのよう小さい火があのような大きい森を燃やします。

6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。(Geenna g1067)

7 どのような種類の獣も鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられています。

8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。

9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あつてはなりません。

11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。

14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心が

あるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

4 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。5 それとも、「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことばが、無意味だと思うのですか。6 しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けに

なる。」7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いよめなさい。二心の人たち。心をきよくしなさい。9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。11 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってはいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。12 律法を定め、さばきを行なう方は、ただひとりであり、その方は救うことも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。13 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう。」と言う人たち。14 あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。15 むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」16 ところがこのとおり、あなたがたはむなししい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、す

べて悪いことです。17 こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。

5 聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。2 あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。5 あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快楽にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。6 あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。7 こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいけません。さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておられます。10 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。

あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。12 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさしても地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい。」を「はい。」、「いいえ。」を「いいえ。」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。13 あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。14 あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。15 信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。16 ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。18 そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。19 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、20 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの

罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。

ペテロの手紙第一

1 イエス・キリストの使徒ペテロから、Pont、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、**2** 父なる神の予知に従い、御霊のきよめによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にありますように豊かにされますように。**3** 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたためられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちに新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。**4** また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。**5** あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。**6** そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいますが、ただ、いましばらくの間は、やむをえず、さまざまの試練のために、悩まされていますが、**7** 信仰の試練は、火を通して精練されてもお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。**8** あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに

満ちた喜びにおどっています。**9** これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。**10** この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。**11** 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。**12** 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。**13** ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。**14** 従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざま欲望に従わず、**15** あなたがたを召してくださった聖なる方になって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいてきよくなりなさい。**16** それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。**17** また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさなさい。**18** ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなししい生

き方から贖い出されたのは、銀や金の石です。5あなたがたも生ける石と
ような朽ちる物にはよらず、19傷も
なく汚れもない小羊のようなキリスト
の、尊い血によったのです。20キリ
ストは、世の始まる前から知られてい
ましたが、この終わりの時に、あなた
がたのために、現われてくださいまし
た。21あなたがたは、死者の中から
このキリストをよみがえらせて彼に栄
光を与えられた神を、キリストによっ
て信じる人々です。このようにして、
あなたがたの信仰と希望は神にかかっ
ているのです。22あなたがたは、真
理に従うことによって、たましいをき
よめ、偽りのない兄弟愛を抱くよう
になったのですから、互いに心から熱く
愛し合いなさい。23あなたがたが新
しく生まれたのは、朽ちる種からでは
なく、朽ちない種からであり、生ける
、いつまでも変わることはない、神の
ことばによるのです。(aiōn g165) 24「人
はみな草のようで、その栄えは、みな
草の花のようだ。草はしおれ、花は
散る。25しかし、主のことばは、と
こしえに変わることがない。」とある
からです。あなたがたに宣べ伝えられ
た福音のことばがこれです。(aiōn g165)

2ですから、あなたがたは、すべての
悪意、すべてのごまかし、いろいろ
な偽善やねたみ、すべての悪口を捨て
て、2生まれたばかりの乳飲み子のよ
うに、純粋な、みことばの乳を慕い求
めなさい。それによって成長し、救い
を得るためです。3あなたがたはずで
に、主がいつくしみ深い方であること
を味わっているのです。4主のもとに
来なさい。主は、人には捨てられたが
、神の目には、選ばれた、尊い、生け

る石です。5あなたがたも生ける石と
して、霊の家に築き上げられなさい。
そして、きよい祭司として、イエス・
キリストを通して、神に喜ばれる霊の
いけにえをささげなさい。6なぜなら
、聖書にこうあるからです。「見よ。
わたしはシオンに、選ばれた石、尊い
礎石を置く。彼に信頼する者は、決
して失望させられることがない。」7
したがって、より頼んでいるあなたが
たには尊いものですが、より頼んでい
ない人々にとっては、「家を建てる者
たちが捨てた石、それが礎の石となっ
た。」のであって、8「つまずきの石
、妨げの岩。」なのです。彼らがつま
ずくのは、みことばに従わないからで
すが、またそうなるように定められて
いたのです。9しかし、あなたがたは
、選ばれた種族、王である祭司、きよ
い国民、神の所有とされた民です。そ
れは、あなたがたを、やみの中から、
ご自分の驚くべき光の中に招いてくだ
さった方のすばらしいみわざを、あな
たがたが宣べ伝えるためなのです。10
あなたがたは、以前は神の民ではなか
ったのに、今は神の民であり、以前は
あわれみを受けない者であったのに、
今はあわれみを受けた者です。11愛
する者たちよ。あなたがたにお勧めし
ます。旅人であり寄留者であるあなた
がたは、たましいに戦いをいどむ肉の
欲を遠ざけなさい。12異邦人の中に
あって、りっぱにふるまいなさい。そ
うすれば、彼らは、何かのことであな
たがたを悪人呼ばわりしていても、あ
なたがたのそのりっぱな行ないを見て
、おとずれの日に神をほめたたえるよ
うになります。13人の立てたすべて

の制度に、主のゆえに従いなさい。そのためです。キリストの打ち傷のゆえに
れが主権者である王であっても、**14**、あなたがたは、いやされたのです。
また、悪を行なう者を罰し、善を行な**25**あなたがたは、羊のようにさまよっ
う者をほめるように王から遣わされたていましたが、今は、自分のたましい
総督であっても、そうしなさい。**15**の牧者であり監督者である方のもとに
というのは、善を行なって、愚かな人帰ったのです。

々の無知の口を封じることは、神のみ**3**同じように、妻たちよ。自分の夫に
ころだからです。**16**あなたがたは服従しなさい。たとい、みことばに
自由人として行動しなさい。その自由従わない夫であっても、妻の無言のふ
を、悪の口実には用いないで、神の奴隷るまいによって、神のものとされるよ
として用いなさい。**17**すべての人をうになるためです。**2**それは、あなた
敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れがたの、神を恐れかしこむ清い生き方
れ、王を尊びなさい。**18**しもべたちを彼らが見るからです。**3**あなたがた
よ。尊敬の心を込めて主人に服従しなは、髪を編んだり、金の飾りをつけた
さい。善良で優しい主人に対してだけり、着物を着飾るような外面的なもの
でなく、横暴な主人に対しても従いなでなく、**4**むしろ、柔和で穏やかな霊
さい。**19**人がもし、不当な苦しみをという朽ちることのないものを持つ、
受けながらも、神の前における良心の心の中の隠れた人がらを飾りにしな
ゆえに、悲しみをこらえるなら、それはさい。これこそ、神の御前に価値あるも
は喜ばれることです。**20**罪を犯したのです。**5**むかし神に望みを置いた敬
ために打ちたたかれて、それを耐え忍虔な婦人たちも、このように自分を飾
んだからといって、何の誉れになるて、夫に従ったのです。**6**たとえば
でしょう。けれども、善を行なっていてサラも、アブラハムを主と呼んで彼に
苦しみを受け、それを耐え忍ぶとした従いました。あなたがたも、どんなこ
ら、それは、神に喜ばれることです。とをも恐れないで善を行なえば、サラ
21あなたがたが召されたのは、実の子となるのです。**7**同じように、夫
のためです。キリストも、あなたがたたちよ。妻が女性であって、自分より
のために苦しみを受け、その足跡に従も弱い器だということをわきまえて妻
うようと、あなたがたに模範を残さとともに生活し、いのちの恵みをとも
れました。**22**キリストは罪を犯したに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そ
ことがなく、その口に何の偽りも見れは、あなたがたの祈りが妨げられな
だされませんでした。**23**ののしられていたためです。**8**最後に申します。あな
ても、ののしり返さず、苦しめられてたがたはみな、心をつにし、同情し
る方にお任せになりました。**24**そ合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、
して自分から十字架の上で、私たちの謙遜でありなさい。**9**悪をもって悪に
罪をその身に負われました。それは、報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、
私たちが罪を離れ、義のために生きるかえって祝福を与えなさい。あなたが
たは祝福を受け継ぐために召されたの

だからです。10「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、11悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。12主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行なう者に立ち向かう。」13もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。14あるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。15むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。16ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をのしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。17もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。18キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。19その霊において、キリストは捕われの霊たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。20昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待つお

られたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。21そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。22キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

4このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。2こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。3あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行ない、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。4彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。5彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさばこうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。6というのは、死んだ人々にも福音が宣べ伝えられていたのですが、それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためでした。7万物の終わりが近づきました。ですから

、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。8何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおいうからです。9つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。10それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。11語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。(aiōn g165) 12愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、13むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。14もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくさるからです。15あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行なう者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。16しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。17なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来て

いるからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょう。18義人がかろうじて救われるのだとしたら、神を敬わない者や罪人たちは、いったいどうなるのでしょうか。19ですから、神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は、善を行なうにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。

5そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。2あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。3あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。4そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しほむことのない栄光の冠を受けるのです。5同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。6ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくさるためです。7あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくさるからです。8身を慎み、目をさましていなさい。

あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのよう、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。 **9** 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。 **10** あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。 (aiōnios g166) **11** どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。 (aiōn g165) **12** 私の認めている忠実な兄弟シルワノによって、私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。 **13** バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。 **14** 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

ペテロの手紙第二

1 イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。**2** 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。**3** というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。**4** その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。**5** こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、**6** 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、**7** 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。**8** これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。**9** これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であつて、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。**10** ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。**11** このよう

にあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。(aiōnios g166) **12** ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたがたに思い起こさせようとするのです。**13** 私が地上の幕屋にいる間は、これらのことを思い起こさせることによって、あなたがたを奮い立たせることを、私のなすべきことと思っています。**14** それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。**15** また、私の去った後に、あなたがたがいつでもこれらのことを思い起こせるよう、私は努めたいのです。**16** 私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。**17** キリストが父なる神から誉れと栄光をお受けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」**18** 私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。**19** また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよい

のです。20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

2 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。2そして、多くの者が彼らの好色にならない、そのために真理の道がそしりを受けるのです。3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食い物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行なわれており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。

(Tartaroō g5020) 5 また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。7 また、無節操な者たちの好色なふるまいによって悩まされていた義人ロトを救い出されました。8 というのは、この義人は、彼らの間に住んでいましたが、不法な行ないを見聞きして、日々

その正しい心を痛めていたからです。9 これらのことでわかるように、主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。10 汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、榮譽ある人たちをそしって、恐れるところがありません。11 それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。12 ところがこの者どもは、捕えられ殺されるために自然に生まれついた、理性的でない動物と同じで、自分が知りもしないことをそしるのです。それで動物が滅ぼされるように、彼らも滅ぼされてしまうのです。13 彼らは不義の報いとして損害を受けるのです。彼らは昼のうちから飲み騒ぐことを楽しみと考えています。彼らは、しみや傷のようなもので、あなたがたといっしょに宴席に連なるときに自分たちのだましごとを楽しんでいるのです。14 その日は淫行に満ちており、罪に関しては飽くことを知らず、心の定まらない者たちを誘惑し、その心は欲に目がありません。彼らはのろいの子です。15 彼らは正しい道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したペオルの子バラムの道に従ったのです。16 しかし、バラムは自分の罪をとがめられました。ものを言うことのないろばが、人間の声でものを言い、この預言者の気違いざたをはばんだのです。17 この人たちは、水のない泉、突風に吹き

払われる霧です。彼らに用意されているものは、まっ暗なやみです。18 彼らは、むなしい大言壮語を吐いており、誤った生き方をしている人々を肉欲と好色によって誘惑し、19 那些人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。人はだれかに征服されれば、その征服者の奴隷となったのです。20 主であり救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れからのがれ、その後再びそれに巻き込まれて征服されるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりももっと悪いものとなります。21 義の道を知っていながら、自分に伝えられたそのきよい命令にそむくよりは、それを知らなかったほうが、彼らにとってよかったです。22 彼らに起こったことは、「犬は自分の吐いた物に戻る。」とか、「豚は身を洗って、またどろの中に入っていく。」とかいう、ことわざどおりです。

3 愛する人たち。いま私がこの第二の手紙をあなたがたに書き送るのは、これらの手紙により、記憶を呼びさまさせて、あなたがたの純真な心を奮立たせるためなのです。2 それは、聖なる預言者たちによって前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちが語った、主であり救い主である方の命令を思い起こさせるためなのです。3 まず第一に、次のことを覚えておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠

った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」5 こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出た、水によって成ったのであって、6 当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。7 しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで保たれているのです。8 しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるわけではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。11 このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほどきよい生き方をする敬虔な人でなければならぬことでしょう。12 そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。13 しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の

住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。 **14** そういうわけで、愛する人たち。このようなことを待ち望んでいるあなたがたですから、しみも傷もない者として、平安をもって御前に出られるように、励みなさい。 **15** また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。それは、私たちの愛する兄弟パウロも、その与えられた知恵に従って、あなたがたに書き送ったとおりです。 **16** その中で、ほかのすべての手紙でもそうなのですが、このことについて語っています。その手紙の中には理解しにくいところもあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の個所のばあいもそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。 **17** 愛する人たち。そういうわけですから、このことをあらかじめ知っておいて、よく気をつけ、無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。 **18** 私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。 (aiōn g165)

ヨハネの手紙第一

1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、**2** —このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。— (aiōnios g166) **3** 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。**4** 私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。**5** 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。**6** もし私たちが、神と交わりがあると断言しながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。**7** しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。**8** もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにあります。**9** もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。**10** もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とする

のです。神のみことばは私たちのうちにありません。

2 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。**2** この方こそ、私たちの罪のための、—私たちの罪だけでなく全世界のための、—なだめの供え物なのです。**3** もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。**4** 神を知っていると断言しながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。**5** しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。**6** 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。**7** 愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているではありません。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い命令とは、あなたがたがすでに知っている、みことばのことです。**8** しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。**9** 光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。**10** 兄弟を愛す

る者は、光の中にとどまり、つまずく。それによって、今が終わりの時であることがありません。11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのかわかりません。19 彼らは私たちがやみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのかわからないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。12 子どもたちよ。私があるがたに書き送るのは、主の御名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。13 父たちよ。私があるがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があるがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。14 小さい者たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。(aiōn g165) 18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおりに、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、だれでも知識を持っています。21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。23 だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。25 それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。(aiōnios g166) 26 私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。27 あなたがたのばあいは、キリストから受けた油注ぎをいつも自分たちのうちに持っているので、だれからも教えを受ける必要がありません。その油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、――その教えは真理であって偽りで

はありません。――また、その油があなたに教えたとおりに、あなたはキリストのうちにとどまるのです。28そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現われるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るといふことのないためです。29もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずで

3 私たちが神の子どもと呼ばれるために、――事実、いま私たちは神の子どもです。――御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。2愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。3キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストがきよくあられるように、自分をきよくします。4罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。5キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。6だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちは歩みません。罪のうちは歩む者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。7子どもたちよ。だれにも感

わされてはいけません。義を行なう者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。8罪のうちは歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。9だれでも神から生まれた者は、罪のうちは歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちは歩むことができないのです。10そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。11互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。12カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行ないは悪く、兄弟の行ないは正しかったからです。13兄弟たち。世がああなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。14私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。15兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。(aiōnios g166) 16キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです

。17世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。18子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもつて愛そうではありませんか。19それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。20たとえ自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。21愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、22また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。23神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。24神の命令を守る者は神のうちにあり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのです。

4 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。2人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。3イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それ

は反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。4子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。5彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。6私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。7愛する者たち。私たちが、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。8愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。9神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。10私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。11愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。12いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。13神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私た

ちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。4 なぜして遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。15 だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はそれこそ、世に打ち勝った勝利です。5 その人のうちにおられ、その人も神のうちにおられます。16 私たちは、私たちに對する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。9 もし、私たちがってキリストと同じような者であるからです。18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。19 私たちは愛していません。神がまず私たちを愛してくださいました。20 神を愛すると言いつつ兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

5 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛し

ていることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これを神の御子と信じる者ではありませんか。6 このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水と血とによってだけなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。7 あかしするものが三つあります。8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。9 もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてはあかしされたことが神のあかしだからです。10 神の御子信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。(aiōnios g166) 12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。(aiōnios g166) 14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこ

そ神に対する私たちの確信です。 **15** 私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにかなえられたと知るので。 **16** だれでも兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば神はその人のために、死に至らない罪を犯している人々に、いのちをお与えになります。死に至る罪があります。この罪については、願うようには言いません。 **17** 不正はみな罪ですが、死に至らない罪があります。 **18** 神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守っていてくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。 **19** 私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。 **20** しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。 (aiōnios g166) **21** 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。

ヨハネの手紙第二

1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。**2** このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。**(aiōn g165)** **3** 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。**4** あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちに歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいきます。**5** そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。**6** 愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちに歩むことです。**7** なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。**8** よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。**9** だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。**10** あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家

に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。**11** そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。**12** あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。**13** 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによるしくとっています。

ヨハネの手紙第三

1長老から、愛するガイオへ。私はあなたをほんとうに愛しています。**2**愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。**3**兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいきます。**4**私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。**5**愛する者よ。あなたが、旅をしているあの兄弟たちのために行なっているいろいろなことは、真実な行ないです。**6**彼らは教会の集まりであなたの愛についてあかししました。あなたが神にふさわしいしかたで彼らを次の旅に送り出してくれるなら、それはりっぱなことです。**7**彼らは御名のために出て行きました。異邦人からは何も受けていません。**8**ですから、私たちはこのような人々をもてなすべきです。そうすれば、私たちは真理のために彼らの同労者となれるのです。**9**私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになりたがっているデオテレペスが、私たちの言うことを聞き入れません。**10**それで、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪いことばで私たちをののしり、それでもあきらまずに、自分が兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人々の邪魔をし、教会から追い出しているのです。**11**愛する者よ。悪を見ならわなくて、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう

者は神を見たことのない者です。**12**デメテリオはみなの人からも、また真理そのものからも証言されています。私達も証言します。私たちの証言が真実であることは、あなたも知っているところです。**13**あなたに書き送りたいことがたくさんありましたが、筆と墨でしたくはありません。**14**間もなくあなたに会いたいと思います。そして顔を合わせて話し合ひましょう。平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろしくと言っていきます。そちらの友人たちひとりひとりによろしくと言ってください。

ユダの手紙

1 イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストのために守られている、召された方々へ。**2** どうか、あわれみと平安と愛が、あなたがたの上に、ますます豊かにされますように。**3** 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生まれました。**4** というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。**5** あなたがたは、すべてのことをすっかり知っているにしても、私はあなたがたに思い出させたいことがあるのです。それは主が、民をエジプトの地から救い出し、次に、信じない人々を滅ぼされたということです。**6** また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いな日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。**(aidios g126)** **7** また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。**(aiōnios g166)** **8** それなのに、この人たちもまた同じように、夢見る者であり、肉体を

汚し、権威ある者を軽んじ、栄えある者をそしっています。**9** 御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手をののしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるように。」と言いました。**10** しかし、この人たちは、自分には理解もできないことをそしり、わきまえのない動物のように、本能によって知るような事からの中で滅びるのです。**11** 忌まわしいことです。彼らは、カインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、コラのようにそむいて滅びました。**12** 彼らは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れげもなくともに宴を張りますが、自分だけを養っている者であり、風に吹き飛ばされる、水のない雲、実を結ばない、枯れに枯れて、根こそぎにされた秋の木、**13** 自分の恥のあわをわき立たせる海の荒波、さまよう星です。まっ暗なやみが、彼らのために永遠に用意されています。**(aiōn g165)** **14** アダムから七代目のエノクも、彼らについて預言してこう言っています。「見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる。**15** すべての者にさばきを行ない、不敬虔な者たちの、神を恐れずに犯した行為のいっさいと、また神を恐れない罪人どもが主に言い逆らった無礼のいっさいとについて、彼らを罪に定めるためである。」**16** 彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲望のままに歩んでいます。その口は大きなことを言い、利益のためにへつらって人をほめるのです。**17** 愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって

語ったことばを思い起こしてください。
18 彼らはあなたがたにこう言いました。「終わりの時には、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう、あざける者どもが現われる。」 19 この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのままの人間です。 20 しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最もよい信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、 21 神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。(aiōnios g166) 22 疑いを抱く人々をあわれみ、 23 火の中からつかみ出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚されたその下着さえも忌みきらいなさい。 24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、 25 すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。(aiōn g165)

ヨハネの黙示録

1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。**2** ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。**3** この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。**4** ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、**5** また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、**6** また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力とが、とこしえにあるように。アーメン。(aiōn g165) **7** 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。**8** 神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」**9** 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあず

かっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。**10** 私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。**11** その声はこう言った。「あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフイヤ、ラオデキヤに送りなさい。」**12** そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。**13** それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。**14** その頭と髪の色は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。**15** その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。**16** また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。**17** それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、**18** 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。(aiōn g165, Hadēs g86) **19** そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**20** わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七

つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

2 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』**2** 「わたしは、あなたの行ないとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。**3** あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。**4** しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。**5** それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしなないならば、わたしは、あなたのところに行つて、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。**6** しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。**7** 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』**8** また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。**9** 「わたしは、あなたの苦しみと貧しさを知っている。——しかしあなたは実際は富んでいる。——またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人たちから、ののしられていることも

知っている。**10** あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。**11** 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』**12** また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。**13** 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。**14** しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのように、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行なわせた。**15** それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。**16** だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。**17** 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それ

を受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』 18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゆうのような、神の子が言われる。 19 「わたしは、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。 20 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。 21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしな。 22 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行なう者たちも、この女の行ないを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。 23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行ないに応じてひとりひとりに報いよう。 24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。 25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。 26 勝利を得る者、また最後までわたしの

わざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。 27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。 28 また、彼に明けの明星を与えよう。 29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

3 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。 2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。 3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。 4 しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。 5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。 6 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』 7 また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎ

を持っている方、彼が開くとだれも閉
 じる者がなく、彼が閉じるとだれも開
 く者がなく、その方がこう言われる。

8 「わたしは、あなたの行ないを知つ
 ている。見よ。わたしは、だれも閉じ
 ることのできない門を、あなたの前に
 開いておいた。なぜなら、あなたには
 少しばかりの力があって、わたしのこ
 とばを守り、わたしの名を否まなかつ
 たからである。

9 見よ。サタンの会衆
 に属する者、すなわち、ユダヤ人と
 自称しながら実はそうでなくて、うそ
 を言っている者たちに、わたしはこう
 する。見よ。彼らをあなたの足もとに
 来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛
 していることを知らせる。

10 あなた
 が、わたしの忍耐について言ったこと
 ばを守ったから、わたしも、地上に住
 む者たちを試みるために、全世界に來
 ようとしている試練の時には、あなた
 を守ろう。

11 わたしは、すぐに来る
 。あなたの冠をだれにも奪われないよ
 うに、あなたの持っているものをしっ
 かりと持っていなさい。

12 勝利を得
 る者を、わたしの神の聖所の柱としよ
 う。彼はもはや決して外に出て行くこ
 とはない。わたしは彼の上にわたしの
 神の御名と、わたしの神の都、すなわ
 ち、わたしの神のもとを出て天から下
 って来る新しいエルサレムの名と、わ
 たしの新しい名とを書きしるす。

13 耳のある者は御霊が諸教会に言われる
 ことを聞きなさい。」』

14 また、ラ
 オデキヤにある教会の御使いに書き送
 れ。『アーメンである方、忠実で、真
 実な証人、神に造られたものの根源で
 ある方がこう言われる。

15 「わたし
 は、あなたの行ないを知っている。あ
 なたは、冷たくもなく、熱くもない。
 わたしはむしろ、あなたが冷たいか、
 熱いかであってほしい。

16 このよう
 に、あなたはなまぬるく、熱くも冷た
 くもないので、わたしの口からあなた
 を吐き出そう。

17 あなたは、自分は
 富んでいる、豊かになった、乏しいも
 のは何もないと言って、実は自分がみ
 じめで、哀れで、貧しくて、盲目で、
 裸の者であることを知らない。

18 わ
 たしはあなたに忠告する。豊かな者と
 なるために、火で精練された金をわた
 しから買いなさい。また、あなたの裸
 の恥を現わさないために着る白い衣を
 買いなさい。また、目が見えるよう
 になるため、目に塗る目薬を買いなさい。

19 わたしは、愛する者をしかつた
 り、懲らしめたりする。だから、熱心
 になって、悔い改めなさい。

20 見よ
 。わたしは、戸の外に立ってたたき。
 だれでも、わたしの声を聞いて戸をあ
 けるなら、わたしは、彼のところには
 いて、彼とともに食事をし、彼もわ
 たしとともに食事をする。

21 勝利を
 得る者を、わたしとともにわたしの座
 に着かせよう。それは、わたしが勝利
 を得て、わたしの父とともに父の御座
 に着いたのと同じである。

22 耳のあ
 る者は御霊が諸教会に言われることを
 聞きなさい。」』

4 その後、私は見た。見よ。天に一つ
 の開いた門があった。また、先にラ
 ッパのような声で私に呼びかけるのが
 聞こえたあの初めの声があった。「こ
 こに上れ。この後、必ず起こる事をあ
 なたに示そう。」

2 たちまち私は御霊
 に感じた。すると見よ。天に一つの御
 座があり、その御座に着いている方が

あり、**3** その方は、碧玉や赤めのうのた。それは内側にも外側にも文字が書
ように見え、その御座の回りには、緑きしるされ、七つの封印で封じられて
玉のように見える虹があった。**4** またいた。**2** また私は、ひとりの強い御使
、御座の回りに二十四の座があった。いが、大声でふれ広めて、「巻き物を
これらの座には、白い衣を着て、金の開いて、封印を解くのにふさわしい者
冠を頭にかぶった二十四人の長老たちはだれか。」と言っているのを見た。
がすわっていた。**5** 御座からいはず**3** しかし、天にも、地にも、地の下にと
と声と雷鳴が起こった。七つのともしも、だれひとりその巻き物を開くこと
びが御座の前で燃えていた。神の七つのできる者はなく、見ることのできる
の御霊である。**6** 御座の前は、水晶に者もいなかった。**4** 巻き物を開くのに
似たガラスの海のようにであった。御座も、見るのにも、ふさわしい者がだれ
の中央と御座の回りに、前もうしろもも見つからなかったので、私は激しく
目で満ちた四つの生き物がいた。**7** 第泣いていた。**5** すると、長老のひとり
一の生き物は、ししのようであり、第が、私に言った。「泣いてはいけない
二の生き物は雄牛のようであり、第三。見なさい。ユダ族から出たしし、ダ
の生き物は人間のような顔を持ち、第ビデの根が勝利を得たので、その巻き
四の生き物は空飛ぶわしのようにであっ物を開いて、七つの封印を解くことが
た。**8** この四つの生き物には、それぞれできます。」**6** さらに私は、御座
れ六つの翼があり、その回りも内側も――そこには、四つの生き物がいる。
目で満ちていた。彼らは、昼も夜も絶――と、長老たちとの間に、ほふられ
え間なく叫び続けた。「聖なるかな、たと見える小羊が立っているのを見た
聖なるかな、聖なるかな。神であられ。これに七つの角と七つの目があった
る主、万物の支配者、昔いまし、常に。その目は、全世界に遣わされた神の
いまし、後に来られる方。」**9** また、七つの御霊である。**7** 小羊は近づいて
これらの生き物が、永遠に生きておら、御座にすわる方の右の手から、巻き
れる、御座に着いている方に、栄光物を受け取った。**8** 彼が巻き物を受け
誉れ、感謝をささげるとき、(aiōn g165) 取ったとき、四つの生き物と二十四人
10 二十四人の長老は御座に着いているの長老は、おのおの、立琴と、香のい
方の御前にひれ伏して、永遠に生きてっばいはいった金の鉢とを持って、小
おられる方を拝み、自分の冠を御座の羊の前にひれ伏した。この香は聖徒た
前に投げ出して言った。(aiōn g165) **11** 「ちの祈りである。**9** 彼らは、新しい歌
主よ。われらの神よ。あなたは、栄光を歌って言った。「あなたは、巻き物
と誉れと力とを受けるにふさわしい方を受け取って、その封印を解くのにふ
です。あなたは万物を創造し、あなたさわしい方です。あなたは、ほふられ
のみこころゆえに、万物は存在し、またて、その血により、あらゆる部族、国
た創造されたのですから。」語、民族、国民の中から、神のために
5 また、私は、御座にすわっておられ人々を贖い、**10** 私たちの神のために
る方の右の手に巻き物があるのを見、この人々を王とし、祭司とされまし

た。彼らは地上を治めるのです。」 **11** また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。 **12** 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」 **13** また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」 (aiōn g165) **14** また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。

6 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい。」と言うのを私は聞いた。 **2** 私は見た。見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。 **3** 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。 **4** すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。 **5** 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。 **6** すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、

こう言うのを聞いた。「小麦一拵は一デナリ。大麦三拵も一デナリ。オリブ油とぶどう酒に害を与えてはいけな

い。」 **7** 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさい。」と言うのを聞いた。 **8** 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。 (Hadēs g86) **9** 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。 **10** 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」 **11** すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。 **12** 私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そして、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。 **13** そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を振り落とすようであった。 **14** 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。 **15** 地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、 **16** 山や岩に向

かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りから、私たちをかくまってくれ。17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

7 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押え、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。2 また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」4 それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。5 ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、6 アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、7 シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、8 ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた。9 その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手にとって、御座と小羊との前に立っていた。10 彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神

にあり、小羊にある。」11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、12 言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

」(aiōn g165) 13 長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、いったいだれですか。どこから来たのですか。」と行った。14 そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです。」と行った。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。15 だから彼らは神の御座の前において、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。16 彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。17 なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」

8 小羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ばかり静けさがあった。2 それから私は、神の御前に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。3 また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。4 香の煙

は、聖徒たちの祈りとともに、御使い 9 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。(Abyssos g12) 2 その星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。(Abyssos g12) 3 その煙の中から、いなごが地上に出て来た。彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。4 そして彼らは、地の草やすべての青草や、すべての木には害を加えないで、ただ、額に神の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。5 しかし、人間を殺すことは許されず、ただ五か月の間苦しめることだけが許された。その与えた苦痛は、さそりが人を刺したときのような苦痛であった。6 その期間には、人々は死を求めるが、どうしても見いだせず、死を願うが、死が彼らから逃げて行くのである。7 そのいなごの形は、出陣の用意の整った馬に似ていた。頭に金の冠のようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。8 また女の髪のような毛があり、歯は、ししの歯のようであった。9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着けた、その翼の音は、多くの馬に引かれた戦車が、戦いに馳せつけるときの響きだったので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。10 そのうえ彼らは、さそりのような尾と針とを持っており、尾には、五か月間人間に害を加える力があつた。11 彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアバドンといい、ギリシャ語でアポリュオンという。

は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。5 それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが現われ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。8 第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。9 すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちる。そして、川々の三分の一とその水源に落ちた。11 この星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。13 また私は見た。一羽のわしが中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。「わざわいが来る。わざわいが来る。わざわいが来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」

(Abyssos g12) 12 第一のわざわいは過ぎ去

った。見よ。この後なお二つのわざわ 右足は海の上に、左足は地の上に置き
いが来る。13 第六の御使いがラッパ、3 ししがほえるときのように大声で
を吹き鳴らした。すると、私は神の御 叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷が
前にある金の祭壇の四隅から出る声をおのおの音を出した。4 七つの雷が語
聞いた。14 その声がラッパを持って ったとき、私は書き留めようとした。
いる第六の御使いに言った。「大川ユ すると、天から声があって、「七つの
ーフラテスのほとりにつながれている 雷が言ったことは封じて、書きしるす
四人の御使いを解き放せ。」15 する な。」と言うのを聞いた。5 それから
と、定められた時、日、月、年のため、私の見た海と地との上に立つ御使い
に用意されていた四人の御使いが、人 は、右手を天に上げて、6 永遠に生き
類の三分の一を殺すために解き放され、天とその中にあるもの、地とその中
た。16 騎兵の軍勢の数は二億であっ にあるもの、海とその中にあるものを
た。私はその数を聞いた。17 私が幻 創造された方をさして、誓った。「も
の中で見た馬とそれに乗る人たちの様 はや時が延ばされることはない。(aiōn
子はこうであった。騎兵は、火のよう g165) 7 第七の御使いが吹き鳴らそうと
な赤、くすぶった青、燃える硫黄の色 しているラッパの音が響くその日には
の胸当てを着けており、馬の頭は、し、神の奥義は、神がご自身のしもべで
しの頭のように、口からは火と煙と硫 ある預言者たちに告げられたとおりに
黄とが出ていた。18 これらの三つの 成就する。」8 それから、前に私が天
天災害、すなわち、彼らの口から出てい から聞いた声が、また私に話しかけて
る火と煙と硫黄とのために、人類の三 言った。「さあ行って、海と地との上
分の一は殺された。19 馬の力はその に立っている御使いの手にある、開か
口とその尾とにあつて、その尾は蛇の れた巻き物を受け取りなさい。」9 そ
ようであり、それに頭があつて、その れで、私は御使いののところに行って、
頭で害を加えるのである。20 これら 「その小さな巻き物を下さい。」と言
の災害によって殺されずに残った人々 った。すると、彼は言った。「それを
は、その手のわざを悔い改めないで、 取って食べなさい。それはあなたの腹
悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造 には苦いが、あなたの口には蜜のよう
られた、見ることも聞くことも歩くこ に甘い。」10 そこで、私は御使いの
ともできない偶像を拝み続け、21 そ 手からその小さな巻き物を取って食べ
の殺人や、魔術や、不品行や、盗みを た。すると、それは口には蜜のように
悔い改めなかった。 甘かった。それを食べてしまうと、私
の腹は苦くなった。11 そのとき、彼
らは私に言った。「あなたは、もう一
度、もろもろの民族、国民、国語、王
たちについて預言しなければならな
い。」

10 また私は、もうひとりの強い御使
いが、雲に包まれて、天から降り
て来るのを見た。その頭上には虹があ
つて、その顔は太陽のようであり、そ
の足は火の柱のようであった。2 その
手には開かれた小さな巻き物を持ち、

11 それから、私に杖のような測りどおが与えられた。すると、こう言う者があった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。2 聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。3 それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着たり千二百六十日の間預言する。」4 彼らは全地の主の御前にある二本のオリブの木、また二つの燭台である。5 彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。6 この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。7 そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。(Abyssos g12) 8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。9 もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。10 また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。11 しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らにはいり、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。12 そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ。」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。13 そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。14 第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」(aiōn g165) 16 それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、17 言った。「万物の支配者、常にいまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。18 諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」19 それから、天にある神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。12 また、巨大なしるしが天に現われた。ひとりの女が太陽を着て、月

を足の下に踏み、頭には十二の星の冠までもいのちを惜しまなかった。12
をかぶっていた。2この女は、みごもそれゆえ、天とその中に住む者たち。
っていたが、産みの苦しみと痛みのた喜びなき。しかし、地と海とは、
めに、叫び声をあげた。3また、別のわざわいが来る。悪魔が自分の時の短
しるしが天に現われた。見よ。大きないことを知り、激しく怒って、そこに
赤い竜である。七つの頭と十本の角と下ったからである。」13自分が地上
を持ち、その頭には七つの冠をかぶっに投げ落とされたのを知った竜は、男
ていた。4その尾は、天の星の三分の子を産んだ女を追いかけた。14し
一を引き寄せると、それらを地上に投かし、女は大わしの翼を二つ与えられ
げた。また、竜は子を産もうとしていた。自分の場所である荒野に飛んで行
る女の前に立っていた。彼女が子を産って、そこで一時と二時と半時の間、
んだとき、その子を食い尽くすため蛇の前をのがれて養われるためであっ
あった。5女は男の子を産んだ。このた。15ところが、蛇はその口から水
子は、鉄の杖をもって、すべての国々を川のように女のうしろへ吐き出し、
の民を牧するはずである。その子は神彼女を大水で押し流そうとした。16
のみもと、その御座に引き上げられたしかし、地は女を助け、その口を開い
て、竜が口から吐き出した川を飲み干
した。17すると、竜は女に対して激
しく怒り、女の子孫の残りの者、すな
さて、天に戦いが起こって、ミカエル
と彼の使いたちは、竜と戦った。それ
で、竜とその使いたちは応戦したが、

8勝つことができず、天にはもはや彼
らのいる場所がなくなった。9こうし
て、この巨大な竜、すなわち、悪魔と
か、サタンとか呼ばれて、全世界を惑
わす、あの古い蛇は投げ落とされた。
彼は地上に投げ落とされ、彼の使いど
もも彼とともに投げ落とされた。10
そのとき私は、天で大きな声が、こ
う言うのを聞いた。「今や、私たちの神
の救いと力と国と、また、神のキリス
トの権威が現われた。私たちの兄弟た
ちの告発者、日夜彼らを私たちの神の
御前で訴えている者が投げ落とされた
からである。11兄弟たちは、小羊の
血と、自分たちのあかしのことばのゆ
えに彼に打ち勝った。彼らは死に至る

13そして、彼は海べの砂の上に立っ
た。また私は見た。海から一匹の
獣が上って来た。これには十本の角と
七つの頭とがあった。その角には十の
冠があり、その頭には神をけがす名が
あった。2私の見たその獣は、ひょう
に似ており、足は熊の足のようで、口
はししの口のものであった。竜はこの
獣に、自分の力と位と大きな権威とを
与えた。3その頭のうちの一つは打ち
殺されたかと思われたが、その致命的
な傷も直ってしまった。そこで、全地
は驚いて、その獣に従い、4そして、
竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜
だからである。また彼らは獣をも拝ん
で、「だれがこの獣に比べられよう。

だれがこれと戦うことができよう。」と言った。5この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。6そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをのりしめた。7彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。8地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。9耳のある者は聞きなさい。10とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。11また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。12この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。13また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。14また、あの獣の前で行なうことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。15それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。16また、小さい者に

も、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。17また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることできないようにした。18ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

14 また私は見た。見よ。小羊がシオンの山の上に立っていた。また小羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とがしるしてあった。2私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。3彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。4彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にさきげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。5彼らの口には偽りがなかった。彼らは傷のない者である。6また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた

。(aiōnios g166) 7 彼は大声で言った。「穀物は実ったので、取り入れる時が来神を恐れ、神をあがめよ。神のさばき ましたから。」 16 そこで、雲に乗った時が来たからである。天と地と海と ておられる方が、地にかまを入れると水の源を創造した方を拝め。」 8 また 地は刈り取られた。 17 また、もうひ、第二の、別の御使いが続いてやって 通りの御使いが、天の聖所から出て来 来て、言った。「大バビロンは倒れた たが、この御使いも、鋭いかまを持っ た。倒れた。激しい御怒りを引き起こす ていた。 18 すると、火を支配する権 その不品行のおどろ酒を、すべての国 威を持ったもうひとりの御使いが、祭 壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使 の、別の御使いも、彼らに続いてやっ いて大声で叫んで言った。「その鋭い て来て、大声で言った。「もし、だれ かまを入れ、地のおどろのふきを刈り ても、獣とその像を拝み、自分の額か 集めよ。おどろはすでに熟しているの 手かに刻印を受けるなら、 10 そのよ だから。」 19 そこで御使いは地にか うな者は、神の怒りの杯に混ぜ物なし ます。また、聖なる御使いたちと小羊との 前に、火と硫黄とで苦しめられる。 11 されたが、血は、その酒おねから流れ 出して、馬のくつわに届くほどになり、 千六百スタディオンに広がった。

15 また私は、天にもう一つの巨大な 驚くべきしるしを見た。七人の御 使いが、最後の七つの災害を携えてい た。神の激しい怒りはここに窮まるの である。 2 私は、火の混じった、ガラ スの海のようなものを見た。獣と、そ の像と、その名を示す数字とに打ち勝 った人々が、神の立琴を手にして、こ のガラスの海のほとりに立っていた。 3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小 羊の歌とを歌って言った。「あなたのみ わざは偉大であり、驚くべきもので す。主よ。万物の支配者である神よ。 あなたの道は正しく、真実です。もろ もろの民の王よ。 4 主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者 があるでしょうか。ただあなただけが 、聖なる方です。すべての国々の民は 来て、あなたの御前にひれ伏します。

あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」 5その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。 6そしてその聖所から、七つの災害を携えた七人の御使いが出て来た。彼らは、きよい光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。 7また、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使いに渡した。(aiōn g165) 8聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、はいることができなかった。

16 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。「行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」 2そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、獣の刻印を受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものができた。 3第二の御使いが鉢を海にぶちまけた。すると、海は死者の血のような血になった。海の中のいのちのあるものは、みな死んだ。 4第三の御使いが鉢を川と水の源とにぶちまけた。すると、それらは血になった。 5また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「常にいまし、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このようなさばきをなされたからです。 6彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわしい者たちです。」 7また私は、祭壇が

こう言うのを聞いた。「しかり。主よ。万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」 8第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。 9こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。 10第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。 11そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行ないを悔い改めようとしなかった。 12第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。 13また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。 14彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。 15——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。—— 16こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。 17第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、聖所の中から出て来て、「事は成就した。」と言った。 18する

と、いなずまと声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、かつてなかったほどのもので、それほど大きな、強い地震であった。19 また、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。21 また、一タラントほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神にけがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

17 また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言った。「ここに来なさい。大水の上ですわっている大淫婦へのさばきを見せましょう。2 地の王たちは、この女と不品行を行ない、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」3 それから、御使いは、御霊に感じた私を荒野に連れて行った。すると私は、ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものや自分の不品行の汚れていっぱいになった金の杯を手を持っていた。5 その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。6 そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女

を見たとき、非常に驚いた。7 すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。8 あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現われるのを見て驚きます。

(Abyssos g12) 9 ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。10 五人はすでに倒れたが、ひとりは今おり、ほかのひとりは、まだ来ていません。しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです。11 また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。12 あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けまます。13 この者どもは心をつにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。14 この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」15 御使いはまた私に言った。「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。

16 あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。17 それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行なう思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心をつにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。18 あなたが見たあの彼女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです。」

18 この後、私は、もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下って来るのを見た。地はその栄光のために明るくなった。2 彼は力強い声で叫んで言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのおどろ酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」4 それから、私は、天からのもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民よ。この女から離れなさい。その罪にあずからないため、また、その災害を受けないためです。5 なぜなら、彼女の罪は積み重なって天にまで届き、神は彼女の不正を覚えておられるからです。6 あなたがたは、彼女が支払ったものをそのまま彼女に返し、彼女の行ないに応じて二倍にして戻しなさい。彼女が混ぜ合わせた杯の中には、彼女のために二倍の量を混ぜ合わせなさい。7 彼女が自分を誇り、好色にふけったと同じだ

けの苦しみと悲しみとを、彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめではないから、悲しみを知らない。』と言うからです。8 それゆえ一日のうちに、さまざまの災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。9 彼女と不品行を行ない、好色にふけった地上の王たちは、彼女が火で焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣き、悲しみます。10 彼らは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、こう言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。力強い都、バビロンよ。あなたのさばきは、一瞬のうちに来た。』11 また、地上の商人たちは彼女のことで泣き悲しみます。もはや彼らの商品を買う者がだれもいないからです。12 商品とは、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、香木、さまざまの象牙細工、高価な木や銅や鉄や大理石で造ったあらゆる種類の器具、13 また、肉桂、香料、香、香油、乳香、おどろ酒、オリブ油、麦粉、麦、牛、羊、それに馬、車、奴隷、また人のいのちです。14 また、あなたの心の望みである熟したくだものは、あなたから遠ざかってしまい、あらゆるはでな物、はなやかな物は消えうせて、もはや、決してそれらの物を見いだすことができません。15 これらの物を商って彼女から富を得ていた商人たちは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、泣き悲しんで、16 言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。麻

布、紫布、緋布を着て、金、宝石、真珠を飾りにしていた大きな都よ。17 あれほどの富が、一瞬のうちに荒れすたれてしまった。』また、すべての船長、すべての船客、水夫、海で働く者たちも、遠く離れて立っていて、18 彼女が焼かれる煙を見て、叫んで言いました。『このすばらしい都のような所がほかにあろうか。』19 それから、彼らは、頭にちりをかぶって、泣き悲しみ、叫んで言いました。『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。海に舟を持つ者はみな、この都のおごりによって富を得ていたのに、それが一瞬のうちに荒れすたれるとは。』20 おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のことで喜びなさい。神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたからです。』21 また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき臼のような石を取り上げ、海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒されて、もはやなくなって消えうせてしまう。22 立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あらゆる技術を持った職人たちも、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。23 ともしびの光は、もうおまえのうちに輝かなくなる。花婿、花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。なぜなら、おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、すべての国々の民がおまえの魔術にだまされていたからだ。24 また、預言者や聖徒たちの血、および地上で殺されたすべての人々の血が、この都の中に見いだされたからだ。』

19 この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。2 神のさばきは真実で、正しいからである。神は不品行によって地を汚した大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされたからである。」3 彼女は再び言った。「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」(aiōn g165) 4 すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座についておられる神を拜んで、「アーメン。ハレルヤ。」と言った。5 また、御座から声が出て言った。「すべての、神のしもべたち。小さい者も大きい者も、神を恐れかしこむ者たちよ。われらの神を賛美せよ。」6 また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」9 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言い、また、「これは神の真実のことばです。」と言った。10 そこで、私は彼を拜もうとして、その足もとにひれ伏した。すると、彼は私に言った。「いけません。私は、あなたや、イエスのあかしを堅く保っているあなたとの兄弟たちと同じしもべです。神

を拝みなさい。イエスのあかしは預言の霊です。」 11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。 12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。 13 その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。 14 天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。 15 この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。 16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。 17 また私は、太陽の中にひとりの御使いが立っているのを見た。彼は大声で叫び、中天を飛ぶすべての鳥に言った。「さあ、神の大宴会に集まり、 18 王の肉、千人隊長の肉、勇者の肉、馬とそれに乗る者の肉、すべての自由人と奴隷、小さい者と大きい者の肉を食べよ。」 19 また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。 20 すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを感わしたあのにせ預言者も、彼と一しょに捕えられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きてままで投げ込まれた。

(Limnē Pyr g3041 g4442) 21 残りの者たちも、

馬に乗った方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が、彼らの肉を飽きるほどに食べた。

20 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手にとって、天から下って来るのを見た。(Abyssos g12) 2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕え、これを千年の間縛って、 3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。(Abyssos g12) 4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。 5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。 6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。 7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、 8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。 9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都と

を取り囲んだ。すると、天から火が降
って来て、彼らを焼き尽くした。 **10**
そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫
黄との池に投げ込まれた。そこは獣も
、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠
に昼も夜も苦しみを受ける。 (aiōn g165,
Limnē Pyr g3041 g4442) **11** また私は、大きな
白い御座と、そこに着座しておられる
方を見た。地も天もその御前から逃げ
去って、あとかたもなくなった。 **12**
また私は、死んだ人々が、大きい者も
、小さい者も御座の前に立っているの
を見た。そして、数々の書物が開かれ
た。また、別の一つの書物も開かれた
が、それは、いのちの書であった。死
んだ人々は、これらの書物に書きしる
されているところに従って、自分の行
ないに应じてさばかれた。 **13** 海はそ
の中にいる死者を出し、死もハデスも
、その中にいる死者を出した。そして
人々はおのおの自分の行ないに应じて
さばかれた。 (Hadēs g86) **14** それから、
死とハデスとは、火の池に投げ込まれ
た。これが第二の死である。 (Hadēs g86,
Limnē Pyr g3041 g4442) **15** いのちの書に名の
しるされていない者はみな、この火の
池に投げ込まれた。 (Limnē Pyr g3041 g4442)

21 また私は、新しい天と新しい地と
を見た。以前の天と、以前の地は
過ぎ去り、もはや海もない。 **2** 私はま
た、聖なる都、新しいエルサレムが、
夫のために飾られた花嫁のように整え
られて、神のみもとを出て、天から下
って来るのを見た。 **3** そのとき私は、
御座から出る大きな声がかう言うのを
聞いた。「見よ。神の幕屋が人ととも
にある。神は彼らとともに住み、彼ら
はその民となる。また、神ご自身が彼

らとともにおられて、 **4** 彼らの目の涙
をすっかりぬぐい取ってくださる。も
はや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみ
もない。なぜなら、以前のものが、も
はや過ぎ去ったからである。」 **5** する
と、御座に着いておられる方が言われ
た。「見よ。わたしは、すべてを新し
くする。」また言われた。「書きしる
せ。これらのことばは、信ずべきもの
であり、真実である。」 **6** また言われ
た。「事は成就した。わたしはアルフ
アであり、オメガである。最初であり
、最後である。わたしは、渴く者には
、いのちの水の泉から、価なしに飲ま
せる。 **7** 勝利を得る者は、これらのも
のを相続する。わたしは彼の神となり
、彼はわたしの子となる。 **8** しかし、
おくびよう者、不信仰の者、憎むべき
者、人を殺す者、不品行の者、魔術を
行なう者、偶像を拝む者、すべて偽り
を言う者どもの受ける分は、火と硫黄
との燃える池の中にある。これが第二
の死である。」 (Limnē Pyr g3041 g4442) **9** ま
た、最後の七つの災害の満ちているあ
の七つの鉢を持っていた七人の御使い
のひとりが来た。彼は私に話して、こ
う言った。「ここに来なさい。私はあ
なたに、小羊の妻である花嫁を見せま
しょう。」 **10** そして、御使いは御霊
によって私を大きな高い山に連れて行
って、聖なる都エルサレムが神のみも
とを出て、天から下って来るのを見せ
た。 **11** 都には神の栄光があった。そ
の輝きは高価な宝石に似ており、透き
通った碧玉のようであった。 **12** 都に
は大きな高い城壁と十二の門があつて
、それらの門には十二人の御使いがお
り、イスラエルの子らの十二部族の名

が書いてあった。13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。14 また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。15 また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。16 都は四角で、その長さとは幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。17 また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキウスあった。これが御使いの尺度でもあった。18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髓、第四は緑玉、20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髓、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。21 また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。23 都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜が

ないからである。26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行なう者は、決して都には入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、はいることができる。

22 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があつて、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあつて、そのしもべたちは神に仕え、4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

(aiōn g165) 6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです。」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守

る人々と同じしもべです。神を拝みな。 20 これらのことをあかしする方が
さい。」 10 また、彼は私に言った。 こう言われる。「しかり。わたしはす
「この書の預言のことばを封じてはいぐに來る。」アーメン。主イエスよ、
けない。時が近づいているからである 來てください。 21 主イエスの恵みが
。 11 不正を行なう者はますます不正 すべての方々とともにあるように。アー
を行ない、汚れた者はますます汚れを メン。
を行ないなさい。正しい者はいよいよ正
しいことを行ない、きよい者はいよいよ
よきよきことを行ないなさい。」 12
「見よ。わたしはすぐに来る。わたし
はそれぞれのしわざに応じて報いるた
めに、わたしの報いを携えて來る。 13
わたしはアルファであり、オメガであ
る。最初であり、最後である。初めで
あり、終わりである。」 14 自分の着
物を洗って、いのちの木の実を食べる
権利を与えられ、門を通して都にはい
れるようになる者は、幸いである。 15
犬ども、魔術を行なう者、不品行の者
、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽り
を行なう者はみな、外に出される。 16
「わたし、イエスは御使いを遣わして
、諸教会について、これらのことをあ
なたがたにあかしした。わたしはダビ
デの根、また子孫、輝く明けの明星で
ある。」 17 御霊も花嫁も言う。「來
てください。」これを聞く者は、「來
てください。」と言いなさい。渴く者
は來なさい。いのちの水がほしい者は
、それをただで受けなさい。 18 私は
、この書の預言のことばを聞くすべて
の方々にあかしする。もし、これにつけ
加える者があれば、神はこの書に書い
てある災害をその人に加えられる。 19
また、この預言の書のことばを少しで
も取り除く者があれば、神は、この書
に書いてあるいのちの木と聖なる都か
ら、その人の受ける分を取り除かれる



私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、

ヨハネの黙示録 21:2-3

読者ガイド

日本語 at AionianBible.org/Readers-Guide

The Aionian Bible republishes public domain and Creative Common Bible texts that are 100% free to copy and print. The original translation is unaltered and notes are added to help your study. The notes show the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of afterlife destinies.

Who has the authority to interpret the Bible and examine the underlying Hebrew and Greek words? That is a good question! We read in 1 John 2:27, *"As for you, the anointing which you received from him remains in you, and you do not need for anyone to teach you. But as his anointing teaches you concerning all things, and is true, and is no lie, and even as it taught you, you remain in him."* Every Christian is qualified to interpret the Bible! Now that does not mean we will all agree. Each of us is still growing in our understanding of the truth. However, it does mean that there is no infallible human or tradition to answer all our questions. Instead the Holy Spirit helps each of us to know the truth and grow closer to God and each other.

The Bible is a library with 66 books in the Protestant Canon. The best way to learn God's word is to read entire books. Read the book of Genesis. Read the book of John. Read the entire Bible library. Topical studies and cross-referencing can be good. However, the safest way to understand context and meaning is to read whole Bible books. Chapter and verse numbers were added for convenience in the 16th century, but unfortunately they can cause the Bible to seem like an encyclopedia. The Aionian Bible is formatted with simple verse numbering, minimal notes, and no cross-referencing in order to encourage the reading of Bible books.

Bible reading must also begin with prayer. Any Christian is qualified to interpret the Bible with God's help. However, this freedom is also a responsibility because without the Holy Spirit we cannot interpret accurately. We read in 1 Corinthians 2:13-14, *"And we speak of these things, not with words taught by human wisdom, but with those taught by the Spirit, comparing spiritual things with spiritual things. Now the natural person does not receive the things of the Spirit of God, for they are foolishness to him, and he cannot understand them, because they are spiritually discerned."* So we cannot understand in our natural self, but we can with God's help through prayer.

The Holy Spirit is the best writer and he uses literary devices such as introductions, conclusions, paragraphs, and metaphors. He also writes various genres including historical narrative, prose, and poetry. So Bible study must spiritually discern and understand literature. Pray, read, observe, interpret, and apply. Finally, *"Do your best to present yourself approved by God, a worker who does not need to be ashamed, properly handling the word of truth."* 2 Timothy 2:15. *"God has granted to us his precious and exceedingly great promises; that through these you may become partakers of the divine nature, having escaped from the corruption that is in the world by lust. Yes, and for this very cause adding on your part all diligence, in your faith supply moral excellence; and in moral excellence, knowledge; and in knowledge, self-control; and in self-control patience; and in patience godliness; and in godliness brotherly affection; and in brotherly affection, love. For if these things are yours and abound, they make you to be not idle nor unfruitful to the knowledge of our Lord Jesus Christ,"* 2 Peter 1:4-8.

用語集

日本語 at AionianBible.org/Glossary

The Aionian Bible un-translates and instead transliterates eleven special words to help us better understand the extent of God's love for individuals and all mankind, and the nature of afterlife destinies. The original translation is unaltered and a note is added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. Compare the meanings below to the Strong's Concordance and Glossary definitions.

Abyssos g12

Greek: proper noun, place

Usage: 9 times in 3 books, 6 chapters, and 9 verses

Meaning:

Temporary prison for special fallen angels such as Apollyon, the Beast, and Satan.

aidios g126

Greek: adjective

Usage: 2 times in Romans 1:20 and Jude 6

Meaning:

Lasting, enduring forever, eternal.

aiōn g165

Greek: noun

Usage: 127 times in 22 books, 75 chapters, and 102 verses

Meaning:

A lifetime or time period with a beginning and end, an era, an age, the completion of which is beyond human perception, but known only to God the creator of the aiōns, Hebrews 1:2. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

aiōnios g166

Greek: adjective

Usage: 71 times in 19 books, 44 chapters, and 69 verses

Meaning:

From start to finish, pertaining to the age, lifetime, entirety, complete, or even consummate. Never meaning simple endless or infinite chronological time in Koine Greek usage. Read Dr. Heleen Keizer and Ramelli and Konstan for proofs.

eleēsē g1653

Greek: verb, aorist tense, active voice, subjunctive mood, 3rd person singular

Usage: 1 time in this conjugation, Romans 11:32

Meaning:

To have pity on, to show mercy. Typically, the subjunctive mood indicates possibility, not certainty. However, a subjunctive in a purpose clause is a resulting action as certain as the causal action. The subjunctive in a purpose clause functions as an indicative, not an optative. Thus, the grand conclusion of grace theology in Romans 11:32 must be clarified. God's mercy on all is not a possibility, but a certainty. See ntgreek.org.

Geenna g1067

Greek: proper noun, place

Usage: 12 times in 4 books, 7 chapters, and 12 verses

Meaning:

Valley of Hinnom, Jerusalem's trash dump, a place of ruin, destruction, and judgment in this life, or the next, though not eternal to Jesus' audience.

Hadēs g86

Greek: proper noun, place

Usage: 11 times in 5 books, 9 chapters, and 11 verses

Meaning:

Synonymous with Sheol, though in New Testament usage Hades is the temporal place of punishment for deceased unbelieving mankind, distinct from Paradise for deceased believers.

Limnē Pyr g3041 g4442

Greek: proper noun, place

Usage: Phrase 5 times in the New Testament

Meaning:

Lake of Fire, final punishment for those not named in the Book of Life, prepared for the Devil and his angels, Matthew 25:41.

Sheol h7585

Hebrew: proper noun, place

Usage: 66 times in 17 books, 50 chapters, and 64 verses

Meaning:

The grave or temporal afterlife world of both the righteous and unrighteous, believing and unbelieving, until the general resurrection.

Tartaroō g5020

Greek: proper noun, place

Usage: 1 time in 2 Peter 2:4

Meaning:

Temporary prison for particular fallen angels awaiting final judgment.

用語集 +

AionianBible.org/Bibles/Japanese---New-Japanese-New-Testament/Noted

Glossary references are below. Strong's Hebrew and Greek number notes are added to 64 Old Testament and 200 New Testament verses. Questioned verse translations do not contain Aionian Glossary words and may wrongly imply *eternal* or *Hell*. * The note placement is skipped or adjusted for verses with non-standard numbering.

Abyssos

ルカの福音書 8:31
ローマ人への手紙 10:7
ヨハネの黙示録 9:1
ヨハネの黙示録 9:2
ヨハネの黙示録 9:11
ヨハネの黙示録 11:7
ヨハネの黙示録 17:8
ヨハネの黙示録 20:1
ヨハネの黙示録 20:3

aidios

ローマ人への手紙 1:20
ユダの手紙 1:6

aion

マタイの福音書 12:32
マタイの福音書 13:22
マタイの福音書 13:39
マタイの福音書 13:40
マタイの福音書 13:49
マタイの福音書 21:19
マタイの福音書 24:3
マタイの福音書 28:20
マルコの福音書 3:29
マルコの福音書 4:19
マルコの福音書 10:30
マルコの福音書 11:14
ルカの福音書 1:33
ルカの福音書 1:55
ルカの福音書 1:70
ルカの福音書 16:8
ルカの福音書 18:30
ルカの福音書 20:34
ルカの福音書 20:35
ヨハネの福音書 4:14
ヨハネの福音書 6:51
ヨハネの福音書 6:58
ヨハネの福音書 8:35
ヨハネの福音書 8:51
ヨハネの福音書 8:52
ヨハネの福音書 9:32
ヨハネの福音書 10:28
ヨハネの福音書 11:26
ヨハネの福音書 12:34
ヨハネの福音書 13:8
ヨハネの福音書 14:16

使徒の働き 3:21
使徒の働き 15:18
ローマ人への手紙 1:25
ローマ人への手紙 9:5
ローマ人への手紙 11:36
ローマ人への手紙 12:2
ローマ人への手紙 16:27
コリント人への手紙第一 1:20
コリント人への手紙第一 2:6
コリント人への手紙第一 2:7
コリント人への手紙第一 2:8
コリント人への手紙第一 3:18
コリント人への手紙第一 8:13
コリント人への手紙第一 10:11
コリント人への手紙第二 4:4
コリント人への手紙第二 9:9
コリント人への手紙第二 11:31
ガラテヤ人への手紙 1:4
ガラテヤ人への手紙 1:5
エペソ人への手紙 1:21
エペソ人への手紙 2:2
エペソ人への手紙 2:7
エペソ人への手紙 3:9
エペソ人への手紙 3:11
エペソ人への手紙 3:21
エペソ人への手紙 6:12
ピリピ人への手紙 4:20
コロサイ人への手紙 1:26
テモテへの手紙第一 1:17
テモテへの手紙第一 6:17
テモテへの手紙第二 4:10
テモテへの手紙第二 4:18
テトスへの手紙 2:12
ヘブル人への手紙 1:2
ヘブル人への手紙 1:8
ヘブル人への手紙 5:6
ヘブル人への手紙 6:5
ヘブル人への手紙 6:20
ヘブル人への手紙 7:17
ヘブル人への手紙 7:21
ヘブル人への手紙 7:24
ヘブル人への手紙 7:28
ヘブル人への手紙 9:26
ヘブル人への手紙 11:3
ヘブル人への手紙 13:8
ヘブル人への手紙 13:21
ペテロの手紙第一 1:23

ペテロの手紙第一 1:25
ペテロの手紙第一 4:11
ペテロの手紙第一 5:11
ペテロの手紙第二 3:18
ヨハネの手紙第一 2:17
ヨハネの手紙第二 1:2
ユダの手紙 1:13
ユダの手紙 1:25
ヨハネの黙示録 1:6
ヨハネの黙示録 1:18
ヨハネの黙示録 4:9
ヨハネの黙示録 4:10
ヨハネの黙示録 5:13
ヨハネの黙示録 7:12
ヨハネの黙示録 10:6
ヨハネの黙示録 11:15
ヨハネの黙示録 14:11
ヨハネの黙示録 15:7
ヨハネの黙示録 19:3
ヨハネの黙示録 20:10
ヨハネの黙示録 22:5

aionios

マタイの福音書 18:8
マタイの福音書 19:16
マタイの福音書 19:29
マタイの福音書 25:41
マタイの福音書 25:46
マルコの福音書 3:29
マルコの福音書 10:17
マルコの福音書 10:30
ルカの福音書 10:25
ルカの福音書 16:9
ルカの福音書 18:18
ルカの福音書 18:30
ヨハネの福音書 3:15
ヨハネの福音書 3:16
ヨハネの福音書 3:36
ヨハネの福音書 4:14
ヨハネの福音書 4:36
ヨハネの福音書 5:24
ヨハネの福音書 5:39
ヨハネの福音書 6:27
ヨハネの福音書 6:40
ヨハネの福音書 6:47
ヨハネの福音書 6:54
ヨハネの福音書 6:68

ヨハネの福音書 10:28
ヨハネの福音書 12:25
ヨハネの福音書 12:50
ヨハネの福音書 17:2
ヨハネの福音書 17:3
使徒の働き 13:46
使徒の働き 13:48
ローマ人への手紙 2:7
ローマ人への手紙 5:21
ローマ人への手紙 6:22
ローマ人への手紙 6:23
ローマ人への手紙 16:25
ローマ人への手紙 16:26
コリント人への手紙第二 4:17
コリント人への手紙第二 4:18
コリント人への手紙第二 5:1
ガラテヤ人への手紙 6:8
テサロニケ人への手紙第二 1:9
テサロニケ人への手紙第二 2:16
テモテへの手紙第一 1:16
テモテへの手紙第一 6:12
テモテへの手紙第一 6:16
テモテへの手紙第二 1:9
テモテへの手紙第二 2:10
テトスへの手紙 1:2
テトスへの手紙 3:7
ピレモンへの手紙 1:15
ヘブル人への手紙 5:9
ヘブル人への手紙 6:2
ヘブル人への手紙 9:12
ヘブル人への手紙 9:14
ヘブル人への手紙 9:15
ヘブル人への手紙 13:20
ペテロの手紙第一 5:10
ペテロの手紙第二 1:11
ヨハネの手紙第一 1:2
ヨハネの手紙第一 2:25
ヨハネの手紙第一 3:15
ヨハネの手紙第一 5:11
ヨハネの手紙第一 5:13
ヨハネの手紙第一 5:20
ユダの手紙 1:7
ユダの手紙 1:21
ヨハネの黙示録 14:6

eleēse

ローマ人への手紙 11:32

Geenna

マタイの福音書 5:22
マタイの福音書 5:29
マタイの福音書 5:30
マタイの福音書 10:28
マタイの福音書 18:9
マタイの福音書 23:15
マタイの福音書 23:33
マルコの福音書 9:43

マルコの福音書 9:45
マルコの福音書 9:47
ルカの福音書 12:5
ヤコブの手紙 3:6

Hadēs

マタイの福音書 11:23
マタイの福音書 16:18
ルカの福音書 10:15
ルカの福音書 16:23
使徒の働き 2:27
使徒の働き 2:31
コリント人への手紙第一 15:55
ヨハネの黙示録 1:18
ヨハネの黙示録 6:8
ヨハネの黙示録 20:13
ヨハネの黙示録 20:14

Limnē Pyr

ヨハネの黙示録 19:20
ヨハネの黙示録 20:10
ヨハネの黙示録 20:14
ヨハネの黙示録 20:15
ヨハネの黙示録 21:8

Sheol

創世記 37:35
創世記 42:38
創世記 44:29
創世記 44:31
民数記 16:30
民数記 16:33
申命記 32:22
サムエル記Ⅰ 2:6
サムエル記Ⅱ 22:6
列王記Ⅰ 2:6
列王記Ⅰ 2:9
ヨブ 記 7:9
ヨブ 記 11:8
ヨブ 記 14:13
ヨブ 記 17:13
ヨブ 記 17:16
ヨブ 記 21:13
ヨブ 記 24:19
ヨブ 記 26:6

詩篇 6:5
詩篇 9:17
詩篇 16:10
詩篇 18:5
詩篇 30:3
詩篇 31:17
詩篇 49:14
詩篇 49:15
詩篇 55:15
詩篇 86:13
詩篇 88:3
詩篇 89:48

詩篇 116:3
詩篇 139:8
詩篇 141:7
箴言 知恵の泉 1:12
箴言 知恵の泉 5:5
箴言 知恵の泉 7:27
箴言 知恵の泉 9:18
箴言 知恵の泉 15:11
箴言 知恵の泉 15:24
箴言 知恵の泉 23:14
箴言 知恵の泉 27:20
箴言 知恵の泉 30:16
伝道者の書 9:10
雅歌 8:6

イザヤ書 5:14
イザヤ書 7:11
イザヤ書 14:9
イザヤ書 14:11
イザヤ書 14:15
イザヤ書 28:15
イザヤ書 28:18
イザヤ書 38:10
イザヤ書 38:18
イザヤ書 57:9
エゼキエル書 31:15
エゼキエル書 31:16
エゼキエル書 31:17
エゼキエル書 32:21
エゼキエル書 32:27
ホセア書 13:14
アモス書 9:2
ヨナ書 2:2
ハバクク書 2:5

Tartaroō

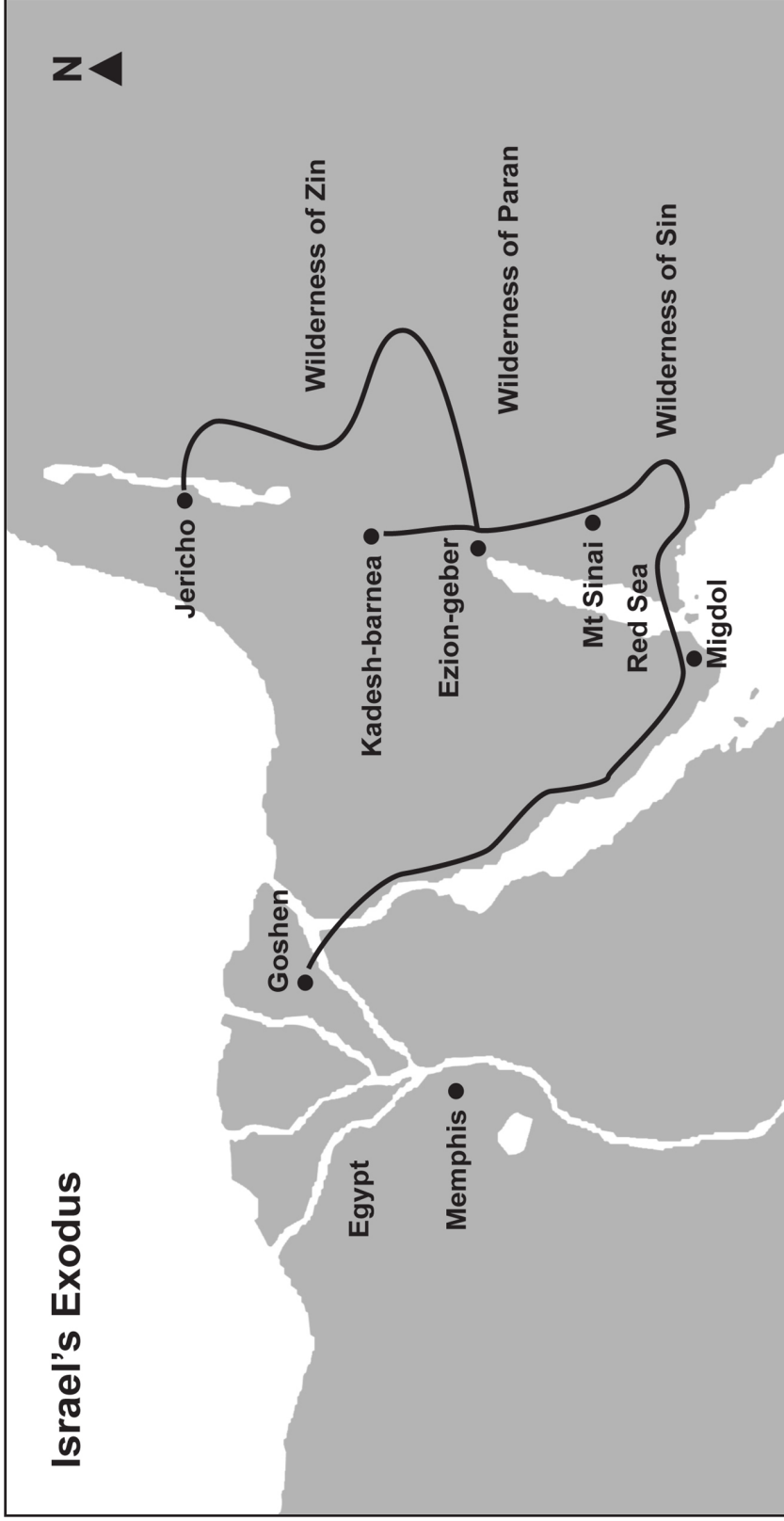
ペテロの手紙第二 2:4

Questioned

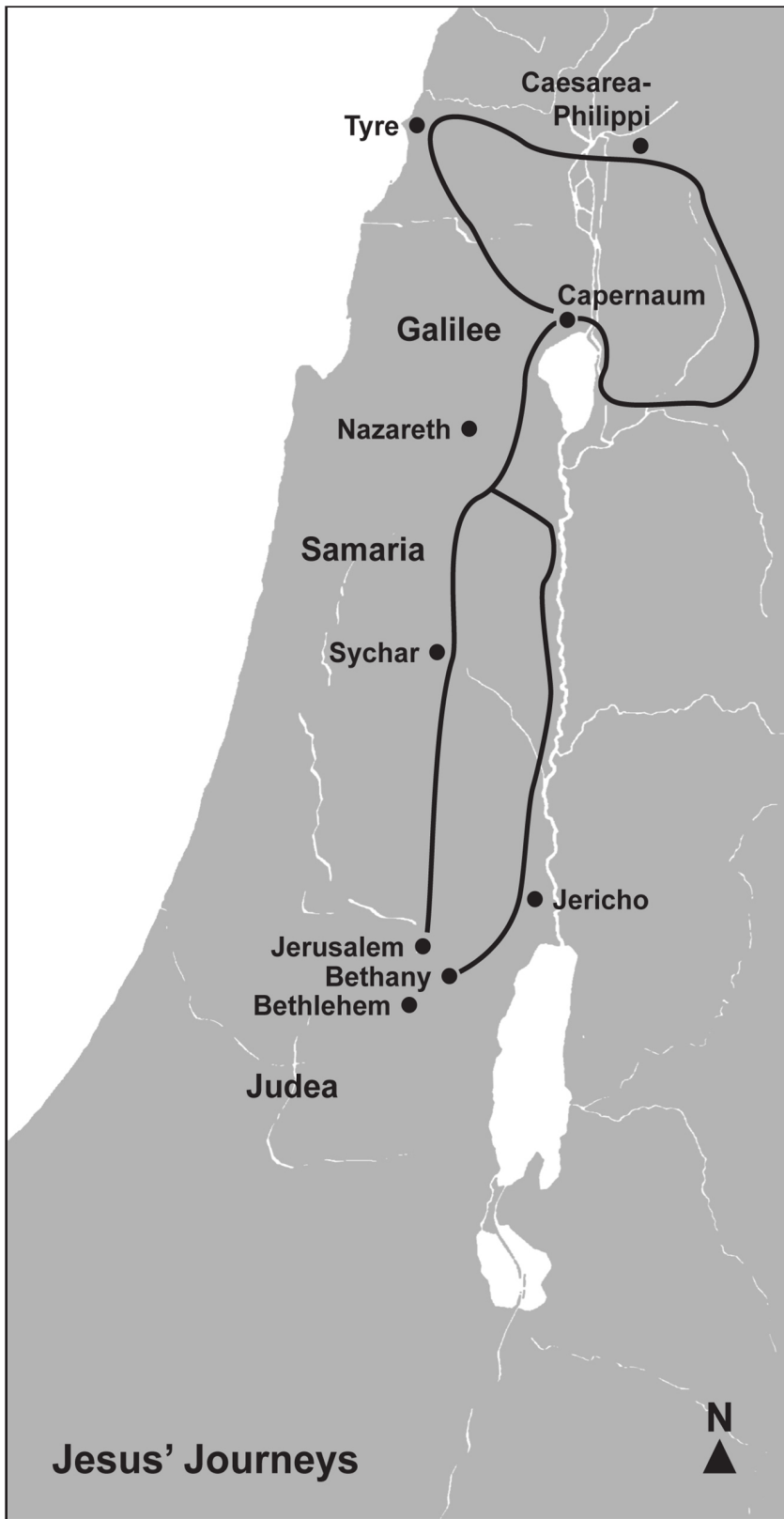
None yet noted



信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らずに、出て行きました。 - ヘブル人への手紙 11:8

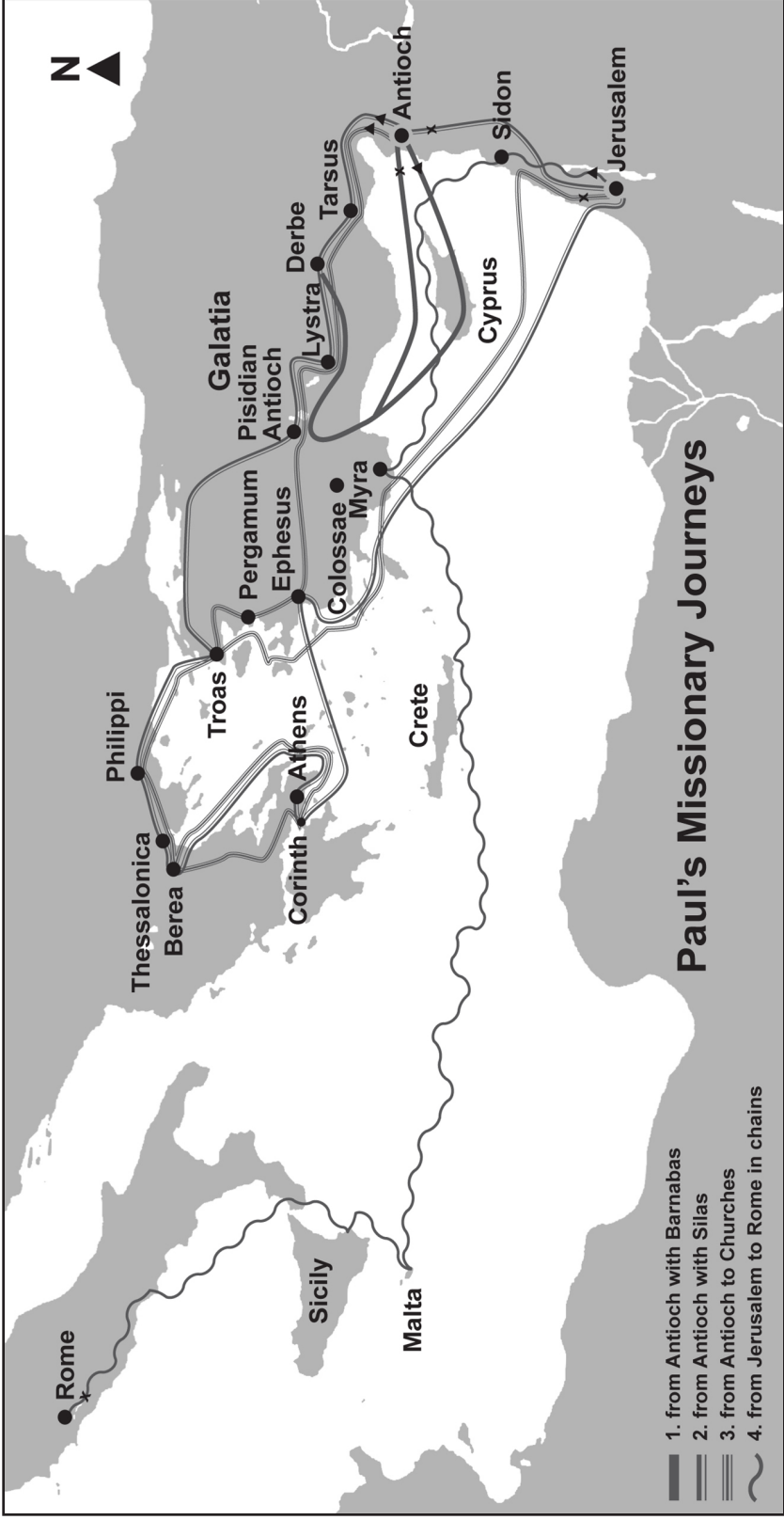


さて、パロが民を去らせた時、ペリシテびとの国の道は近かったが、神は彼らをそれに導かれなかった。
民が戦いを見れば悔いてエジプトに帰るであろうと、神は思われたからである。 - 出エジプト記 13:17



人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。

- マルコの福音書 10:45



神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、
 ・ローマ人への手紙 1:1

Creation 4004 B.C.

Adam and Eve created	4004
Tubal-cain forges metal	3300
Enoch walks with God	3017
Methuselah dies at age 969	2349
God floods the Earth	2349
Tower of Babel thwarted	2247
Abraham sojourns to Canaan	1922
Jacob moves to Egypt	1706
Moses leads Exodus from Egypt	1491
Gideon judges Israel	1245
Ruth embraces the God of Israel	1168
David installed as King	1055
King Solomon builds the Temple	1018
Elijah defeats Baal's prophets	896
Jonah preaches to Nineveh	800
Assyrians conquer Israelites	721
King Josiah reforms Judah	630
Babylonians capture Judah	605
Persians conquer Babylonians	539
Cyrus frees Jews, rebuilds Temple	537
Nehemiah rebuilds the wall	454
Malachi prophecies the Messiah	416
Greeks conquer Persians	331
Seleucids conquer Greeks	312
Hebrew Bible translated to Greek	250
Maccabees defeat Seleucids	165
Romans subject Judea	63
Herod the Great rules Judea	37

(The Annals of the World, James Uusher)

Jesus Christ born 4 B.C.

New Heavens and Earth



- 1956 Christ returns for his people
- 1956 Jim Elliot martyrd in Ecuador
- 1830 John Williams reaches Polynesia
- 1731 Zinzendorf leads Moravian mission
- 1614 Japanese kill 40,000 Christians
- 1572 Jesuits reach Mexico
- 1517 Martin Luther leads Reformation
- 1455 Gutenberg prints first Bible
- 1323 Franciscans reach Sumatra
- 1276 Ramon Llull trains missionaries
- 1100 Crusades tarnish the church
- 1054 The Great Schism
- 997 Adalbert martyrd in Prussia
- 864 Bulgarian Prince Boris converts
- 716 Boniface reaches Germany
- 635 Alopen reaches China
- 569 Longinus reaches Alodia / Sudan
- 432 Saint Patrick reaches Ireland
- 397 Carthage ratifies Bible Canon
- 341 Ulfilas reaches Goth / Romania
- 325 Niceae proclaims God is Trinity
- 250 Denis reaches Paris, France
- 197 Tertullian writes Christian literature
- 70 Titus destroys the Jewish Temple
- 61 Paul imprisoned in Rome, Italy
- 52 Thomas reaches Malabar, India
- 39 Peter reaches Gentile Cornelius
- 33 Holy Spirit empowers the Church

(Wikipedia, Timeline of Christian missions)

Resurrected 33 A.D.

What are we? ▶			Genesis 1:26 - 2:3	
How are we sinful? ▶			Romans 5:12-19	
Where are we? ◀			Innocence	
			Eternity Past	Creation 4004 B.C.
Who are we? ▶	God	Father	John 10:30	Genesis 1:31 God's perfect fellowship with Adam in The Garden of Eden
		Son	God's perfect fellowship	
		Holy Spirit		
	Mankind	Living	Genesis 1:1 No Creation No people	Genesis 1:31 No Fall No unholy Angels
		Deceased believing		
		Deceased unbelieving		
	Angels	Holy	Genesis 1:1 No Creation No people	Genesis 1:31 No Fall No unholy Angels
		Imprisoned		
		Fugitive		
		First Beast		
		False Prophet		
		Satan		
Why are we? ▶			Romans 11:25-36, Ephesian 2:7	

Mankind is created in God's image, male and female He created us

Sin entered the world through Adam and then death through sin

When are we?



Fallen				Glory
Fall to sin No Law	Moses' Law 1500 B.C.	Christ 33 A.D.	Church Age Kingdom Age	New Heavens and Earth
1 Timothy 6:16 Living in unapproachable light				Acts 3:21 Philippians 2:11 Revelation 20:3 God's perfectly restored fellowship with all Mankind praising Christ as Lord in the Holy City
John 8:58 Pre-incarnate	John 1:14 Incarnate	Luke 23:43 Paradise		
Psalm 139:7 Everywhere	John 14:17 Living in believers			
Ephesians 2:1-5 Serving the Savior or Satan on Earth				
Luke 16:22 Blessed in Paradise				
Luke 16:23, Revelation 20:5,13 Punished in Hades until the final judgment				
Hebrews 1:14 Serving mankind at God's command				
2 Peter 2:4, Jude 6 Imprisoned in Tartarus				
			Revelation 20:13 Thalaasa	Matthew 25:41 Revelation 20:10
1 Peter 5:8, Revelation 12:10 Rebelling against Christ Accusing mankind			Revelation 19:20 Lake of Fire	Lake of Fire prepared for the Devil and his Angels
			Revelation 20:2 Abyss	

For God has bound all over to disobedience in order to show mercy to all

運命

日本語 at AionianBible.org/Destiny

The Aionian Bible shows the location of eleven special Greek and Hebrew Aionian Glossary words to help us better understand God's love for individuals and for all mankind, and the nature of after-life destinies. The underlying Hebrew and Greek words typically translated as *Hell* show us that there are not just two after-life destinies, Heaven or Hell. Instead, there are a number of different locations, each with different purposes, different durations, and different inhabitants. Locations include 1) Old Testament *Sheol* and New Testament *Hadēs*, 2) *Geenna*, 3) *Tartaroō*, 4) *Abyssos*, 5) *Limnē Pyr*, 6) *Paradise*, 7) *The New Heaven*, and 8) *The New Earth*. So there is reason to review our conclusions about the destinies of redeemed mankind and fallen angels.

The key observation is that fallen angels will be present at the final judgment, 2 Peter 2:4 and Jude 6. Traditionally, we understand the separation of the Sheep and the Goats at the final judgment to divide believing from unbelieving mankind, Matthew 25:31-46 and Revelation 20:11-15. However, the presence of fallen angels alternatively suggests that Jesus is separating redeemed mankind from the fallen angels. We do know that Jesus is the helper of mankind and not the helper of the Devil, Hebrews 2. We also know that Jesus has atoned for the sins of all mankind, both believer and unbeliever alike, 1 John 2:1-2. Deceased believers are rewarded in Paradise, Luke 23:43, while unbelievers are punished in Hades as the story of Lazarus makes plain, Luke 16:19-31. Yet less commonly known, the punishment of this selfish man and all unbelievers is before the final judgment, is temporal, and is punctuated when Hades is evacuated, Revelation 20:13. So is there hope beyond Hades for unbelieving mankind? Jesus promised, *"the gates of Hades will not prevail,"* Matthew 16:18. Paul asks, *"Hades where is your victory?"* 1 Corinthians 15:55. John wrote, *"Hades gives up,"* Revelation 20:13.

Jesus comforts us saying, *"Do not be afraid,"* because he holds the keys to *unlock* death and Hades, Revelation 1:18. Yet too often our *Good News* sounds like a warning to *"be afraid"* because Jesus holds the keys to *lock* Hades! Wow, we have it backwards! Hades will be evacuated! And to guarantee hope, once emptied, Hades is thrown into the Lake of Fire, never needed again, Revelation 20:14.

Finally, we read that anyone whose name is not written in the Book of Life is thrown into the Lake of Fire, the second death, with no exit ever mentioned or promised, Revelation 21:1-8. So are those evacuated from Hades then, *"out of the frying pan, into the fire?"* Certainly, the Lake of Fire is the destiny of the Goats. But, do not be afraid. Instead, read the Bible's explicit mention of the purpose of the Lake of Fire and the identity of the Goats, *"Then he will say also to those on the left hand, 'Depart from me, you cursed, into the consummate fire which is prepared for... the devil and his angels,'"* Matthew 25:41. Bad news for the Devil. Good news for all mankind!

Faith is not a pen to write your own name in the Book of Life. Instead, faith is the glasses to see that the love of Christ for all mankind has already written our names in Heaven. Jesus said, *"You did not choose me, but I chose you,"* John 15:16. Though unbelievers will suffer regrettable punishment in Hades, redeemed mankind will never enter the Lake of Fire, prepared for the devil and his angels. And as God promised, all mankind will worship Christ together forever, Philippians 2:9-11.



それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、
- マタイの福音書 28:19

